

平成26年度
修学の手引き



鹿児島大学歯学部

目 次

1. 歯学部 の 教育目標、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー 及びディプロマポリシー.....	1
2. 鹿児島大学歯学部規則.....	4
3. 鹿児島大学歯学部授業、試験及び進級に関する細則.....	7
4. 鹿児島大学歯学部学科課程表.....	10
5. 鹿児島大学歯学部第1年次末における進級の仮認定に関する 申合せ	12
6. 鹿児島大学歯学部における統合系科目の単位認定に関する申合せ.....	14
7. 鹿児島大学歯学部共用試験に関する申合せ	16
8. 臨床予備実習および臨床実習に関する申合せ.....	17
9. 臨床実習の目標.....	18
10. 鹿児島大学歯学部学生表彰要項	19
11. 歯学部学習室利用に関する内規	21
12. 歯学部端末室使用に関する内規	25
13. 鹿児島大学歯学部における学生の成績等開示請求書及び異議 申立てに関する規則	27
14. 欠席の手続き	30
15. 歯学部教員名簿.....	31
16. 歯学部講義実習棟周辺略図.....	32
17. 歯学部専門科目シラバス.....	33
18. 歯学部選択科目シラバス.....	161

1. 歯学部 of 教育目標、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシー

【教育目標】

本学部は「歯科医療人である前に良識豊かな人間であれ」という理念のもとに、下記の教育目標を達成する。

1. 全人的歯科医療を实践しうる歯学分野における幅広い知識と創造性に富む歯科医師および歯科医学教育者・研究者の育成
2. 地域医療に貢献しうる幅広い識見と人間性豊かな使命感にあふれる歯科医師および歯科医学教育者・研究者の育成
3. 国際社会においても卓越した貢献をなしうる歯科医師および歯科医学教育者・研究者の育成

【アドミッションポリシー（学生受入方針）】

本学部のディプロマポリシー（学位授与方針）を達成するために、下記のような学生を求めている。

1. 生命への強い関心、人間としての優しさ、奉仕精神にあふれる人
2. 歯科医学の知識や技能を十分理解・修得できる基礎学力のある人
3. 歯科医学に興味を持ち、科学的探求心の豊かな人
4. 幅広い視野と柔軟な感性を持ち、常に考え行動する資質のある人

【カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）】

本学部のアドミッションポリシー（学生受入方針）に沿って受け入れた学生を、ディプロマポリシー（学位授与方針）に示す段階へ到達させるために、共通教育科目、導入系科目、基礎系科目、統合系科目、保健・社会系科目、臨床科目、隣接医学系科目、臨床実習の科目群を配置し、下記の方針に基づいて教育課程を編成し、実施する。

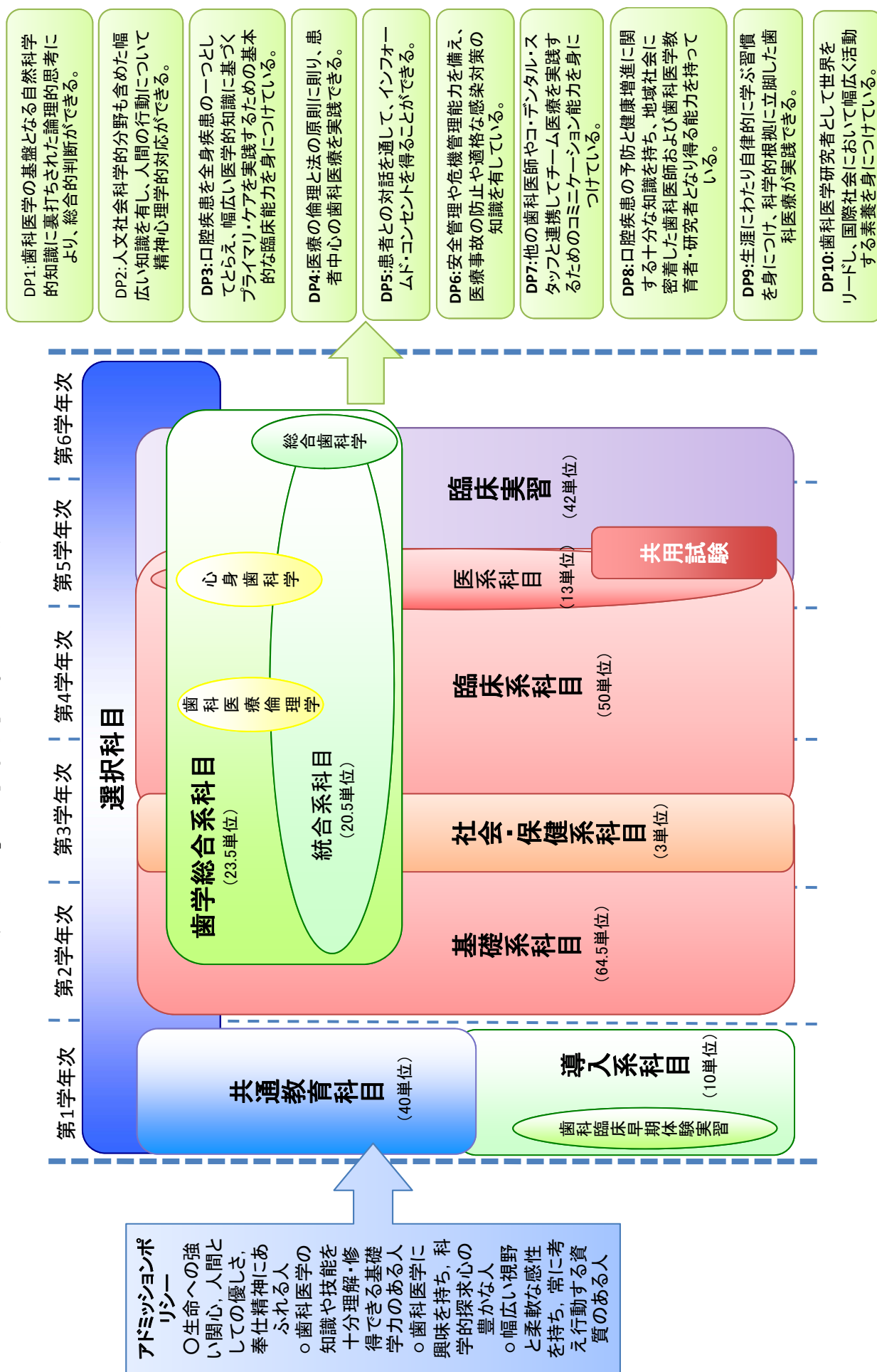
1. 共通教育をはじめ学内外で提供される幅広い学習機会を活かし、良識豊かで確かな倫理観をもつ人間形成を行う。
2. 初年次の共通教育および導入系科目を通じて、医療人として欠かせない自然科学、人文社会学への深い理解を促すとともに、医療人の基礎となるプロフェッショナリズムを涵養する。
3. 専門課程教育を通じて論理的思考能力を養い、問題解決能力の定着を図るとともに自己主導型学習の基本的能力を育成する。
4. 充実した教育資源を活かし、患者中心の全人的医療を提供する基本的臨床能力を育成する。
5. リサーチマインドを涵養するとともに、歯科医学研究への導入を行う。
6. 離島歯科巡回診療同行実習をはじめとする地域医療の学習機会を活かし、地域指向型医療人に求められる能力を育成する。
7. 国際社会において歯科医療分野で卓越した貢献をなしうる基本的能力を育成する。

【ディプロマポリシー（学位授与方針）】

本学部の実育目標を達成するため、卒業の時点で、下記の段階に達している者に学位を授与する。

1. 歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。
2. 人文社会科学的分野も含めた幅広い知識を有し、人間の行動について精神心理学的対応ができる。
3. 口腔疾患を全身疾患の一つとしてとらえ、幅広い医学的知識に基づくプライマリ・ケアを実践するための基本的な臨床能力を身につけている。
4. 医療の倫理と法の原則に則り、患者中心の歯科医療を実践できる。
5. 患者との対話を通して、インフォームド・コンセントを得ることができる。
6. 安全管理や危機管理能力を備え、医療事故の防止や適格な感染対策の知識を有している。
7. 他の歯科医師やコ・デンタル・スタッフと連携してチーム医療を実践するためのコミュニケーション能力を身につけている。
8. 口腔疾患の予防と健康増進に関する十分な知識を持ち、地域社会に密着した歯科医師および歯科医学教育者・研究者となりうる能力を持っている。
9. 生涯にわたり自律的に学ぶ習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。
10. 歯科医学研究者として世界をリードし、国際社会において幅広く活動する素養を身につけている。

鹿児島大学歯学部カリキュラムマップ



2. 鹿児島大学歯学部規則

平成 16 年 4 月 6 日

歯規則 第 7 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、鹿児島大学歯学部（以下「本学部」という。）における教育に関し、鹿児島大学学則（平成 16 年規則第 86 号。以下「学則」という。）に定めるもののほか、必要な事項を定めるものとする。

(教育の理念と目的)

第 1 条の 2 本学部は、歯科医療人である前に良識豊かな人間であれという理念のもとに、全人的歯科医療の実践と歯学分野における幅広い知識と創造性に富む歯科医師及び歯科医学教育者・研究者（以下「歯科医師等」という。）の育成並びに南九州地域で唯一の歯科医学教育の拠点として、地域医療に貢献しうる幅広い識見と人間性豊かな使命感にあふれる歯科医師等の育成を目的とする。

(学期)

第 2 条 学年を分けて次の 2 学期とする。

前期 4 月 1 日から 9 月 30 日まで

後期 10 月 1 日から翌年 3 月 31 日まで

2 教授会が必要と認めた場合は、前期の授業を 10 月末日まで延長することができる。

(履修)

第 3 条 共通教育科目及び基礎教育科目（以下「共通教育科目等」という。）は、原則として第 1 年次において進級が認定されるまでの間に履修するものとする。

2 共通教育科目等の履修については、鹿児島大学共通教育科目等履修規則（平成 16 年規則第 115 号）の定めるところによる。

(授業)

第 4 条 専門教育科目の授業科目、単位数、履修時期等については、別に定める。

2 前項の各授業科目は、必修とする。

3 その他必要に応じて選択科目等を置くことができる。これらの科目に関し必要な事項は、別に定める。

(単位の計算方法)

第 5 条 授業科目の単位の計算方法については、次に掲げる基準によるものとする。

(1) 講義については、15 時間の授業をもって 1 単位とする。

(2) 演習については、30 時間の授業をもって 1 単位とする。

(3) 実習については、45 時間の授業をもって 1 単位とする。

- (4) 1 単位以下の端数単位の扱いに関しては、0～0.25 単位未満は 0 単位、0.25～0.75 単位未満は 0.5 単位、0.75～1.0 単位は 1 単位とする。

(試験)

第 6 条 試験の時期、方法等については、別に定める。

(進級)

第 7 条 共通教育科目等に係る進級の認定は、第 1 年次末に行い、専門教育科目に係る進級の認定は、第 2 年次末、第 3 年次末、第 4 年次末及び第 5 年次末に行う。

- 2 進級判定に関する事項は、別に定める。
- 3 留学生に関する事項は、別に定める。

(在学期間)

第 8 条 本学部においては、学則第 28 条第 2 項の規定により学生が同一年次等に在学できる期間を各年次 3 年とする。

(再入学)

第 9 条 学則第 34 条第 2 項の規定により、本学部を退学し又は除籍された者が再入学を志願するときは、次に掲げる事項について教授会で審議の上、入学を許可することがある。

- (1) 再入学の時点で退学又は除籍後 4 年を超えていないこと。
- (2) 再入学を志願する者は、原則として退学又は除籍前に相当数の単位（共通教育科目等の単位を含む。）を修得していること。
- 2 前項の規定により再入学を許可された学生の入学時期は、原則として学期の始めとする。
- 3 修業年限は、再入学後の修業期間及び退学又は除籍前の修業期間を通算し、修得すべき単位数（共通教育科目等の単位数を含む。）は、退学又は除籍前の既修得科目の単位数（共通教育科目等の単位数を含む。）と通算する。
- 4 在学期間は、退学又は除籍前の在学期間を含めて 12 年を限度とし、再入学後の在学期間は前条の規定を適用する。

(卒業)

第 10 条 本学部で 6 年以上在学し、卒業要件の必要単位を全て修得し、かつ、所定の試験に合格した者に対し、教授会の議を経て卒業を認定する。

附 則

- 1 この規則は、平成 16 年 4 月 6 日から施行し、平成 16 年 4 月 1 日から適用する。
- 2 平成 10 年度以前入学の者の在学期間は、第 9 条第 4 項の規定にかかわらず、従前の例による。

附 則

- 1 この規則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規則の施行日の前日において、在学する者（以下「在学者」という。）及び同日以降に在学者の属する年次に再入学する者については、改正後の第 8 条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規則の施行日の前日において、在学する者（以下「在学者」という。）及び同日以降に在学者の属する年次に再入学する者については、改正後の第 7 条及び第 8 条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この規則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 22 年 6 月 16 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 23 年 7 月 26 日から施行し、平成 23 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

3. 鹿児島大学歯学部授業、試験及び進級に関する細則

平成 22 年 4 月 21 日

歯細則 第 1 号

(目的)

第 1 条 この細則は、鹿児島大学歯学部規則（平成 16 年歯規則第 7 号。以下「規則」という。）第 4 条、第 6 条及び第 7 条の規定に基づき、歯学部の授業、試験及び進級に関する事項を定める。

(教育課程)

第 2 条 規則 4 条第 1 項に基づく、専門教育科目の授業科目、単位数、履修時期等については別に定める。

(出席確認)

第 3 条 各専門教育科目授業担当者（以下「科目担当者」という。）は、授業の度に出欠を確認し記録しなければならない。

(休講届)

第 4 条 科目担当者は、授業を休講しようとするときは、医歯学総合研究科等学務課（以下「学務課」という。）に届け出なければならない。

2 学務課は、前項の届出があったときは、速やかに公示しなければならない。

(補講)

第 5 条 科目担当者は、授業を休講したときは、原則として補講しなければならない。

2 科目担当者は、補講の日時を決定したときは、学務課に届け出るものとする。

3 学務課は、前項の届出があったときは、速やかに公示しなければならない。

(受験資格の認定)

第 6 条 履修した授業科目における試験は、講義及び演習については、総時間数の 3 分の 2 以上、実習（各専門教育科目に属する実習も含む）については、総時間数の 4 分の 3 以上出席した場合に限り受験することができるものとする。

(試験の時期及び方法)

第 7 条 試験の時期及び方法については、科目担当者の定めるところによる。

(試験実施者)

第 8 条 試験実施者は、科目担当者をもって充てる。ただし、科目担当者に事故があるときは、学部長が、他の教員を指定して試験を実施させるものとする。

(試験実施者心得)

第 9 条 試験実施者は、良好な試験環境を保持するとともに、次に掲げることを行わなければならない。

- (1) 試験受験者の出欠を速やかに確認し、記録すること。
- (2) 試験終了後は、受験者数と答案数の合致を確認すること。

(受験者心得)

第 10 条 試験受験者は、試験実施者の指示に従わなければならない。

(試験遅刻者の取扱)

第 11 条 試験の開始時刻から原則として 30 分以上遅刻した者は、受験を認めない。ただし、試験実施者は、あらかじめ遅刻限度時間を変更することができる。

(試験欠席者等の取扱)

第 12 条 受験資格のある者が、当該試験を受験しなかった場合又は答案を提出しなかった場合は、欠席として取り扱う。

(成績)

第 13 条 成績は、100 点満点とし、60 点以上を合格、60 点未満を不合格とする。

- 2 成績の表記は、秀（90 点以上）、優（80 点以上 90 点未満）、良（70 点以上 80 点未満）及び可（60 点以上 70 点未満）とし、60 点未満を不可とする。

(追試験)

第 14 条 やむを得ない事情によって試験等を受験できなかった者に対して、追試験を行うことがある。

(再試験)

第 15 条 試験等の結果、合格しなかった者に対して行う再試験は、原則として 1 回とし、年度末までに行う。

- 2 再試験の方法については、科目担当者の定めるところによる。
- 3 再試験の成績は、60 点を上限とする。

(成績提出)

第 16 条 試験実施者は、試験終了後速やかに学務課へ成績を提出しなければならない。

(進級認定の取扱)

第 17 条 第 1 年次末における進級の認定は、鹿児島大学共通教育科目等履修規則（平成 16 年規則第 115 号）に定める所定の要件を満たし、歯学部教授会の認定を得ていること

とする。

- 2 第2年次末、第3年次末、第4年次末及び第5年次末に行う進級の認定は、3月末日までに行い、その条件は、各年次後期までに修得しなければならないすべての授業科目を履修し、かつ所定の試験に合格していることとする。
- 3 第5年次末の進級の認定は、共用試験（CBT、OSCE）に合格していることとする。
- 4 共用試験に関し、必要な事項は別に定める。

（進級認定）

第18条 進級認定に先立ち、歯学部教育委員会又は同委員会が指定した会議で予備認定を行う。

- 2 進級認定結果は、認定日の翌日（土日祝日を除く。）に公示するものとする。

（留年者）

第19条 進級の認定が得られなかった者は、当該学年に留まり、不合格となった科目に合格しなければならない。なお、合格科目については、当該科目担当者と協議の上、再受講できるものとする。

（開示請求及び異議申立て）

第20条 成績等の開示請求及び異議申立てに関する事項は、別に定める。

附 則

この細則は、平成22年4月21日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

附 則

この細則は、平成22年10月20日から施行する。

附 則

この細則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成26年4月1日から施行する。ただし、平成25年度後期から平成26年度前期まで開講する臨床実習の受験資格については、改正後の第6条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

4. 鹿児島大学歯学部学科課程表（平成25年度入学生から適用）

学 年		1		2		3		4		5		6		合 計			
科目 区分	セメスタ（期）	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	9期	10期	11期	12期	90分 コマ数	時間 (45分)	単位数	
	授業科目	講義	講義	講義	実習	講義	実習	講義	実習	講義	実習	講義	実習				講義
共通 教育科目	共 通 教 育															40	
	日本語・日本語事情【留学生対象】			2										1	30	2	
																一般生 小計（単位）	40
																留学生 小計（単位）	42
歯学導入系科目	桜ヶ丘デー	全人の歯科医療実践学		2											1	30	2
		歯科臨床早期体験実習（演習）	4												2	60	2
		歯学人文社会学（作文学）		2											1	30	2
		歯学入門	2												1	30	2
		歯学概論（歯科医史学・歯学入門・介護実習を含む）		2											1	30	2
															小計（単位）	10	

学 年		1		2		3		4		5		6		合 計		
科目 区 分	セメスタ（期）	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	9期	10期	11期	12期	90分 コマ数	時間 (45分)	単位数
	授業科目	講義	講義	講義	実習	講義	実習	講義	実習	講義	実習	講義	実習			
基礎系科目	解剖学（口腔解剖学を含む）			8	6									7	210	10
	組織学（口腔組織学を含む）			8	4									6	180	9.5
	生理学（口腔生理学を含む）			2	4	4								5	150	7.5
	生化学（口腔生化学を含む）			2	4	4								5	150	7.5
	病理学（口腔病理学を含む）				6	4								5	150	7.5
	細菌学（口腔細菌学を含む）					6	4							5	150	7.5
	歯科薬理学					6	4							5	150	7.5
	歯科理工学					6	4							5	150	7.5
														小計（単位）		64.5
会保系健康科目・社会	医系科目（衛生学・公衆衛生学・歯科法医学）					2								1	30	2
	社会歯科学（歯科医療経済学を含む）					1								0.5	15	1
														小計（単位）		3

*0.5基準 1) 0.25未満→0
2) 0.25以上～0.75未満→0.5
3) 0.75以上→1

学 年		1		2		3		4		5		6		合 計			
科目区分	セメスタ（期）	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	9期	10期	11期	12期	90分 コマ数	時間 (45分)	単位数	
	授業科目	講義	講義	講義	実習	講義	実習	講義	実習	講義	実習	講義	実習				講義
臨床系科目	予防歯科学（口腔衛生学を含む）						3	2						2.5	75	3.5	
	歯科保存学						4	4						4	120	5.5	
	歯周病学							3	4					3.5	105	4.5	
	冠橋補綴学							3		4	4			5.5	165	6.5	
	有床補綴学							2	4	4	4			7	210	8.5	
	口腔外科学（1）							4						2	60	4	
	口腔外科学（2）							3						1.5	45	3	
	歯科麻酔学（麻酔学を含む）						2							1	30	2	
	歯科矯正学							2	2	1	2			3.5	105	4.5	
	小児歯科学							1	2	2	2			3.5	105	4.5	
	歯科放射線学（放射線学を含む）						3	2						2.5	75	3.5	
														小計（単位）		50	
	医系科目	医系科目Ⅰ（内科学）									4				2	60	4
		医系科目Ⅱ（外科・整形外科）									4				2	60	4
		医系科目Ⅲ（耳鼻咽喉科学・眼科学・皮膚科学・小児科学・産婦人科学・神経精神医学）									6				3	70	5
															小計（単位）		13
歯学総合系科目	歯科医療倫理学							1						0.5	15	1	
	心身歯科学									2				1	30	2	
														小計（単位）		3	
	統合系科目Ⅰ	顔学, 地域・離島歯科医療学				2								1	30	1	
		齲蝕学, 歯性感染症学, 唾液腺の基礎と臨床, 顎関節症の基礎と臨床, 摂食・嚥下障害及び高齢者歯科学				6									3	90	3
	統合系科目Ⅱ	口腔顔面発生異常学, 歯列咬合の発育, 障害児（者）歯科学						4							2	60	2
		救急歯科医学, 全身疾患口腔微候学, 口腔腫瘍学							4						2	60	2
	統合系科目Ⅲ	口腔外科手術学, 口腔顎顔面疼痛学, 口臭の診断・治療学, 感染制御学・疾患遺伝子学, 最新歯科生体材料・器械特論, 歯科インプラント治療学, 臨床検査学								12					6	180	6
		医療関係法規, 歯科再生医療学, 歯科東洋医学, 総合歯科学												13	6.5	195	6.5
														小計（単位）		20.5	
臨床実習	臨床予備実習 ※16週									20					320	7	
	臨床実習 ※10期:23週、11期:21週										36	36			1584	35	
														小計（単位）		42	
														一般生 合計（単位）		246	
														留学生 合計（単位）		248	

*0.5基準
 1) 0.25未満→0
 2) 0.25以上～0.75未満→0.5
 3) 0.75以上→1

5. 鹿児島大学歯学部第1年次末における進級の仮認定に関する申合せ

平成 24 年 12 月 4 日
教 授 会 決 定
平成 25 年 2 月 20 日一部改正
平成 25 年 4 月 1 日実施

(趣旨)

第1 この申合せは、鹿児島大学歯学部第1年次末において、共通教育外国語を学ぶ科目群（以下「外国語科目」という。）の単位のみが未修得であり、進級認定要件を満たしていない学生（以下「外国語科目未修得学生」という。）に対する進級の仮認定に関し、必要な事項を定める。

(進級の仮認定を行う条件)

第2 外国語科目未修得学生が、次の各号のいずれにも該当する場合には、鹿児島大学歯学部授業、試験及び進級に関する細則（平成 22 年歯細則第 1 号）第 17 条第 1 項の規定にかかわらず、進級の仮認定を行うものとする。

- (1) 第1年次に履修申請した外国語科目において、鹿児島大学共通教育科目等試験規則（平成 16 年規則第 142 号）第 2 条の規定に基づく受験資格を有し、不合格となった者
- (2) 鹿児島大学共通教育外国語を学ぶ科目群における技能審査合格者等の単位認定規則（平成 16 年規則第 144 号。以下「認定規則」という。）第 2 条に規定する認定基準において、進級認定要件を満たす外国語科目単位が認定される級位の取得又は得点の獲得を行った者

(進級の仮認定の申請)

第3 進級の仮認定を申請する者（以下「申請者」という。）は、認定規則第 3 条第 1 項に定める申請書類、外国語科目の成績の写し及び念書を教育委員会へ提出しなければならない。

- 2 申請期間は、原則として 2 月 15 日から 2 月末日までとする。ただし、当該締切日が、休日及び祝日等に当たるときは、その直後の平日とする。

(進級の仮認定の決定)

第4 進級の仮認定は、申請者から提出された申請書類等に基づき、教育委員会の議を経て、教授会で行うものとする。

(進級の仮認定の取消し)

第5 進級の仮認定を受けた者（以下「進級仮認定者」という。）が、認定規則第 3 条に基づく外国語科目単位の認定申請を行わなかった場合は、進級の仮認定を取り消すものとする。

(進級の認定)

第6 進級仮認定者に対する進級の認定は、教育センター会議において認定規則第4条に基づく外国語科目単位の認定が行われたことを教育委員会において確認した後、教授会において行う。

6. 鹿児島大学歯学部における統合系科目の単位認定に関する申合せ

平成 25 年 3 月 19 日

教 授 会 決 定

この申合せは、統合系科目Ⅰ、統合系科目Ⅱ、統合系科目Ⅲ及び統合系科目Ⅳ（以下「モジュール科目」という。）の単位認定に関し、必要な事項を定める。

- 第1 モジュール科目及びモジュール科目を構成している授業科目（以下「ユニット科目」という。）の単位数は、別表のとおりとする。
- 第2 モジュール科目は、全てのユニット科目の所定の試験に合格している場合に単位を認定する。
- 第3 ユニット科目の合否判定は、各ユニット科目の単位認定教授が行うものとする。
- 第4 モジュール科目の成績は、各ユニット科目の単位数にモジュール科目の単位数を除いた数（小数点第2位以下四捨五入）にユニット科目の成績を乗じたものの合計点（小数点以下四捨五入）とする。

別表（第1関係）

モジュール科目		ユニット科目	
科目名	単位数	科目名	単位数
統合系科目 I	4	顔学	0.5
		地域・離島歯科医療学	0.5
		齲蝕学	0.5
		歯性感染症学	0.5
		唾液腺の基礎と臨床	0.5
		顎関節症の基礎と臨床	0.5
		摂食・嚥下障害及び高齢者歯科学	1
統合系科目 II	2	口腔顔面発生異常学	1
		歯列咬合の発育	0.5
		障害児（者）歯科学	0.5
統合系科目 III	8	救急歯科医学	1
		全身疾患口腔徴候学	0.5
		口腔腫瘍学	0.5
		口腔外科手術学	1
		口腔顎顔面疼痛学	1
		口臭の診断・治療学	0.5
		感染制御学・疾患遺伝子学	0.5
		最新歯科生体材料学・器械特論	1
		歯科インプラント治療学	1
		臨床検査学	1
統合系科目 IV	6.5	医療関係法規	0.5
		歯科再生医療学	0.5
		歯科東洋医学	0.5
		総合歯科学	5

7. 鹿児島大学歯学部共用試験に関する申合せ

平成17年11月16日

歯学部教授会決定

平成18年4月1日一部改正

平成22年4月21日一部改正

平成24年1月18日一部改正

平成25年1月23日一部改正

この申合せは、鹿児島大学歯学部規則（平成16年歯規則第7号）第6条の規定に基づき、鹿児島大学歯学部共用試験（CBT 及び OSCE）に関し、必要な事項を定める。

第1 共用試験の可否の判定は、CBT 及び OSCE がそれぞれ 60%以上を合格とする。

第2 CBT が 60%未満の者は、1 回のみ再試験を受験できることとする。

第3 OSCE の再試験は行わないこととする。

第4 試験の時期は、その判定も含め臨床実習開始前とする。

第5 CBT の結果が不合格の者は、当該年度の OSCE を受験できるが、可否にかかわらず次年度の共用試験を再受験するものとする。

第6 共用試験が不合格の者は、臨床予備実習を再受講しなければならない。

第7 5 年次後期までに修得しなければならない科目に不合格となり留年した者で、共用試験が合格であった場合、この共用試験の有効期間は、合格した日から1 年を経過する日の属する年度末までとする。

第8 社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構への入会金及び年会費は鹿児島大学が支払うこととする。

第9 共用試験及び CBT 再試験の受験料は受験生負担とする。

8. 臨床予備実習および臨床実習に関する申合せ

平成 19 年 4 月 1 日

教 授 会 決 定

この申合せは、鹿児島大学歯学部規則第 6 条の規定に基づき、鹿児島大学歯学部専門科目である臨床予備実習および臨床実習に関して、必要な事項を定める。

第 1 臨床予備実習および臨床実習の合否の判定は、それぞれの科目で 60 点以上を合格とする。

第 2 臨床予備実習および臨床実習については、全ての診療科から提出された成績の平均をそれぞれの科目の成績とする。ただし、各診療科からの成績のうち 60 点に満たない成績がある場合は、平均点とせず、その科目は不合格とする。

第 3 不合格の場合は、再度履修することとする。

9. 臨床実習の目標

- 1 医療における倫理観を持ち、医療者としての役割を認識する。
- 2 歯科医療と口腔保健増進の意義と重要性を理解する。
- 3 患者とその家族、医師、歯科医師並びにコデンタルスタッフとのコミュニケーションの基本を身につける。
- 4 一般歯科診療の基本原則を理解し、基本的臨床能力を習得する。
- 5 歯科の主要疾患と主要症候について、診療の進め方の基本を理解する。
- 6 高度の専門的な診療を要する歯科疾患について、その診療の進め方、専門診療機関・施設への相談・紹介の適応と時期等についての基本を身につける。
- 7 患者の生命にかかわり、重篤な後遺症をもたらす恐れのある歯科疾患について、症状の早期発見と初期対応の基本を学ぶ。
- 8 自己の診療能力の限界を知り、常に万全を期するために他の専門の歯科医師（医師）等に相談する態度・習慣を身につける。
- 9 歯科診療に関する問題を発見して自ら解決する態度を培う。
- 10 地域基盤型歯科医療における社会的側面を認識し、その重要性を理解する。

10. 鹿児島大学歯学部学生表彰要項

平成 24 年 12 月 19 日
教 授 会 決 定

(趣旨)

第 1 この要項は、学業、学術研究活動、課外活動、社会活動において、優秀な成績や活動業績を収めた鹿児島大学歯学部（以下「本学部」という。）学生又は学生団体に対して学部長が行う表彰（以下「表彰」という。）について、必要な事項を定める。

(表彰基準)

第 2 表彰は、次の各号のいずれかに該当する本学部学生又は学生団体について行うことができる。

- (1) 学業において、特に優秀な成果を収め、かつ、他の学生の模範になると認められた場合で、次に該当する本学部学生
 - ア 本学部第 6 年次に在学し、卒業要件を満たした学生で、第 1 年次から第 6 年次までに履修すべき専門教育科目の総合得点が 1 位の者
 - イ 本学部第 6 年次に在学し、卒業要件を満たした学生で、第 2 年次から第 3 年次までに履修すべき専門教育科目のうち基礎系科目の総合得点が 1 位の者
 - ウ 本学部第 6 年次に在学し、卒業要件を満たした学生で、第 3 年次から第 4 年次までに履修すべき専門教育科目のうち臨床系科目の総合得点が 1 位の者
 - (2) 学術研究活動において、特に優秀な成果を収め、かつ、他の学生の模範になると認められた場合で、次に該当する本学部学生
 - ア 国際的、全国的又はこれに準ずる学会において、高い評価を受けた本学部学生
 - (3) 課外活動において、その成果が特に顕著であり、かつ、本学部の課外活動の振興に功績があったと認められた場合で、次に該当する本学部学生又は学生団体
 - ア 地区的規模（九州地区）以上の競技会、展覧会、公演会において、第 3 位までに入賞（これに相当する賞を含む。）した本学部学生又は学生団体
 - (4) 社会活動において、特に顕著な功績があり、本学部の名誉を著しく高めたと認められた場合で、次のいずれかに該当する本学部学生又は学生団体
 - ア ボランティア活動において、顕著な活動が認められた本学部学生又は学生団体
 - イ 人命救助、犯罪防止又は災害防止に貢献した本学部学生又は学生団体
 - (5) その他前各号と同以上の評価を得たと認められる場合
- 2 前項第 1 号アからウによる同一学生への重複表彰は、認めない。

(他の表彰との重複)

第 3 第 2 第 1 項第 2 号から第 5 号に該当する事由により学長から表彰を受けた本学

部学生又は学生団体への同一事由による表彰は行わない。

(表彰候補学生又は学生団体の推薦)

第4 学年担任、課外活動顧問教員は、第2第1項各号のいずれかに該当すると認められる本学部学生又は学生団体があった場合には、別記様式「表彰候補学生・学生団体推薦書」により学部長に推薦するものとする。

(表彰の審議)

第5 表彰候補学生又は学生団体の推薦があった場合は、教育委員会又は学生委員会の議を経て、教授会で決定するものとする。

(表彰決定の取消し)

第6 表彰予定学生又は学生団体が、鹿児島大学の理念に反する行為を行った場合には、表彰決定を取り消すことがある。

(表彰)

第7 表彰は、学部長が表彰状を授与することにより行う。

2 第2第1項第1号アに該当する者の表彰は徳永賞、第2第1項第1号イ及びウに該当する者の表彰は野井倉賞と称し、受賞者には表彰状の授与にあわせて記念品を贈呈する。

(表彰の時期)

第8 表彰は、原則として教授会又は卒業式の日に行う。

(事務)

第9 表彰に関する事務は、医歯学総合研究科学務課において処理する。

(雑則)

第10 この要項に定めるもののほか、表彰に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この要項は、平成24年12月19日から実施する。

2 徳永賞・野井倉賞に関する申合せ(平成17年1月19日教授会決定)は廃止する。

○徳永賞について

徳永賞とは、故徳永純一教授(第2代歯学部長 口腔細菌学講座教授)の御遺族から寄贈された基金をもって、昭和58年度に創設されたものです。

○野井倉賞について

野井倉賞とは、故野井倉武憲名誉教授(初代放射線学講座教授)の御遺族から寄贈された基金をもって、平成16年度に創設されたものです。

1 1. 歯学部学習室利用に関する内規

平成 17 年 6 月 15 日
教 授 会 決 定

(目的)

第 1 条 医歯学総合研究科棟 1 に自主学習を支援するため学習室を設置する。

(利用者)

第 2 条 学習室を利用することのできる者は、歯学部 5 年生、6 年生及び学部長が特別に認めた者とする。

(学習室の名称等)

第 3 条 学習室の名称、設置場所及び利用時間等は、次の表のとおりとする。

学習室名称	学年	設置場所	利用日	利用時間
第 2 総合示説室	6 年生	研究棟 1 階	通年	午前 8 時～午前 0 時
学生談話室	6 年生	研究棟 9 階	通年	午前 8 時～午前 0 時
学生自習室	6 年生	講義実習棟 1 階	平日	午前 8 時 30 分～午後 9 時
第 1 学生技工室	5 年生	研究棟 2 階	平日（6 年生の利用期間を除く。）	午前 8 時～午前 0 時
	6 年生	研究棟 2 階	平日（臨床実習開始日から終了日まで。）	

(利用日)

第 4 条 学習室の利用は、前条の表のとおりであるが、本学部の学事日程（入学試験、履修指導、各種会議、講演等）、臨時（学部長許可）に使用する場合及び年末年始（12 月 28 日から翌年 1 月 3 日まで）の期間は除く。

(利用時間)

第 5 条 利用できる時間帯は原則として第 3 条の表のとおりであるが、事前に願い出て許可を得た場合は延長することができる。

(代表者)

第 6 条 利用者は、年度当初に代表者を定め、代表者は、利用者名簿に誓約書（別記様式第 1 号）を添えて学務課歯学教務係に提出する。

(利用心得の遵守)

第7条 利用者は、別に定める学習室利用心得を遵守しなければならない。

(賠償責任)

第8条 故意または過失により、学習室に火災その他の事故を生じさせた者には、損害賠償の責任を負わせる場合もある。

(管理)

第9条 学習室の管理は、学務課歯学教務係において行う。

(その他)

第10条 この内規に定めるもののほか必要な事項は、学部長が別に定める。

附 則

この内規は、平成17年6月15日から実施する。

附 則

この内規は、平成20年6月18日から実施する。

附 則

この内規は、平成22年10月20日から実施する。

附 則

この内規は、平成24年1月18日から実施する。

鹿児島大学歯学部長 殿

誓 約 書

私達は、学習室の利用に当たり下記の事を遵守する事を誓います。もし万が一これに違反した場合には、利用を禁止されても異存はありません。

記

1. 「学習室利用内規」及び「学習室利用心得／使用上の注意」を遵守します。
2. 部屋や廊下での騒音、大声等教育研究の妨げになる行為は厳に慎みます。
3. 特に火気には注意し、室内での飲食、喫煙はしません。
4. 部屋の整理整頓等に心がけ、常に清潔に利用します。
5. 最後に学習室を退出する者は、消灯、水栓及び電源スイッチ等の点検を確認し、清掃及び戸締まり等を確実に行います。
6. 利用に際して事故等が発生した場合は、速やかに下記に連絡します。
平日の勤務時間内： 学務課歯学教務係 099-275-6040
土日、休日、時間外： 防災センター 099-275-5019
宿直室 099-275-6046
7. その他 教育委員会委員、学務課職員の指示に従います。

※ 上記については、この宣誓書は学習室利用代表者により提出するが実際の事象が生じた場合は、クラス全員の責任とする。

平成 年 月 日

使用代表者 学 年

氏 名

住 所

電話番号



※ 学習室利用代表者が、この誓約書の提出に当たっては、利用者全員の同意を得た上で、提出したものとみなすので留意すること。

別記様式第2号

歯学部長	教育委員長	学務課長	学務課長代理	歯学教務係長	担当者

平成 年 月 日

歯学部学習室利用許可願

鹿児島大学歯学部長 殿

使用代表者 学 年
氏 名
住 所
電話番号 _____



私たちは、下記により学習室を利用したいので許可願います。

記

1 使用日時： 平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日
時 分～ 時 分

2 使用室名： 1) _____ 2) _____ 3) _____

3 使用者数： _____ 名
内訳：利用する学生の氏名（多い場合は別紙を付けてください）

12. 歯学部端末室使用に関する内規

平成17年6月15日
教授会決定

(趣旨)

第1条 この内規は、鹿児島大学歯学部講義棟第4講義室パソコン端末室（以下「端末室」という。）の適切な管理運営を図るために、必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この内規で端末室とは、学部学生及び大学院生の授業、自習、情報検索、卒業研究、論文執筆、就職活動などを支援するためにパソコン端末を設置した講義室をいう。

(管理運営)

第3条 端末室の管理運営に関する事項は、歯学部教育委員会及び歯学部情報ネットワーク委員会において協議する。

(使用の基準)

第4条 端末室は、授業、学校行事及び学生の自習に使用するほか、職員の研究利用等に使用させるものとする。また、原則として授業及び学校行事を優先する。

(使用時間等)

第5条 端末室の使用時間は、原則として午前8時30分から午後6時20分までとする。ただし、土、日、休日及び12月28日から翌年1月3日の期間は除く。

(使用手続等)

第6条 端末室の使用手続は、次に掲げるところによる。

- (1) 授業等で端末室を使用する場合は、あらかじめ「講義室等使用許可願」を歯学教務係に提出し、教育委員会委員長の許可を得なければならない。
- (2) 学生が端末室を自習で使用する場合は、インテリジェントカード（学生証にインテリジェントカードとしての機能を付加したもの。以下「学生用カードという。」）及び学術情報基盤センター利用証を作成し、「歯学部端末室使用に関する内規」及び「鹿児島大学学術情報基盤センター電子計算機システム利用の手引き」を熟読し、遵守すること。
- (3) 職員が端末室を使用する場合は、インテリジェントカード（職員証にインテリジェントカードとしての機能を付加したもの。以下「職員用カード」という。）を含む。）及び学術情報基盤センター利用証を作成し、「歯学部端末室使用に関する内規」及び「鹿児島大学学術情報基盤センター電子計算機システム利用の手引き」を熟読し、遵守すること。また、職員用カードについては、「歯学部端末室入退室のためのインテリジェントカードに関する内規」を遵守すること。

(使用の中止)

第7条 端末室の使用を許可された者が、使用を中止しようとするときは、速やかに学務課歯学教務係に届け出なければならない。

(転貸の禁止)

第8条 端末室の使用を許可された者は、他の者に一部又は全部を転貸してはならない。
また、学生用カード、職員用カード及び学術情報基盤センター利用証の第三者への貸与を禁止する。

(使用許可の取消)

第9条 端末室の使用許可後においても次の各号の一に該当する場合は、使用許可を取り消し、又は使用の停止を命ずることがある。

- (1) 使用を許可された際の使用目的に違反し、又は使用許可についての条件を履行しないとき。
- (2) 使用願に虚偽の記載があったとき。
- (3) 教育委員会委員長が特に必要があると認めたとき。
- (4) 「歯学部端末室使用に関する内規」、「歯学部端末室入退室のためのインテリジェントカードに関する内規」及び「鹿児島大学学術情報基盤センター電子計算機システム利用の手引き」を遵守しないとき。
- (5) 学生用カード、職員用カード及び学術情報基盤センター利用証を第三者へ貸与したとき。

(賠償責任)

第10条 故意または過失により、端末の損傷及び盗難等が生じた場合、その使用者に対し損害賠償の責任を負わせる場合がある。

(雑則)

第11条 この内規に定めるもののほか、端末室の使用に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この内規は、平成17年6月15日から実施する。

附 則

この内規は、平成23年1月19日から実施する。

13. 鹿児島大学歯学部における学生の成績等開示請求及び異議申立てに関する規則

平成22年1月20日

歯規則第 1 号

(趣旨)

第1条 この規則は、学生の成績等開示請求及び異議申立て等への対応に関する全学的指針（平成22年1月7日教育研究評議会決定）に基づき、鹿児島大学歯学部（以下「本学部」という。）における学生の成績等開示請求及び異議申立て（共通教育科目等に係るものを除く。）に関し、必要な事項を定める。

(対応組織)

第2条 学生の成績等開示請求及び異議申立てに関する対応は、歯学部教育委員会がこれを行う。

(開示請求)

第3条 本学部の学生は、成績等の開示請求を行うことができる。

2 開示請求の対象は、当該学生の成績評価、進級判定及び卒業判定並びに当該学生が受けた試験の問題、答案及び解答例（文章記述式解答を除く。）とする。ただし、国立大学法人鹿児島大学法人文書管理規則（平成16年規則第131号）に定める保存期間を満了したものについては、開示できない場合がある。

3 社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構の共用試験（以下「共用試験」という。）については、開示請求の対象外とする。

4 開示請求の受付期間は、成績発表及び判定結果の公示日（以下「公示日」という。）から起算して7日以内とする。ただし、異議申立て又は再異議申立て（以下「異議申立て等」という。）を行う場合は、公示日からその回答を受理した日までの期間を加えるものとする。

5 開示請求を行う学生は、成績等開示請求書（別記様式第1号）を学部長に提出しなければならない。

6 学部長は、開示請求日から起算して原則として10日以内に開示請求に対する回答書（別記様式第2号）により回答を行うものとする。ただし、10日以内に開示できない場合は、開示できない理由等を当該学生に説明するとともに、学部長は、その状況を教育担当理事及び学生部長（以下「理事等」という。）に報告するものとする。

(異議申立て)

第4条 本学部の学生は、教学上の判定に不服のある場合は、異議申立てを行うことができる。

2 共用試験のうち本学が関与しない事項については、異議申立ての対象外とする。

- 3 異議申立ての受付期間は、公示日から起算して7日以内とする。ただし、開示請求を行う場合は、公示日からその回答を受理した日までの期間を加えるものとする。
- 4 異議申立てへの回答に不服がある当該学生は、再異議申立てを行うことができる。
- 5 再異議申立ての受付期間は、異議申立ての回答を受理した日から起算して7日以内とする。
- 6 異議申立て等を行う学生は、異議申立書・再異議申立書（別記様式第3号）を学部長に提出しなければならない。
- 7 学部長は、異議申立て等について、速やかに調査等を行い、申立ての日から起算して原則として7日以内に異議申立て・再異議申立てに対する回答書（別記様式第4号）により、回答を行うものとする。
- 8 学部長は、調査等により過失が認められたとき又は疑義が想定されるとき等、7日以内に解決が困難な場合は、当該学生に状況を説明するとともに、その内容を学長、教育担当理事、危機管理室長、監事及び学生部長（以下「学長等」という。）に報告し、対応について協議するものとする。

（調査及び調査結果報告等）

- 第5条 学部長は、異議申立て等に伴う調査等の結果、過失が認められたとき又は疑義が想定されるとき等は、直ちに過失又は疑義の発生原因が特定される時期まで遡って、組織的に調査等を行うものとする。
- 2 前項の調査等は、異議申立て等の日から起算して原則として30日以内に終了するものとし、調査終了後、学部長は、速やかに調査等の結果を学長等に報告するものとする。ただし、調査等に時間を要する場合は、適宜進捗状況を報告するものとする。
 - 3 学部長は、当該学生に対し、適宜途中経過を説明するとともに、調査等終了後にその結果を説明するものとする。
 - 4 学部長は、第3条第6項及び第4条第7項に該当する事案が解決した場合は、理事等に、第4条第8項に該当する事案が解決した場合は、学長等に速やかに報告するものとする。
 - 5 学部長は、調査等の結果、成績評価等における重大な過失又は疑義が判明した場合は、成績評価基準、進級判定基準等の全ての教育の在り方について点検・見直しを行うものとし、重大な過失が判明した場合は、併せて学外有識者等による検証を実施するものとする。

（雑則）

- 第6条 この規則に定めるもののほか、学生の成績等開示請求及び異議申立て等に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成22年1月20日から施行する。

附 則

この規則は、平成 22 年 4 月 21 日から施行する。

14. 欠席の手続き

やむを得ず講義や実習を欠席するときは、各自で受講している講義や実習の担当教員に連絡をしてください。ただし、担当教員と連絡がとれない等の場合には、歯学教務係に連絡をしてください。

また、やむを得ず欠席する（した）場合は、欠席届（下記様式）を作成し、担当教員の確認印を受けた後、理由書（病気の場合は医師の診断書）を添えて、歯学教務係へ提出してください。

なお、所定の手続きを行っても、鹿児島大学歯学部授業、試験及び進級に関する細則第6条においては、欠席として取扱いますので、ご注意ください

平成 年 月 日			
鹿児島大学歯学部長 殿	現住所 _____ TEL _____ 氏 名 _____ 印 ・ 名簿番号 _____ 番 平成 年入学・歯学部 年次生		
講 義 欠 席 届 実 習			
私こと（ ）のため、平成 年 月 日（ ）から平成 年 月 日（ ）まで 下記の 講 義 を 1 欠席したいので、御許可下さるよう（別紙診断書又は理由書を添え）お願い致します。 実 習 を 2 欠席いたしましたので、（別紙診断書又は理由書を添え）お届け出を致します。			
講義 実習	科 目 名	講義 実習	科 目 名
講義 実習	担当教員氏名 ㊤	講義 実習	担当教員氏名 ㊤

(注) この届及び添付書類に記された個人情報を目的外に使用することはありません。

※ 欠席届の様式は歯学教務係の窓口にあります。

15. 歯学部教員名簿

(平成26年4月1日現在)

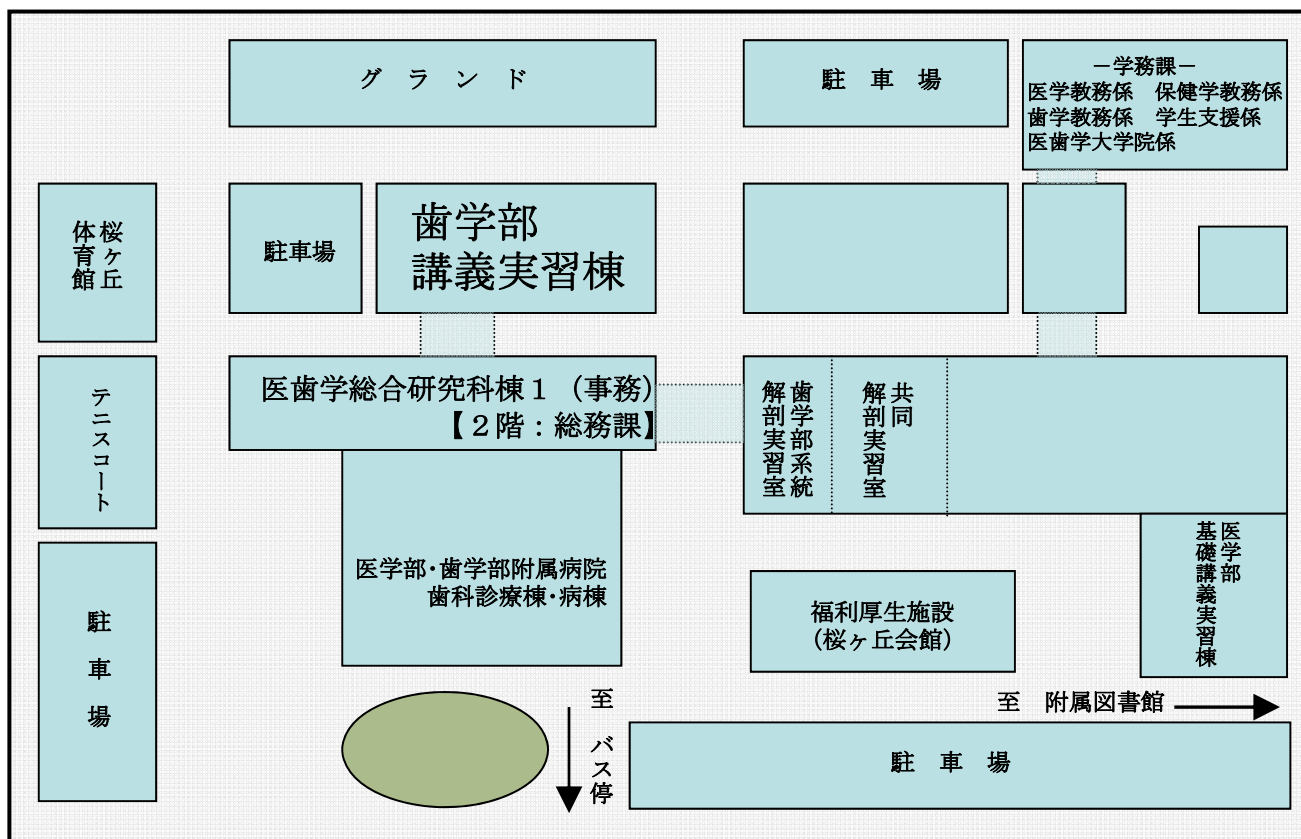
歯学部長 松 口 徹 也

附属病院副病院長 山 崎 要 一

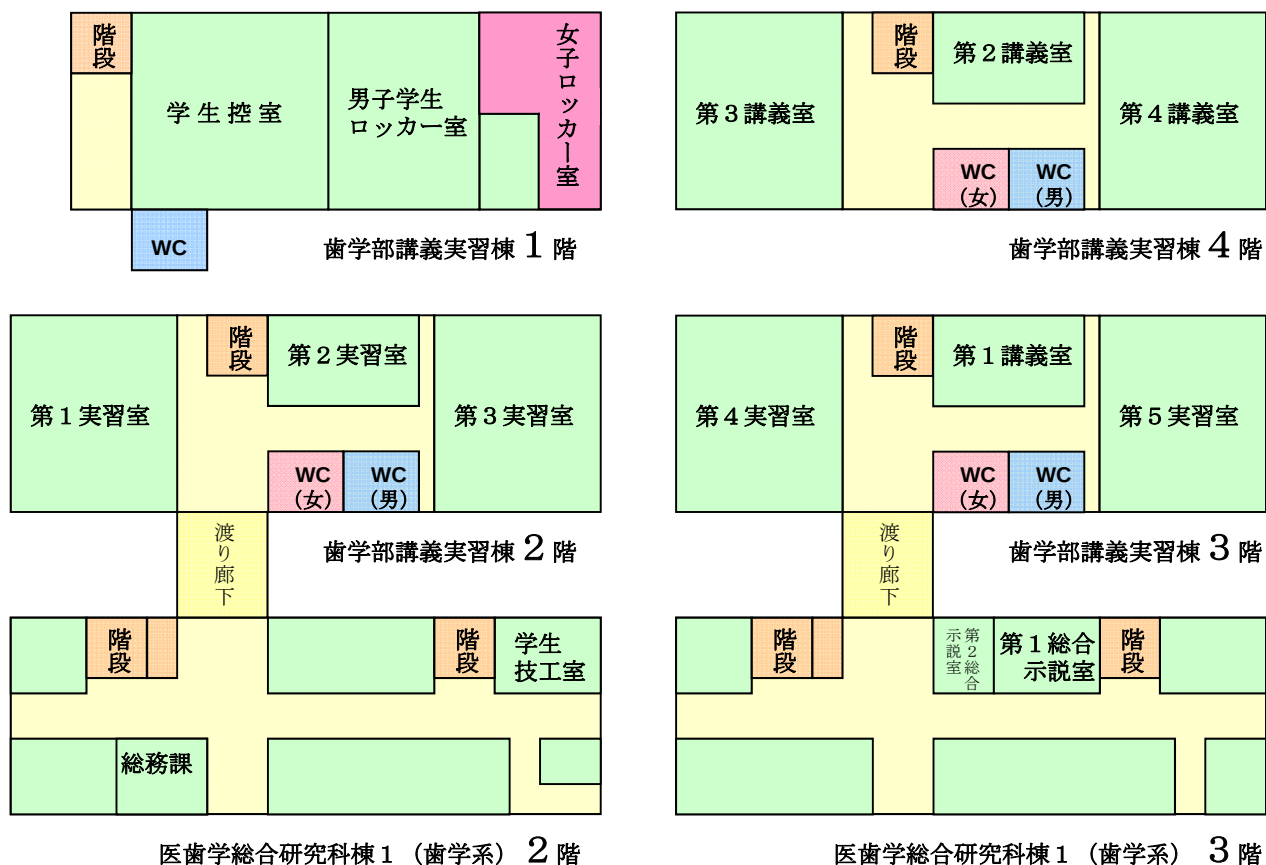
研究分野	旧講座等	教 授	准 教 授	講 師
歯科機能形態学	口腔解剖学(1)	後藤 哲哉	山中 淳之	
人体構造解剖学	口腔解剖学(2)		田松 裕一	
口 腔 生 理 学	口腔生理学	原田 秀逸	三浦 裕仁	
口 腔 生 化 学	口腔生化学	松口 徹也	大西 智和	
口 腔 病 理 解 析 学	口腔病理学	仙波 伊知郎		
口 腔 微 生 物 学	口腔細菌学	小松澤 均		松尾 美樹
歯科応用薬理学	歯科薬理学	佐藤 友昭		増原 正明
歯科生体材料学	歯科理工学	菊地 聖史		
心 身 歯 科 学	歯科基礎科学		梶原 和美 信友 建志	
予 防 歯 科 学	予防歯科学	於保 孝彦	山口 泰平	※佐藤 節子
歯 科 保 存 学	歯科保存学(1)	鳥居 光男	徳田 雅行	※塚田 岳司
歯 周 病 学	歯科保存学(2)	野口 和行	松山 孝司	※町頭 三保 ※白方 良典
咬 合 機 能 補 綴 学	歯科補綴学(1)	南 弘之		※嶺崎 良人
口腔顎顔面補綴学	歯科補綴学(2)	西村 正宏	西 恭宏	※村上 格
顎顔面疾患制御学	口腔外科学(1)		向井 洋	
口腔顎顔面外科学	口腔外科学(2)	中村 典史	野添 悦郎	※西原 一秀 ※比地岡浩志
歯 科 矯 正 学	歯科矯正学	宮脇 正一		大牟禮治人 ※八木 孝和
小 児 歯 科 学	小児歯科学	山崎 要一		※岩崎 智憲
顎顔面放射線学	歯科放射線学	馬嶋 秀行	佐藤 強志	※末永 重明
歯科麻酔全身管理学	歯科麻酔科	梶山 加綱	梶谷 淳	※真鍋 庸三
歯科医学教育実践学		田口 則宏		

(備考) ※印は附属病院所属の教員を示す。

16. 歯学部講義実習棟周辺略図



歯学部講義室・実習室等配置略図



17. 歯学部専門科目シラバス

■ 科目名				
歯学入門				
■ 英語名				
Fundamentals to Dentistry				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
歯学導入系科目	必修科目	講義	2	1期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
歯学部長、歯科担当副病院長、各分野教員、非常勤講師（上村 亮三、堂原 義美、本郷 寛）		歯学部各分野 他		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6040		電話連絡をお願いします。		
■ オフィスアワ -				
特に時間は指定しない。事前に歯学教務係を通して予約をとること。				
■ キーワード				
歯科医学 歯学部 動物実験 学習 保険制度				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
GI0：歯学部教育目標とカリキュラムを理解し、自らの学修方略の確立を目指し、歯科基礎医学、および歯科医療の特徴を理解する。				
SB0s：				
1. 歯学部教育目標とカリキュラムについて説明できる。				
2. 歯科医学教育コア・カリキュラムについて説明できる。				
3. 歯科常態学の各分野を学修する為に必要な学修方略を企画し、提示できる。				
4. 歯科病態学の各分野を学修する為に必要な学修方略を企画し、提示できる。				
5. 歯科生体材料学を学修する為に必要な学修方略を企画し、提示できる。				
6. 社会・行動医学を学修する為に必要な学修方略を企画し、提示できる。				
SB0s：				
1. 歯学部教育目標とカリキュラムについて説明できる。				
2. 歯科医学教育コア・カリキュラムについて説明できる。【A-6-1)-(1)】				
3. 歯科常態学の各分野を学修する為に必要な学修方略を企画し、提示できる。【A-6-1)-(1), A-6-2)-(1)】				
4. 歯科病態学の各分野を学修する為に必要な学修方略を企画し、提示できる。【A-6-1)-(1), A-6-2)-(1)】				
5. 歯科医学に必要な動物実験に関する動物愛護の理念と制度・規則を説明できる。				
6. 国内の歯科医療制度の現状について理解し、歯科医療の特徴を説明できる。				
7. 歯科医学・医療における審美について理解し、歯科医療の特徴を説明できる。【A-3】				
5. 歯科医学に必要な動物実験に関する動物愛護の理念と制度・規則を説明できる。				
6. 国内の歯科医療制度の現状について理解し、歯科医療の特徴を説明できる。【A-3】				
■ 授業概要				
歯科医学・医療を学び、社会が求める歯科医師となることを目指すこの初年時に、将来どのような歯科医師になるのかを自ら再確認するために行われる医学部・歯学部附属病院での「早期体験実習」と同時に、「歯学入門」として、この授業では、歯科基礎医学を構成する歯科常態学と歯科病態学の各分野における学修方略を確立するために、歯学部での教育目標・カリキュラムを理解し、歯科基礎医学の各分野それぞれの特徴と目標を学び、また、歯科医学・医療の特徴を知り、自ら学ぶために必要なスタディスキル（学修方略）の確立を目指します。				
高校までの学修方略とは異なり、大学での学修には自ら学ぶ姿勢と学ぶ技術が必要です。また、常にどのような歯科医師になるのかを考え、学びの目標を明確にするためにも、歯科医学・医療の特徴を理解することが必要です。主に患者さんの診療を行う歯科臨床医学の基盤を成す歯科基礎医学の各分野で求められる個別の学修目標を理解し、2年次から始まる専門課程での学修に備えて、確立しておかなければならない態度、知識、そして技術を再確認し、準備を開始することが重要です。				
この授業を通して、今後、歯学部での学修に必要なスタディスキルを自ら企画し、実践できる能力を養うことを目指します。				
■ 授業計画				
日程	時間	担当講座	担当者	

1	4/15(火)	1 限	歯学部教育目標・カリキュラム	歯学部教育委員長
		2 限	大学のスタディスキル(学修方略)	歯科医学教育実践学
2	4/22(火)	2 限	歯科常態学 1 (解剖 1)	
3	5/13(火)	2 限	歯科常態学 2 (解剖 2)	
4	5/20(火)	2 限	歯科常態学 3 (生理)	
5	5/27(火)	2 限	歯科常態学 4 (生化)	
6	6/ 3(火)	2 限	歯科病態学 1 (病理)	
7	6/10(火)	2 限	歯科病態学 2 (細菌)	
8	6/17(火)	2 限	歯科病態学 3 (薬理)	
9	6/24(火)	2 限	歯科生体材料学(理工)	
10	7/ 1(火)	1 限	社会・行動医学(心身歯科学)	
11	7/ 1(火)	2 限	鹿児島大学 動物実験施設	上村 亮三 准教授
12	7/ 8(火)	1 限	元九州厚生局厚生労働技官・指導医療官	(非)堂原 義美 講師
		2 限		(非)堂原 義美 講師
13	7/15(火)	1 限	東京芸術大学 教授	(非)本郷 寛 講師
		2 限		(非)本郷 寛 講師
14	7/22(火)	1 限		(非)堂原 義美 講師
		2 限		(非)堂原 義美 講師
15	7/29(火)	予備日		
非常勤講師の予定で日程変更の可能性あり				
■ 予習・復習へのアドバイス				
・各講義ではプロジェクター、ビデオ、および標本等を用いて、視覚素材を多用した、専門課程での講義を模した授業が行われますので、受け身の授業にならないように留意し、内容の理解だけに留まらず、ノートテイクや配付資料の保存管理法など、自らの学修方略の確立に努めて下さい。				
・配布資料、指定教科書、および参考書などを十分理解し、各課題(テストやレポート)の出題意図を十分に考え、また、十分な準備時間を計画して、各課題に取り組んで下さい。特に、提出期日や様式などの約束事を遵守して下さい。				
■ 教科書				
特に指定しない。				
■ 参考書				
・近田政博著「学びのティップス」玉川大学出版 (ISBN 978-4-472-40401-6)				
・山川浩司著「国際薬学史」南江堂 (ISBN 4-524-40165-2)				
その他、各担当教員が授業時間中に随時紹介する。講義時に各担当から書籍の紹介することがある。各担当教員が紹介したものは一読のため購入を勧める。				
■ 成績の評価基準				
授業中のテストやレポート(70%)と授業への参加態度(30%)を各授業毎に評価し、その平均点を成績とします。				
■ 再試験の有無				
無				
■ 研究活動との関連				
■ その他				
・非常勤講師の予定で日程変更の可能性がありますので、歯学教務係からの連絡に留意して下さい。				
■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー				
1. 歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。				
9. 生涯にわたり自律的に学習習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。				

■ 科目名				
歯科臨床早期体験実習				
■ 英語名				
Early Exposure				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
歯学導入系科目	必修科目	講義・演習	2	1期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
臨床教育部会長、各臨床系分野担当教員		各臨床系分野		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6040		isggsk@kuas.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
特に時間は指定せず、随時対応する。				
■ キーワード				
医療者としての態度、プロフェッショナリズム、医療コミュニケーション				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
一般目標（GIO）				
将来の医療者としての素養を身につけるために、医療現場において歯学部1年生が有すべき基本的な知識、態度を習得する。				
個別行動目標（SBO）				
1．将来の医療者として必要な態度、倫理観を説明できる。				
2．将来の医療者としてふさわしい行動をとることができる。				
3．必要に応じて指導歯科医や上級生と連携をとることができる。				
4．大学病院における歯科医療の概略を説明できる。				
5．医療現場を支える多職種の役割を説明できる。				
■ 授業概要				
大学病院における歯科医療の現場を見学し、将来優れた医療者となるため、6年間にわたる学部教育に目的意識を持って取り組むことができるよう、院内各診療科の見学を行う。見学は院内全12診療科、部をグループごとにローテートし、指導歯科医、研修歯科医および6年生（臨床実習生）の管理のもと診療の見学を行う。一連の見学が終了した後は、学生参加型の授業で「医療者としてのあり方」に関する討論を行い、個々の意見を出し合うとともに情報共有を図る。				
■ 授業計画				
（回数）	（日時）	（場所）	（内容）	（担当）
第 1回	4/15（火）3限	第 4 講義室	オリエンテーション、各科の説明	臨床教育部会長、各診療科教員
第 2回	〃 4限	〃	〃	〃
第 3回	4/22（火）3限	各診療科	臨床見学実習	各診療科教員
第 4回	〃 4限	〃	〃	〃
第 5回	5/13（火）3限	各診療科	臨床見学実習	各診療科教員
第 6回	〃 4限	〃	〃	〃
第 7回	5/20（火）3限	各診療科	臨床見学実習	各診療科教員
第 8回	〃 4限	〃	〃	〃
第 9回	5/27（火）3限	各診療科	臨床見学実習	各診療科教員
第10回	〃 4限	〃	〃	〃
第11回	6/ 3（火）3限	各診療科	臨床見学実習	各診療科教員
第12回	〃 4限	〃	〃	〃
第13回	6/10（火）3限	各診療科	臨床見学実習	各診療科教員
第14回	〃 4限	〃	〃	〃
第15回	6/17（火）3限	各診療科	臨床見学実習	各診療科教員
第16回	〃 4限	〃	〃	〃
第17回	6/24（火）3限	各診療科	臨床見学実習	各診療科教員
第18回	〃 4限	〃	〃	〃
第19回	7/ 1（火）3限	各診療科	臨床見学実習	各診療科教員
第20回	〃 4限	〃	〃	〃
第21回	7/ 8（火）3限	各診療科	臨床見学実習	各診療科教員

第22回	〃	4限	〃	〃	〃
第23回	7/15 (火)	3限	各診療科	臨床見学実習	各診療科教員
第24回	〃	4限	〃	〃	〃
第25回	7/22 (火)	3限	各診療科	臨床見学実習	各診療科教員
第26回	〃	4限	〃	〃	〃
第27回	7/29 (火)	3限	第4講義室	グループワーク	臨床教育部会長
第28回	〃	4限	〃	〃	〃
第29回	8/ 5 (火)	3限	第4講義室	グループワークとまとめ	臨床教育部会長
第30回	〃	4限	〃	〃	〃
■ 予習・復習へのアドバイス					
予習については、病院パンフレット、ホームページ等を参照し、事前に鹿児島大学病院の概要について理解を深めておくこと。復習については、毎日の実習後に「実習記録（実習の振り返り）」の記載を行うこと。					
■ 教科書					
特に指定しないが、鹿児島大学病院に関する基本的な情報は理解しておくこと。					
■ 参考書					
「人間学入門 医療のプロを目指すあなたに」日本医学教育学会編 南山堂 2009					
「患者と医師のコミュニケーション より良い関係作りの科学的根拠」Debra L Roter (石川ひろの 監訳) 篠原出版新社 2007					
「あなたの患者になりたい 患者の視点で語る医療コミュニケーション」佐伯晴子 医学書院 2003					
■ 成績の評価基準					
毎日の実習後に記載する「実習記録（実習の振り返り）」、実習態度（各診療科教員による評価）、グループワークでの成果等をもとに、総合的に評価を行う。					
■ 再試験の有無					
■ 研究活動との関連					
■ その他					
実習の大半は大学病院の各診療科で行われる。大学病院は教育機関であるとともに、高度な医療を提供する地域の中核病院としての機能も持っている。したがって、患者さんと接する際には、医療者の一員としてふさわしい態度を心がけるようにすること。					
* 常に大学病院の関係者であることを自覚し、節度ある行動をとること。特に、患者さんや付添いの方々に迷惑となるような行動は厳に慎み、対応する場合は学生である旨伝え、節度をわきまえて接すること。					
* 医療者の一員としてふさわしい、清潔感のある服装（しわのない白衣、ヒールのない靴等）、身だしなみ（華美な髪型、装飾品は原則すべて禁止、香水・たばこの匂いは厳禁、等）で実習に臨むこと。					
* 診療見学中の私語は禁止する。教員への質問は、診療中は避け、業務の合間に行うこと。					
* 実習態度等に問題がある場合は、実習停止を命ずる場合がある。					
* やむを得ない理由で遅刻、欠席する場合には、事前に必ず歯学教務係（TEL：099 - 275 - 6040）に連絡すること。					
■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー					

■ 科目名				
全人的歯科医療実践学				
■ 英語名				
The practical study of holistic dental medicine				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
歯学導入系科目	必修科目	講義	2	2期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
信友 建志		心身歯科学		
■ 連絡先 (TEL)		■ 連絡先 (MAIL)		
099-275-6290		nobutomo@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
【オフィスアワー】講義後				
【メール・HP】上記のメールアドレスに、質問などを送ってください。後日に回答します。ただしメールでの欠席届けは無効です。				
【授業後】授業直後の時間に質問などに対応します。				
【その他】電話対応もいたします。				
■ キーワード				
社会的貢献意識、視野・判断力・探求能力				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
(1) 医療、歯科医療および医学、歯学研究における現在の主要な倫理的諸問題を把握する。 【A-1, A-4】				
(2) ついで、それがどのような歴史的な経緯で問題として浮上し、どのように解釈されてきたかを歴史的に理解する。 【A-2, A-3】				
(3) それを同時代的の社会的、文化的枠組の中に配置し説明できるようにする。 【A-6】				
(4) これらを通じて、将来において必要とされる他者認識、他者理解および自己理解の基礎を形成する。 【A-7】				
■ 授業概要				
病は一個の医学的事象であると同時に、社会、文化、思想ほか多面にわたる広がりを持った事象でもあり、ひとりの患者のひとつの語りは、そのネットワークの複雑な交点である。すべての教養に求められているものがそうであるように、われわれはそうした複雑さに直面した際、一步引いた位置から自分と他者の拠って立つ位置を理解し話し合うことができねばならない。本講義ではそのための材料を提供する。				
■ 授業計画				
第 1回～第 3回 歯科医学教育実践学 (田口教授担当予定)				
第4回 役割演技と感情労働：現代社会において人格とは何か？				
第5回 服従実験、監獄実験：人格の落とし穴？				
第6回 イェルサレムのアイヒマン：義務と倫理の対立？				
第7回 誰が誰に語るのか：人格の中の分裂、聴取の意味				
第8回 直観主義、義務論、功利主義：現代の主要な枠組はなにか？				
第9回 自由とプライバシー：自己コントロール、自己決定へと至る道				
第10回 健康とは何か？：統計学の誕生のインパクト				
第11回 福祉社会とパターンリズム				
第12回 社会は病気を作る？：PTSDの人類学を中心に				
第13回 虐待と慣習のあいだ：多文化社会のなかの医療行為				
第14回 Actor Network Theory：チームの意味、社会の意味				
第15回 まとめ				
■ 予習・復習へのアドバイス				
とくに指示はしないが、共通教育その他で受講した他の講義、自分が見聞したさまざまな事例などを積極的に提起することが望まれる。				
■ 教科書				

必要に応じてコピーを配布します。
■ 参考書
『現代倫理学入門』（加藤尚武著、講談社学術文庫） 『バイオエシックスの基礎』（エンゲルハート他、東海大学出版）
■ 成績の評価基準
第 1 - 3 回 振り返り記録およびグループワークプロダクトで評価を行う。 第 4 - 15 回 学期末レポートによる評価を行う。
■ 再試験の有無
なし
■ 研究活動との関連
■ その他
■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー
2．人文社会科学的分野も含めた幅広い知識を有し、人間の行動について精神心理学的対応ができる。 4．医療の倫理と法の原則に則り、患者中心の歯科医療を実践できる。 5．患者との対話を通して、インフォームド・コンセントを得ることができる。

■ 科目名				
歯学人文社会学				
■ 英語名				
Dental human sociology				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
歯学導入系科目	必修科目	講義	2	2期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
非常勤講師（大平政徳）		非常勤講師		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6040（歯学教務係）		isggsk@kuas.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
特に時間は指定しないが、事前にアポイントをとっていただきたい。				
■ キーワード				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
1．人文社会学の幅広い分野から、幾つかのテーマを取り出して講義するが、現代を生きる私たちにとって必要と思われる知識と、「考えること」の基礎的な力になるような認識方法とを獲得する。				
2．ある特定のテーマについて客観的に説明でき、そのテーマについての自分なりの考え方を、文章表現できる。				
3．一つの社会現象についても、多様な考え方が存在することが理解できるとともに、その社会現象について自分なりの観点で意見を形成できる。				
■ 授業概要				
最初、人間について考えた後、哲学・宗教・社会認識・歴史・現代の各分野からいくつかのテーマを選んで講義する。講義後、テーマに関する感想・意見を5～10分程度書かせ、次の講義の冒頭紹介する。				
■ 授業計画				
（回数）	（日時）	（場所）	（内容）	
第1回	9/30（火）1限	第4講義室	導 入 森鷗外『高瀬舟』を読む	
第2回	10/ 7（火）1限	第4講義室	人間とは 人間の赤ちゃんは人間か？	
第3回	10/14（火）1限	第4講義室	哲 学（1）空を飛ぶ鳥は自由か？ ～デカルト・ベーコン・カントの認識論・自由論～	
第4回	10/21（火）1限	第4講義室	哲 学（2）労働とは何か？～社会・歴史を見るマルクスの目～	
第5回	10/28（火）1限	第4講義室	宗 教（1）仏教～“空”は“Nothing”か？～	
第6回	11/ 4（火）1限	第4講義室	宗 教（2）ユダヤ教・キリスト教・イスラム教	
第7回	11/11（火）1限	第4講義室	現 代（1）アラブとイスラエルの対立	
第8回	11/18（火）1限	第4講義室	現 代（2）世界が100人の村だったら～現代世界の構図～	
第9回	11/25（火）1限	第4講義室	歴 史（1）「息子を売った母」の話	
第10回	12/ 2（火）1限	第4講義室	歴 史（2）非武装の思想と現代日本の状況	
第11回	12/ 9（火）1限	第4講義室	哲 学（3）実存主義はヒューマニズムである～サルトル～	
第12回	12/16（火）1限	第4講義室	現 代（3）新自由主義とは何か～資本主義経済の現段階～	
第13回	1/ 6（火）1限	第4講義室	現 代（4）「自己責任・自立論」と福祉国家論（現代の平等論）	
第14回	1/13（火）1限	第4講義室	現 代（5）朝日訴訟に学ぶ～権利としての生活保護～	
第15回	1/20（火）1限	第4講義室	歴 史（3）女性解放の歴史と思想	
■ 予習・復習へのアドバイス				
1．講義の最後に感想・質問・意見等を書かせるのでそれを意識しながら聞くとよい。				
2．教科書として指定しないが、新書レベルの図書を紹介するので、2～3冊は読んで欲しい。				
3．課題図書を提示するので、そこから1冊（もしくは1論文）を選択して、A4（40字×30行で設定）で3枚のレポートを提出。（後期期間中いつでも提出可。最終締切：最終講義の日）				
■ 教科書				
特に指定しないが、講義のなかで適宜紹介する。				
■ 参考書				
特に指定しないが、講義のなかで適宜紹介する。				
■ 成績の評価基準				
講義後の感想文（60点）提出レポート（30点）講義参加の状況（10点）				

■ 再試験の有無

実施しない

■ 研究活動との関連

■ その他

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

2．人文社会科学的分野も含めた幅広い知識を有し、人間の行動について精神心理学的対応ができる。

■ 科目名				
歯学概論				
■ 英語名				
Outline of Dentistry				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
歯学導入系科目	必修科目	講義	2	2期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
各教科目教員		歯学部各分野		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6040		電話連絡をお願いします。		
■ オフィスアワー				
特に時間は指定しない。事前に歯学教務係を通して予約をとること。				
■ キーワード				
歯科医学、介護、社会福祉、臨床現場				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
GI0:				
1．歯科医師に関する基本的な知識と考え方を身につける。			【A-3】	
2．歯科医師としてのキャリアを継続させる生涯学習としての基本的能力を身につける。			【A-6】	
3．口腔顎顔面学の各分野を学修する為に必要な学修方略を企画し、提示できる。			【A-6】	
4．発達育成歯科学の各分野を学修する為に必要な学修方略を企画し、提示できる。			【A-6】	
SBOs:				
1．歯科医師に関する基本的な知識と考え方を列挙し簡単に説明することができる。			【A-3】	
2．口腔顎顔面学の各分野を学修する為に必要な学修方略をたてることことができる。			【A-6-2）】	
4．発達育成歯科学の各分野を学修する為に必要な学修方略をたてることことができる。			【A-6-2）】	
■ 授業概要				
歯科医学を専門に学ぶ学生に対して、予めその広がりや深さ、位置づけの概略を知らせるための講義である。これによって、歯学部における勉学の目標を明確にすることが期待される。歯学入門に対してこの歯学概論では臨床に重点をおいた解説を行う。				
専門基礎科目の中でも特に臨床現場と関係の深い病理学、細菌学、薬理学との臨床との関わり、そして臨床系科目担当教員がそれぞれの分野の概説を行う。				
さらに、老人介護・社会福祉の分野と歯科医療との関わりを体験するために、老人保健施設における介護実習などを行う。				
■ 授業計画				
	日程	時限	内容	担当分野
1	11/25(火)	3 限	臨床歯学概説	病理
		4 限	臨床歯学概説	細菌
2	12/ 2(火)	3 限	臨床歯学概説	薬理
		4 限	臨床歯学概説	予防
3	12/ 9(火)	3 限	臨床歯学概説	保存 1
		4 限	臨床歯学概説	保存 2
4	12/16(火)	3 限	臨床歯学概説	補綴 1
		4 限	臨床歯学概説	補綴 2
5	1/ 6(火)	3 限	臨床歯学概説	口外 1
		4 限	臨床歯学概説	口外 2
6	1/13(火)	3 限	臨床歯学概説	矯正
		4 限	臨床歯学概説	小児
7	1/20(火)	3 限	臨床歯学概説	歯放
		4 限	臨床歯学概説	麻酔
8	1/27(火)	4 限	施設見学オリエンテーション	
9	1/27(火)	3 限	予備日	
実習日程はオリエンテーション時に発表するので、1/27でこの科目が終了する訳ではないので注意すること。				

日程も教員の都合や施設の都合で変更になることがあるので、歯学教務係からの連絡に注意すること。

講義14コマ + 学外施設見学（オリエンテーション1コマ + 実習4コマ）

■ 予習・復習へのアドバイス

プロジェクター、ビデオ、標本等を用いて、視覚的に理解を深めながら講義を進めるので、その内容についてよく復習すること。また実習に際しては、その内容についてよく調べ、基礎知識を有しておくこと。

■ 教科書

指定しない。

■ 参考書

指定しない。

■ 成績の評価基準

各授業後の小テスト、レポート、授業への参加態度によって成績を評価する。

■ 再試験の有無

無

■ 研究活動との関連

■ その他

各担当教員の指示を良く聞き、それに従う事。

提出物に関しては、担当の指示に従った形式で提出し、締め切りを守る事（締め切りを過ぎた場合は受け取らないことがある）。

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

- 1．歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。
- 9．生涯にわたり自律的に学ぶ習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。

■ 科目名				
組織学				
■ 英語名				
Histology, Oral Histology and Neuroanatomy				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
基礎系科目	必修科目	講義・実習	9.5	3期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
後藤哲哉、山中淳之、岩井治樹 非常勤：未定（四月以降に連絡）		歯科機能形態学分野（旧 口腔解剖学 1 講座）		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6102		歯学部HPより当研究室を参照		
■ オフィスアワー				
歯学部研究棟 7 F 研究室で随時相談に応じる。				
■ キーワード				
組織学、顕微鏡、口腔組織学、神経解剖学、発生学				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
G10： 人体の正常な形態と構造を、細胞や組織のレベルで理解する（組織学）。 口腔・顎顔面領域の正常な形態と構造に関しては、細胞や組織のレベルで特に詳しく理解する（口腔組織学）。 また、脳・神経領域の正常な形態と構造に関しては、肉眼および組織レベルで理解する（神経解剖学）。 【C-1】【C-2】【E-2】【E-3】				
SB0： 1）細胞の構造（と関連する機能）を説明できる。【C-1-3）】 2）身体の部位と方向用語を説明できる。【C-2-1）】 3）個体発生と器官発生を説明できる。【C-2-2）】 4）身体を構成する組織、器官について説明できる。【C-2-3）】 5）人体諸器官の成長、発育と加齢変化について説明できる。【C-2-4）】 6）頭頸部の基本構造（と関連する機能）を説明できる。【E-2-1）】 7）口唇・口腔の基本構造（と関連する機能）を説明できる。【E-2-2）】 8）口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常について説明できる。 【E-2-3）】 9）歯と歯周組織の発生および構造（と関連する機能）を説明できる。【E-3-1）】				
■ 授業概要				
歯科医師には、人の全身管理の観点から、口腔が全身の一部分であるという認識が必要である。また、歯科医学をより深く理解するためにも、全身の医学知識の理解が必要不可欠である。 したがって、まず全身の形態と構造（人体解剖学）を学習する。人体構造解剖学分野（旧 口腔解剖学第2講座）の授業において肉眼レベルの人体解剖学を学習するのと並行して、本授業では顕微鏡レベルの組織学を学習する。全身の組織学を習得した上で、口腔・頭蓋・顎顔面領域および歯・歯周組織の組織学、発生学をさらに詳しく学習する。また、脳・神経の領域に関しては、本授業において、肉眼レベルおよび顕微鏡レベルの解剖学（神経解剖学）を学習する。				
■ 授業計画				
○ 組織学：全20回（1回：180分）		（講義日時）	（講義室）	（講義担当）（実習担当）
1	総論 1 細胞（講義）	4/ 7（月）3-4限	3講	後藤
2	総論 2 上皮組織（講義）	4/ 8（火）1-2限	3講	後藤
3	総論 3 結合組織（講義）	4/10（木）3-4限	3講	後藤
4	各論 1 血液（講・実）	4/11（金）3-4限	3講・4実	山中（全員）
5	各論 2 骨・軟骨（講・実）	4/14（月）3-4限	3講・4実	後藤（全員）
6	各論 3 筋組織（講・実）	4/17（木）3-4限	3講・4実	岩井（全員）
7	各論 4 脈管（講・実）	4/18（金）3-4限	3講・4実	後藤（全員）
8	各論 5 リンパ性器官1（講・実）	4/21（月）3-4限	3講・4実	山中（全員）

9	各論 6	リンパ性器官2 (講・実)	4/24 (木) 3-4限	3講・4実	山中	(全員)
10	各論 7	消化器系1 (講・実)	4/25 (金) 3-4限	3講・4実	山中	(全員)
11	各論 8	消化器系2 (講・実)	4/28 (月) 3-4限	3講・4実	山中	(全員)
12	各論 9	消化器系3 (講・実)	5/ 9 (金) 3-4限	3講・4実	山中	(全員)
13	各論10	呼吸器系 (講・実)	5/12 (月) 3-4限	3講・4実	岩井	(全員)
14	各論11	泌尿器系 (講・実)	5/16 (金) 3-4限	3講・4実	後藤	(全員)
15	各論12	生殖器系1 (講・実)	5/19 (月) 3-4限	3講・4実	後藤	(全員)
16	各論13	生殖器系2 (講・実)	5/23 (金) 3-4限	3講・4実	後藤	(全員)
17	各論14	内分泌系 (講・実)	5/26 (月) 3-4限	3講・4実	岩井	(全員)
18	各論15	神経組織 (講・実)	5/30 (金) 3-4限	3講・4実	岩井	(全員)
19	各論16	外皮系 (講・実)	6/ 2 (月) 3-4限	3講・4実	山中	(全員)
20	各論17	感覚器系 (講・実)	6/ 6 (金) 3-4限	3講・4実	山中	(全員)
○ 神経解剖学：全14回 (1回：180分)						
		(講義日時)	(講義室)	(講義担当)	(実習担当)	
1	中枢神経1	(講義)	4/15 (火) 1-2限	3講	後藤	
2	中枢神経2	(講義)	4/22 (火) 1-2限	3講	後藤	
3	中枢神経3	(講義)	5/13 (火) 1-2限	3講	後藤	
4	中枢神経4	(講義)	5/20 (火) 1-2限	3講	後藤	
5	末梢神経1	(講義)	5/27 (火) 1-2限	3講	後藤	
6	末梢神経2	(講義)	6/ 3 (火) 1-2限	3講	後藤	
7	末梢神経3	(講義)	6/17 (火) 1-2限	3講	後藤	
8	末梢神経4	(講義)	6/24 (火) 1-2限	3講	後藤	
9	脳実習1	(実習)	5/ 8 (木) 3-4限	6実		(全員)
10	脳実習2	(実習)	5/15 (木) 3-4限	6実		(全員)
11	脳実習3	(第1回試問)	5/22 (木) 3-4限	6実		(全員)
12	脳実習4	(実習)	5/29 (木) 3-4限	6実		(全員)
13	脳実習5	(実習)	6/ 5 (木) 3-4限	6実		(全員)
14	脳実習6	(第2回試問)	6/12 (木) 3-4限	6実		(全員)
○ 口腔組織学：全12回 (1回：180分)						
		(講義日時)	(講義室)	(講義担当)	(実習担当)	
1	人体発生学1	初期発生 (講義)	6/ 9 (月) 3-4限	3講	山中	
2	人体発生学2	頭頸部発生 (講義)	6/10 (火) 1-2限	3講	山中	
3	歯の発生1	(講・実)	6/13 (金) 3-4限	3講・4実	山中	(全員)
4	歯の発生2	(講・実)	6/16 (月) 3-4限	3講・4実	山中	(全員)
5	歯の発生3	(講・実)	6/19 (木) 3-4限	3講・4実	山中	(全員)
6	エナメル質	(講・実)	6/20 (金) 3-4限	3講・4実	後藤	(全員)
7	象牙質	(講・実)	6/23 (月) 1-2限	3講・4実	後藤	(全員)
8	セメント質	(講・実)	6/23 (月) 3-4限	3講・4実	後藤	(全員)
9	歯髄・歯周組織	(講・実)	6/26 (木) 3-4限	3講・4実	岩井	(全員)
10	口腔粘膜	(講・実)	6/27 (金) 3-4限	3講・4実	岩井	(全員)
11	顎関節	(講義)	6/30 (月) 1-2限	3講	後藤	
12	唾液腺	(講・実)	7/ 1 (火) 1-2限	3講・4実	岩井	(全員)
○ 特別講義：1回 (180分)						
非常勤：未定						
講義題目は追ってお知らせします。						

■ 予習・復習へのアドバイス

学習対象がヒトの臓器・組織・細胞であるので、高等学校および共通教育課程程度の生物学の知識が必要条件となる。授業開始時に、教科書・参考書の紹介を行い授業計画を周知するので、予習をして講義・実習に臨むとより効果的である。

■教科書

○組織学：

「ジュンケイラ組織学 第3版」坂井健雄、川上速人訳、丸善、2011.

○神経解剖学：

「神経解剖カラーテキスト 第2版」野村嶺、水野昇訳、医学書院、2008.

○口腔組織学：

「エッセンシャル口腔組織・発生学 第2版」高野吉郎訳、西村書店、2002.

○発生学：必須ではないが、購入が望ましい。

「ラングマン人体発生学 第10版」安田峯生訳、メディカル・サイエンス・インターナショナル、2010.

(注意)形態学の本は図版や写真が多く高価であるが、上級学年の科目においても、卒業後においても利用価値が高いので、自分の本を購入することを強く勧める。

■参考書

授業の初めに教科書・参考書の紹介プリントを配布する。

■成績の評価基準

原則的に組織学40% (内筆記試験70%、組織学実習点30%)、口腔組織学30% (内筆記試験70%、口腔組織学実習点30%)、神経解剖学30% (内筆記試験70%、脳実習点30%)の合計100点満点で成績をつける。ただし、上記3科目はおのの60点以上で合格とし、いずれの1科目も60点未満であってはならない。

以上を目安として総合的に可否を判定する。

■再試験の有無

実施する。

■研究活動との関連

当分野では、口腔・顎顔面領域における歯や骨の細胞生物学研究、発生生物学研究、および味覚系神経回路に関する神経解剖学研究を行っている。

■その他

実習には、自分の教科書および講義ノートを必ず持参すること。原則的に実習の欠席は認めないので、万一欠席の場合、欠席届を提出し後日追実習を受けること。

■関連する学部・学科ディプロマポリシー

1. 歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。
8. 口腔疾患の予防と健康増進に関する十分な知識を持ち、地域社会に密着した歯科医師および歯科医学教育者・研究者となりうる能力を持っている。
9. 生涯にわたり自律的に学習習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。

■ 科目名				
解剖学				
■ 英語名				
Anatomy				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
基礎系科目	必修科目	講義・実習	10	3期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
田松裕一，峰 和治，下高原理恵， 非常勤講師（児玉公道）		人体構造解剖学分野 （旧：口腔解剖学講座2）		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6112		tamatsu@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワ -				
特に時間は指定せず，7階の研究室で随時対応する。				
■ キーワード				
人体の構造，肉眼解剖学，形態学，口腔，歯				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
G10: 人体諸器官の正常構造を肉眼解剖学的に理解し，臨床的な診断・治療の基礎となる知識を習得する。 特に口腔と全身構造との相互関係を立体的に把握することを目指す。 【C-2，E-2，E-3】				
SB0: 1．運動器系（身体の部位と方向用語を含む） 【C-2-3)-(2)】 1)骨の基本構造と結合様式および生体を構成する骨を列挙し説明できる。 【C-2-3)-(2)】 2)骨格筋の構造と機能および主な筋を列挙し説明できる。 【C-2-3)-(2)】 3)全身の関節および靱帯の構造と機能を説明できる。 【C-2-3)-(2)】 4)頭頸部の骨，筋，関節の構造を説明できる。 【E-2-1)】 2．循環器系 【C-2-3)-(3)】 1)心臓の構造と機能および肺循環と体循環の2系統を説明できる。 【C-2-3)-(3)】 2)全身の動脈，静脈を列挙し分布域を説明できる。 【C-2-3)-(3)】 3)リンパの循環路とリンパ節の構造を説明できる。 【C-2-3)-(3)】 4)頭頸部の脈管の配置を説明できる。 【E-2-1)】 3．呼吸器系 【C-2-3)-(7)】 1)口腔・鼻腔・咽頭・喉頭の構造を図示できる。 【C-2-3)-(7)】 2)気道の構造，肺葉・肺区域と肺門の構造を説明できる。 【C-2-3)-(7)】 3)縦隔と胸膜腔の構造を説明できる。 【C-2-3)-(7)】 4．消化器系 【C-2-3)-(6)】 1)各消化器官の基本構造，位置，形態，血管分布を説明できる。 【C-2-3)-(6)】 2)腹膜と臓器の関係を説明できる。 【C-2-3)-(6)】 3)歯・歯周組織・舌・唾液腺の構造と機能を説明できる。 【E-2-2)，E-3-1)】 5．泌尿生殖器系 【C-2-3)-(9)，C-2-3)-(10)】 1)腎・尿路系の位置・形態と血管分布・神経支配を説明できる。 【C-2-3)-(9)】 2)男性生殖器および女性生殖器について説明できる。 【C-2-3)-(10)】 6．内分泌系 【C-2-3)-(8)】 1)内分泌器官の位置，形態，機能を説明できる。 【C-2-3)-(8)】 7．感覚器系 【C-2-3)-(4)】 1)眼球と付属器の構造と機能を説明できる。 【C-2-3)-(4)】 2)聴覚・平衡覚器について説明できる。 【C-2-3)-(4)】 3)味覚器と皮膚感覚器の構造と機能を説明できる。 【C-2-3)-(4)】 8．神経系 【C-2-3)-(5)】 1)中枢神経および末梢神経について説明できる。 【C-2-3)-(5)】 2)三叉神経と顔面神経の走行と分布および神経線維を説明できる。 【E-2-1)】				
■ 授業概要				
人体の正常構造について系統解剖学的な学習をする。正常な人体構造の理解なしに病的状態を知ることはできず				

，正しい診断も治療も行えない。臨床上の問題と関連する器官相互の位置関係を重視し，自分の目と手で人体構造を立体的にとらえることができるよう，解剖学実習の比重を大きくしている。実習にはご遺体に対する心からの敬意と感謝の意をもって臨み，生命の尊厳や医の倫理についても考える機会としなければならない。

■ 授業計画

■ 系統解剖学講義（4月～6月，3講は第3講義室，6実第6実習室）

(回)	(日時)	(講義室等)	(内容)	(担当者)
1	4/ 7 (月) 2限	3 講	解剖学総論	田松
2	4/ 8 (火) 3-4限	3 講・6 実	運動器 1・骨学	峰・下高原
3	4/10 (木) 2限	6 実	運動器 2・骨学	峰・下高原
4	4/14 (月) 1-2限	6 実	運動器 3・骨学	峰・下高原
5	4/15 (火) 3-4限	6 実	運動器 4・骨学	峰・下高原
6	4/17 (木) 2限	6 実	運動器 5・骨学試験	峰・下高原
7	4/21 (月) 1-2限	6 実	運動器 6・関節学	峰・下高原
8	4/22 (火) 3-4限	6 実	運動器 7・筋学	峰・下高原
9	4/24 (木) 2限	3 講	消化器 1	下高原
10	4/28 (月) 1-2限	6 実	運動器 8・筋学	峰・下高原
11	5/ 8 (木) 2限	3 講	消化器 2	下高原
12	5/13 (火) 3-4限	6 実	運動器 9・筋学	峰・下高原
13	5/15 (木) 2限	3 講	消化器 3	下高原
14	5/19 (月) 1-2限	3 講	循環器 1	田松
15	5/20 (火) 3-4限	6 実	運動器10・課題発表会	峰・下高原
16	5/22 (木) 2限	3 講	消化器 4	下高原
17	5/26 (月) 1-2限	3 講	循環器 2	田松
18	5/29 (木) 2限	3 講	呼吸器	下高原
19	6/ 2 (月) 1-2限	3 講	循環器 3	田松
20	6/ 5 (木) 2限	3 講	内分泌器	下高原
21	6/ 9 (月) 1-2限	3 講	循環器 4	田松
22	6/12 (木) 2限	3 講	泌尿器	峰
23	6/16 (月) 1-2限	3 講	感覚器	峰
24	6/19 (木) 2限	3 講	生殖器	峰
25	6/26 (木) 2限	3 講	実習前試験	全員

○ 授業内容の細目：

- ・運動器系：骨学，靱帯学，筋学
- ・消化器系：口腔，咽頭，食道，胃，十二指腸，空腸，回腸，結腸，直腸，肛門
- ・呼吸器系：外鼻，鼻腔，咽頭，喉頭，気管，気管支，肺
- ・循環器系：心臓，動脈，静脈，リンパ
- ・内分泌系：内分泌器官の位置と形態
- ・泌尿生殖器系：腎臓と尿路，男性・女性生殖器
- ・感覚器系：皮膚，視覚，聴覚，嗅覚，平衡感覚，味覚

■ 歯の解剖学（5月～6月，3実第3実習室）

(回)	(日時)	(講義室等)	(内容)	(担当者)
1	5/12 (月) 1-2限	3 講	歯の解剖学概論	田松
2	5/27 (火) 3-4限	3 講・3 実	講義・歯型彫刻実習	田松・峰
3	6/ 3 (火) 3-4限	3 講・3 実	講義・歯型彫刻実習	田松・峰
4	6/10 (火) 3-4限	3 講・3 実	講義・歯型彫刻実習	田松・峰
5	6/17 (火) 3-4限	3 講・3 実	講義・歯型彫刻実習	田松・峰
6	6/24 (火) 3-4限	3 講・3 実	歯の解剖学試験	田松・峰

■ 系統解剖学実習（7月と9月，解実第3実習室，進行の目安 a～j は下記参照）

(回)	(日時)	(講義室等)	(内容)	(担当者)
1	7/ 3 (木) 2-5限	解実	解剖学実習 a	全員

2	7/ 4 (金) 3-5限	解実	解剖学実習	全員
3	7/ 7 (月) 1-5限	解実	解剖学実習 b	全員
4	7/ 8 (火) 1-5限	解実	解剖学実習	全員
5	7/10 (木) 2-5限	解実	解剖学実習	全員
6	7/11 (金) 3-5限	解実	解剖学実習 c	全員
7	7/14 (月) 1-5限	解実	解剖学実習	全員
8	7/15 (火) 1-5限	解実	解剖学実習 d	全員
9	7/17 (木) 2-5限	解実	解剖学実習・筆記試験 1	全員
10	7/18 (金) 3-5限	解実	解剖学実習	全員
11	7/22 (火) 1-5限	解実	解剖学実習	全員
12	7/24 (木) 2-5限	解実	解剖学実習 e	全員
13	7/25 (金) 3-5限	解実	解剖学実習	全員
14	9/ 1 (月) 1-5限	解実	解剖学実習	全員
15	9/ 2 (火) 1-5限	解実	解剖学実習 f	全員
16	9/ 4 (木) 2-5限	解実	解剖学実習・筆記試験 2	全員
17	9/ 5 (金) 3-5限	解実	解剖学実習	全員
18	9/ 8 (月) 1-5限	解実	解剖学実習 g	全員
19	9/ 9 (火) 1-5限	解実	解剖学実習	全員
20	9/11 (木) 2-5限	解実	解剖学実習	全員
21	9/12 (金) 3-5限	解実	解剖学実習 h	全員
22	9/16 (火) 1-5限	解実	解剖学実習	全員
23	9/18 (木) 2-5限	解実	解剖学実習・筆記試験 3	全員
24	9/19 (金) 3-5限	解実	解剖学実習 i	全員
25	9/22 (月) 1-5限	解実	解剖学実習	全員
26	9/25 (木) 2-5限	解実	解剖学実習 j	全員
27	9/26 (金) 3-5限	解実	解剖学実習	全員
28	9/29 (月) 1-5限	解実	解剖学実習・総合試験	全員
29	9/30 (火) 3-5限	解実	実物試験・納棺・大掃除	全員

○解剖学実習の進行の目安（詳細は別紙で配付する）

- a 体表観察と基本手技，背面浅層，脊柱起立筋
- b 体幹前面浅層，頭頸部浅層，上肢・下肢浅層
- c 頸胸部深層，鎖骨切断，腕神経叢
- d 開胸，胸腔，腹膜切開
- e 腹部内臓，腰神経叢，肩，肘，手首，手と指
- f 顔の深層，咽頭，喉頭，足底，膝，足
- g 頭部切半，口腔，鼻腔，咀嚼筋
- h 顎関節，舌，膀胱，外陰部，会陰
- i 副鼻腔，眼窩，眼球，骨盤内臓
- j 舌下神経管，翼突管，耳管

■ 予習・復習へのアドバイス

解剖学は科目の性質上，覚えるべき学術用語が極めて多い。試験では，和名だけでなく欧名（英語，ラテン語のいずれか）の学術用語で解答することが求められる。一朝一夕の学習では対応できないので，早い時期から積極的な自己学習の習慣を身につけるようにすること。

■ 教科書

- ・日本人体解剖学，上巻・下巻：金子丑之助（南山堂）
- ・解剖実習の手引き：寺田春水，藤田恒夫（南山堂）
- ・図説 新歯牙解剖学：井出吉信（わかば出版）

■ 参考書

- ・グレイ解剖学：塩田浩平，他 3 名訳（エルセビア・ジャパン）
- ・ヴォルフ カラー人体解剖学図譜：井上貴央 編（中西書店）
- ・イラスト顎顔面解剖学：松村譲児，島田和幸（中外医学社）

■ 成績の評価基準

【試験の受験資格】鹿児島大学歯学部授業，試験および進級に関する細則第 6 条に基づき，原則として講義，実習の全てに出席した者に試験の受験資格を与える。

- 1．系統解剖学の講義に関しては，実習前に全内容の筆記試験（300点満点）を実施し，合格（6割）を解剖学実習参加の条件とする。
- 2．歯の解剖学に関しては別途，筆記試験（50点），口頭試問（30点），歯型彫刻実習（20点）の合計点で評価する。
- 3．解剖学実習中は筆記試験（100点×3回），実習終了時の実物試験（約300点）と総合試験（約300点）の合計を基本評価とし，スケッチ，レポート，所見発表，遅刻・欠席・授業態度（ご遺体に対する礼節など）を評価要素として総合的に判定する。

■ 再試験の有無

系統解剖学講義（実習前）と歯の解剖学については再試験を行う。解剖学実習は再試験を行わない。

■ 研究活動との関連

ご遺体から得られる所見を統合し，人体の形成過程を追究する作業は，当分野の研究テーマの一つでもある。解剖学実習で遭遇する各種の変異は貴重なデータであり，教員の指導のもと，学生はスケッチや所定の用紙に記録を採りながら，人体の構築に関する理解を深める作業を行う。それらのデータは教員が累積集計して，各年度の学生に提示している。また，過去に数回，特記すべき所見とその解剖学的な意義について，学生が学会発表を行っている。

■ その他

【配付資料】 講義・実習時には，適宜担当者が印刷資料を配付する。

【実習器具・材料】 歯型彫刻実習では，石膏棒と彫刻用の道具が必要である。また，解剖学実習ではピンセット，メス，マスク等の器具が必要であり，自費負担となる。一括購入および費用については，別途指示する。

【実習時間】 7月，9月の系統解剖学実習は午後9時に及ぶことがあるので，予め部活動やアルバイト等の調整をしておくこと。また，骨学実習と歯型彫刻実習も，5限目の終了時刻を越えて実施されるのが通常である。

【欠席について】 原則として，欠席および遅刻を認めない。毎回，出欠をとる。やむを得ない事情（病欠，忌引等）がある場合は，必ず人体構造解剖学分野第1研究室（TEL:099-275-6112）に連絡すること。

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

- 1．歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。
- 4．医療の倫理と法の原則に則り、患者中心の歯科医療を実践できる。
- 9．生涯にわたり自律的に学習習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。

■ 科目名				
生理学				
■ 英語名				
Psychology, Oral Physiology				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
基礎系科目	必修科目	講義・実習	7.5	3-4期
■ 担当教員			■ 担当教員所属	
原田秀逸、三浦裕仁、中山 歩、大木 誠非常勤（山本 隆、大浦教一）			歯科常態学口腔生理学分野 （旧：口腔生理学講座）	
■ 連絡先（TEL）			■ 連絡先（MAIL）	
099-275-6122				
■ オフィスアワー				
特に時間は指定しない、8F 講座研究室で随時対応する。				
■ キーワード				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
1.細胞の構造と機能、細胞間の情報伝達機構を説明できる。 2.身体を構成する組織・器官の形態および機能を分類できる。 3.骨および骨格筋の構造と機能を説明できる。 4.血液・造血器・リンパ網内系の構成と機能を説明できる。 5.虚血、充血、鬱血、塞栓、浮腫の原因、徴候及び転帰を説明できる。 6.ショックの原因と成因を説明できる。 7.心臓、肺循環と体循環、動脈、毛細血管及び静脈の構造と役割を説明できる。 8.リンパの循環路とリンパ節の構造と機能を説明できる。 9.皮膚感覚器の構造と機能を説明できる。 10.疼痛の種類、発生機序、制御機構・方法を説明できる。 11.深部感覚の受容器の構造と機能を説明できる。 12.特殊感覚器の構造と機能を説明できる。 13.脳神経、末梢神経系、自律神経系の種類、走行、線維構築、機能分類を説明できる。 14.神経の活動電位の発生とその伝播、シナプスにおける興奮伝達の機序を説明できる。 15.脳と脊髄の構造と機能、血液・脳関門の機能を説明できる。 16.反射・半自動運動・随意運動の発現機序、高次脳機能を説明できる。 17.消化管の基本構造と機能を説明できる。 18.肝臓の構造と機能及び胆汁の分泌経路を説明できる。 19.膵臓の外分泌部と内分泌部の特徴を説明できる。 20.気道系、肺臓の構造と機能を説明できる。 21.各内分泌器官の構造と機能及びホルモンを説明できる。 22.腎臓と尿路の構造と機能を説明できる。 23.体液の量と組成及び浸透圧、水代謝と主な電解質の出納を説明できる。 24.男性生殖器・女性生殖器の構造と機能を説明できる。 25.口腔の基本構造、歯と歯周組織、唾液腺の構造と機能を説明できる。 26.咀嚼、嚥下の意義と制御機構、反射を説明できる。 27.構音器官としての口腔の形態および機能を説明できる。				
■ 授業概要				
生理学は臨床医学の基礎となる学問である。生理学を理解するためには解剖組織学の知識が必須であるので、これらの部分についても必要に応じて生理学的観点から詳細に講義する。授業では大きく9つの機能系に分けて解説するが、それぞれの系は独立して機能しているのではなく、相互に密接に関与しあって生体全体の円滑な機能を維持している。したがって、生体全体の機能を理解するために個々の系を越えて授業を行う。さらに口腔生理学では、口腔および顎領域の機能について詳述する。また、臨床生理学的知見にも言及して、生体の正常状態を維持するための生理機能の理解を深める。				
■ 授業計画				
1- 2 生理学概論		三浦		
3- 5 興奮性組織		三浦		

6- 7	体液	原田
8-10	体液の循環	原田
11-13	呼吸	三浦
14	体温	三浦
15-16	排泄	三浦
17-20	内分泌・生殖	三浦
21-26	感覚(1)	原田
27-28	感覚(2) (味覚・嗅覚)	三浦
29-30	感覚(3) (顎口腔顔面の体性感覚)	中山
31-34	運動機能	原田
35-36	自律神経	原田
37-42	脳と行動	原田
43-44	唾液・唾液腺	三浦
45-48	消化と吸収	三浦
49-50	口腔生理学概論	中山
51-52	顎顔面運動	中山
53-54	嚥下・嘔吐	中山
55-58	咀嚼・吸綴	中山
59-60	発音と構音	中山
61-68	実習	全員
69-72	特別講義	大浦他
73-74	未定	
75	テスト	全員

■ 予習・復習へのアドバイス

■ 教科書

テキストは「基礎歯科生理学 森本俊文、山田好秋編、医歯薬出版株式会社」を使用する。

■ 参考書

その他の参考書を以下に挙げる。

生理学テキスト：大地睦男著、文光堂

シンプル生理学：貴邑富貴子、根来英雄著、南江堂

標準生理学：本郷利憲、廣重 力監修、医学書院

■ 成績の評価基準

講義については、前・後期終了時点で筆記試験を行う。実習については、全項目の履修と各実習についてのレポート提出が必須である。全実習終了後に実習に関する筆記試験を行う。講義および実習の総合成績で60%以上あれば合格とし、必要な場合は追・再試験を行う。

■ 再試験の有無

■ 研究活動との関連

■ その他

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

■ 科目名				
生化学				
■ 英語名				
Biochemistry				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
基礎系科目	必修科目	講義	7.5	3-4期
■ 担当教員			■ 担当教員所属	
松口徹也教授、大西智和准教授、坂東健二郎助教、柿元協子助教 非常勤講師：大工原恭（鹿児島大名誉教授）、宇田川信之（松本歯科大教授）、坪井直毅（名古屋大講師）（予定）			発生発達成育学講座 口腔生化学研究分野	
■ 連絡先（TEL）			■ 連絡先（MAIL）	
099-275-6131				
■ オフィスアワー				
特に定めないが、研究室に来てもらえば可能な範囲で対応する。前もって電話連絡でアポイントを取ることが望ましい。				
■ キーワード				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
A．生命を構成する基本成分について				
1）タンパク質の構造、機能および代謝を説明できる。				
2）糖質の構造、機能および代謝を説明できる。				
3）脂質の構造、機能および代謝を説明できる。				
4）生体内におけるエネルギー利用を説明できる。				
5）酵素の働きと主な代謝異常を説明できる。				
6）蛋白の定性・定量的解析の手技を体得する。				
B．遺伝子と分子生物学について				
1）遺伝子（染色体）の構造とセントラルドグマを説明できる。				
2）DNA複製と修復の機序を説明できる。				
3）転写・翻訳の機序とその調節機構を説明できる。				
4）分子生物学実験手技を体得する。				
C．細胞内外のコミュニケーション				
1）受容体を介する細胞間の情報伝達機構を概説できる。				
2）細胞内シグナル伝達機構を概説できる。				
3）基本的な免疫応答機構と免疫グロブリンの構造を概説できる。				
D．硬組織の生化学				
1）軟骨内骨化と膜内骨化の機序と成長様式を説明できる。				
2）硬組織石灰化の基本的機序を説明できる。				
3）骨の改造現象と全身および局所因子による調節機構を概説できる。				
E．歯と口腔内組織の常態と疾患				
1）歯の硬組織としての構造と機能を説明できる。				
2）唾液の生化学的構成と特徴を説明できる。				
■ 授業概要				
分子生物学に代表される最近の生化学の発展は目覚ましく、up-to-dateな生化学の知識は、疾患関連遺伝子、テーラーメイド医療などの先端医療の発展により、患者診療に携わるもの全てにとっても不可欠となりつつある。本科目では、最新の生化学的知識を基にして生命の基本的仕組みを理解していただき、願わくはその神秘性から生命の尊厳についてまで思索を巡らせていただきたい。また、口腔領域においては、歯および唾液の生化学的な特異性、骨代謝の基本原則などに関する知識を深めて、高学年で学ぶ臨床歯学をより原理的に理解するための助けとしてもらいたい。				

生化学実習においては、講義等で得られた生化学の知識の一部を実際に確かめていただくと共に、将来歯科医師として臨床検査を行う際に必要な手技を習得させることを目標とする。

■ 授業計画

1- 2	イントロダクション、水とpH	松口
3- 6	タンパク質の構造と機能	松口・柿元
7- 8	酵素の反応および調節機構	松口
9-11	生体エネルギー学	松口
12-13	糖質と脂質の構造論	松口
14-15	代謝概観	松口
16-17	クエン酸回路	松口
18-23	糖質代謝	松口
24-27	脂質代謝	大工原・松口
28-31	アミノ酸代謝	大西
32-33	核酸の構造	柿元
34-36	遺伝子複製・修復・転写・翻訳機構	松口
37-38	遺伝子発現調節機構	松口
39-40	ゲノム工学	松口
41-42	生体膜	松口
43-44	内分泌	松口
45-46	細胞内シグナル伝達	松口
47-48	ビタミン・栄養	坂東
49-51	細胞外マトリックス	松口
52-54	骨・軟骨代謝	宇田川・松口
55-57	硬組織の生化学	松口
58-60	カルシウム代謝	松口
61-63	唾液の生化学	松口
64-65	免疫の生化学	坪井・松口
1- 2	実習1：器具洗浄	全員
3- 4	実習2：蛋白定量	全員
5- 6	実習3：SDS-PAGE	全員
7- 8	実習4：アルコール代謝の遺伝子解析	全員
9-12	実習5：遺伝子データベース	全員
13-16	実習6：PBL	全員

■ 予習・復習へのアドバイス

生化学の対象範囲は広大であり、授業だけで全てをカバーすることは困難である。適切かつ最新の教科書・参考書を購入し、授業内容の予習・復習を行い、また授業でカバーしきれなかった内容、授業を聞いて興味を持った内容などを自ら勉強する積極的な勉学態度が強く期待される。

実習については、前もって配布されるプリントを実習前に熟読し、行うべき実験過程についてよく理解をしておくことによって、無駄な失敗や作業の遅れを防ぐことができる。実習の予習をしてきたかを実習前に筆記試験で確認することがあるので、留意のこと。

■ 教科書

イラストレイテッドハーパー・生化学 原著28版（丸善 定価7875円、2011年1月発刊）

授業の進行は教科書の内容に沿って進める。授業の理解を深める図説が豊富な最新版であり、授業中に参照することが多いので、開講前に購入しておくことを強く勧める。

■ 参考書

口腔生化学第4版（医歯薬出版 定価9500円）

口腔生化学の知識をまとめた最新の代表的教科書として推薦する。

なお、生化学の進歩は速いため、他の参考書を選ぶ際はなるべく発行年度の新しいものを選ぶことが肝要である。

■ 成績の評価基準

(1)本試験70点(20+50)、(2)実習15点(レポート内容および実習態度)、(3)小テスト5点、(4)出席点10点

の4項目での評価を行う。総点60点以上のものを合格とする。不合格の学生に対しては再試験を1回に限り実施する予定である。

* 出席点は各人の持ち点を10として、一回の無断遅刻で0.3点、無断欠席で0.5点ずつを減点していくものとする。総講義数および実習の2/3以上の出席をしなかった学生は、試験の結果に関わらず不合格とする。

■ 再試験の有無

■ 研究活動との関連

■ その他

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

■ 科目名				
病理学				
■ 英語名				
Systemic Pathology, Specific Pathology				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
基礎系科目	必修科目	講義・演習・実習	7.5	4期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
仙波、嶋、親里、非常勤：池田、蓮井、清水、吉田		歯科病態学 口腔病理解析学分野（旧口腔病理学講座）		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
口腔病理解析学分野：099-275-6142		仙波伊知郎：semba@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
講義日の午後17:00～18:00、口腔病理解析学分野（医歯学総合研究科研究棟 1・6 階） その他の時間帯については事前にメール等で連絡して下さい。				
■ キーワード				
内因、外因、奇形、遺伝子異常、壊死、梗塞など、授業開始時に約500のキーワードを提示します。				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
【総論】		1. 病気の原因と遺伝子異常を説明できる。		【C-1-2）-5】
		2. 発生・発育異常の成因を説明できる。		【C-2-2）】
		3. 退行性病変と物質代謝異常の病因、病態、および形態所見を説明できる。		【C-4-1）】
		4. 循環障害の成因、形態所見、および転帰を説明できる。		【C-4-3）】
		5. 修復と再生の機序、および形態的所見を説明できる。		【C-4-2）】
		6. 炎症の概念、発症機構、分類、および組織所見を説明できる。		【C-4-4）】
		7. 腫瘍の定義、発生機構、病態、および組織所見を説明できる。		【C-4-5）】
【各論】		8. 消化器に発生する疾患の病態と病因を概説できる。		【C-2-3）-(6)】
		9. 肺・気管に発生する疾患の病態と病因を概説できる。		【C-2-3）-(7)】
		10. 心臓・血管系に発生する疾患の病態と病因を概説できる。		【C-2-3）-(3)】
		11. 血液疾患の病態と病因を概説できる。		【C-2-3）-(11)】
		12. 骨・軟部腫瘍の病態を概説できる。		【C-2-3）-(2)】
【口腔】		13. 歯と歯周組織に発生する疾患の病態と病因、および組織所見を説明できる。		【E-3-2）】
		14. 口腔粘膜に発生する疾患の病態と病因、および組織所見を説明できる。		【E-2-4）-(4)】
		15. 口腔顎顔面領域の嚢胞性疾患の病態と病因、および組織所見を説明できる。		【E-2-4）-(5)】
		16. 歯源性腫瘍の病態と病因、および組織所見を説明できる。		【E-2-4）-(5)】
		17. 唾液腺に発生する疾患の病態と病因、および組織所見を説明できる。		【E-2-4）-(7)】
		18. 口腔領域に発生する腫瘍の病態と病因、および組織所見を説明できる。		【E-2-4）-(5)】
		19. 顎骨に発生する疾患の病態と病因、および組織所見を説明できる。		【E-2-4）-(5)】
		20. 全身疾患に関連する口腔病変や症候群の病態と病因を説明できる。		【E-2-4）-(9)】
■ 授業概要				
様々なヒトの疾患を理解するために、解剖学、組織学、生理学、生化学、分子生物学、微生物学、免疫学、その他の基礎医学との関係を十分に考慮しながら、疾患の原因、発生機構、経過および転帰について、形態と機能の両面から論理的な理解と説明が出来るようになり、さらに疾患の予防、診断、治療を行う臨床歯科医学の基盤を養う事を目指しています。				
病理学を概観し病因論や病変の基本型を理解する病理学総論、臓器別疾患の特徴を理解する病理学各論、およびより各論的な口腔病理学の3つのステージに分けて授業は進められます。いずれも講義と顕微鏡実習は連動し、また、口腔病理学では学生発表演習を行います。				
■ 授業計画				
月 日（曜）	講義室	講義・実習	内容（実習標本番号など）	担当
1. 10/07（火）	3講・4実	総論01・実習01	概論、奇形、遺伝子異常（P1155,他）	仙波、嶋、親里
2. 10/08（水）	3講	総論02	：進行性病変	仙波
3. 10/14（火）	3講・4実	総論03・実習02	退行性病変（P1160,P1013,他）	仙波、嶋、親里
4. 10/15（水）	3講	総論04	：循環障害	仙波
5. 10/21（火）	3講・4実	総論05・実習03	循環障害（P1138,P1139,他）	仙波、嶋、親里
6. 10/22（水）	3講	総論06・演習01	細胞傷害と細胞死（グループ発表01）	仙波
7. 10/28（火）	3講・4実	総論07・実習04	炎症・免疫（P2715,P2748,他）	仙波、嶋、親里

8. 10/29 (水) 3講	総論08	: 炎症・免疫	仙波
9. 11/04 (火) 3講・4実	総論09・実習05	: 腫瘍 (P2758,P2766,他)	仙波、嶋、親里
10. 11/05 (水) 3講	総論10	: 腫瘍	仙波
11. 11/11 (火) 3講	各論01, 02, 03	: 病理診断、内分泌疾患、特別講義	仙波、池田
12. 11/12 (水) 3講	総論11・演習02	: 循環障害 (グループ発表02)	仙波
13. 11/18 (火) 3講・4実	各論04・実習06	: 呼吸循環 (P1141,P1122,他)	吉田、仙波、嶋、親里
14. 11/19 (水) 3講	口腔01・各論05	: 口腔課題発表概説、骨軟部腫瘍	仙波
15. 11/25 (火) 3講・4実	各論06・実習07	: 消化器疾患 (P1128,P1157,他)	清水、仙波、嶋、親里
16. 11/26 (水) 3講	各論07	: 血液疾患	蓮井
17. 12/02 (火) 3講・4実	口腔02・実習08	: 口腔顎顔面の発生異常、血液疾患	仙波、嶋、親里
18. 12/03 (水) 4実	実習09	: 実習復習	仙波、嶋、親里
19. 12/09 (火) 3講・4実	中間試験(筆記、実習)		仙波、嶋、親里
20. 12/10 (水) 3講	中間試験解説		仙波
21. 12/16 (火) 3講・4実	口腔03・実習10	: 歯と歯周組織 (P2542,P2688,他)	仙波、嶋、親里
22. 12/17 (水) 3講	演習03	: 歯と歯周組織 (課題01 - 07)	仙波、嶋、親里
23. 01/06 (火) 3講・4実	口腔04・実習11	: 口腔粘膜疾患 (P2745,P2530,他)	仙波、嶋、親里
24. 01/07 (水) 3講	演習04	: 口腔粘膜疾患 (課題08 - 14)	仙波、嶋、親里
25. 01/13 (火) 3講・4実	口腔05・実習12	: 頭頸部の嚢胞 (P2756,P2762,他)	仙波、嶋、親里
26. 01/14 (水) 3講	演習05	: 頭頸部の嚢胞 (課題15 - 21)	仙波、嶋、親里
27. 01/20 (火) 3講・4実	口腔06・実習13	: 歯原性腫瘍 (P2651,P2739,他)	仙波、嶋、親里
28. 01/21 (水) 3講	演習06	: 歯原性腫瘍 (課題22 - 28)	仙波、嶋、親里
29. 01/27 (火) 3講・4実	口腔07・実習14	: 唾液腺疾患 (P2625,P2754,他)	仙波、嶋、親里
30. 01/28 (水) 3講	演習07	: 唾液腺疾患 (課題29 - 35)	仙波、嶋、親里
31. 02/03 (火) 3講・4実	口腔08・実習15	: 口腔腫瘍 (P2755,P2767,他)	仙波、嶋、親里
32. 02/04 (水) 3講	演習08	: 口腔腫瘍 (課題36 - 42)	仙波、嶋、親里
33. 02/10 (火) 3講・4実	口腔09・演習09	: 顎骨病変 (課題43 - 49)・実習16	仙波、嶋、親里
34. 02/17 (火) 3講・4実	口腔10・演習10	: 全身と口腔 (課題50 - 56)・実習17	仙波、嶋、親里
35. 02/18 (水) 3講	口腔11	: まとめ、質疑応答	仙波、嶋、親里
36. 02/24 (火) 3講・4実	終講試験(筆記、実習)、終講試験解説		仙波、嶋、親里
37. 02/27 (木) 3講・4実	再試験(予定)		

■ 予習・復習へのアドバイス

病理学の学修には、予習と復習が必須です。

- 予習は教科書を用い、復習には授業で用いたスライド等をWeb配信します。
- 医歯学教育センターのMoodleシステム上の自己学習サイトに教材や課題を掲載します。
- 実習標本はバーチャルスライドとして、第4講義室の端末上のOlyviaや、上記Moodleで参照できます。

■ 教科書

病理学総論・各論、口腔病理学、病理組織アトラスなどの教科書が講義・実習には必須です。

- 坂本ら：標準病理学(医学書院) ■ 青笹ら：解明病理学(医歯薬出版)
- V. Kumar: Robins Basic Pathology (SAUNDERS) ■ A. Stevens: 人体病理学(南江堂)
- J.C.E. Underwood: アンダーウッド病理学(西村書店) ■ 遠城寺ら：病理学(医学書院)
- 小池・恒吉ら：組織病理アトラス(文光堂) ■ 高木ら：口腔病理アトラス(文光堂)
- 石川ら：口腔病理学 I・II(永末書店) ■ 高田・下野ら：最新口腔病理学(医歯薬出版)

■ 参考書

医学・歯学の基盤の一つである病理学を学ぶためには、医学辞典が必須です。 ■ 医学大事典(医歯薬出版)

病理学で学ぶ疾患の形態的異常を理解するためには、同時に機能的異常や病態を学ぶことが有用です。主に、内科学の教科書が参考になります。 ■ 内科学(中山書店)

■ 成績の評価基準

中間と終講時の筆記試験、および演習レポート(50%)、実習試験と実習レポート(40%)、および講義時の小テストや実習時の質疑応答等の授業参加中の態度(10%)により評価します。なお、再提出レポートなどの再評価は通常評価の60%を超えることはありません。

■ 再試験の有無

筆記試験と実習試験(バーチャルスライドの場合があります)、およびレポートで行います。

■ 研究活動との関連

病理学は基礎医学、臨床医学、および社会医学を統合する総合科学としての役割を持っています。口腔を含む頭頸部には硬軟両組織を含む非常に多様な疾患が出現しますが、形態学を基盤としながら、遺伝子や遺伝子産物を対象とした分子生物学的手法を用い、疾患の原因解明、予後の予測、および新規の治療法の開発へとつながる研究を目指しています。また、臨床病理学的な症例研究とともに、実験病理学的な研究として動物モデルや培養細胞等を用いた口腔粘膜の発癌メカニズムや形態形成機構の解明を行っています。

■ その他

医歯学教育センターのMoodleシステム（桜ヶ丘Moodle）への登録とメール環境の整備は必須です。

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

- 1．歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。
- 3．口腔疾患を全身疾患の一つとしてとらえ、幅広い医学的知識に基づくプライマリ・ケアを実践するための基本的な臨床能力を身につけている。
- 8．口腔疾患の予防と健康増進に関する十分な知識を持ち、地域社会に密着した歯科医師および歯科医学教育者・研究者となりうる能力を持っている。
- 9．生涯にわたり自律的に学ぶ習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。
- 10．歯科医学研究者として世界をリードし、国際社会において幅広く活動する素養を身につけている。

■ 科目名				
細菌学（微生物学）				
■ 英語名				
Microbiology and Oral Microbiology				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
基礎系科目	必修科目	講義・実習	7.5	5期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
小松澤均、松尾美樹、大貝悠一、神原賢治、西原達次（非常勤）		歯科病態学 口腔微生物学分野		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6150		hkomatsu@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
特に時間は指定せず、7F 講座研究室で随時対応する。				
■ キーワード				
感染症、口腔感染症、免疫、感染制御、細菌、ウイルス、真菌				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
G10：				
微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態を理解する。			【C-3-1）】	
免疫系を理解し、生体防御機構としての免疫反応、感染免疫、アレルギー、主な免疫不全・自己免疫疾患を理解する。			【C-3-2）】	
SBO：				
1：微生物の種類とそれぞれの特徴・相違点について説明できる。			【C-3-1）-1】	
2：細菌の分類とその構造について説明できる。			【C-3-1）-1】	
3：細菌の感染経路、種類、感染機序について説明できる。			【C-3-1）-2，C-3-1）-5】	
4：病原性細菌の病原性因子や人への疾患などについて説明できる。			【C-3-1）-2】	
5：主な病原性因子について分子生物学的知識をもとに病原性発症機序を説明できる。			【C-3-1）-2】	
6：清潔と不潔の区分および滅菌と消毒の意義を説明できる。			【C-3-1）-3】	
7：細菌感染症の診断、化学療法、感染予防の基礎知識を説明できる。			【C-3-1）-4】	
8：ウイルスの分類とその構造について説明できる。			【C-3-1）-1】	
9：ウイルスの基本的性状および感染様式について説明できる。			【C-3-1）-1，C-3-1）-5】	
10：病原性ウイルスの病原性やヒトへの疾患について説明できる。			【C-3-1）-2】	
11：ウイルス感染症の診断、化学療法の基礎知識を説明できる。			【C-3-1）-2】	
12：真菌の分類とその構造について説明できる。			【C-3-1）-1】	
13：真菌の病原性、化学療法について説明できる。			【C-3-1）-2】	
14：免疫の種類と免疫担当細胞について説明できる。			【C-3-2）-1，C-3-2）-3】	
15：細胞性免疫と液性免疫の概略を説明できる。			【C-3-2）-2】	
16：抗体の機能と構造について説明できる。			【C-3-2）-2，C-3-2）-7】	
17：免疫担当細胞の抗原認識について説明できる。			【C-3-2）-3】	
18：サイトカインについてその種類と機能について説明できる。			【C-3-2）-2】	
19：移植免疫について説明できる。			【C-3-2）-4】	
20：過敏症、自己免疫疾患について説明できる。			【C-3-2）-5，C-3-2）-6】	
21：微生物感染と免疫反応を統合的に説明できる。			【C-3-2）-1】	
22：口腔内細菌の種類と性状について説明できる。			【C-3-1）-1】	
23：う蝕原因菌の性状とう蝕発症機序について説明できる。			【C-3-1）-2】	
24：歯周病原菌の性状と歯周病発症機序について説明できる。			【C-3-1）-1，C-3-1）-2】	
25：歯性感染症について説明ができる。			【C-3-1）-2】	
26：口腔疾患と全身性疾患との関連性について概略を説明できる。			【C-3-1）-6】	
27：歯科診療時における感染対策について説明ができる。			【C-3-1）-6】	
■ 授業概要				
人類は長い歴史の中で常に微生物感染症との闘いを続けている。近年の医学の向上は目を見張るものがあり、微生物感染症においても宿主側・微生物側の様々な要因について明らかになってきている。しかし、依然、微生物感染症は根絶されることなく日々の臨床上で問題となっている。歯科医学領域の2大疾患はう蝕と歯周病であり				

、これらは何れも細菌感染症である。また、近年では口腔感染症と全身性疾患との関連性、口腔を介する感染症の伝播性、歯科での院内感染対策などの口腔感染症の領域はグローバル化してきている。こうした現状の中で、歯科学学生は微生物感染症に対する幅広い見識と歯科疾患固有の感染症に対する深い専門性が求められる。本講義・実習では細菌学、ウイルス学、真菌学、免疫学、感染症学、口腔細菌学などについて幅広い内容について学習をする。

■ 授業計画

回	内容	担当
1	微生物学序論：小松澤	
2	細菌の分類・形態・構造・代謝：小松澤	
3	細菌の分類・形態・構造・代謝：小松澤	
4	細菌の培養・染色：松尾	
5	細菌の遺伝・遺伝子操作：小松澤	
6	細菌の遺伝・遺伝子操作：小松澤	
7	細菌感染：小松澤	
8	細菌感染：小松澤	
9	化学療法：小松澤	
10	化学療法：小松澤	
11	滅菌と消毒：松尾	
12	滅菌と消毒：松尾	
13	院内感染・伝染病とその対策：小松澤	
14	グラム陽性球菌：小松澤	
15	グラム陽性球菌：小松澤	
16	グラム陽性桿菌、結核菌：小松澤	
17	グラム陰性通性嫌気性菌：小松澤	
18	グラム陰性通性嫌気性菌：小松澤	
19	グラム陰性好気性桿菌：小松澤	
20	グラム陰性偏性嫌気性菌：小松澤	
21	スピロヘータ、マイコプラズマ：小松澤	
22	クラミジア、リケッチア：小松澤	
23	クラミジア、リケッチア：小松澤	
24	真菌・原虫：松尾	
25	ウイルスの分類・構造：小松澤	
26	ウイルスの検査法、抗ウイルス薬：小松澤	
27	DNAウイルス（アデノ、HPV、その他）：小松澤	
28	DNAウイルス（アデノ、HPV、その他）：小松澤	
29	DNAウイルス（ヘルペスウイルス）：小松澤	
30	DNAウイルス（ヘルペスウイルス）：小松澤	
31	RNAウイルス（ピコルナ、パラミクソ、その他）：小松澤	
32	RNAウイルス（ピコルナ、パラミクソ、その他）：小松澤	
33	RNAウイルス（レトロウイルス）：小松澤	
34	RNAウイルス（レトロウイルス）：小松澤	
35	肝炎ウイルス：小松澤	
36	口腔細菌：松尾	
37	口腔細菌：松尾	
38	う蝕細菌学：松尾	
39	う蝕細菌学：松尾	
40	歯周病細菌学：小松澤	
41	歯周病細菌学：小松澤	
42	その他の口腔内感染症：小松澤	
43	歯科診療上の感染防止：松尾	
44	免疫概論：小松澤	
45	自然免疫と獲得免疫：小松澤	
46	液性免疫：小松澤	

47 液性免疫：小松澤
 48 細胞性免疫：小松澤
 49 抗原と抗原認識：小松澤
 50 サイトカイン：小松澤
 51 免疫病：小松澤
 52 移植免疫：小松澤
 53 う蝕・歯周免疫学：西原
 54-86 細菌学および口腔細菌学実習：小松澤、松尾、大貝、神原

日時は前期 水曜1,2限目と木曜2,3,4限目

場所は第2講義室、第5実習室

■ 予習・復習へのアドバイス

毎回の授業にあたっては、講義テーマに該当する内容を教科書・参考書で予習すること。授業では、毎回、その回の内容についてのプリントを配るので、必要事項を適宜プリントに記入し授業の内容の理解に努めること。配布するプリントと教科書・参考書を活用して復習すること。

■ 教科書

口腔微生物学・免疫学（医歯薬出版社）

■ 参考書

戸田新細菌学（南山堂）
 シンプル微生物学（南江堂）
 医科ウィルス学（南江堂）
 標準免疫学（南江堂）

■ 成績の評価基準

講義・実習内容に関する筆記試験（講義に関する試験：2回、実習試験：1回）と実習レポート（実習発表を含む）を課す。なお、実習レポート（20点満点）は実習試験（80点満点）と併せて100点満点として評価とする。全3回の筆記試験の成績に出席状況、授業参加態度を加味して総合的に判定する。

■ 再試験の有無

有

■ 研究活動との関連

■ その他

講義の進行状況により、授業計画の変更を行う場合がある。

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

- 1．歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。
- 9．生涯にわたり自律的に学ぶ習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。
- 10．歯科医学研究者として世界をリードし、国際社会において幅広く活動する素養を身につけている。

■ 科目名				
歯科薬理学				
■ 英語名				
Pharmacology, Dental Pharmacology				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
基礎系科目	必修科目	講義・実習	7.5	5期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
佐藤友昭、増原正明		機能系歯科学 歯科応用薬理学分野 (旧：歯科薬理学講座)		
非常勤(西川殷維、山本健二)				
■ 連絡先(TEL)		■ 連絡先(MAIL)		
099-275-6160		tomsato@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
毎週木曜日17:00～18:00、8F講座研究室にて対応する。 上記以外の曜日や時間帯でも可能な限り相談に応じる。				
■ キーワード				
薬物 医薬品 薬事法 日本薬局方 薬物作用機序 副(有害)作用 薬物動態 薬物の臨床応用				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
GI0: 薬物の基本知識、取扱い知識、作用機序及び障害発生の理論を習得し、それらに基づき、疾患に対する薬物治療において、個々人の状態を考慮し、最も適切な薬物を選択できると同時に、その理由を科学的、理論的に説明できる能力を修得する。				
SB0s: 1) 医薬品の分類を説明できる。【C-5-1)-1,-2】 2) 日本薬局方を説明できる。【C-5-1)-3】 3) 薬物の原因療法、対症療法を説明できる。【C-5-2)-1】 4) 薬理作用の基本形式を説明できる。【C-5-2)-2】 5) 薬物の作用機序を説明できる。【C-5-2)-3】 6) 薬理作用を規定する要因を説明できる。【C-5-2)-4】 7) 薬物耐性、蓄積作用、薬物依存を説明できる。【C-5-2)-5】 8) 薬物の協力作用、拮抗作用、相互作用を説明できる。【C-5-2)-6】 9) 薬物の適用方法の種類とその特徴を説明できる。【C-5-3)-1】 10) 薬物動態を説明できる。【C-5-3)-2】 11) 循環器、呼吸器、腎、内分泌、血液、神経、消化器、感染症における主な疾患に対して使用される薬物を列挙し、その概要を説明できる。【C-5-2)-1,-2,-3,-4,-5,-6,3)-1,-2】 12) 口腔・顎顔面領域に使用される薬物について列挙し、その概要を説明できる。【C-5-2)-1,-2,-3,-4,-5,-6,3)-1,-2】 13) 薬物の一般的な副作用・有害作用と口腔・顎顔面領域に現れる副作用・有害作用を説明できる。【C-5-4)-1】 14) 薬物学、薬理学に貢献した人物や薬物使用の歴史を簡単に説明できる。【A-6-1)-1,-2】 15) 最新の治療薬とその問題点について、幾つか例を挙げて説明できる。【A-6-2)-2,-3,-4】				
■ 授業概要				
薬理学・歯科薬理学は、生化学、生理学、細菌学、病態生理学等の基礎歯学(医学)系科目と関連があるばかりでなく、臨床系科目とも密接に関連があり、歯科疾患の治療と予防に直接関連をもつ学科目として位置づけられる。授業では、薬理学の一般的な考え方およびその基礎となる「薬理学総論」と薬理学・歯科薬理学上、重要な薬物の薬理作用、その作用機序、体内動態、臨床的応用、副作用、毒性、薬物を併用した場合の相互作用、幼小児・高齢者・妊産婦・有病者に対する薬物適用等について学習する。また、実習では代表的な薬物を用い、その作用効果を動物実験をとおして確認し、考察する。本講義・実習は、生化学的・生理学的・細菌学的等の基礎知識を背景として、できるだけ平易に理解しやすいように教授する。本授業終了時には適切な薬物使用の基礎知識が出来あがるよう教育する。				

■ 授業計画

(回)	(日時)	(講義室)	(内容)	(担当)
1, 2	4/7 1,2限	2講	薬理学の領域、歴史と概念	佐藤
3- 5	4/11 2-4限	2講	薬理作用と作用機序	佐藤
6- 8	4/14,15 1,2;2限	2講	受容体と細胞内情報伝達系	佐藤
9,10	4/18 3-4限	2講	薬理作用を規定する因子	佐藤
11-13	4/21,25 1,2;2限	2講	薬物動態	佐藤
14,15	4/25 3-4限	2講	薬物の副作用、有害作用	佐藤
16,17	4/28 1,2限	2講	臨床薬理学の概要	佐藤
18-22	5/9 2-4限	2講	末梢神経系・中枢神経系に作用する薬物	佐藤
23-25	5/12 1限	2講	オ - タコイド	増原・佐藤
26-29	5/12 2限, 5/16 3-4限	2講	循環器系作用薬	佐藤
30,31	5/19 1,2限	2講	体液平衡に影響する薬物	佐藤
32	5/23 3-4限	2講	血液・造血臓器作用薬	佐藤
33	5/26 1限	2講	呼吸器系作用薬	佐藤
34	5/26 2限	2講	消化器系作用薬	佐藤
35-37	5/30 2限	2講	平滑筋に作用する薬物	佐藤
38,39	6/2 1,2限	2講	ホルモンおよびホルモン拮抗薬	佐藤
40-42	6/6 2,3限	2講	局所麻酔薬	佐藤
43-45	6/6 4限	2講	鎮痛薬	佐藤
46-49	6/9 1,2限	2講	解熱性鎮痛薬	佐藤
50-52	6/13 2,3限	2講	防腐薬および消毒薬	佐藤
53,54	6/13 4限	2講	腐蝕薬と収斂薬	佐藤
55-56	6/16 1,2限	2講	止血薬	佐藤
57-66	6/20 2-4限	2講	化学療法薬	佐藤・非常勤
実習	6/23-7/25	5実	薬理学・歯科薬理学実習(1-24)	全員
67	9/1 1,2限	2講	免疫機能に作用する薬物	佐藤
68,69	9/5 3-4限	2講	口腔疾患に用いられる薬物	佐藤
70,71	9/8 1,2限	2講	硬組織に作用する薬物	増原・佐藤
70,71	9/12 2-4限	2講	硬組織に作用する薬物	非常勤
72,73	9/19 2-4限	2講	唾液腺に作用する薬物	増原・非常勤
74	9/22 1限	2講	味覚に影響を与える薬物	佐藤
75	9/22 2限	2講	救急薬剤	佐藤
	9/26 2-4限	3講	総まとめ、テスト	佐藤・増原
	9/30 1,2限		予備日	

授業は指定教科書の解説を中心に講義を行っている。講義方法は、パワーポイントでの提示が中心となる。特別の場合以外は、授業資料は配らないので、最新版の教科書の購入を強く勧める。また、授業中に教科書を開き、ノートをとることを強く勧めている。授業は学生の理解度を確認するためにも、教員から質問や意見、またノート提出を求める場合がある。

■ 予習・復習へのアドバイス

予習か復習に必ず教科書を読むことを強く勧める。授業は平易な言葉の解説を心がけているが、教科書の一読で理解度が格段に上がる。薬理学は、病態が分かるとなぜこの薬物を投与するのかが分かり易い。それ故、病態生理、内科の成書を読む(可能なら購入)すると良い。また、単位のための試験対策勉強ではなく、興味をもって学習することが肝要である。本講は、基本的にパワーポイントによる提示、板書を中心に進めるが、パワーポイントの資料は原則的に配布しない。それ故、各自メモをとる事をお勧めする。また、学習ノートの提出を求め、学習の進展をチェックする場合がある。故に、ノートは作成することを強く推奨するが、漫然と行うのではなく、興味のある項目や不得意な項目について、自分で調べる習慣をつけること。これは今後の学習に必ず役立つ。

■ 教科書

下記の書籍の購入を強く推奨します。

・加藤有三、篠田壽監修、現代歯科薬理学(第5版)、医歯薬出版(ISBN978-263-45656-9)

■ 参考書

学習参考書です。分かり易い記載ですので学習の助けになります。

- (1)清野裕監修 病態生理に基づく臨床薬理学、メディカルサイエンスインターナショナル (ISBN4-89592-461-0)
- (2)田中千賀子等編集 NEW薬理学 (改訂第6版)、南江堂 (ISBN978-4-524-226088-1)
- (3)柳澤輝行等監訳 イラスト薬理学 (原書3版)、丸善株式会社 (ISBN 978-4-621-07663-7)
- (4)吉尾隆ら編集 薬物治療学、南山堂 (ISBN978-4-525-72051-3)
- (5)村川裕二総監修 医学教育出版株式会社 新病態生理できた内科学シリーズ1 - 9

■ 成績の評価基準

試験* : 60点、ノート提出:20点、レポート : 10点、実習レポート : 10点

* 試験は、中間試験、終講試験、実習試験の3回を実施する。

■ 再試験の有無

有

■ 研究活動との関連

■ その他

授業は自分の能力を向上させるためのトレーニングであるという意識を常にもつ事。

- この授業は、授業中にメモ (ノート) をとらなければ、復習のポイントが分からなくなります。
- 授業中の携帯電話操作は一切行わない事。
- 携帯電話の電源を必ずきる事。マナーモードも禁止です。
- 授業中の飲食は禁止します。ペットボトル、水筒、食べ物を机の上に置かない事。
- 授業中に無断で教室の出入りをしない事。
- 授業を無断で休まない事。
- 教員の指示は良く聞く事。
- 課題や提出物については自分の力で作成し、講義や実習における提出物はその締め切り期限を必ず守る事。

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

1. 歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。
3. 口腔疾患を全身疾患の一つとしてとらえ、幅広い医学的知識に基づくプライマリ・ケアを実践するための基本的な臨床能力を身につけている。
6. 安全管理や危機管理能力を備え、医療事故の防止や適格な感染対策の知識を有している。
8. 口腔疾患の予防と健康増進に関する十分な知識を持ち、地域社会に密着した歯科医師および歯科医学教育者・研究者となりうる能力を持っている。
9. 生涯にわたり自律的に学ぶ習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。
10. 歯科医学研究者として世界をリードし、国際社会において幅広く活動する素養を身につけている。

■ 科目名				
歯科理工学				
■ 英語名				
Dental Materials and Devices				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
基礎系科目	必修科目	講義・実習	7.5	5期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
菊地 聖史、蟹江 隆人、有川 裕之 永田 睦（非常勤講師）		歯科病態学 歯科生体材料学分野 （旧：歯科理工学講座）		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6172		sikaiko@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワ -				
特に指定しない。歯科生体材料学分野研究室（5F）で随時対応する。				
■ キーワード				
歯科材料、歯科生体材料、歯科器械、歯科医療機器、歯科理工学的性質				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
歯科生体材料と歯科材料・器械【D】				
G10:				
1. 歯科材料に使用される素材と器械・器具の特性と用途に応じた所要性質を理解する。 【D-1】				
2. 成形を行って使用する歯科材料の種類と特性を理解し、これらの歯科材料の基本的成形方法を修得する。 【D-2】				
SB0:				
1. 高分子材料、セラミック材料、金属材料および複合材料の構造と物性を説明できる。 【D-1-1】				
2. 生体材料の力学的、物理的、化学的および生物学的所要性質を説明できる。 【D-1-2】				
3. 生体材料と歯科材料の安全性の評価を説明できる。 【D-1-3】				
4. 歯科用器械・器具の用途と特徴について説明できる。 【D-1-4】				
5. 修復材料と修復法の種類と特徴を説明できる。 【D-2-1】				
6. 歯冠修復・義歯の製作に必要な材料の特性を説明できる。 【D-2-2】				
7. 印象材の種類と特性を説明できる。 【D-2-3】				
8. 歯科用石膏の種類と特性を説明できる。 【D-2-4】				
9. ワックスの種類と特性を説明できる。 【D-2-5】				
10. レジンの重合、金属の鋳造・熱処理およびセラミックスの加工・焼成の特徴を使用機器と関連づけて説明できる。 【D-2-6】				
11. 接着材と合着材の種類と成分および特性を説明できる。 【D-2-7】				
■ 授業概要				
歯科理工学は、基礎系科目に分類されるが、歯科診療において日常的に使用される歯科材料や歯科機器を対象としていることから、臨床系科目とも密接に関連している。本科目を学ぶことにより、歯科材料の適切な選択や合理的な使用、機器の正しい操作が可能となる。また、歯科材料に求められる性質やその評価方法、歯科機器の原理や構造も学ぶことで、新しい材料や機器に対応できる能力が得られる。				

■ 授業計画

(回)	(日時)	(講義室)	(内容)	(担当教員)
1	4/ 7 (月) 3限	2講	歯科理工学概論	菊地
2	4/ 7 (月) 4限	2講	歯科材料の構造と性質	菊地
3	4/ 8 (火) 2限	2講	歯科材料の機械的性質1	菊地
4	4/ 8 (火) 3限	2講	歯科材料の機械的性質2	菊地
5	4/ 8 (火) 4限	2講	歯科材料の物理的性質	菊地
6	4/14 (月) 3限	1実	実習1(1)	蟹江・有川
7	4/14 (月) 4限	1実	実習1(1)	蟹江・有川
8	4/15 (火) 2限	2講	金属の基礎	菊地
9	4/15 (火) 3限	1実	実習1(2)	蟹江・有川
10	4/15 (火) 4限	1実	実習1(2)	蟹江・有川
11	4/21 (月) 3限	2講	合金と状態図1	菊地
12	4/21 (月) 4限	2講	合金と状態図2	菊地
13	4/22 (火) 2限	2講	貴金属系合金1	菊地
14	4/22 (火) 3限	2講	歯科材料の化学的性質	蟹江
15	4/22 (火) 4限	2講	歯科材料の生物学的性質	蟹江
16	4/28 (月) 3限	2講	義歯床用レジン1	蟹江
17	4/28 (月) 4限	2講	義歯床用レジン2	蟹江
18	5/12 (月) 3限	2講	接着材1	蟹江
19	5/12 (月) 4限	2講	接着材2	蟹江
20	5/13 (火) 2限	2講	貴金属系合金2	菊地
21	5/13 (火) 3限	2講	セメント1	蟹江
22	5/13 (火) 4限	2講	セメント2	蟹江
23	5/19 (月) 3限	2講	その他のレジン系材料1	蟹江
24	5/19 (月) 4限	2講	その他のレジン系材料2	蟹江
25	5/20 (火) 2限	2講	貴金属系合金3	菊地
26	5/20 (火) 3限	2講	印象材1	有川
27	5/20 (火) 4限	2講	印象材2	有川
28	5/26 (月) 3限	2講	石 膏1	有川
29	5/26 (月) 4限	2講	石 膏2	有川
30	5/27 (火) 2限	2講	非貴金属系合金1	菊地
31	5/27 (火) 3限	2講	コンポジットレジン1	有川
32	5/27 (火) 4限	2講	コンポジットレジン2	有川
33	6/ 2 (月) 3限	2講	硬質レジン1	有川
34	6/ 2 (月) 4限	2講	硬質レジン2	有川
35	6/ 3 (火) 2限	2講	非貴金属系合金2	菊地
36	6/ 3 (火) 3限	2講	ワックス1	有川
37	6/ 3 (火) 4限	2講	ワックス2	有川
38	6/ 9 (月) 3限	2講	歯科鑄造1	菊地
39	6/ 9 (月) 4限	2講	歯科鑄造2	菊地
40	6/10 (火) 2限	2講	歯科鑄造3	菊地
41	6/10 (火) 3限	2講	補講	未定
42	6/10 (火) 4限	2講	補講	未定
43	6/16 (月) 3限	2講	試験1 (蟹江・有川)	全員
44	6/16 (月) 4限	2講	試験1 (蟹江・有川)	全員
45	6/17 (火) 2限	2講	歯科鑄造4	菊地
46	6/17 (火) 3限	2講	歯科鑄造5	菊地
47	6/17 (火) 4限	1実	実習2(オリエンテーション)	蟹江,有川
48	6/23 (月) 3限	1実	実習2(1)	蟹江・有川
49	6/23 (月) 4限	1実	実習2(1)	蟹江・有川
50	6/24 (火) 2限	2講	ろう付け	菊地

51	6/24 (火) 3限	1実	実習2(2)	蟹江・有川
52	6/24 (火) 4限	1実	実習2(2)	蟹江・有川
53	6/30 (月) 3限	1実	実習2(3)	蟹江・有川
54	6/30 (月) 4限	1実	実習2(3)	蟹江・有川
55	7/ 1 (火) 2限	2講	溶接	菊地
56	7/ 1 (火) 3限	1実	実習2(4)	蟹江・有川
57	7/ 1 (火) 4限	1実	実習2(4)	蟹江・有川
58	7/ 7 (月) 3限	1実	実習2(5)	蟹江・有川
59	7/ 7 (月) 4限	1実	実習2(5)	蟹江・有川
60	7/ 8 (火) 2限	2講	塑性加工	菊地
61	7/ 8 (火) 3限	1実	実習2(6)	蟹江・有川
62	7/ 8 (火) 4限	1実	実習2(6)	蟹江・有川
63	7/14 (月) 3限	1実	実習2(7)	蟹江・有川
64	7/14 (月) 4限	1実	実習2(7)	蟹江・有川
65	7/15 (火) 2限	2講	熱処理	菊地
66	7/15 (火) 3限	1実	実習2(8)	蟹江・有川
67	7/15 (火) 4限	1実	実習2(8)	蟹江・有川
68	7/22 (火) 2限	2講	腐食と変色	菊地
69	7/22 (火) 3限	1実	実習予備日	未定
70	7/22 (火) 4限	1実	実習予備日	未定
71	9/ 1 (月) 3限	2講	陶材1	菊地
72	9/ 1 (月) 4限	2講	陶材2	菊地
73	9/ 2 (火) 2限	2講	切削・研削・研磨	菊地
74	9/ 2 (火) 3限	2講	歯科インプラント1	永田
75	9/ 2 (火) 4限	2講	歯科インプラント2	永田
76	9/ 8 (月) 3限	2講	歯科用器械・器具	菊地
77	9/ 8 (月) 4限	2講	歯科用CAD/CAMシステム	菊地
78	9/ 9 (火) 2限	2講	補講	未定
79	9/ 9 (火) 3限	2講	補講	未定
80	9/ 9 (火) 4限	2講	補講	未定
81	9/16 (火) 2限	2講	補講	未定
82	9/16 (火) 3限	2講	試験2 (菊地・永田)	全員
83	9/16 (火) 4限	2講	試験2 (菊地・永田)	全員

実習1：歯科材料の取り扱い、成形・加工の体験

実習2：印象材・石膏、セメント・レジン、機械的性質・熱処理、鑄造

■ 予習・復習へのアドバイス

- ・ 歯科理工学は、歯科で扱う材料と機器の全てを対象としており、内容が多岐にわたっているため、教科書を1冊は用意することを勧める。
- ・ 内容が理解できなかった箇所は、教科書やプリントを活用するなどして早めに解決すること。
- ・ 自助努力で解決できない時は、担当教員に早めに相談し、試験の直前になって慌てることのないようにすること。

■ 教科書

以下に例を挙げるが、これらに限定しない。

- ・ コア歯科理工学、医歯薬出版、2008年発行 (ISBN978-4-263-45614-9)
- ・ スタンダード歯科理工学 第5版、学建書院、2013年発行 (ISBN978-4-7624-3614-7)
- ・ 新編歯科理工学 第5版、学建書院、2012年発行 (ISBN978-4-7624-2562-2)

■ 参考書

- ・ 歯科理工学教育用語集第2版、医歯薬出版、2011年発行 (ISBN978-4-263-45647-7)

その他は適宜紹介する。

■ 成績の評価基準

- ・ 試験は、中間と最後の2回実施する。
- ・ 配点は、試験 (中間と最終の合計) が80点、レポートが10点、その他 (授業への参加態度等) が10点を原則

とし、合計が60点以上で合格とする。

・再試験となった場合、評価が60点を超えることはないので留意すること。

■ 再試験の有無

実施する。

■ 研究活動との関連

現代の歯科医療は、歯科材料や歯科機器なしには成り立たない。当分野では、歯科用の新しい材料や機器に関する研究と開発を通して歯科医療への貢献を目指している。主な研究内容は、CAD/CAMシステム、CAD/CAM用歯科材料、義歯床用高分子材料、セメント、口腔内組織と歯科材料の粘弾性的性質、修復用材料の光学的性質、歯科材料の評価である。

■ その他

授業計画は、授業の進み具合や担当教員の急な出張等により変更することがある。

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

- 1．歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。
- 8．口腔疾患の予防と健康増進に関する十分な知識を持ち、地域社会に密着した歯科医師および歯科医学教育者・研究者となりうる能力を持っている。
- 9．生涯にわたり自律的に学ぶ習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。

■ 科目名				
医系科目（衛生学・公衆衛生学・歯科法医学）				
■ 英語名				
Hygiene,Public Health,Dental legal medicine				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
保健・社会系科目	必修科目	講義	2	5期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
医系教員		環境医学分野、疫学・予防医学分野、法医学分野		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6040（歯学教務係）				
■ オフィスアワ -				
随時				
■ キーワード				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
■ 授業概要				
【衛生学（環境医学分野）】				
・ 衛生学概論				
・ 保健統計の意義と現状について				
・ 疾病と定義、分類と国際疾病分類（ICD）について				
・ 疫学の概念とその応用について				
・ 予防医学（一、二、三次予防）について				
・ 生活習慣と疾病、その予防治療について				
・ 生活習慣と肥満、高脂血症、動脈硬化、糖尿病、高血圧、がんとの関係について				
・ 喫煙と疾病の関係、喫煙と口腔疾患（歯周病など）の関係				
【公衆衛生学（疫学・予防医学分野）】				
・ 公衆衛生学概論				
・ 社会構造・環境と健康・疾病との関係について				
・ 地域医療の機能と体制について				
・ 環境と健康・疾病の関係について				
・ 生態系の変化が生活と健康に与える影響について				
・ 地域保健（母子保健、老人保健、学校保健）について				
・ 病診連携と病病連携について				
・ 保健、医療、福祉、介護の制度について				
・ 医療従事者の現状と役割、連携とチーム医療について				
・ 感染症予防医療法について				
・ 産業保健について				
【歯科法医学（法医学分野）】				
・ 法医学概論				
・ 個人識別法、特に歯科検案における顎骨、歯（補綴物）の所見の重要性について				
・ 各死因の鑑別法、死体現象について				
・ 血液型やDNA鑑定について				
・ 口腔顎顔面領域の損傷の特徴と法医学的意義について				
・ 警察協力歯科医について				
・ 個人識別に歯型が役立った事例の供覧（航空機事故、火災、水害、身元不明死体など）				
■ 授業計画				
次の科目に分けて講義を行う。				
【衛生学（環境医学分野）】		講義回数	4回	
【公衆衛生学（疫学・予防医学分野）】		講義回数	4回	
【歯科法医学（法医学分野）】		講義回数	5回（別途11月末に特別講義2コマ予定）	
日程については、時間割表及び医系科目日程表にて確認すること。				
■ 予習・復習へのアドバイス				

■ 教科書

■ 参考書

■成績の評価基準

出席・筆記試験により総合的に判定する。

なお、衛生学（環境医学分野）、公衆衛生学（疫学・予防医学分野）、歯科法医学（法医学分野）の成績がそれぞれ60点以上で合格とする。

■再試験の有無

■ 研究活動との関連

■ その他

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

■ 科目名				
社会歯科学				
■ 英語名				
Social Approach in Dental Health				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
保健・社会系科目	必修科目	講義・演習	1	5期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
於保孝彦、山口泰平、長田恵美、西山毅		発達育成歯科学 予防歯科学分野		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6180		oho@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
特に時間は指定せず、6F講座研究室で随時対応する。				
■ キーワード				
健康論、歯科医療倫理、歯科医療管理、医療保険制度、歯科医療経済、社会福祉、社会保障、国際歯科保健				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
1．健康の概念を説明できる。		【B-1】		
2．医療保険制度を説明できる。		【B-2-2）】		
3．介護保険制度を説明できる。		【B-2-2）】		
4．社会福祉制度を説明できる。		【B-2-2）】		
5．高齢者・障害者のおかれた社会環境を説明できる。		【B-2-2）】		
6．ノーマライゼーションの考え方を説明できる。		【B-2-2）】		
7．歯科医療管理の内容を説明できる。		【A-5-1）,2）,3）】		
8．医療情報について説明できる。		【B-4-3）】		
9．医療需要・供給について説明できる。		【B-2-2）】		
10．医療経済を説明できる。		【B-2-2）】		
■ 授業概要				
本科目は、歯科医学の社会的適応である歯科医療・口腔保健における様々な問題を人文科学・社会科学的な立場から考究するための原理と方法を取り扱う学問である。歯科医療の基盤となる健康論、医療倫理や歯科医療管理、歯科医療経済、社会保障、社会福祉、歯科医療保険制度などが含まれる。また歯科分野の国際協力についてもふれる。				
第1回目に授業の進め方を説明し、各グループ毎のテーマを設定する。2回目以降は各グループの発表、質疑応答の後、教員による補足を行う。				
■ 授業計画				
回	日 時	講義室	内 容	担当
1	4/11（金）1限	2講	健康論、歯科医療倫理	於保
2	4/18（金）1限	2講	歯科医療の質と安全管理	山口
3	4/25（金）1限	2講	歯科医療の需要と供給	西山
4	5/ 9（金）1限	2講	社会保障制度	山口
5	5/16（金）1限	2講	社会福祉制度	於保
6	5/23（金）1限	2講	介護保険制度	於保
7	5/30（金）1限	2講	医療保険制度	西山
8	6/ 6（金）1限	2講	国際歯科保健	長田
■ 予習・復習へのアドバイス				
第1講では講義全体のテーマを概説し、講義の進め方、評価方法について解説する。				
毎回の授業にあたっては、講義テーマに該当する内容を教科書にて予習しておくこと。				
授業では、内容をまとめたプリントを配付するので、必要事項を適宜プリントに記入し、授業内容の理解に努めること。このプリントと教科書を活用して、よく復習すること。				
■ 教科書				
石井拓男ほか編、スタンダード社会歯科学、学建書院				
■ 参考書				
・米満正美ほか編、新予防歯科学 第4版、医歯薬出版				
・厚生省の指標、厚生統計協会				

・国民衛生の動向、厚生統計協会

■ 成績の評価基準

講義内容をふまえて、各自でテーマを設定し、調査・分析結果に考察を加えてレポート提出を行う。このレポート評価に出席状況、授業参加態度を加味して総合的に判定する。

■ 再試験の有無

実施しない。

■ 研究活動との関連

■ その他

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

- 1．歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。
- 2．人文社会科学的分野も含めた幅広い知識を有し、人間の行動について精神心理学的対応ができる。
- 6．安全管理や危機管理能力を備え、医療事故の防止や適格な感染対策の知識を有している。
- 10．歯科医学研究者として世界をリードし、国際社会において幅広く活動する素養を身につけている。

■ 科目名				
予防歯科学				
■ 英語名				
Preventive Dentistry				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
臨床系科目	必修科目	講義・実習	3.5	6期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
於保孝彦、山口泰平、佐藤節子、長田恵美、西山毅、五月女さき子、非常勤（薬師寺毅、齋藤俊行）		発達育成歯科学 予防歯科学分野		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6180		oho@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
特に時間は指定せず、6F講座研究室で随時対応する。				
■ キーワード				
口腔機能の保持増進、疾病の予防法、公衆歯科保健活動、歯科疾患の疫学、保健医療統計および健康指標				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
1．健康の概念および口腔と全身の健康の関連を説明できる。		【B-1】		
2．第一次、第二次および第三次予防を説明できる。		【B-3-1】		
3．プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションを説明できる。		【B-3-1】		
4．セルフケアおよびプロフェッショナルケアを説明できる。		【B-3-1】		
5．唾液の性状と役割を説明できる。		【E-2-2】		
6．口腔細菌、歯垢、歯石その他の付着・沈着物についてについて説明できる。		【E-3-2】		
7．歯の硬組織の疾患および歯周疾患の病因と病態を説明できる。		【E-3-2】		
8．主な口腔疾患の予防を説明できる。		【B-3-2】		
9．主な口腔疾患のリスク評価について説明できる。		【B-3-2】		
10．動機付けと行動変容について説明できる。		【B-3-2】		
11．口腔清掃法を説明できる。		【B-3-2】		
12．食事栄養と健康の関係について説明できる。		【E-1-6）-（2】		
13．生活習慣と健康に関して説明できる。		【E-1-6）-（2】		
14．フッ化物の応用方法を説明できる。		【B-3-2】		
15．予防填塞法について説明できる。		【B-3-2】		
16．各ライフステージにおける予防の重点を説明できる。		【B-3-2】		
17．公衆歯科衛生の進め方を説明できる。		【B-3-2】		
18．スクリーニング検査を説明できる。		【B-4-1】		
19．口腔疾患の疫学的指標を説明できる。		【B-4-1】		
20．主な保健医療統計および健康指標を説明できる。		【B-4-2】		
21．環境による健康への影響を説明できる。		【B-2-4】		
■ 授業概要				
歯科医療は、これまでの“治療を主体としたもの”から“予防を主体としたもの”へ推移しつつある。本科目では、様々なライフステージにおける個人の健康増進を目的として、口腔機能の保持増進および疾病の予防法について学習する。また、個人の歯科保健管理を集団へ応用する公衆歯科保健活動や歯科疾患の疫学、保健医療統計および健康指標についても学習する。さらに実習を通じて基礎的知識と臨床との関連について理解を深める。				
■ 授業計画				
回	日時	講義室	内 容	担当
1	10/ 6（月）4限	2講	予防歯科学序論	於保
2・3	10/ 8（水）1,2限	2講	歯科疾患の疫学	於保
4・5	10/15（水）1,2限	2講	口腔環境	於保
6	10/20（月）4限	2講	齲蝕の予防・リスク診断	於保
7・8	10/22（水）1,2限	2講	歯周疾患の予防・リスク診断	於保
9	10/27（月）4限	2講	プラークコントロール 1	於保
10・11	10/29（水）1,2限	2講	プラークコントロール 2 / 予防填塞	於保/長田
12・13	11/ 5（水）1,2限	2講	フッ化物と齲蝕予防	於保

14	11/10 (月) 4限	2講	食事栄養と健康	於保
15・16	11/12 (水) 1,2限	2講	代用甘味料/動機づけと行動変容	於保
17	11/17 (月) 4限	2講	医療面接とコミュニケーション	長田
18・19	11/19 (水) 1,2限	2講	歯科診査、歯科疾患の数量化	於保
20・21	11/26 (水) 1,2限	2講	公衆歯科衛生/地域歯科保健活動 1	於保/山口
22	12/ 1 (月) 4限	2講	地域歯科保健活動 2	山口
23・24	12/ 3 (水) 1,2限	2講	『特別講義』臨床予防歯科の基礎	薬師寺
25	12/ 8 (月) 4限	2講	ライフステージに応じた歯科保健管理 1	於保
26・27	12/10 (水) 1,2限	2講	『特別講義』歯周病と全身疾患	齋藤
28	12/15 (月) 4限	2講	ライフステージに応じた歯科保健管理 2	於保
29・30	12/17 (水) 1,2限	4講	演習：歯科医学統計	於保
31・32	1/ 7 (水) 1,2限	4実	実習：口腔内診査	西山
33・34	1/14 (水) 1,2限	3実	実習：フィッシャーシーラント	五月女
35・36	1/21 (水) 1,2限	5実	実習：唾液の役割/フッ素定量	佐藤/長田
37・38	1/28 (水) 1,2限	5実	実習：食品の齲蝕誘発能	山口
39・40	2/ 4 (水) 1,2限	4実	実習：衛生（照度、温熱環境）	西山
41・42	2/18 (水) 1,2限	4実	実習：衛生（空気成分、騒音、疲労）	長田

■ 予習・復習へのアドバイス

第1回目に講義全体のテーマを概説し、講義の進め方、評価方法について解説する。
毎回の授業にあたっては、講義項目を事前に知らせるので、その内容を教科書にて予習しておくこと。授業では、予習内容の補充を行いながら、授業内容の理解に努めること。その後、教科書を活用して、よく復習すること。

■ 教科書

米満正美ほか編、新予防歯科学 第4版、医歯薬出版

■ 参考書

- ・Primary Preventive Dentistry 8th ed., Harris NO, Garcia-Godoy F, Nathe CN (eds.), Pearson, Upper Saddle River, 2013.
- ・末高武彦ほか編、新口腔保健学、医歯薬出版
- ・宮武光吉ほか編、衛生学・公衆衛生学、医歯薬出版
- ・予防歯科臨床教育協議会編、実践予防歯科、医歯薬出版
- ・予防歯科臨床教育協議会編、予防歯科実践ハンドブック、医歯薬出版
- ・日本口腔衛生学会編、2007年度版 歯科衛生の動向、医歯薬出版
- ・奥田克爾編、デンタルバイオフィルム 恐怖のキラー軍団とのバトル、医歯薬出版

■ 成績の評価基準

授業参加態度、講義・実習内容に関する筆記試験、実習レポートをもとに、総合的に判定する。

■ 再試験の有無

実施する。

■ 研究活動との関連

■ その他

授業計画は講師の都合により変更をすることがある。

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

1. 歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。
3. 口腔疾患を全身疾患の一つとしてとらえ、幅広い医学的知識に基づくプライマリ・ケアを実践するための基本的な臨床能力を身につけている。
8. 口腔疾患の予防と健康増進に関する十分な知識を持ち、地域社会に密着した歯科医師および歯科医学教育者・研究者となりうる能力を持っている。

■ 科目名				
歯科保存学				
■ 英語名				
Operative Dentistry and Endodontology				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
臨床系科目	必修科目	講義・実習	5.5	6期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
講義：鳥居光男、徳田雅行、塚田岳司、北村知昭（非常勤講師） 実習：川上克子 ほか 5 名		発達育成歯科学 歯科保存学分野 （旧：歯科保存学 1 講座）		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6192				
■ オフィスアワー				
特に定めていない。研究棟 6 階の研究室で随時対応する。				
■ キーワード				
歯の硬組織疾患、歯髄疾患、根尖性歯周組織疾患、保存修復、歯髄処置、根管治療				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
1. 診察、検査及び診断に必要な事項を列挙できる。 2. 診察、検査、診断及び治療に必要な器材を準備できる。 3. 歯の硬組織の構造と機能を説明できる。 4. 歯髄の構造と機能を説明できる。 5. う蝕の病因と病態を説明できる。 6. 歯髄・根尖歯周組織疾患の病因と病態を説明できる。 7. 歯痛の機序を説明できる。 8. う蝕の症状・診断を説明できる。 9. う蝕の処置方針を説明できる。 10. 歯髄・根尖歯周組織疾患の症状、診断及び治療法を説明できる。 11. 根管充填の目的、時期及び方法を説明できる。 12. 歯髄・根尖歯周組織疾患の救急処置の種類と方法を説明できる。 13. 歯髄・根尖歯周組織疾患の治療時における偶発症について、種類、処置及び予防を説明できる。 14. 象牙質知覚過敏の病因、病態、診断及び治療法を説明できる。 15. 歯質欠損に対する歯冠修復の臨床的意義を説明できる。 16. 修復材料と修復法の種類と特徴及びその適応を説明できる。 17. 修復法に関する模型上での基本操作ができる。 18. 修復に必要な前処置の目的と意義を説明できる。 19. 歯髄保護の種類を述べ、その重要性を説明できる。 20. 窩洞形成の意義と方法を説明できる。 21. 仮封の意義、種類及び特徴を説明できる。 22. 修復後の術後管理の目的と方法を説明できる。				
■ 授業概要				
歯科保存学は、歯の硬組織疾患、歯髄疾患および歯周組織疾患などの成立要因を明らかにし、その予防法と治療法を追求する臨床歯科医学の一分野である。現在、保存修復学、歯内療法学および歯周病学に区分されている。本科目では、このうち保存修復学と歯内療法学を担当している。すなわち、う蝕とそれに継発するさまざまな疾患を中心的な課題として授業を進める。したがって、従来の「保存修復学」と「歯内療法学」の垣根をできるだけ低くして、両者を包括する臨床う蝕学の観点から、歯の硬組織や歯髄組織あるいは根尖性歯周組織に生じたさまざまな病変や機能障害について、その原因、病理、診断、処置法などを講義する。さらに、臨床手技を体得するために模型実習を行う。また、臨床技術の伝授にとどまらず、これらの疾患の社会歯科学的な背景や、最新の研究動向についても理解を深めさせる。				
■ 授業計画				
1	歯科保存学概論	鳥居		
2, 3	歯の硬組織の構造と機能	鳥居		
4	歯の硬組織疾患	鳥居		
5, 6	う蝕の病因論	鳥居		

7	診査、診断、治療計画	鳥居
8, 9	保存修復の種類と適応、窩洞、一般の手順、前処置	鳥居
10	歯髄刺激と歯髄保護	鳥居
11	グラスアイオノマーセメント修復	鳥居
12	象牙質・歯髄の構造と生理	徳田
13	歯内疾患の細菌学と免疫学	徳田
14, 15	アマルガム修復	鳥居
16	歯髄疾患の病因論	徳田
17, 18	コンポジットレジン修復 1	鳥居
19	根尖歯周組織の構造と生理	徳田
20, 21	コンポジットレジン修復 2	鳥居
22	根尖歯周組織疾患の病因論	徳田
23	感染根管の病態生理	徳田
24, 25	インレー修復	塚田
26	歯髄疾患の治療法	徳田
27	根尖歯周組織疾患感染根管の治療法	徳田
28	根管充填	徳田
29	外科的歯内療法	徳田
30	歯内療法時における偶発症とその対策	徳田
31	歯内 - 歯周疾患	徳田
32	最近の研究動向紹介	北村
33-36	保存修復学実習：人工歯での形成実習	川上
37-50	保存修復学実習：歯植立顎模型でのシミュレーション実習	川上
51-54	歯内療法学実習：透明根管模型での実習	川上
55-66	歯内療法学実習：歯植立顎模型でのシミュレーション実習	川上
■ 予習・復習へのアドバイス		
歯科保存学も基礎系歯科医学ならびに隣接医学の総合の上に成り立つ学問であり、その理解にはこれらの諸科目の理解が必要である。各項目の講義時にはそれぞれ必要な基礎科目に立ち返って、くりかえし復習することが必要である。		
■ 教科書		
教科書は特には指定していない。		
■ 参考書		
代表的な参考書をあげておく。 ・新保存修復学、土谷裕彦ほか編、クインテッセンス出版 ・保存修復学（第6版）、千田 彰ほか編、医師薬出版 ・保存クリニカルガイド（第2版）、千田 彰ほか編、医歯薬出版 ・The art and science of operative dentistry, Sturdevant, Mosby. ・歯学生のための歯内療法学、加藤 熙編、医歯薬出版 ・Pathways of the pulp, Cohen & Burns, Mosby. ・Endodontics, Ingle & Bakland, Williams & Wilkins		
■ 成績の評価基準		
講義については、試験：90%、授業への参加態度：10%で評価する。		
実習については、授業への参加態度：50%、実習結果（提出作品）：50%で評価する。		
■ 再試験の有無		
■ 研究活動との関連		
■ その他		
歯科保存学の合格判定を得るには、保存修復学の試験、歯内療法学の試験、実習の3者それぞれに合格する必要がある。		
■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー		

■ 科目名				
歯周病学				
■ 英語名				
Periodontology				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
臨床系科目	必修科目	講義・実習	4.5	7期
■ 担当教員			■ 担当教員所属	
講義：野口和行、松山孝司、町頭三保、非常勤（瀬戸口尚志）実習：○松山孝司、中村利明、迫田賢二、長谷川 梢、武内博信、瀬名浩太郎			歯周病学分野 （旧：歯科保存学2講座）	
■ 連絡先（TEL）			■ 連絡先（MAIL）	
099-275-6202			takashi@dent.kagoshima-u.ac.jp	
■ オフィスアワー				
午後4時以降に、6階講座研究室で随時対応する。（火曜日を除く）				
■ キーワード				
歯周病、病因、検査、診断、歯周基本治療、歯周外科、メインテナンス、予防				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
G10: 歯周組織の構造、歯周病の病因、病態、歯周病の治療および予防についての知識および基本的な技能を修得する。 【E-3-3】【F-7-3】				
SB0: 1．歯周組織の構造および機能を説明できる。【E-3-1-5】 2．歯周病の病態と病因を説明できる。【E-3-2-1】 3．口腔細菌、歯垢および歯石について説明できる。【E-3-2-5】 4．歯周治療に必要な検査を説明できる。【E-3-3-3-2】 5．歯周病の分類を説明できる。 6．歯周病と全身疾患との関連を理解し、説明できる。 7．歯周病の診断と治療方針を説明できる。【E-3-3-3-2】 8．歯周基本治療を説明できる。 9．薬物療法を説明できる。 10．歯周外科手術の種類と適応症を説明できる。【E-3-3-3-4】 11．歯周治療後のメンテナンスを説明できる。【E-3-3-3-9】 12．歯周病の予防を説明できる。【B-3-2-1】 13．歯周組織検査ができる。【E-3-3-3-2】 14．プラークコントロールの方法を説明できる。【F-7-3-3】 15．スケーリング・ルートプレーニングができる。【F-7-3-4】 16．暫間固定、咬合調整ができる。 17．基本的歯周外科の術式を説明できる。 18．治療計画を立案できる。【F-7-3-2】				
■ 授業概要				
歯周病とは、歯を支持する組織（歯肉、歯根膜、セメント質、歯槽骨）が破壊される炎症性疾患である。歯周治療は、歯周病の治療および予防を取り扱い、生涯にわたって健全な歯列と咬合を維持することを目的としている。成人のほとんどが軽度の歯肉炎から重度の歯周炎に至るまで、様々な病態の歯周病に罹患しており、さらに、現在では若年層にまで罹患状況が拡大している。近年、歯周病は糖尿病、心臓病や低体重児出産などの全身疾患のリスクファクターとして注目されている。歯周病の主要な病因は歯の周囲に付着しているプラーク中に含まれている細菌やその代謝産物であり、このプラークを除去することが歯周治療の基本である。その為に、プラークコントロールやプラーク増加因子の除去を中心とした原因除去療法を行い、病状が進行している場合には外科処置を行うことがある。最近では、原因除去療法に加え、歯周組織の再生を考慮した再生療法が行われ、歯周病に罹患した組織を治癒に導くことが出来る。このような歯周病の診断および治療を行うための知識、技能、態度を習得する。				

■ 授業計画

(回)	(日時)	(講義教室)	(内容)	(担当者)
1	4/ 8 (火) 1限	1 講	健康な歯周組織の構造と機能	野口
2	4/11 (金) 3,4限	1 講	歯周病の病態、歯周病の分類	野口
3	4/15 (火) 1限	1 講	歯周病の病因	野口
4	4/18 (金) 3,4限	1 講	歯周病の病因検査・診断	野口
5	4/22 (火) 1限	1 講	検査・診断	野口
6	5/13 (火) 1限	1 講	疫学・歯周病と全身疾患	野口
7	5/20 (火) 1限	1 講	治療計画(1),ブラークコントロール	野口
8	5/27 (火) 1限	1 講	ブラークコントロール	野口
9	6/ 3 (火) 1限	1 講	スケーリング・ルートプレーニング	野口
10	6/10 (火) 1限	1 講	咬合性外傷、咬合調整	
11	6/17 (火) 1,2限	1 講	拔牙、暫間固定、食片圧入、各種習癖、その他	野口
12	6/24 (火) 1,2限	1 講	再評価、薬物療法、歯周外科概論	野口
12	7/ 1 (火) 1,2限	1 講	歯周外科手術(切除療法)	松山
13	7/ 8 (火) 1,2限	1 講	歯周外科手術(再生療法)	白方
14	7/15 (火) 1,2限	1 講	歯周外科処置(歯周形成外科),分岐部病変の処置	町頭
15	7/22 (火) 1,2限	1 講	最終治療,メンテナンス,治療計画(2)	野口
16	9/ 2 (火) 1,2限	1 講	特別講義	瀬戸口

基礎実習

(回)	(日時)	(講義教室)	(内容)	(担当者)
1	4/25 (金) 3,4限	3 実	歯周組織検査(1)	松山 他
2	5/ 9 (金) 3,4限	3 実	歯周組織検査(2)	松山 他
3	5/16 (金) 3,4限	3 実	ブラークコントロール 1	松山 他
4	5/30 (金) 3,4限	3 実	歯周組織検査(3)	松山 他
5	6/ 6 (金) 3,4限	3 実	スケーリング・ルートプレーニング 1	松山 他
6	6/13 (金) 3,4限	3 実	スケーリング・ルートプレーニング 2	松山 他
7	6/20 (金) 3,4限	3 実	スケーリング・ルートプレーニング 3	松山 他
8	6/27 (金) 3,4限	3 実	スケーリング・ルートプレーニング 4	松山 他
9	7/ 4 (金) 3,4限	3 実	暫間固定、咬合調整	松山 他
10	7/11 (金) 3,4限	3 実	歯周外科1 (歯肉切除、歯肉整形)	松山 他
11	7/18 (金) 3,4限	3 実	歯周外科2 (歯肉剥離搔爬術)	松山 他
12	7/25 (金) 3,4限	3 実	治療計画 1	松山 他
13	9/ 9 (金) 3,4限	3 実	治療計画 2	松山 他
14	9/12 (金) 3,4限	3 実	治療計画 3	松山 他
15	9/19 (金) 3,4限	3 実	技能評価	松山 他

講義日程、担当教員、講義室の一部は変更となる場合がある。掲示板は各自確認すること。

■ 予習・復習へのアドバイス

授業にあたっては、講義テーマに該当する内容を教科書にて予習しておくこと。

授業では、毎回、その回の内容をまとめたプリントを配付するので、必要事項を適宜プリントに記入し、授業内容の理解に努めること。このプリントと教科書を活用して、よく復習すること。

■ 教科書

吉江弘正 他編：臨床歯周病学 第2版、医歯薬出版 東京 2013

■ 参考書

- ・和泉雄一 他編：ザ・ペリオドントロジー、永末書店 東京 2009
- ・Newman,Takei,KlokkevoId,Carranza: Clinical Periodontology, 11th Edition, W.B.Saunders, 2012.
- ・Lindhe et al: Clinical Periodontology and Implantology, 5th Edition, Blackwell Munksgaard, 2008
- ・K.H.Rateitschak et al: Color Atlas of Periodontology, 3rd Edition, Thieme, 2004.

■ 成績の評価基準

試験にて評価する(試験:100点)。

■ 再試験の有無

再試験あり

■ 研究活動との関連

歯周組織再生治療の適応症には限界があることから、当分野では歯周組織再生療法に効果的な医用材料に関する研究を行っている。また、歯周病と全身疾患との相互の影響が着目されていることから、歯周病と早産・早期低体重児出産との関連に関する研究を行っている。さらに口臭が社会生活に影響を及ぼすことから、口臭診断法の開発や歯周疾患との関係について研究を行っている。

■ その他

講義および実習の日程は別に通知する。担当講師は都合により変更することがある。

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

- 1．歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。
- 3．口腔疾患を全身疾患の一つとしてとらえ、幅広い医学的知識に基づくプライマリ・ケアを実践するための基本的な臨床能力を身につけている。
- 5．患者との対話を通して、インフォームド・コンセントを得ることができる。
- 6．安全管理や危機管理能力を備え、医療事故の防止や適格な感染対策の知識を有している。
- 8．口腔疾患の予防と健康増進に関する十分な知識を持ち、地域社会に密着した歯科医師および歯科医学教育者・研究者となりうる能力を持っている。
- 9．生涯にわたり自律的に学ぶ習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。

■ 科目名				
冠橋補綴学				
■ 英語名				
Crown & Bridge Prosthodontics				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
臨床系科目	必修科目	講義・実習	6.5	7-8期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
南 弘之、嶺崎良人、門川明彦、村口浩一、柳田廣明 村原貞昭、迫口賢二、塩向大作		口腔顎顔面歯科学 咬合機能補綴学分野 (旧：歯科補綴学1講座)		
■ 連絡先 (TEL)		■ 連絡先 (MAIL)		
099-275-6212		minami@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワ -				
とくに時間は指定せず，5 F 講座研究室で随時対応する。				
■ キーワード				
クラウン、ブリッジ、インプラント上部構造、接着ブリッジ、顎関節症、インフォームドコンセント				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
G10: 歯質欠損に対する歯冠修復と歯列の一部あるいは全部欠損に対する修復の臨床的意義と方法を理解する。 【E-3-4)】				
SB0 : 1. クラウンブリッジによる治療 1) クラウンブリッジの意義と具備条件を説明できる。 2) クラウンおよびブリッジの種類、特徴および製作法を説明できる。(ポンティックの選択を含む。)				
【E-3-4)-(1)】 【E-3-4)-(1)-1】 【E-3-4)-(1)-2】				
3) 支台築造の意義、種類および特徴を説明できる。 4) 支台歯形成の意義と方法を説明できる。 5) 暫間補綴装置の意義とその製作法を説明できる。 6) クラウンブリッジの製作に必要な材料の基本的操作を説明できる。 7) 研究用模型と作業用模型の製作方法を説明できる。 8) 平均値咬合器および調節性咬合器の種類と特徴を説明できる。(使用方法を含む。)				
【E-3-4)-(1)-3】 【E-3-4)-(1)-4】 【E-3-4)-(1)-5】 【E-3-4)-(1)-6】 【E-3-4)-(1)-7】 【E-3-4)-(1)-8】				
9) クラウンブリッジ製作のための印象操得・咬合採得に用いる材料と方法を説明できる。 10) クラウンブリッジの維持管理の目的と方法を説明できる。 11) フェイスボウトランスファーとチェックバイト法を説明し、調節性咬合器の基本的操作ができる。				
【E-3-4)-(1)-9】 【E-3-4)-(1)-10】 【E-3-4)-(1)-11】				
12) 歯の欠損に伴う歯・口腔・顎顔面領域の変化に対して必要な診察、検査ならびに診断ができる。 【E-3-4)-(1)-12】				
13) クラウンブリッジの設計を適切にできる。 14) クラウンブリッジの製作過程における基本的手技ができる。 15) クラウンブリッジ装着後における定期健診の重要性を説明し、指導できる。				
【E-3-4)-(1)-13】 【E-3-4)-(1)-14】 【E-3-4)-(1)-15】				
2. デンタルインプラント 1) デンタルインプラントの種類、特徴、目的および意義を説明できる。 2) デンタルインプラントの基本構造を説明できる。				
【E-3-4)-(3)】 【E-3-4)-(3)-1】 【E-3-4)-(3)-2】				
■ 授業概要				
歯科補綴学は、齲蝕により歯冠の大部分が欠けたり、歯周病や外傷などで歯そのものを失った時に、人工物（補綴物）によって、外観や機能を回復させることを目的とした学問である。外科手術や事故で失った顎骨や顔面皮膚の修復を行なう顎顔面補綴も含まれる。歯科補綴学は冠橋補綴学と有床義歯補綴学に区別される。冠橋補綴学の冠は、歯冠部が欠けてしまった時に用いられる冠を指す。橋は一般的にはブリッジと称され、抜けてしまった歯の機能回復が可能である。いずれも、残っている歯（支台歯）にセメントで固定して使用され、有床義歯が取り外し可能なとは大きく異なっている。これら固定性補綴物の構造や具備すべき要件、治療方法などについて学習する。又、接着ブリッジやインプラント治療についても、基本的な知識を理解させる。同時に補綴治療における最新トピックスも随時紹介する。				

■ 授業計画

(回)	(日時)	(講義室)	(内 容)	(担当者)
1	4 / 7 (月) 2限	第1講義室	冠橋補綴学概説	南
2	4 / 10 (木) 1限	第1講義室	冠橋補綴治療の目的と意義、特殊性	南・嶺崎
3	4 / 14 (月) 2限	第1講義室	顎顔面形態 歯と歯列、筋、顎関節	南・嶺崎
4	4 / 17 (木) 1限	第1講義室	下顎位と咬合	南・嶺崎
5	4 / 21 (月) 2限	第1講義室	下顎運動	南・嶺崎
6	4 / 24 (木) 1限	第1講義室	口腔機能 咀嚼、嚥下、構音	南・嶺崎
7	4 / 28 (月) 2限	第1講義室	口腔感覚と神経筋機構	南・嶺崎
8	5 / 8 (木) 1限	第1講義室	クラウンの種類と特徴	南・嶺崎
9	5 / 12 (月) 2限	第1講義室	欠損補綴方法の概説	嶺崎
10	5 / 15 (木) 1限	第1講義室	ブリッジの種類と構造	嶺崎
11	5 / 19 (月) 2限	第1講義室	ブリッジの適応症・診査	嶺崎
12	5 / 22 (木) 2限	第1講義室	ブリッジの設計 1	嶺崎
13	5 / 26 (月) 2限	第1講義室	ブリッジの設計 2	嶺崎
14	5 / 29 (木) 1限	第1講義室	クラウン・ブリッジの診療手順 1	南・嶺崎
15	6 / 2 (月) 2限	第1講義室	クラウン・ブリッジの診療手順 2	南・嶺崎
16	6 / 5 (木) 1限	第1講義室	インプラント補綴の概説	嶺崎
17	6 / 9 (月) 2限	第1講義室	クラウン・ブリッジの難症例と治療法	南・嶺崎
18	6 / 16 (月) 2限	第1講義室	顎機能障害の治療法	南・嶺崎
19	6 / 23 (月) 2限	第1講義室	顎間関係の記録 咬合採得	門川
20	6 / 30 (月) 2限	第1講義室	咬合器の種類と特徴 1	門川
21	7 / 7 (月) 2限	第1講義室	咬合器の種類と特徴 2	門川
22	7 / 14 (月) 2限	第1講義室	支台築造の理論と実際	南
23	7 / 28 (月) 2限	第1講義室	クラウン・ブリッジの製作法(技工) 1	南
24	9 / 1 (月) 2限	第1講義室	クラウン・ブリッジの製作法(技工) 2	南
25	9 / 8 (月) 2限	第1講義室	クラウン・ブリッジの試適、調整、装着	南
26	9 / 22 (月) 2限	第1講義室	接着ブリッジの理論と実際	南
27	9 / 29 (月) 2限	第1講義室	予備日	
28	10 / 3 (金) 1、2限	第1実習室	冠橋補綴学実習の概説	村口
29	10 / 6 (月) 3、4限	第1実習室	下顎大臼歯全部金属冠	村口・柳田・村原・迫口・塩向
30	10 / 10 (金) 1、2限	第1実習室	下顎大臼歯全部金属冠	村口・柳田・村原・迫口・塩向
31	10 / 17 (金) 1、2限	第1実習室	下顎大臼歯全部金属冠	村口・柳田・村原・迫口・塩向
32	10 / 20 (月) 3、4限	第1実習室	下顎大臼歯全部金属冠	村口・柳田・村原・迫口・塩向
33	10 / 24 (金) 1、2限	第1実習室	下顎大臼歯全部金属冠	村口・柳田・村原・迫口・塩向
34	10 / 27 (月) 3、4限	第1実習室	下顎大臼歯全部金属冠	村口・柳田・村原・迫口・塩向
35	10 / 31 (金) 1、2限	第1実習室	下顎大臼歯全部金属冠	村口・柳田・村原・迫口・塩向
36	11 / 7 (金) 1、2限	第1実習室	下顎大臼歯全部金属冠	村口・柳田・村原・迫口・塩向
37	11 / 10 (月) 3、4限	第1実習室	下顎大臼歯全部金属冠	村口・柳田・村原・迫口・塩向
38	11 / 14 (金) 1、2限	第1実習室	上顎大臼歯部ブリッジ	村口・柳田・村原・迫口・塩向
39	11 / 17 (月) 3、4限	第1実習室	上顎大臼歯部ブリッジ	村口・柳田・村原・迫口・塩向
40	11 / 21 (金) 1、2限	第1実習室	上顎大臼歯部ブリッジ	村口・柳田・村原・迫口・塩向
41	11 / 28 (金) 1、2限	第1実習室	上顎大臼歯部ブリッジ	村口・柳田・村原・迫口・塩向
42	12 / 1 (月) 3、4限	第1実習室	上顎大臼歯部ブリッジ	村口・柳田・村原・迫口・塩向
43	12 / 5 (金) 1、2限	第1実習室	上顎大臼歯部ブリッジ	村口・柳田・村原・迫口・塩向
44	12 / 8 (月) 3、4限	第1実習室	上顎大臼歯部ブリッジ	村口・柳田・村原・迫口・塩向
45	12 / 12 (金) 1、2限	第1実習室	上顎大臼歯部ブリッジ	村口・柳田・村原・迫口・塩向
46	12 / 15 (月) 3、4限	第1実習室	上顎大臼歯部ブリッジ	村口・柳田・村原・迫口・塩向
47	12 / 19 (金) 1、2限	第1実習室	上顎大臼歯部ブリッジ	村口・柳田・村原・迫口・塩向
48	12 / 22 (月) 3、4限	第1実習室	上顎前歯部ブリッジ	村口・柳田・村原・迫口・塩向
49	1 / 5 (月) 3、4限	第1実習室	上顎前歯部ブリッジ	村口・柳田・村原・迫口・塩向
50	1 / 9 (金) 1、2限	第1実習室	上顎前歯部ブリッジ	村口・柳田・村原・迫口・塩向

5 1	1 / 1 6 (金) 1、2 限	第 1 実習室	上顎前歯部ブリッジ	村口・柳田・村原・迫口・塩向
5 2	1 / 1 9 (月) 3、4 限	第 1 実習室	上顎前歯部ブリッジ	村口・柳田・村原・迫口・塩向
5 3	1 / 2 3 (金) 1、2 限	第 1 実習室	上顎前歯部ブリッジ	村口・柳田・村原・迫口・塩向
5 4	1 / 2 6 (月) 3、4 限	第 1 実習室	上顎前歯部ブリッジ	村口・柳田・村原・迫口・塩向
5 5	1 / 3 0 (金) 1、2 限	第 1 実習室	上顎前歯部ブリッジ	村口・柳田・村原・迫口・塩向
5 6	2 / 2 (月) 3、4 限	第 1 実習室	上顎前歯部ブリッジ	村口・柳田・村原・迫口・塩向
5 7	2 / 6 (金) 1、2 限	第 1 実習室	上顎前歯部ブリッジ	村口・柳田・村原・迫口・塩向
5 8	2 / 9 (月) 3、4 限	第 4 講義室	試験	南・嶺崎・門川
5 9	2 / 1 3 (金) 1、2 限	第 1 実習室	予備日	
6 0	2 / 1 6 (月) 3、4 限	第 1 実習室	予備日	
6 1	2 / 2 0 (金) 1、2 限	第 1 実習室	予備日 (再試験)	
6 2	2 / 2 3 (月) 3、4 限	第 1 実習室	予備日	

講義・実習の日程、担当教員、講義室は変更となる場合があるので、掲示板を各自確認すること。

■ 予習・復習へのアドバイス

提示した教科書を参考に予習・復習を行うこと。実習に際しては、関連する講義内容を復習してから臨むことが大切である。

■ 教科書

1. 標準クラウン・ブリッジ補綴学 (第1版) : 医学書院, 2002
2. クラウン・ブリッジ補綴学 (第4版) : 医歯薬出版, 2009
3. 歯科補綴学専門用語集 (第3版) : 日本補綴歯科学会編, 医歯薬出版, 2009
4. エッセンシャル口腔インプラント学 : 医歯薬出版, 2009年

■ 参考書

1. ツースプレパレーション (鋳造金属とポーセレンによる修復物のためのテクニック) : シリンバーク, 保母須弥也 共著, クインテッセンス出版, 1993
2. 歯科補綴学専門用語集 (第3版) : 日本補綴歯科学会編, 医歯薬出版, 2009
3. 接着歯学 (Minimal Interventionを求めて) : 日本接着歯学会編, 医歯薬出版, 2002
4. 支台歯形成のかんどころ : 嶋倉道郎、田中卓男 共著, クインテッセンス出版, 2012

■ 成績の評価基準

講義・実習内容に関する筆記試験結果により判定する。

■ 再試験の有無

実施する。

■ 研究活動との関連

咬合機能補綴学分野では、クラウンブリッジ治療に係わる歯科材料の材料学的な性質や歯科接着システムの開発について基礎的・臨床的研究を行っている。これらの研究のなかで講義内容と関連が深いものについては、必要に応じて授業の中で紹介していく予定である。

■ その他

欠席について : 病欠などの場合は、必ず咬合機能補綴学分野医局 (TEL 099-275-6212) に連絡すること。

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

1. 歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。
3. 口腔疾患を全身疾患の一つとしてとらえ、幅広い医学的知識に基づくプライマリ・ケアを実践するための基本的な臨床能力を身につけている。
4. 医療の倫理と法の原則に則り、患者中心の歯科医療を実践できる。

■ 科目名				
有床補綴学				
■ 英語名				
Removable Prosthodontics				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
臨床系科目	必修科目	講義・実習	8.5	7-8期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
西村正宏，西 恭宏，村上 格，末廣 史雄，橋口千琴，田中帝臣，藤島 慶，下田平 直大，非常勤（村田比呂司，二川 浩樹，黒野明日嗣，長岡英一）		顎顔面機能再建学講座 口腔顎顔面補綴学分野（西村正宏，西 恭宏，橋口千琴，田中帝臣，藤島 慶，下田平直大），附属病院 成人系歯科センター 義歯補綴科（村上 格，末廣 史雄），長崎大学（村田比呂司），広島大学（二川 浩樹），愛と結の街（黒野明日嗣），鹿児島大学名誉教授（長岡英一）		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6222		prosth2@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
西村正宏：月曜日もしくは金曜日の17時～18時． その他の先生は特に時間を設定しない．診療、研究に影響のない範囲で5 F 研究室で随時対応する．				
■ キーワード				
歯列欠損，有床義歯，高齢者，補綴装置，咀嚼機能，摂食・嚥下機能，構音機能				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
GI0： 歯や顎骨の欠損患者や高齢者に対し，適切な診査・診断や補綴治療を行うために必要な基本的な知識，態度及び技能を習得する． E-3-4）				
SB0： 1．診察，検査および診断に必要な事項を列挙できる． E-1-1)-1 2．咀嚼筋，表情筋の構成と機能を説明できる． E-2-1)-2 3．咀嚼の意義と制御機構を説明できる． E-2-2)-6 4．構音器官としての口腔の形態と機能を説明できる． E-2-2)-7 5．口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育および加齢による変化を説明できる． E-2-3）-3 6．可撤性義歯の目的と意義および具備条件を説明できる．E-3-4)-(2)-2 7．可撤性義歯の特徴と適応症を説明できる． E-3-4)-(2)-3 8．可撤性義歯の支持機構，把持機構および維持機構を説明できる． E-3-4)-(2)-4 9．可撤性義歯の咬合様式とその意義を説明できる． E-3-4)-(2)-5 10．可撤性義歯の構成要素を説明できる． E-3-4)-(2)-6 11．可撤性義歯の製作に関する印象採得、下顎位，咬合採得法を説明できる． E-3-4)-(2)-7，8，9 12．可撤性義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作を説明でき，適切に操作できる． E-3-4)-(2)-10 13．可撤性義歯の製作過程を説明でき，基本的手技を行うことができる． E-3-4)-(2)-11 14．可撤性義歯の設計原理を理解し，口腔内診察，検査，診断模型，およびエックス線写真等により適切に設計を行うことができる． E-3-4)-(2)-12 15．可撤性義歯の調整，リライン，リベースおよび修理を説明でき，適切に行うことができる．E-3-4)-(2)-13 16．可撤性義歯装着後における定期検診の重要性を説明し，メンテナンスに必要な事項の指導ができる．E-3-4)-(2)-14 17．即時義歯や治療用義歯の目的と意義を説明できる．E-3-4)-(2)-2 18．デンタルインプラントの種類と特性を説明できる． E-3-4)-(3)-1 19．補綴診療に必要な老化の身体的，精神的および心理的特徴を説明できる． E-4-3)-1 20．補綴診療に必要な老化に伴う口腔諸組織の構造と機能の変化を説明できる． E-4-3)-2 21．補綴診療において注意を要する高齢者に多くみられる疾患を説明できる． E-4-3)-3 22．摂食・嚥下リハビリテーションにおける補綴的対応を説明できる． E-4-3)-11				
■ 授業概要				
歯とその支持組織の喪失，先天異常あるいは口腔腫瘍摘出，脳卒中などの中途障害は，咀嚼機能や発音機能の障害ならびに審美障害を引き起こし，ひいては気分や表情の変化をもたらす．このような障害や変化を補綴装置（				

全部床義歯，部分床義歯，顎義歯），補助装置（スピーチエイド，パラタルリフト，嚥下補助装置），デンタルインプラントを用いて回復し，これら装置を人工臓器として機能させることによって，高水準のQuality of Lifeを維持し，人の幸福に貢献する治療法について習得することを目的とする。

■ 授業計画

回：日時：講義室：内容：担当者

1,2	: 4/10(木)	: 1講：有床義歯補綴学概論	: 西村
3	: 4/10(木)	: 1講：全部床義歯補綴の基本的事項（構造と各部の役割）	: 西
4	: 4/17(木)	: 1講：顎口腔機能（咀嚼・嚥下・発音），顔貌，気分	: 西
5	: 4/17(木)	: 1講：義歯製作過程，診査	: 西村
6	: 4/24(木)	: 1講：予備印象（既製トレーの選択，印象採得）	: 西村
7	: 5/ 8(木)	: 1講：研究用模型（診断，個人トレー作製），X線写真	: 西村
8	: 5/15(木)	: 1講：診断，前処置	: 西村
9	: 5/22(木)	: 1講：最終印象（個人トレー試適・調整，印象採得），作業模型（咬合堤作製）	: 西村
10	: 5/29(木)	: 1講：咬合採得（咬合平面の決定，顎間関係の記録，人工歯選択）	: 西
11	: 6/ 5(木)	: 1講：フェイスポートランスファー，咬合器の種類，咬合器装着	: 西
12	: 6/12(木)	: 1講：義歯（人工歯，義歯床，人工歯排列，咬合様式）	: 西
13	: 6/19(木)	: 1講：蠟義歯，義歯の完成，咬合器再装着，削合	: 村上
14	: 6/26(木)	: 1講：選択削合，研磨，装着，患者指導	: 村上
15	: 7/ 3(木)	: 1講：装着後の諸問題と処置、メンテナンス	: 西村
16	: 10/9(木)	: 1講：部分無歯顎者の病態，障害	: 西村
17	: 10/16(木)	: 1講：部分床義歯の基本的事項，意義，目的，特徴，分類	: 西村
18	: 10/23(木)	: 1講：部分床義歯の構成要素（1）	: 西村
19	: 10/30(木)	: 1講：部分床義歯の構成要素（2）	: 西村
20	: 11/ 6(木)	: 1講：部分床義歯の診査・診断，設計，前処置（1）	: 村上
21	: 11/13(木)	: 1講：部分床義歯の診査・診断，設計，前処置（2）	: 村上
22	: 11/20(木)	: 1講：部分床義歯の診療，技工手順（1）	: 村上
23	: 11/27(木)	: 1講：部分床義歯の診療，技工手順（2）	: 村上
24	: 12/ 4(木)	: 4講：特別講義（ティッシュコンディショナーと軟質リライン材の基礎と臨床）	: 村田
25	: 12/ 4(木)	: 4講：特別講義（口腔粘膜疾患）	: 二川
26	: 12/11(木)	: 4講：特別講義（歯槽骨とオーバーデンチャー）	: 長岡
27, 28	: 12/18(木)	: 1講：部分床義歯設計ワークショップ	: 西
29	: 1/ 8(木)	: 1講：即時義歯，治療用義歯，暫間義歯	: 村上
30	: 1/22(木)	: 1講：顎顔面補綴，口唇口蓋裂補綴，補綴補助装置，義歯清掃	: 西
31	: 1/29(木)	: 1講：特別講義（認知症とその対応）	: 黒野
32- 72	: 4/17-10/23	: 1実：実習（全部床義歯）：末廣，橋口，田中，下田平，藤島	
73-112	: 10/23- 2/ 5	: 1実：実習（部分床義歯）：末廣，橋口，下田平，藤島	

■ 予習・復習へのアドバイス

講義内容は，復習を中心に行うこと。

実習より講義が先行する授業計画としてるので，実習前にさらに講義内容を復習することが効果的である。

■ 教科書

全部床義歯：無歯顎補綴治療学 第2版、コンプリートデンチャーテクニク 第6版 とともに医歯薬出版
 部分床義歯：歯学生のパーシャルデンチャー第5版、パーシャルデンチャーテクニク第5版 とともに医歯薬出版
 そのほかに講義，実習ともに独自の資料を作成して配布する。

■ 参考書

参考書一覧を別途授業時に資料として配布する。

■ 成績の評価基準

前期試験（7月24日予定）100点

後期試験（2月5日予定）100点

実習：参加態度10点，小テスト10点，提出物80点 計100点

試験は60%以上で合格

■再試験の有無

実施する

■研究活動との関連

欠損補綴は歯を失った高齢者QOL向上に大変有効な治療法であり、咀嚼能率や発音障害、審美障害の改善以外にも、摂食嚥下を助けたり、顎咬合機能を介して体全体のバランス確保にも貢献する。その観点から、本分野で行っている摂食嚥下機能障害改善のための研究と直接関連する。一方で、補綴装置が全身機能に悪影響を与えることもしばしばあり、デンチャーブラークはその代表である。本分野ではデンチャーブラークを抑制するための様々な研究を行っており、本講義ではこれらの内容にも触れる。さらに、補綴装置の安定を損ねる根本的な問題として、顎堤の高度萎縮（吸収）がある。本分野では顎骨そのものを再生医療によって増生する研究を行っており、本講義ではこの内容にも触れる。

■その他

対象学年：4年生

前期は木曜日の2，3，4限目（ただし、7月24日予定前期試験は1限目に予定）

後期は木曜日の1～4限目

■関連する学部・学科ディプロマポリシー

- 1．歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。
- 4．医療の倫理と法の原則に則り、患者中心の歯科医療を実践できる。
- 7．他の歯科医師やコ・デンタル・スタッフと連携してチーム医療を実践するためのコミュニケーション能力を身につけている。
- 9．生涯にわたり自律的に学ぶ習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。

■ 科目名				
口腔外科学(1)				
■ 英語名				
Oral and Maxillofacial Surgery (1)				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
臨床系科目	必修科目	講義	4	7期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
杉原一正、向井 洋、川島清美、山口孝二郎、今村晴幸、松井竜太郎、上川善昭、宮原麻由美、新田哲也、坂元亮一、浜田倫史、非常勤（石澤 隆、中村誠司、大矢亮一）		口腔顎顔面歯科学 顎顔面疾患制御学分野 （旧：口腔外科学1講座）		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6232		sugihara@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
特に時間は指定せず、講義担当教員の研究室で随時対応する。				
■ キーワード				
口腔外科学総論、嚢胞、腫瘍（良性と悪性）、顎関節疾患、唾液腺疾患、全身疾患と口腔病変、手術総論、滅菌、消毒、切開、止血法				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
1. 診察、検査および診断に必要な事項を列記できる。				
2. 歯科治療と全身疾患との関連を理解し説明できる。				
3. 抜歯の適応症と禁忌症を説明できる。				
4. 小手術の偶発症と合併症を説明できる。				
5. 主な炎症を概説できる。				
6. 嚢胞の一般的な症状、検査法および治療法を説明できる。				
7. 良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。				
8. 前癌病変の種類と特徴を列記できる。				
9. 顎骨に発生する歯源性嚢胞を概説できる。				
10. 軟組織に発生する嚢胞の種類と特徴を列記できる。				
11. 歯源性腫瘍の種類と特徴を列記できる。				
12. 腫瘍に対する一般的な治療法を概説できる。				
13. 口腔・顎顔面領域の嚢胞の診断と治療法を説明できる。				
14. エナメル上皮腫の特徴、症状および治療法を説明できる。				
15. エプーリスの特徴、症状および治療法を説明できる。				
16. 白板症の特徴、症状および治療法を説明できる。				
17. 口腔癌の特徴、症状および治療法を説明できる。				
18. 顎関節疾患を概説できる。				
19. 唾液腺腫瘍の種類と特徴を説明できる。				
20. 口腔・顎顔面領域に症状を現す血液疾患とスクリーニング検査法を列記できる。				
21. 口腔・顎顔面領域に症状を現す症候群の種類と症状を列記できる。				
22. 口腔・顎顔面領域に症状を現す系統的骨疾患の症状、診断および治療法を列記できる。				
■ 授業概要				
口腔、顎、顔面ならびに、その隣接組織に現れる先天性ならびに後天性疾患についてその原因、病理、症状、診断、ならびに予後について学習する。また、これらの疾患の診断と治療方針の決定に際し、全身疾患と関連させて理解できる素養およびこれらの疾患の予防に関する知識を学習する。口腔外科学は、歯学における全身疾患との関係が最も重要視される領域であるので、隣接医学と診断学の重要性についても理解を深める。口腔外科学(1)では、特に口腔外科学総論（診断学、徴候学、問診学）、口腔領域に発生する腫瘍と嚢胞、口腔に症状を現す全身疾患、口腔外科学手術総論および各論などを分担している。				
■ 授業計画				
1, 2	口腔外科学総論（診断学）	杉原		
3	口腔外科学総論（徴候学）	向井		
4	口腔外科学総論（医療面接の方法論）	川島		
5	顎関節疾患	向井		
6	腫瘍総論	杉原		

7	嚢胞総論	向井
8	腫瘍総論	杉原
9	嚢胞各論	山口
10	歯源性腫瘍	今村
11	軟組織内嚢胞	松井
12	口腔に症状を現す血液疾患、出血性素因	川島
13	歯源性腫瘍	今村
14	歯性感染症、顎骨骨髓炎	川島
15	前癌病変	上川
16	唾液腺腫瘍	浜田
17,18	試験、非歯源性良性腫瘍	新田
19,20	口腔癌の特徴（癌腫と肉腫）	杉原
21,22	癌の治療法	杉原
23,24	悪性腫瘍の化学療法	川島
25,26	手術学総論（滅菌・消毒法、切開・止血法）	宮原，坂元
27,28	手術学各論（炎症、良性腫瘍、嚢胞の手術）	川島
29,30	悪性腫瘍の手術	向井
31	試験	

■ 予習・復習へのアドバイス

配付された講義予定表と紹介された教科書・参考書をもとに、予習の際に生じた疑問点を講義中に積極的に質問し解決することが望ましい。

■ 教科書

- ・ 佐々木元賢編、口腔外科学、口腔保健協会
- ・ 小野尊睦著、口腔外科学、金芳堂
- ・ 高橋庄二郎、他著、標準口腔外科学、医学書院
- ・ 白川正順、他編、有病者歯科診療、医歯薬出版
- ・ Archer, H.W., Oral and Maxillofacial Surgery, W.B. Saunders Co.

■ 参考書

- ・ 佐々木元賢編、口腔外科学、口腔保健協会
- ・ 小野尊睦著、口腔外科学、金芳堂
- ・ 高橋庄二郎、他著、標準口腔外科学、医学書院
- ・ 白川正順、他編、有病者歯科診療、医歯薬出版
- ・ Archer, H.W., Oral and Maxillofacial Surgery, W.B. Saunders Co.

■ 成績の評価基準

筆記試験（70点）および参加態度（30点）により評価する。なお、筆記試験は講義の前半・後半終了時点で各1回、または、全体を通じて1回のみ行い、平均点が60点以上を合格とする。再試は、1回のみ行う。

■ 再試験の有無

■ 研究活動との関連

■ その他

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

■ 科目名				
口腔外科学(2)				
■ 英語名				
Oral and Maxillofacial Surgery (2)				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
臨床系科目	必修科目	講義・実習	3	7期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
中村典史, 野添悦郎, 比地岡浩志, 大河内孝子, 石畑清秀, 非常勤講義 (園田 悟、篠原正徳、原田英光)		口腔顎顔面外科学分野 (旧: 口腔外科学 2 講座)		
■ 連絡先 (TEL)		■ 連絡先 (MAIL)		
099-275-6242		nakamura@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
毎週, 水曜日午後, 臨床研究棟4F 口腔顎顔面外科第 1 研究室で対応する。				
■ キーワード				
口腔粘膜疾患、炎症性疾患、外傷、唾液腺疾患、神経疾患、顎関節疾患				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
1. 一般的な骨折の種類と特徴および治癒過程を説明できる。				
2. 歯の外傷と顎顔面骨折の原因と種類を列挙できる。				
3. 歯の外傷の症状と検査法を列挙し、診断と治療法を説明できる。				
4. 骨折の治療原則を説明できる。				
5. 口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。				
6. 歯性感染症の原因菌と感染経路を説明できる。				
7. 主な炎症を概説できる。				
8. 口腔・顎顔面領域に症状を現す感染症の種類とその症状を列挙できる。				
9. 主要な抗菌薬の作用、副作用を説明できる。				
10. 唾液腺炎の種類と特徴を説明できる。				
11. 唾石症の特徴、症状および治療法を説明できる。				
12. 三叉神経痛の特徴、症状および治療法を説明できる。				
13. 顔面神経麻痺の特徴、症状および治療法を説明できる。				
14. 顎顔面の慢性疼痛の発症機序と特徴を説明できる。				
15. 顎関節疾患の診断と治療法を説明できる。				
■ 授業概要				
歯科医師として必要な口腔ならびに顎顔面外科学、および口腔外科手術のための全般的知識を教授する。				
1. 口腔、顎、顔面ならびにその隣接組織に現れる先天的ならびに後天的疾患について、その原因、病理、症候、診断、治療および予後について教授する。				
2. 各種疾患の診断と治療方針の決定に際し、全身症状を関連させて理解できる素養、およびこれらの疾患の予防に関する知識を身につけるよう教育する。				
■ 授業計画				
1	炎症性疾患 1 総論	中村 (典)		
2	炎症性疾患 2 歯性感染症 1	中村 (典)		
3	炎症性疾患 3 上顎洞炎, 特殊性炎	中村 (典)		
4	炎症性疾患 4 抗生物質と消炎剤	中村 (典)		
5	口腔粘膜疾患 1 総論	野添		
6	口腔粘膜疾患 2 各論 1	野添		
7	口腔粘膜疾患 3 各論 2	野添		
8	口腔粘膜疾患 4 各論 3	野添		
9	外傷 1 総論	大河内		
10	外傷 2 軟組織外傷、歯の外傷	大河内		
11	外傷 3 下顎骨骨折	大河内		
12	外傷 4 上顎骨、顔面骨骨折	大河内		
13	唾液腺疾患 1	比地岡		
14	唾液腺疾患 2	比地岡		
15	唾液腺疾患 3	比地岡		

16	唾液腺疾患 4	比地岡
17	神経疾患 1	中村（典）
18	神経疾患 2	中村（典）
19	心因性病態	中村（典）
20	顎口腔領域の再建術	篠原
21	顎関節症の臨床	園田
22	顎関節疾患総論	中村（典）
23	顎関節の炎症，腫瘍・強直症	中村（典）
24	歯の発生の分子生物学	原田
25	期末試験	中村（典）
■ 予習・復習へのアドバイス		
毎回の授業にあたっては、講義テーマに該当する内容を教科書にて予習しておくこと。 授業では、毎回、その回の内容をまとめたプリントを配付するので、必要事項を適宜プリントに記入し、授業内容の理解に努めること。このプリントと教科書を活用して、よく復習すること。		
■ 教科書		
口腔外科学、第 3 版、医歯薬出版、東京、2010		
■ 参考書		
一からわかる口腔外科疾患の診断と治療、医歯薬出版、東京、2006、 他		
■ 成績の評価基準		
2/3以上出席した者に対し，半期毎の講義の最終回に筆記試験を行う。 評価は期末試験（100点満点）を行い、合計60点以上を合格とする。		
■ 再試験の有無		
■ 研究活動との関連		
■ その他		
授業計画は講師の都合により変更をすることがある。		
■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー		

■ 科目名				
歯科麻酔学				
■ 英語名				
Dental Anesthesiology				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
臨床系科目	必修科目	講義	2	6期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
梶山加綱、梶谷 淳、真鍋庸三、平成26年度非常勤 上村裕一		顎顔面機能再建学講座 歯科麻酔全身管理学分野 全身管理歯科治療部		
■ 連絡先 (TEL)		■ 連絡先 (MAIL)		
099-275-6561, 6288		sugi@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワ -				
特に時間は指定せず、3 階歯科麻酔全身管理学分野研究室で随時対応する。				
■ キーワード				
局所麻酔、全身麻酔、全身管理、基礎疾患、救急処置、バイタルサイン				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
G10 (一般目標) :				
歯科治療における全身管理、精神鎮静法、局所麻酔および全身麻酔の基本を理解する。【E-1-3)】				
SBO (個別目標) :				
1. バイタルサインを列挙し、説明できる。	【E-1-3)-(1)-(1)】			
2. 血圧を測定できる。	【E-1-3)-(1)-(2)】			
3. 脈拍の状態を把握できる。	【E-1-3)-(1)-(3)】			
4. 呼吸の状態を把握できる。	【E-1-3)-(1)-(4)】			
5. 精神鎮静法の目的と概要を説明できる。	【E-1-3)-(2)-(1)】			
6. 吸入鎮静法の適応と禁忌を説明できる。	【E-1-3)-(2)-(2)】			
7. 静脈内鎮静法の適応と禁忌を説明できる。	【E-1-3)-(2)-(3)】			
8. 局所麻酔薬の目的を説明できる。	【E-1-3)-(3)-(1)】			
9. 局所麻酔薬を分類し、その作用機序を説明できる。	【E-1-3)-(3)-(2)】			
10. 局所麻酔作用に影響を及ぼす因子を説明できる。	【E-1-3)-(3)-(3)】			
11. 血管収縮薬の種類と特徴を説明できる。	【E-1-3)-(3)-(4)】			
12. 局所麻酔法の種類と特徴を説明できる。	【E-1-3)-(3)-(5)】			
13. 全身麻酔の目的を説明できる。	【E-1-3)-(4)-(1)】			
14. 全身麻酔の適応と禁忌を説明できる。	【E-1-3)-(3)-(2)】			
15. 全身麻酔時の周術期の管理を説明できる。	【E-1-3)-(3)-(3)】			
16. 意識レベル、呼吸および脈拍の状態を把握できる。	【E-1-5)-(2)】			
17. 気道閉塞および気道確保法を説明できる。	【E-1-3)-(3)】			
18. 呼吸吹き込みによる人工呼吸を説明できる。	【E-1-3)-(4)】			
19. 胸骨圧迫と自動体外式如才動悸(AED) の操作を実施できる。	【E-1-3)-(5)】			
20. 高齢者の歯科治療時の全身管理を説明できる。	【E-1-3)-(6)】			
21. 顎顔面領域の疼痛の種類を説明できる。	【C-4-6)-(1)】			
22. 顎顔面領域の疼痛の発生機序を説明できる。	【C-4-6)-(2)】			
22. 顎顔面領域の疼痛の制御方法を説明できる。	【C-4-6)-(3)】			
23. 日帰り全身麻酔の概要を説明できる。	【E-1-3)-(4)-(1)】			
24. 障害者歯科治療時の全身管理を説明できる。	【E-1-3)-(1)-(8)】			
なお、バイタルサイン、全身評価法、局所麻酔薬、局所麻酔法、局所麻酔時の局所的および全身的偶発症、基礎疾患を有する歯科患者の全身管理法、心肺蘇生法、障害者の全身麻酔法、ペインクリニックなどは統合系科目において教授する。				
■ 授業概要				
歯科麻酔の業務は、全身的あるいは局所的に疼痛を一時的かつ可逆的に取り除くこと、口腔領域の手術や歯科治療に対する不安や恐怖に対して精神鎮静法を施行すること、麻酔中や歯科治療中における患者の生命を安全に維持するよう全身状態を管理し、全身的偶発症発生時には救急処置を行うことなどである。このような観点から、				

歯科麻酔学の授業では、口腔外科手術ならびに障害者歯科治療時の全身麻酔法、歯科診療に関連した精神鎮静法、周術期管理法などに関する知識の習得を目的とする。特に、高齢化社会の進展と医療技術の進歩に伴い内科的基礎疾患を有する高齢の歯科患者の急増と最近の歯科医療事故の増加を考慮して、歯科治療時の全身管理学に関する知識と技術に重点を置いた講義を行う。

■ 授業計画

(回)	(日時)	(講義室)	(内容)	(担当者)
1	10 / 7 (火) 2限	2講	麻酔に必要な循環生理学	梶山
2	10 / 14 (火) 2限	2講	麻酔に必要な呼吸生理学	梶山
3	10 / 21 (火) 2限	2講	麻酔に必要な酸塩基平衡	梶山
4	10 / 28 (火) 2限	2講	笑気吸入鎮静法	梶谷
5	11 / 4 (火) 2限	2講	静脈内鎮静法	梶谷
6	11 / 11 (火) 2限	2講	吸入麻酔薬	梶谷
7	11 / 18 (火) 2限	2講	静脈内麻酔薬	梶谷
8	11 / 25 (火) 2限	2講	気管内挿管法	梶谷
9	12 / 2 (火) 2限	2講	筋弛緩薬	梶谷
10	12 / 9 (火) 2限	2講	術前管理	梶谷
11	12 / 16 (火) 2限	2講	術中管理	梶谷
12	1 / 6 (火) 2限	2講	術後管理	梶谷
13	1 / 13 (火) 2限	2講	日帰り全身麻酔	真鍋
14	1 / 20 (火) 2限	2講	小児麻酔	真鍋
15	1 / 27 (火) 2限	2講	高齢者の麻酔	真鍋
16	2 / 3 (火) 2限	2講	麻酔学総論	非常勤講師(上村)

なお、下記の講義は統合系科目で実施する(統合系科目(救急歯科医学)シラバスを参照のこと)。

- 17 局所麻酔薬(統合系科目)
- 18 局所麻酔法(統合系科目)
- 19 局所的偶発症(統合系科目)
- 20 全身的偶発症(統合系科目)
- 21 誤嚥誤飲事故(統合系科目)
- 22 救命救急処置(統合系科目)
- 23 一次救命処置・BLS(統合系科目)
- 24 障害者の全身麻酔(統合系科目)
- 25 ペインクリニック(統合系科目)
- 26 バイタルサイン(統合系科目)
- 27 循環器疾患と全身管理(統合系科目)
- 28 呼吸器疾患と全身管理(統合系科目)
- 29 内分泌疾患と全身管理(統合系科目)

■ 予習・復習へのアドバイス

毎回の授業にあたっては、講義テーマに該当する内容を教科書にて予習しておくこと。授業では、原則として、その回の内容をまとめたプリントを配布するので、必要事項を適宜プリントに記入し、授業内容の理解に努めること。このプリントと教科書および参考書を活用して、よく復習すること。

■ 教科書

- ・丹羽 均ほか編、臨床歯科麻酔学、永末書店
- ・嶋田昌彦ほか編、歯科麻酔実践ガイド、医歯薬出版

■ 参考書

- ・金子 譲ほか編、歯科麻酔学、医歯薬出版
- ・梶山加綱著、新歯科全身管理学、日本歯科新聞社
- ・梶山加綱ほか編、ヒヤリハット、こんなときどうする?、永末書店
- ・梶山加綱著、有病高齢者歯科治療のガイドライン、クインテッセンス出版

■ 成績の評価基準

原則として、すべての講義に出席したものにのみ受験資格を与える。

試験結果、授業への参加態度、問題解決に対する積極的態度などを加味して総合的に評価する。

(試験成績: 60点、授業への参加態度: 20点、問題解決に対する積極的態度: 20点)

■ 再試験の有無

原則として、本試験不合格者には再試験を行う機会を与える。

■ 研究活動との関連

歯科麻酔学の講義は歯科臨床に役立つのみならず、歯科麻酔研究活動との関連性を有しており、講義の中において、最近の研究活動の成果についても講義する。

■ その他

積極的に講義に出席して、講義内容を理解することが重要である。不明な点があれば、講義を行った講師に質問する態度が必要です。授業計画は講師の都合により変更することがある。

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

- 6．安全管理や危機管理能力を備え、医療事故の防止や適格な感染対策の知識を有している。
- 9．生涯にわたり自律的に学ぶ習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。

■ 科目名				
歯科矯正学				
■ 英語名				
Orthodontics and Dentofacial Orthopedics				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
臨床系科目	必修科目	講義・演習・実習	4.5	7-8期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
宮脇 正一、八木 孝和、大牟禮 治人、山本 芳丈、友成 博、前田 綾、永山 邦宏、植田 紘貴、國則 貴玄		歯科矯正学分野 (旧：顎顔面育成学分野)		
■ 連絡先 (TEL)		■ 連絡先 (MAIL)		
099-275-6252		miyawaki@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
時間は指定しない。随時4Fの歯科矯正学分野第3研究室で対応する。				
■ キーワード				
成長発育、不正咬合の成因、症例分析および診断、生体力学、矯正装置の作用機序				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
< 一般目標 >				
不正咬合の成因とこれに影響を及ぼす先天的・後天的因子、顎口腔機能や心身機能等との関わり、診査・検査方法および診断・治療方法および基本的な態度を習得する。 【E - 4 - 1）】				
< 到達目標 >				
1) 歯科矯正学と矯正歯科治療の意義を説明できる。 【E - 4 - 1）- 1】				
2) 発達段階、暦齢と生理的（生物学的）年齢、臓器特有の成長発育パターン、個体の成長発育の客観的評価法、骨の成長様式、頭蓋冠・脳頭蓋底の発生・成長発育・成長構造について説明できる。 【E - 4 - 1）- 2】				
3) 顔面頭蓋の出生前（胎児期）の顔の形成（発生）とその異常、出生後の顔の成長発育を説明できる。 【E - 4 - 1）- 2】				
4) 鼻上顎複合体・下顎の発生、成長発育、成長機構について説明できる。 【E - 4 - 1）- 2】				
5) 歯の形成、萌出、交換、乳歯列・乳歯咬合およびその発育について説明できる。 【E - 4 - 1）- 2】				
6) 混合歯列期に生じる成長発育に関わる現象と永久歯列の完成とその前後の変化について説明できる。 【E - 4 - 1）- 2】				
7) 咬合発育段階を説明できる。 【E - 4 - 1）- 2】				
8) 正常咬合の概念および成立の条件と不正咬合の種類・分類法・先天的原因・後天的原因を列挙できる。 【E - 4 - 1）- 2】				
9) 不正咬合の予防法の説明および不正咬合によって生じる障害を列挙できる。 【E - 4 - 1）- 3】				
10) 矯正臨床における診察、全身的検査、形態検査、機能検査、機能分析について説明できる。 【E - 4 - 1）- 4】				
11) 模型分析とセファロ分析および診察・検査資料・分析結果から不正咬合の診断ができる。 【E - 4 - 1）- 4】				
12) 矯正治療における抜歯について説明できる。 【E - 4 - 1）- 4】				
13) 不正咬合の治療目標および治療計画の立案ができる。 【E - 4 - 1）- 4】				
14) 乳歯・混合歯列期・永久歯列期の矯正歯科治療を説明できる。 【E - 4 - 1）- 4】				
15) 口唇・口蓋裂、顎顔面の先天異常に伴う不正咬合の矯正歯科治療を説明できる。 【E - 4 - 1）- 4】				
16) 顎変形症の矯正歯科治療を説明できる。 【E - 4 - 1）- 4】				
17) 歯周病を伴う不正咬合の矯正歯科治療について説明できる。 【E - 4 - 1）- 4】				
18) 顎関節症を伴う不正咬合の矯正歯科治療について説明できる。 【E - 4 - 1）- 4】				
19) 筋機能療法について説明できる。 【E - 4 - 1）- 4】				
20) 矯正歯科治療における口腔衛生管理について説明できる。 【E - 4 - 1）- 4】				
21) 器械的・機能的・固定式・可撤式矯正装置とマルチブラケット装置の種類と使用法を説明できる。 【E - 4 - 1）- 5】				
22) 保定装置の種類と使用法について説明できる。 【E - 4 - 1）- 5】				
23) 矯正用器械・器具ならびに材料の種類と使用法について説明できる。 【E - 4 - 1）- 5】				
24) 矯正技工の基本的な手技を行うことができる。 【E - 4 - 1）- 6】				
25) 矯正装置の使用・管理法について説明できる。 【E - 4 - 1）- 6】				

- 26) 保定の意義と定義を説明できる。【E - 4 - 1) - 6】
- 27) 矯正力の種類・大きさ・作用様式について説明できる。【E - 4 - 1) - 7】
- 28) 矯正治療における固定の種類・固定の抵抗の性質・抜歯空隙利用のための固定の種類を説明できる。【E - 4 - 1) - 7】
- 29) 歯の移動に伴う歯槽骨の骨改造と歯根膜の改造、生理的な歯の移動について説明できる。【E - 4 - 1) - 8】
- 30) 矯正的な歯の移動、顎整形力による顎骨、顎関節での反応、適切な矯正力による反応を説明できる。【E - 4 - 1) - 8】
- 31) 矯正治療による為害作用について説明できる。【E - 4 - 1) - 9】

■ 授業概要

咬合は咀嚼器官の一部を形成し、呼吸、咀嚼、嚥下、発音などの口の機能に直接関わるほか、顔の審美性とも密接な関係がある。本授業では咬合の発達を全身および顎顔面頭蓋の成長過程と関連づけて理解し、不正咬合の成り立ちとこれに影響を及ぼす先天的・後天的因子、顎口腔機能や心身機能等との関わり、診査・検査方法および診断・治療方法について学習する。また、社会に求められている優れた歯科医師としての基本的な態度、知識、技能を修得することを目的とする。

■ 授業計画

(回)	(日時)	(講義室)	(内容)	(担当者)
1	4/ 9 (水) 1限	1講	歯科矯正学総論・各論 宮脇1	宮脇
2	4/11 (金) 1限	1講	歯科矯正学各論等 宮脇2	宮脇
3	4/16 (水) 1限	1講	歯科矯正学各論等 宮脇3	宮脇
4	4/18 (金) 1限	1講	歯科矯正学各論等 宮脇4	宮脇
5	4/23 (水) 1限	1講	歯科矯正学各論等 宮脇5	宮脇
6	4/25 (金) 1限	1講	歯科矯正学各論等 宮脇6	宮脇
7	5/ 7 (水) 1限	1講	成長	永山
8	5/ 9 (金) 1限	1講	咬合と原因	友成
9	5/14 (水) 1限	1講・1示説	Problem Based Learning(PBL)演習1	宮脇・山本
10	5/16 (金) 1限	1講	歯科矯正学各論等 宮脇7	宮脇
11	5/21 (水) 1限	1講	歯科矯正学各論等 宮脇8	宮脇
12	5/23 (金) 1限	1講	歯科矯正学各論等 宮脇9	宮脇
13	5/28 (水) 1限	1講	歯科矯正学各論等 宮脇10	宮脇
14	5/30 (金) 1限	1講	中間試験	宮脇・山本
15	6/ 4 (水) 1限	1講	歯科矯正学各論等 宮脇11	宮脇
16	6/ 6 (金) 1限	1講・1示説	PBL演習2	山本
17	6/11 (水) 1限	1講	生体反応・力学	山本
18	6/13 (金) 1限	1講	診断・検査・治療計画	八木
19	6/18 (水) 1限	1講	装置	前田
20	6/20 (金) 1限	1講	混合歯列期・永久歯列期の矯正治療	大牟禮
21	6/25 (水) 1限	1講	保定・他科との連携・偶発症	国則
22	6/27 (金) 1限	1講	矯正器具	植田
23	7/ 2 (水) 1限	1講・1示説	PBL演習3	山本
24	7/ 3 (木) 1限	1示説	特別講義	非常勤講師(杉村)
25	7/ 7 (月) 1限	1示説	特別講義	非常勤講師(小野)
26	7/11 (金) 1限	1示説	特別講義	非常勤講師(伊藤)
27	7/16 (水) 1限	1講・1示説	PBL演習4	山本
28	7/18 (金) 1限	1示説	特別講義(予定)	非常勤講師(大勝)
29	7/23 (水) 1限	1講・1示説	PBL演習5	山本
30	7/25 (金) 1限	1示説	特別講義(予定)	非常勤講師(迫田)
31	9/ 3 (水) 1限	1講・1示説	PBL演習6【発表】	宮脇・山本
32	9/ 5 (金) 1限	1講	期末試験	宮脇・山本
33	9/10 (水) 1限	1講	歯科矯正学各論等 宮脇12	宮脇
	9/12 (金) 1限	1示説	予備日	
	9/17 (水) 1限	1示説	予備日	
34	9/19 (金) 1限	1示説	予備日(再試験)	宮脇・山本

	9/24 (水) 1限	1 示説	実習材料購入 (予定)	販売業者
	9/26 (金) 1限	1 示説	予備日	
35	10/ 6(月) 1-2限	第1実習室	実習A-1	全教員
36	10/27(月) 1-2限	第1実習室	実習A-2	全教員
37	11/10(月) 1-2限	第1実習室	実習A-3	全教員
38	11/17(月) 1-2限	第1実習室	実習A-4	全教員
39	12/ 1(月) 1-2限	第1実習室	実習A-5	全教員
40	12/ 8(月) 1-2限	第1実習室	実習B-1	全教員
41	12/15(月) 1-2限	第1実習室	実習B-2	全教員
42	12/22(月) 1-2限	第1実習室	実習B-3	全教員
43	1/ 5 (月) 1-2限	第1実習室	実習B-4	全教員
44	1/19 (月) 1-2限	第1実習室	実習B-5	全教員
45	1/26 (月) 1-2限	第1実習室	実習A・B評価	全教員

講義日程、担当教員、講義室の一部は、変更となる場合がある。掲示板を各自、確認すること。

■ 予習・復習へのアドバイス

指示した教科書を参考に予習・復習を行うこと。顔面頭蓋の成長過程、顎骨・歯周組織の静力学の理解には、口腔解剖学、口腔組織学、口腔生理学、口腔病理学、歯科理工学等の十分な習得が望ましい。

■ 教科書

各自購入し、講義・実習の際に必ず持参すること（下記3冊）。

- ・『第5 版歯科矯正学』、相馬邦道ら編集、医歯薬出版、東京、2008.
- ・『新歯科技工士教本 矯正歯科技工学』、全国歯科技工士教育協議会 編集、医歯薬出版、東京、2007.
- ・『Elements of Orthodontics 高田の歯科矯正の学び方』、高田健治 編著、メデジットコーポレーション、大阪、2010.

■ 参考書

図書館等で学習の参考とすることが望ましい（下記3冊）。

- ・『実践インプラント固定による矯正歯科治療』、山本照子 宮脇正一 訳、砂書房、東京、2006.
- ・『新版プロフィットの現代歯科矯正学』、Proffit W.R. 編著、高田健治訳、クインテッセンス、東京、2004.
- ・『Orthodontics, Current Principles and Techniques (4th edition)』, Graber, T.M. & Swain B. F., 編著 C. V. Mosby, St. Lois, Toronto, Princeton, 2005.

■ 成績の評価基準

【各評価の割合】

- ・試験：75%程度
- ・装置作製実習・口頭試問（技工物）、PBL 演習・発表、レポート、出席状況等：25%程度

■ 再試験の有無

実施する。

■ 研究活動との関連

昨年制定された歯科口腔保健法に記載されているように、超高齢・少子化社会の到来に伴い、口腔の健康と全身の健康との関わりを解明する学際的な研究が急務となっている。そこで、当分野では、このような社会の要請に応えるために、これまで行ってきたブラキシズムと胃食道逆流との関連性の研究をさらに発展させた「口腔と上部消化器との関連性を解明する研究」を柱として、下記のような臨床研究と基礎研究を行っている。また、現在、歯科矯正臨床で最も注目されており、かつ私共がこれまで先進的に行ってきた「インプラント矯正に関する研究」をもう一つの柱として、矯正臨床に関する研究も行っている。

■ その他

【試験の受験資格】鹿児島大学歯学部授業、試験および進級に関する細則第6 条に基づき、原則として講義、演習および実習のすべてに出席した者に、試験の受験資格を与える。

【実習材料】実習用の一部の材料（消耗品等）については一括購入し、各自負担とする。費用は別途指示する。

■ 服装や態度について

- * 清潔な服装、身なりに注意し、挨拶および医療人として相応しい態度で実習に臨むこと。
- * 診療見学中の私語や質問は原則として禁止する。質問等は診療終了後に行うこと。
- * 診療や患者さんの迷惑にならないように心がけること。
- * 手袋は透明な「学生実習用」を使用すること。
- * 実習態度に問題がある学生は実習停止とする。

■ 欠席について

* 遅刻をしないこと。

病欠など理由がある場合は、必ず歯学教務係および歯科矯正学分野医局（TEL：099-275-6252）に連絡すること。

■ 持参物

* 実習で使用するため、各自、分度器、定規、鉛筆、消しゴムを持参のこと。

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

1．歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。

4．医療の倫理と法の原則に則り、患者中心の歯科医療を実践できる。

7．他の歯科医師やコ・デンタル・スタッフと連携してチーム医療を実践するためのコミュニケーション能力を身につけている。

■ 科目名				
小児歯科学				
■ 英語名				
Pediatric Dentistry				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
臨床系科目	必修科目	講義・実習	4.5	7-8期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
山崎要一，岩崎智恵，佐藤秀夫，深水 篤，稲田絵美，武元嘉彦，窪田直子，橋口真紀子，菅 北斗，非常勤講師（嘉ノ海龍三，川畑正樹，石谷徳人，重田浩樹），梶原和美（心身歯科学分野）		発生発達教育学 小児歯科学分野		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6262		小児歯科学分野 <shounisi@dent.kagoshima-u.ac.jp>		
■ オフィスアワ -				
時間は指定しない。5 F 分野研究室で随時対応する。				
■ キーワード				
全身および顎顔面の成長発育、歯・歯列・咬合の発育と異常、小児患者への対応法、乳歯・幼若永久歯の齲蝕診断と治療法、外傷歯の診断と対応法、口腔習癖の診断と対応法、低年齢児の歯列咬合異常の診断と対応法、小児期に特徴的な口腔小手術、障害児・者の歯科的対応法、障害児・者の接触嚥下異常と訓練				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
G10: 小児の発育発達における特徴、歯科的対応法、歯科疾患の診断、治療法を学習し、小児の健全な顎口腔機能を育成するための理論と方法を習得する。 【E-4-2)】				
SB0: 1．小児の心身の発育を説明できる。【E-4-2)-1】 2．出生後の発育における全身発育、小児の生理的特徴、頭蓋顎顔面の発育、精神発達、歯の発育、歯列および咬合の発育を説明できる。【E-4-2)-1】 3．乳歯および幼若永久歯の齲蝕の特徴を説明できる。【E-4-2)-2】 4．小児における口腔軟組織の異常とその対応法を説明できる。【E-4-2)-7】 5．小児患者への対応法を説明できる。【E-4-2)-10】 6．小児の口腔疾患の診察法と診断について説明できる。【E-4-2)-3,5】 7．口腔の管理計画を説明できる。【E-4-2)-1,2,3,5,7,10】 8．歯冠修復法において、レジン修復、鑄造修復、乳歯冠を説明できる。【E-4-2)-4】 9．乳歯および幼若永久歯の歯内療法を説明できる。【E-4-2)-6】 10．小児歯科における外科的処置を説明できる。【E-4-2)-7】 11．乳歯および幼若永久歯の外傷とその対応法を説明できる。【E-4-2)-7】 12．咬合誘導の概念と術式を説明できる。【E-4-2)-8】 13．障害児・者の歯科的対応を説明できる。【E-4-4)-2】				
■ 授業概要				
小児歯科学は、成長発育の過程にある小児を対象とする歯学の一分野であり、小児の口腔領域の形態と機能の発育を基礎に、小児の全身的成長と保健に寄与する臨床歯学である。胎児期から成人に至るまでの口腔領域の健康を維持し増進させるために、疾病や異常を予防し治療するとともに、口腔の定期的健康管理を行い、健全な顎口腔機能を育成するための理論と方法を修得することを目的とする。これらを小児および障害児・者を対象に実践する。				
■ 授業計画				
(回)	(日時)	(講義室)	(内容)	(担当者)
前期講義				
1, 2	4/ 7 (月) 3・4限	1 講	小児歯科学 序論	山崎
3	4/14 (月) 3限	1 講	心身の発育の基本概念	山崎
4	4/14 (月) 4限	1 講	全身発育，小児の生理的特徴	山崎
5	4/21 (月) 3限	1 講	頭蓋顎顔面の発育	岩崎
6	4/21 (月) 4限	1 講	精神発達	梶原

7, 8	4/28 (月) 3・4限	1 講	歯の発育と異常	山崎
9,10	5/12 (月) 3・4限	1 講	歯列および咬合の発育	山崎
11	5/19 (月) 3限	1 講	乳歯および幼若永久歯の齲蝕	山崎
12	5/19 (月) 4限	1 講	小児の口腔軟組織疾患	岩崎
13	5/26 (月) 3限	1 講	小児患者への対応法	山崎
14	5/26 (月) 4限	1 講	診察・診断	岩崎
15,16	6/ 2 (月) 3・4限	4 講	総論試験	山崎・他
17	6/ 9 (月) 3限	1 講	口腔の管理計画, 診療姿勢と前準備	岩崎
18	6/16 (月) 3限	1 講	レジン修復	稲田
19	6/23 (月) 3限	1 講	インレー修復	稲田
20	6/30 (月) 3限	1 講	乳歯冠	岩崎
21	7/ 7 (月) 3限	1 講	乳歯および幼若永久歯の歯内療法	岩崎
22	7/14 (月) 3限	4 講	特別講義	重田 (山崎)
23	9/ 1 (月) 3限	1 講	小児の顎口腔機能	稲田
24	9/ 8 (月) 3限	4 講	特別講義	石谷
後期講義				
25,26	10/ 7 (火) 3・4限	3 講	課題への取り組み (学生発表会)	山崎・他
27	10/14 (火) 3限	1 講	乳歯・幼若永久歯の外傷	山崎
28	10/14 (火) 4限	1 講	小児歯科における外科的処置	山崎
29,30	10/21 (火) 3・4限	1 講	障害児・者の歯科治療	稲田
31,32	10/28 (火) 3・4限	1 講	咬合誘導の概念と術式	山崎
33	11/ 4 (火) 3限	3 講	特別講義	川畑
34	11/ 4 (火) 4限	3 講	口唇口蓋裂児の哺乳指導	深水
35,36	11/11 (火) 3・4限	1 講	小児・障害児の摂食嚥下リハビリテーション	佐藤
37	11/18 (火) 3限	3 講	特別講義	嘉ノ海
38	11/18 (火) 4限	3 講	児童虐待と小児歯科	窪田
39,40	11/25 (火) 3・4限	1 講	予備日 (特別講義)	
41,42	12/ 2 (火) 3・4限	3 講	各論試験	山崎・他
模型実習				
1	10/ 7 (火) 1・2限	3 実	準備, 診療姿勢, ラバーダム装着	
2	10/14 (火) 1・2限	3 実	ラバーダム装着 (確認テスト) ならびにシーラント	
3	10/21 (火) 1・2限	3 実	コンボジットレジン修復	
4	10/28 (火) 1・2限	3 実	生活歯髄切断	
5	11/ 4 (火) 1・2限	3 実	乳歯冠装着	
6	11/11 (火) 1・2限	3 実	総合復習ならびに窩洞形成シミュレーション評価	
7	11/18 (火) 1・2限	3 実	実習 (実技) 試験	
8	11/25 (火) 1・2限	3 実	保険装置作成	
9	12/ 2 (火) 1・2限	3 実	歯型彫刻 (宿題評価) ならびに窩洞形成シミュレーション評価	
担当: 全教員 (本年度は試験的に当分野の教員経験者OBの参加も予定している)				
注) 詳細な講義日程情報は、授業初日に印刷物を配布して説明予定である。				
■ 予習・復習へのアドバイス				
講義テーマに該当する内容を教科書で予習しておく。				
授業では、各回の内容をまとめたプリントを配付するので、必要事項を適宜プリントに記入し、授業内容の理解に努める。また、復習後の疑問点は質問する。				
■ 教科書				
【書 籍】				
・小児歯科学 第4版 (編者 高木裕三, 田村康夫, 井上美津子, 白川哲夫), 医歯薬出版, 2011 (総ページ数: 427頁)。				
■ 参考書				
【書 籍】				

- ・赤坂守人、西野瑞穂：小児歯科学 第3版，医歯薬出版，2007．
- ・長坂信夫・祖父江鎮雄・中田 稔（編著）：新小児歯科学，医歯薬出版，2001．

【学術雑誌】

- ・小児歯科学雑誌
- ・Pediatric Dental Journal

■ 成績の評価基準

基本的には下記の割合として、総合的に判断する。

1) 総論試験と各論試験：80%程度

但し、総論試験ならびに各論試験は、それぞれ60%以上得点していることを原則とする。

2) 実習小テストと実習試験ならびに提出物、学生による課題発表成績、授業参加態度、特別講義のレポート、出席状況など：20%程度

■ 再試験の有無

最終試験として一度だけ実施する。

■ 研究活動との関連

小児期の咬合異常と咀嚼機能発達との関連性、気道通気障害と顎発育ならびに睡眠時無呼吸症との関連性、障害児・者の摂食嚥下障害とその対応など、当分野の臨床的研究成果について、関連する講義テーマの中で解説する場合がある。

■ その他

【試験の受験資格】 鹿児島大学歯学部授業、試験および進級に関する細則第6条に基づき、原則として講義と実習のすべてに出席した者に、試験の受験資格を与える。

【実習材料】 実習用の一部の材料（消耗品等）については各自負担とする。費用は別途指示する。

欠席について

- ・遅刻をしないこと。
- ・病欠など正当な理由がある場合は、必ず歯学教務係および小児歯科学分野 医局（TEL：099-275-6262）に連絡すること

注）講師の都合により授業計画の順番を変更する場合がある。

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

- 1．歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。
- 3．口腔疾患を全身疾患の一つとしてとらえ、幅広い医学的知識に基づくプライマリ・ケアを実践するための基本的な臨床能力を身につけている。
- 7．他の歯科医師やコ・デンタル・スタッフと連携してチーム医療を実践するためのコミュニケーション能力を身につけている。

■ 科目名				
歯科放射線学				
■ 英語名				
Dental Radiology				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
臨床系科目	必修科目	講義・実習	3.5	6期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
馬嶋秀行、佐藤強志、末永重明、犬童寛子、河野一典、川畑義裕、富田和男		顎顔面放射線学分野（旧：歯科放射線学講座）		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
馬嶋秀行（099-275-6270） 佐藤強志（099-275-6271）		（各教員）@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
とくに時間は指定せず、4階講座研究室で随時対応する。				
■ キーワード				
エックス線、エックス線の発生、エックス線撮影、エックス線写真、画像診断、放射線治療、放射線生物				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
G10:				
1．歯科領域疾患の検査機器、検査原理、検査法、診断法を理解・習得する。				
2．放射線の人体への影響、放射線防護を理解・習得する。				
3．放射線の細胞生物学的作用、放射線治療を理解・習得する。				
SB0:				
1．放射線の定義、種類と性質、発生メカニズム、単位を説明できる。【F-1-2)-1】				
2．放射線の種類と状況に即した測定機器の種類と使用法の説明および選択ができる。【F-1-2)-1,5】				
3．放射線の人体への影響について身体的影響と遺伝的影響、早期影響と晩期影響、確率的影響と確定的影響に関して説明でき、ICRP勧告を理解し、防護の三原則を実践できる。【F-1-2)-2,3】				
4．歯科エックス線撮影について、検査の必要性、被曝、影響を患者に簡潔に説明できる。【F-1-2)-6,7,8】				
5．口内法エックス線撮影とパノラマエックス線撮影について、種類と適応の説明、画像の形成原理の説明ができ、撮影を実施できる。【F-1-2)-6,7】				
6．頭部エックス線撮影法の種類と適応を説明できる。【F-1-2)-8】				
7．CT、MRI、超音波、核医学、デジタル検査、造影検査の原理と適応を説明できる。【F-1-2)-9】				
8．患者の臨床所見から画像診断の必要性を判断し、適切な画像検査法を選択できる。【F-1-2)-6,7,8】				
9．画像が診断に適切か否かを判断し対処できる。【F-1-2)-4】				
10．正常なエックス線解剖を説明し、画像から異常所見を検出し所見を適切に表現できる。【F-2-1)-1,2,5】				
11．口腔頭蓋顎顔面に発症する疾患名を列挙し特徴的画像所見を説明できる。【F-2-4）】				
12．画像から病理学的所見を予測し鑑別診断を述べ、所見を患者やCo-workerに説明できる。【F-2-4)-1,2,3,4,5,6,7,8】				
13．腫瘍の放射線感受性、放射線治療の種類と特徴、複数の治療法における放射線治療の適応を説明できる。【F-1-2)-2,3】				
14．口腔組織への放射線の影響を理解し、放射線治療における口腔ケアと患者のQOLを説明できる。【F-1-2)-2,3】				
■ 授業概要				
歯科医学における歯科放射線学の役割は顎顔面領域疾患の放射線学的診断及び治療である。この観点から、放射線学的診断及び治療に関わる基礎的及び臨床的事項について講義する。基礎的知識としては放射線の発生と性質、画像の成立、写真処理、生物学的作用、放射線障害と防護、放射線解剖学など、また臨床的知識としては撮影法、読影、診断学、治療学などである。				
■ 授業計画				
（2014年度スケジュール予定）				
（回）	（日時）	（講義室）	（内容）	（担当）
1	10/02（木）1限	1講	放射線の種類・性質	佐藤

2	10/03 (金) 1限	1 講	エックス線の装置・発生	佐藤
3	10/03 (金) 2限	1 講	エックス線と物質との相互作用 (1)	佐藤
4	10/09 (木) 1限	1 講	エックス線と物質との相互作用 (2)	佐藤
5	10/10 (金) 1限	1 講	X線像の成立・フィルム・増感紙	佐藤
6	10/10 (金) 2限	1 講	口内撮影法	犬童
7	10/16 (木) 1限	1 講	口外撮影法	犬童
8	10/17 (金) 1限	1 講	断層・パノラマ撮影法	佐藤
9	10/17 (金) 2限	1 講	デジタル撮影法・CT撮影法	犬童
10	10/23 (木) 1限	1 講	核医学検査法	佐藤
11	10/24 (金) 1限	1 講	超音波検査法	犬童
12	10/24 (金) 2限	1 講	MR検査法	末永
13	10/30 (木) 1限	1 講	エックス線解剖 (1)	末永
14	10/31 (金) 1限	1 講	エックス線解剖 (2)	末永
15	10/31 (金) 2限	1 講	顎関節	末永
16	11/06 (木) 1限	1 講	系統疾患	末永
17	11/07 (金) 1限	1 講	外 傷	末永
18	11/07 (金) 2限	1 講	嚢 胞 (1)	佐藤
19	11/13 (木) 1限	1 講	嚢 胞 (2)	佐藤
20	11/14 (金) 1限	1 講	嚢 胞 (3)	佐藤
21	11/14 (金) 2限	1 講	炎 症	佐藤
22	11/20 (木) 1限	1 講	唾液腺 (1)	佐藤
23	11/21 (金) 1限	1 講	唾液腺 (2)	佐藤
24	11/21 (金) 2限	1 講	唾液腺 (3)	佐藤
25	11/28 (金) 1限	1 講	良性腫瘍 (1)	佐藤
26	11/28 (金) 2限	1 講	良性腫瘍 (2)	佐藤
27	12/05 (金) 1限	1 講	良性腫瘍 (3)	佐藤
28	12/05 (金) 2限	1 講	悪性腫瘍 (1)	末永
29	12/12 (金) 1限	1 講	悪性腫瘍 (2)	末永
30	12/12 (金) 2限	1 講	悪性腫瘍 (3)	末永
31	12/19 (金) 1限	1 示説	特別講義	非常勤講師
32	12/19 (金) 2限	1 示説	(同上)	(同上)
33	01/09 (金) 1限	1 講	放射線生物・防護 (1)	馬嶋
34	01/09 (金) 2限	1 講	放射線生物・防護 (2)	馬嶋
35	01/16 (金) 1限	1 講	放射線生物・防護 (3)	馬嶋
36	01/16 (金) 2限	1 講	放射線治療	河野
37	01/23 (金) 1限	1 示説	基礎・エックス線解剖実習	佐藤・富田
38	01/23 (金) 2限	1 示説	基礎・エックス線解剖実習	佐藤・富田
39	01/30 (金) 1限	1 示説	基礎・エックス線解剖実習	佐藤・富田
40	01/30 (金) 2限	1 示説	基礎・エックス線解剖実習	佐藤・富田
41	02/06 (金) 1限	1 示説	基礎・エックス線解剖実習	佐藤・富田
42	02/06 (金) 2限	1 示説	基礎・エックス線解剖実習	佐藤・富田
43	02/13 (金) 1限	1 示説	歯科放射線学 試験	
44	02/13 (金) 2限	1 示説	(同上)	

■ 予習・復習へのアドバイス

講義スケジュールは予め配布するので、毎回の講義テーマについて教科書等で予習しておくこと。
講義では毎回、プリントを配布するので、教科書と合わせて復習して、理解に努めること。
疑問点は教官に質問してそのままにしないこと。

■ 教科書

教科書はとくに指定しない。

■ 参考書

- 1 清水正嗣監修、口腔画像臨床診断学、アークメディア、東京、2010
- 2 日本歯科放射線学会編集、口腔画像診断アトラス、医師薬出版、東京、2013
- 3 GOAZ, P. W. & WHITE, S. C., ORAL RADIOLOGY, Mosby, St. Louis, 1994

■ 成績の評価基準

講義・実習内容に関する筆記試験（80％程度）

その他、レポート、出席状況、授業態度（20％程度）

■ 再試験の有無

実施する。

■ 研究活動との関連

- 1 画像診断の基礎的、臨床的研究
- 2 放射線の人体への影響の基礎的研究

■ その他

授業スケジュールは教員の都合で変更する事がある。

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

- 1．歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。
- 3．口腔疾患を全身疾患の一つとしてとらえ、幅広い医学的知識に基づくプライマリ・ケアを実践するための基本的な臨床能力を身につけている。
- 7．他の歯科医師やコ・デンタル・スタッフと連携してチーム医療を実践するためのコミュニケーション能力を身につけている。
- 8．口腔疾患の予防と健康増進に関する十分な知識を持ち、地域社会に密着した歯科医師および歯科医学教育者・研究者となりうる能力を持っている。
- 9．生涯にわたり自律的に学ぶ習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。

■ 科目名				
医系科目I (内科学)				
■ 英語名				
Clinical Medicine I				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
臨床系科目 (医系科目)	必修科目	講義	4	9期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
医系教員		循環器・呼吸器・代謝内科学分野、消化器疾患・生活習慣病学分野、神経内科・老年病学分野、呼吸器内科学分野		
■ 連絡先 (TEL)		■ 連絡先 (MAIL)		
099-275-6040 (歯学教務係)				
■ オフィスアワー				
随時				
■ キーワード				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
■ 授業概要				
・ 内科的診察法、問診法について ・ 循環器系疾患について ・ 呼吸器系疾患について ・ 中枢神経系疾患について ・ 神経筋疾患について ・ 肝臓疾患について ・ 腎臓疾患について ・ 内分泌・代謝・自己免疫疾患について ・ 血液疾患について ・ 消化器について ・ 感染症について				
■ 授業計画				
次の科目に分けて講義を行う。 【内科学I (循環器・呼吸器・代謝内科学分野)】 講義回数 10回 【内科学II (消化器疾患・生活習慣病学分野)】 講義回数 10回 【内科学III (神経内科・老年病学分野)】 講義回数 6回 【内科学III (呼吸器内科学分野)】 講義回数 4回 日程については、時間割表及び医系科目日程表にて確認すること。				
■ 予習・復習へのアドバイス				
■ 教科書				
■ 参考書				
■ 成績の評価基準				
出席・筆記試験により総合的に判断する。 なお、内科学I (循環器・呼吸器・代謝内科学分野)、内科学II (消化器疾患・生活習慣病学分野)、内科学III (神経内科・老年病学分野)、内科学III (呼吸器内科学分野)の成績がそれぞれ60点以上で合格とする。				
■ 再試験の有無				
■ 研究活動との関連				
■ その他				

■ 科目名				
医系科目II（外科・整形外科学）				
■ 英語名				
Clinical Medicine II				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
臨床系科目（医系科目）	必修科目	講義	4	9期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
医系教員		消化器・乳腺甲状腺外科学分野、心臓血管・消化器外科学分野、呼吸器外科学分野、脳神経外科学分野、小児外科学分野、泌尿器科学分野、整形外科学分野		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6040（歯学教務係）				
■ オフィスアワー				
随時				
■ キーワード				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
■ 授業概要				
各外科分野について概説を行う。 ・ 外科的診断法の概説 ・ 心臓血管外科概説 ・ 消化器外科概説 ・ 呼吸器外科概説 ・ 肝胆膵外科概説 ・ 臓器移植について ・ 小児外科学 ・ 脳神経外科学 ・ 泌尿器科学 ・ 整形外科学概論				
■ 授業計画				
次の科目に分けて講義を行う。 【外科学I（消化器・乳腺甲状腺外科学分野）】 講義回数 7回 【外科学II（心臓血管・消化器外科学分野）】 講義回数 5回 【外科学II（呼吸器外科学分野）】 講義回数 3回 【脳神経外科学（脳神経外科学分野）】 講義回数 4回 【小児外科学（小児外科学分野）】 講義回数 2回 【泌尿器科学（泌尿器科学分野）】 講義回数 4回 【整形外科学（整形外科学分野）】 講義回数 6回 日程については、時間割表及び医系科目日程表にて確認すること。				
■ 予習・復習へのアドバイス				
■ 教科書				
■ 参考書				
■ 成績の評価基準				
出席・筆記試験により総合的に判断する。 なお、外科学I（消化器・乳腺甲状腺外科学分野），外科学II（心臓血管・消化器外科学分野），外科学II（呼吸器外科学分野），脳神経外科学（脳神経外科学分野），小児外科学（小児外科学分野），泌尿器科学（泌尿器科学分野），整形外科学（整形外科学分野）の成績がそれぞれ60点以上で合格とする。				
■ 再試験の有無				

■ 研究活動との関連

■ その他

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

■ 科目名				
医系科目III（耳鼻咽喉科学・眼科学・皮膚科学・小児科学・産婦人科学・神経精神医学）				
■ 英語名				
Clinical Medicine III				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
臨床系科目（医系科目）	必修科目	講義	5	9期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
医系教員		耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野、眼科学分野、皮膚科学分野、小児科学分野、生殖病態生理学分野、精神機能病学分野		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6040（歯学教務係）				
■ オフィスアワー				
随時				
■ キーワード				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
■ 授業概要				
【耳鼻咽喉科学（耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野）】				
・耳鼻咽喉科学概説				
・外耳、中耳、内耳疾患、特に口唇、口蓋裂児との関係について				
・鼻疾患について				
・睡眠時無呼吸症候群について				
・嚥下障害の診断と治療について				
・嚥下障害とリハビリテーションについて				
・顔面神経麻痺の診断と治療について				
・味覚異常の診断と治療について				
・歯性上顎洞炎の診断と治療について				
・上顎癌の診断と治療について				
・気管切開術について				
・咽頭、喉頭腫瘍の診断と治療				
・扁桃疾患の診断と治療				
・鼻粘膜肥厚、アデノイド、口蓋扁桃肥大、口呼吸と歯科口腔疾患について				
・頭頸部領域の悪性リンパ腫の診断と治療について				
・頭頸部悪性腫瘍と再建外科について				
【眼科学（眼科学分野）】				
・眼科学概説				
・近視、乱視、遠視の病態生理について				
・歯科口腔外科疾患と関連する眼科疾患				
・緑内障、白内障、角膜結膜炎について				
・コンタクトレンズについて				
【皮膚科学（皮膚科学分野）】				
・皮膚科学総論				
・歯科口腔外科的疾患と関連する皮膚疾患について				
・金属アレルギーについて（検査法も含めて）				
・熱傷（やけど）の治療法について				
・皮膚悪性腫瘍の診断と治療について				
・ラテックス・アレルギーについて				
・性病（STD）の最近の傾向について				
・薬疹の発生機序と薬疹を起こしやすい薬物について				
【小児科学（小児科学分野）】				

- ・小児期の特徴
- ・先天異常疾患、症候群について
- ・小児疾患と口腔症状
- ・小児悪性腫瘍について
- ・小児関節リウマチについて
- ・先天性心疾患と感染性心内膜炎の予防について（歯科治療時の注意点について）
- ・麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、小児マヒ、日本脳炎について
- ・児童虐待と口腔顎顔面症状について

【産婦人科学（生殖病態生理学分野）】

- ・産婦人科学概説
- ・妊娠、分娩について
- ・器官形成期と周産期の注意点
- ・低出生体重児と歯科口腔疾患について
- ・産婦人科疾患と歯科口腔疾患について
- ・妊婦の歯口清掃の重要性について
- ・更年期障害について

【神経精神医学（精神機能病学分野）】

- ・神経精神疾患概説
- ・統合失調症、躁うつ病、てんかんの診断と治療について
- ・向精神薬の有害作用について
- ・歯科口腔領域に症状の出現する神経精神疾患について
- ・心身症、特に歯科心身症について
- ・神経精神疾患患者の歯科治療の適応について
- ・線維筋痛症候群について
- ・不安障害、ストレス関連障害、身体表現性障害の徴候と診断について
- ・抗てんかん薬の有害作用（歯肉肥大など）について
- ・痴呆の診断と治療について
- ・解離性障害（ヒステリー）の徴候について
- ・コンサルテーション・リエゾン精神医学について

■ 授業計画

次の科目に分けて講義を行う。

【耳鼻咽喉科学（耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野）】	講義回数	8回
【眼科学（眼科学分野）】	講義回数	5回
【皮膚科学（皮膚科学分野）】	講義回数	6回
【小児科学（小児科学分野）】	講義回数	5回
【産婦人科学（生殖病態生理学分野）】	講義回数	5回
【神経精神医学（精神機能病学分野）】	講義回数	5回

日程については、時間割表及び医系科目日程表にて確認すること。

■ 予習・復習へのアドバイス

■ 教科書

■ 参考書

■ 成績の評価基準

出席・筆記試験により総合的に判断する。

なお、耳鼻咽喉科学（耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野）、眼科学（眼科学分野）、皮膚科学（皮膚科学分野）、小児科学（小児科学分野）、産婦人科学（生殖病態生理学分野）、神経精神医学（精神機能病学分野）の成績がそれぞれ60点以上で合格とする。

■ 再試験の有無

■ 研究活動との関連

■ その他

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

■ 科目名				
歯科医療倫理学				
■ 英語名				
Dental Care Ethics				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
歯学総合系科目	必修科目	講義	1	7期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
信友 建志		心身歯科学分野		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6290		nobutomo@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
特に時間は指定しないが、事前にアポイントをとっていただきたい。				
■ キーワード				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
1．患者の権利、患者の自己決定権、自己決定できない場合の対応を説明できる		【A-1】		
2．医の倫理と生命倫理の歴史的経過と諸問題を概説できる		【A-2】		
3．医の倫理に関する規範・国際規範を概説できる		【A-2】		
4．生と死に関わる倫理問題を説明できる		【A-2】		
5．患者との信頼関係を築くことができる		【A-3, A-7】		
6．個人的、社会的背景等が異なる患者に、わけへだてなく対応できる		【A-3】		
7．患者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる		【A-3】		
8．インフォームド・コンセントの定義と重要性を説明できる		【A-4】		
■ 授業概要				
医の原則を次のように学ぶ				
（１）「医の倫理と生命倫理」に関する諸規範の意義とそれらが生まれた歴史的な経緯				
（２）「患者の権利」				
（３）「医師の義務と裁量」				
（４）「インフォームド・コンセント」				
更にこれらの学習を通じて				
（５）「生と死に関わる倫理的問題」について考察する。				
■ 授業計画				
1 歯科医様倫理の必要性と倫理とは何か				
2 ヒポクラテスの誓い				
3 ニュールンベルグ綱領				
4 ヘルシンキ宣言				
5 シドニー宣言				
6 リスボン宣言				
7（学生グループ別発表）				
ジュネーブ宣言・医の倫理の国際綱領・日本医師会の倫理・医の倫理綱領・				
歯科医師の法的義務・歯科医療における安全性への配慮と危機管理				
8 筆記試験				
■ 予習・復習へのアドバイス				
■ 教科書				
テキストは次の一冊を指定する。				
・大井賢一，木坂昌知著『歯科医療倫理Q&A』太陽出版				
その他テキストを補うために必要に応じてコピーを配付する。				
■ 参考書				
更に授業のより良い理解のために次の参考書を紹介する				
・医療倫理Q & A 刊行委員会編『医療倫理Q & A』太陽出版				
・クレール・アンブロセリ編『医の哲学』、中川米造、文庫クセジュ白水社				

・関根透『日本の医の倫理』学建書院 など

■ 成績の評価基準

期末レポートで評価する。

■ 再試験の有無

■ 研究活動との関連

■ その他

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

- 2．人文社会科学的分野も含めた幅広い知識を有し、人間の行動について精神心理学的対応ができる。
- 4．医療の倫理と法の原則に則り、患者中心の歯科医療を実践できる。
- 5．患者との対話を通して、インフォームド・コンセントを得ることができる。

■ 科目名				
心身歯科学				
■ 英語名				
Psychosomatic Dentistry				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
歯学総合系科目	必修科目	講義	2	9期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
梶原和美		歯科病態学 心身歯科学分野 (旧 歯科基礎科学講座)		
■ 連絡先 (TEL)		■ 連絡先 (MAIL)		
099-275-6294		kazu@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワ -				
随時研究室で対応する。できるだけ事前にメールで連絡してください。				
■ キーワード				
患者の心理，ストレス，対人コミュニケーション，医療面接				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
1．不安の特質を列挙できる。				
2．歯科患者に特有な不安を説明できる。				
3．不安のコントロール法を説明できる。				
4．痛みの特質を説明できる。				
5．痛みのコントロール法を説明できる。				
6．心理社会的ストレスモデルを説明できる。				
7．身体的・精神的疾患とストレスとの関係を説明できる。				
8．ストレスマネジメントの方法を立案できる。				
9．セルフケアの支援法を説明できる。				
10．対人コミュニケーションの特徴を説明できる。				
11．良好な患者－歯科医師関係を構築するための要件を説明できる。				
12．医療面接で求められる基本的な関わりが行動が実行できる。				
13．主な心理検査・心理尺度の特徴を列挙できる。				
14．対象理解の方法と限界を説明できる。				
■ 授業概要				
医療が高度化・専門化するにつれて、「患者の心」は閑却視されるかあるいは断片的にとらえられるようになってきた。その一方で、患者の心理を把握することの必要性は、医療面接から口腔心身症の理解と対応に至る幅広い臨床場面で高まっている。さて、患者の心をとらえるとは、そもそもどういうことだろうか？「〇〇病の患者に特有な心理」なるものが存在するのだろうか？患者心理の特徴を理解しておけば、治療者は適切に対応できるのだろうか？事態はそれほど単純ではない。実際には格別な「患者心理（の歪み）」や超越的な「治療者としての働きかけ方」があるわけではない。医療の現場では「患者が治療者をどのように受けとめ、治療者はそのような患者の気持ちをどのように把握するか」という二重の課題が存在する。この2つのプロセスは相互に絡み合いながら進行し、「今、ここで」の「私とあなたの関係」の中に抜き差しならぬ性質を帯びて立ち現れる。つまり「患者」と「治療者」が別個に存在しているわけではなく、治療関係の中で互いが互いのありようを規定しあっているのである。この講義では、まず基本的な「自分や他者の心とのつきあい方」を点検し、そこから「関係の中で私に見えてきた相手の姿にはどのような性質があるか？私の言動は相手にどのような影響を及ぼしているか？」を体験を通して理解する。さらにより充実した歯科医療を実践するために必要な心理学的トピックを紹介し、技能の習得をはかる。				
■ 授業計画				
1	イントロダクション（患者さんとの人間関係をうまく築くには？）	梶原		
2	医療を受ける患者の心理(1) 不安とその防衛	梶原		
3	医療を受ける患者の心理(2) 歯科治療を受ける患者の不安	梶原		
4	医療を受ける患者の心理(3) 不安の軽減	梶原		
5	医療を受ける患者の心理(4) 痛み	梶原		
6	医療を受ける患者の心理(5) 痛みのコントロール	梶原		
7	ストレスとストレスマネジメント	梶原		
8	中間テスト	梶原		

9	セルフケアの支援	梶原
10	医療面接の技法(1) 対人コミュニケーションの特徴	梶原
11	医療面接の技法(2) 基本的な関わり行動	梶原
12	医療面接の技法(3) 共感的理解	梶原
13	対象理解の方法(1) 観察法・面接法	梶原
14	対象理解の方法(2) 心理検査	梶原
15	期末テスト	梶原
■ 予習・復習へのアドバイス		
心理学ならどの分野でも構わないので、図書館や書店で各自関心のある専門書に目を通していただきたい。毎回指示するレポートの内容から、講義の理解度を評価する。自分の体験に真摯に向き合う姿勢・日常の対人関係への洞察力を磨くよう努力してほしい。		
■ 教科書		
テキストは特に指定しない。		
■ 参考書		
以下に重要な参考書を紹介する。		
・新庄文明・山崎久美子・俣木志朗監訳 『歯科医療人間科学へのいざない』医歯薬出版		
・渡辺文夫・山崎久美子・久田 満著 『医療への心理学的パースペクティブ』ナカニシヤ出版		
・斎藤清二著 『はじめての医療面接 コミュニケーション技法とその学び方』医学書院		
・佐伯晴子著 『あなたの患者になりたいー患者の視点で語る医療コミュニケーション』医学書院		
・外山紀子訳 『健康心理学入門』 新曜社		
・島井哲志編 『健康心理学』 培風館		
■ 成績の評価基準		
中間テスト(20%)、夏季休暇レポート(30%)、期末テスト(30%)および授業への参加態度(20%)で評価する。		
■ 再試験の有無		
■ 研究活動との関連		
■ その他		
■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー		

■ 科目名				
統合系科目Ⅰ(顔学)				
■ 英語名				
Overview in Dentistry Ⅰ (Facial Studies)				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
歯学総合系科目（統合系科目）	必修科目	講義・演習	4	4期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
宮脇 正一、田松 裕一 他 単位認定教授：宮脇 正一		歯科矯正学、人体構造解剖学 他		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6252（宮脇） 099-275-6112（田松）		miyawaki@dent.kagoshima-u.ac.jp tamatsu@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
歯科矯正学分野(4F)または人体構造解剖学分野(7F)で随時対応する。				
■ キーワード				
顔貌、表情、発生、老化、心理				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
顔はヒトの身体の一部であるとともに、顔貌や表情を通してコミュニケーション手段としての役割を持つことを理解し説明できることを目標とし、形態・機能さらに心理学的背景まで総合的に学習する。				
■ 授業概要				
顔の発生から老化に至る形態的变化、表情筋や咬合などの機能面、顔に現れる心理学的背景など幅広い観点から8つのテーマに分けて講義をおこなう。				
■ 授業計画				
1 表情と心理	講義	基礎歯科		
2 顔の解剖学：表情筋と表情	講義	口腔解剖 2		
3 顔の成り立ち：発生学	講義	口腔解剖 1		
4 咬合と顔の発育と表情の変化	講義	小児歯科		
5 矯正治療に伴う顔と表情の変化：発達期、成人期	講義	矯正歯科		
6 顎矯正手術による顔貌の変化 - 顔面軟組織分析と評価 -	講義	口腔外科 2		
7 加齢と補綴治療に伴う顔と表情の変化	講義	歯科補綴 2		
8 顔の老化とミトコンドリア	講義	歯科放射線		
■ 予習・復習へのアドバイス				
必要に応じて講義時にアドバイスをする。				
■ 教科書				
必要に応じて講義時に資料を配布する。				
■ 参考書				
必要に応じて講義時に資料を配布する。				
■ 成績の評価基準				
毎回の授業で、小テストまたはレポートを課し、総合点で評価する。 なお、欠席した授業については個別に小テストまたはレポートを課すので、その都度指示を受けること。				
■ 再試験の有無				
■ 研究活動との関連				
■ その他				
来院した方に「笑顔」になってもらうことも歯科医師の重要な仕事です。				
統合系科目Ⅰの単位数について（4単位）				
顔学	0.5単位	地域・離島歯科医療学	0.5単位	
齶蝕学	0.5単位	歯性感染症学	0.5単位	
唾液腺の基礎と臨床	0.5単位	顎関節症の基礎と臨床	0.5単位	

■ 科目名				
統合系科目Ⅰ(地域・離島歯科医療学)				
■ 英語名				
Overview in Dentistry Ⅰ (Community Dental Medicine Study in Kagoshima Region)				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
歯学総合系科目(統合系科目)	必修科目	講義・演習	4	4期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
於保 孝彦 他 単位認定教授：於保 孝彦		予防歯科学 他		
■ 連絡先 (TEL)		■ 連絡先 (MAIL)		
099-275-6180 (於保)		oho@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
予防歯科学分野(6F)で随時対応する。				
■ キーワード				
地域医療, 歯科保健, 遠隔地, 離島, 巡回歯科診療				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
1. 地域および遠隔地(離島を含む)における歯科保健および医療活動について理解する。【B-2-2)】				
2. 地域医療に求められる役割と機能および体制等、地域医療のあり方を概説できる。【B-2-2)】				
3. 地域における保健・医療・福祉・介護の分野間の連携および他職種間の連携の必要性について説明できる。【B-2-2)】				
4. 地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を説明できる。【B-2-2)】				
■ 授業概要				
地域および遠隔地における歯科保健活動について講義を行う。また離島が多数存在する鹿児島県の特徴を考慮し、本学が取り組んできた離島巡回歯科診療についての紹介と考察の機会を与える。				
■ 授業計画				
回	日 時	講義室	内 容	担当
1	1/8(木) 4限	3講	地域医療の役割と機能	予防歯科
2	1/15(木) 4限	3講	医療供給システム(各分野の連携)	予防歯科
3	1/22(木) 4限	3講	離島歯科診療(総論)	歯科補綴 1
4	1/29(木) 4限	3講	本学離島巡回歯科診療の現状と課題(小児)	小児歯科
5	2/5(木) 4限	3講	本学離島巡回歯科診療の現状と課題(成人)	歯科補綴 1
6	2/12(木) 4限	3講	保健所、学校、職場における歯科保健活動	予防歯科
7	2/19(木) 4限	3講	自治体主導歯科保健活動	予防歯科
■ 予習・復習へのアドバイス				
毎回の授業にあたっては、必要事項を適宜記載して授業内容の理解に努め、よく復習すること。				
■ 教科書				
必要に応じて講義時に資料を配布する。				
■ 参考書				
指定しない。				
■ 成績の評価基準				
毎回の授業で小テスト, レポートなどを課し, 出席や態度を加味した総合点で評価する。				
■ 再試験の有無				
実施する。				
■ 研究活動との関連				
■ その他				
統合系科目Ⅰの単位数について(4単位)				
顔学	0.5単位	地域・離島歯科医療学	0.5単位	
齶蝕学	0.5単位	歯性感染症学	0.5単位	
唾液腺の基礎と臨床	0.5単位	顎関節症の基礎と臨床	0.5単位	
摂食・嚥下障害および高齢者歯科学	1単位			

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

- 3．口腔疾患を全身疾患の一つとしてとらえ、幅広い医学的知識に基づくプライマリ・ケアを実践するための基本的な臨床能力を身につけている。
- 7．他の歯科医師やコ・デンタル・スタッフと連携してチーム医療を実践するためのコミュニケーション能力を身につけている。
- 8．口腔疾患の予防と健康増進に関する十分な知識を持ち、地域社会に密着した歯科医師および歯科医学教育者・研究者となりうる能力を持っている。

■ 科目名				
統合系科目Ⅰ(齲蝕学)				
■ 英語名				
Overview in Dentistry Ⅰ (Cariology)				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
歯学総合系科目（統合系科目）	必修科目	講義・演習	4	4期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
於保 孝彦、山崎 要一 他 単位認定教授：於保孝彦		予防歯科学、小児歯科学 他		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6180（於保） 099-275-6262（山崎）		oho@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
特に時間は指定せず、6F講座研究室で随時対応する。				
■ キーワード				
齲蝕、病因、予防、歯科材料				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
齲蝕の病因と予防法および新しい歯科材料について学ぶ。				
■ 授業概要				
最も広く蔓延している歯科疾患である齲蝕について、その病因、リスク評価、歯科材料を含めた予防法について導入的に解説する。				
■ 授業計画				
回	日 時	講義室	内 容	担当
1	10/9（木）3限	3講	齲蝕の病因	予防歯科
2	10/16（木）3限	3講	齲蝕リスク評価	予防歯科
3	10/23（木）3限	3講	齲蝕予防法（１）プラークコントロール	予防歯科
4	10/30（木）3限	3講	齲蝕予防法（２）フッ化物、シーラント、食生活指導	小児歯科
5	11/6（木）3限	3講	予防や治療のための新しい歯科材料	歯科理工
■ 予習・復習へのアドバイス				
毎回の授業にあたっては、必要事項を適宜記載して授業内容の理解に努め、よく復習すること。				
■ 教科書				
指定しない。				
■ 参考書				
指定しない。				
■ 成績の評価基準				
各回に小テストを行い、出席・態度を加味して総合的に判定する。				
■ 再試験の有無				
実施する。				
■ 研究活動との関連				
■ その他				
統合系科目Ⅰの単位数について（４単位）				
顔学 ————— 0.5単位 地域・離島歯科医療学 — 0.5単位				
齲蝕学 ————— 0.5単位 歯性感染症学 ————— 0.5単位				
唾液腺の基礎と臨床 — 0.5単位 顎関節症の基礎と臨床 — 0.5単位				
摂食・嚥下障害および高齢者歯科学 — 1単位				
■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー				
１．歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。				
３．口腔疾患を全身疾患の一つとしてとらえ、幅広い医学的知識に基づくプライマリ・ケアを実践するための基本的な臨床能力を身につけている。				
８．口腔疾患の予防と健康増進に関する十分な知識を持ち、地域社会に密着した歯科医師および歯科医学教育者				

・研究者となりうる能力を持っている。

■ 科目名				
統合系科目Ⅰ(歯性感染症学)				
■ 英語名				
Overview in DentistryⅠ(Sciences for Odontogenic Infection)				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
歯学総合系科目(統合系科目)	必修科目	講義・演習	4	4期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
徳田 雅行 他 単位認定教授：佐藤 友昭		歯科保存学、顎顔面疾患制御学 他		
■ 連絡先(TEL)		■ 連絡先(MAIL)		
099-275-6192(徳田)		徳田：shozon01@dent.kagoshima-u.ac.jp 佐藤：tomsato@dent.kagoshima-u.ac.jp		
099-275-6160(佐藤)				
■ オフィスアワ -				
佐藤(単位認定責任者)：毎週木曜日PM5:00～6:00(これ以外にも出来るだけ対応します) 徳田(オーガナイザー)：特に定めない、随時対応する。				
■ キーワード				
歯性感染症、齲蝕、炎症、歯周炎、根尖性歯周炎、智歯周囲炎、抗菌薬、抗生物質、画像診断、外科処置、高気圧酸素療法、辺縁性(慢性)歯周炎、プラーク、骨髄炎、上顎洞炎、蜂窩織炎、組織隙				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
GI0:				
1 歯科医師としてのキャリアを継続させる生涯学習者としての能力(知識、判断力、態度)を身につける。 【A-6】				
2 生命科学や医療技術の成果について生涯を通じて学び、病因や病態を解明するなどの研究マインドを涵養する 【A-6】				
3 口唇・口腔・顎顔面領域の診察、検査、診断、治療および予防を行うために必要な基本的な知識を身につける 【E-1】				
SB0s:				
1 抗菌薬の定義、作用機序、代表的な抗菌薬について説明できる。 【C-5-2】				
2 臨床症状に即した抗菌薬の使用法について理解し説明できる。				
3 根尖性歯周炎の急性化と拡大について、その原因、病理、診断、処置法について説明できる。 【E-1-1】				
4 齲蝕、歯周炎及び智歯周囲炎などに続発する下顎骨骨髄炎、上顎洞炎および蜂窩織炎の画像について説明できる。				
5 智歯周囲炎、口腔蜂窩織炎、歯性上顎洞炎、顎骨髄炎の原因、症状、検査法、診断、治療について説明できる 【E-1-2】				
6 高気圧酸素療法の歯性感染症治療への応用について説明できる。				
■ 授業概要				
齲蝕、歯周炎及び智歯周囲炎などに続発する下顎骨骨髄炎、上顎洞炎および蜂窩織炎の診断、それら疾患に用いる治療薬の基本的事項および治療法について学習する。				
■ 授業計画				
日程	時限	内容	担当	
1 12/4	3	根尖性歯周炎の急性化と拡大(講義)	歯科保存 1	
2 12/11	3	辺縁性歯周炎の急性化と拡大 講義	歯科保存 2	
3 12/18	3	智歯からの炎症の拡大 講義	口腔外科 2	
4 12/25	3	歯性感染症の画像診断 講義	歯科放射線	
5 1/ 8	3	下顎骨骨髄炎、歯性上顎洞炎、 蜂窩織炎の病態、臨床検査及び診断 講義	口腔外科 1	
6 1/15	3	小児の歯性感染症 講義	小児歯科	

7	1/22	3	抗生物質の基礎知識	講義	歯科薬理
8	1/29	3	抗生物質の使い方	講義	口腔外科 2
9	2/ 5	3	歯性感染症の外科処置	講義	口腔外科 2
10	2/12	3	高気圧酸素療法	講義	口腔外科 1
■ 予習・復習へのアドバイス					
本シラバスに記載している講義項目について各指定の教科書及び関連の参考書について目をとおすこと。また、各教員は平易な解説を心がけているので各講義毎に復習し、遠慮無く質問すること。					
■ 教科書					
(保存1、徳田)：歯学性のための歯内療法学、加藤 熙編、医歯薬出版					
(保存2、白方)：「臨床歯周病学」医歯薬出版株式会社					
(放射線、佐藤)：1) 日本歯科放射線学会編集、口腔画像診断アトラス、医師薬出版、東京、1994、 2) 清水正嗣監修、口腔画像臨床診断学、アークメディア、東京、2010					
(薬理、佐藤)特に指定せず簡単な参考書を授業で紹介する。					
(口外2、平原)「口腔外科学第3版、白砂兼光編」医歯薬出版株式会社					
■ 参考書					
教員が授業時間に随時紹介する。					
■ 成績の評価基準					
各担当者が指示する方法(レポート、小テスト、終講テスト)の合計点数(100点満点)で評価し、各担当の課題や試験が60点以上であれば、修得を認める。本講義の配点は次の通りである。講義担当教員の指示に従うこと。					
○ 歯科保存1 10点 ○ 歯科放射線 10点 ○ 小児歯科 10点 ○ 第2口外 30点 ○ 歯科保存2 10点 ○ 歯科薬理 10点 ○ 第1口外 20点					
■ 再試験の有無					
無					
■ 研究活動との関連					
■ その他					
各講座担当者の指示に従うこと。提出物は自力で作成し締め切りを必ず守ること。授業欠席の連絡は必ず教務係、上記担当教員にすること。					
統合系科目Ⅰの単位数について(4単位) 顔学 ————— 0.5単位 地域・離島歯科医療学 — 0.5単位 齶蝕学 ————— 0.5単位 歯性感染症学 ————— 0.5単位 唾液腺の基礎と臨床 — 0.5単位 顎関節症の基礎と臨床 — 0.5単位 摂食・嚥下障害および高齢者歯科学 — 1単位					
■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー					
1. 歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。 8. 口腔疾患の予防と健康増進に関する十分な知識を持ち、地域社会に密着した歯科医師および歯科医学教育者・研究者となりうる能力を持っている。 9. 生涯にわたり自律的に学ぶ習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。					

■ 科目名				
統合系科目Ⅰ(唾液腺の基礎と臨床)				
■ 英語名				
Overview in Dentistry Ⅰ				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
歯学総合系科目（統合系科目）	必修科目	講義・演習	4	4期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
単位認定教授：馬嶋 秀行 犬童 寛子 他		顎顔面放射線学分野（旧：歯科放射線学） 他		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6270（馬嶋） 099-275-6274（犬童）				
■ オフィスアワ -				
■ キーワード				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
唾液腺の発生からその疾患まで総合的に理解させる。				
■ 授業概要				
■ 授業計画				
1 唾液腺の発生学（リンパの発生も含む）	講義	口腔解剖 1		
2 唾液腺の解剖学（神経系、脈管系を含む）	講義	口腔解剖 2		
3 唾液腺の生理学（概説、脳の支配部位や神経機構を含む）	講義	口腔生理		
4 唾液腺疾患の分類と臨床症状	講義	口腔外科 1		
5 唾液腺疾患の病理	講義	口腔病理		
6 唾液腺疾患の画像診断 造影、MRI、RI、超音波	講義	歯科放射線		
7 唾液腺疾患の治療	講義	口腔外科 2		
■ 予習・復習へのアドバイス				
■ 教科書				
■ 参考書				
■ 成績の評価基準				
1 期末試験（100%） 2 全講義回数の2/3以上の出席でもって、評価する。				
■ 再試験の有無				
■ 研究活動との関連				
■ その他				
統合系科目Ⅰの単位数について（4単位） 顔学 ————— 0.5単位 地域・離島歯科医療学 — 0.5単位 齶蝕学 ————— 0.5単位 歯性感染症学 ————— 0.5単位 唾液腺の基礎と臨床 — 0.5単位 顎関節症の基礎と臨床 — 0.5単位 摂食・嚥下障害および高齢者歯科学 — 1単位				
■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー				

■ 科目名				
統合系科目Ⅰ(顎関節の基礎と臨床)				
■ 英語名				
Overview in Dentistry Ⅰ				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
歯学総合系科目（統合系科目）	必修科目	講義・演習	4	4期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
単位認定教授：馬嶋 秀行 末永 重明 他		顎顔面放射線学分野（旧：歯科放射線学） 他		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6270（馬嶋） 099-275-6274（末永）				
■ オフィスアワー				
■ キーワード				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
顎関節症における顎関節部の器質的・機能的異常ならびに治療法について総合的に理解させる。				
■ 授業概要				
■ 授業計画				
1 解剖学 1 硬組織 2 軟組織 3 血管・神経 4 微細構造 5 加齢変化	講義	口腔解剖 1		
2 生理学 1 顎筋活動 2 筋電図分析	講義	口腔生理		
3 臨床症状と病態	講義	口腔外科 2		
4 画像検査法・診断 1 硬組織診断 2 軟組織診断	講義	歯科放射線		
5 診察・診断、治療（1） 口腔外科での対応	講義	口腔外科 1		
6 診察・診断、治療（2） 補綴科での対応	講義	歯科補綴 2		
7 診察・診断、治療（3） 小児歯科での対応	講義	小児歯科		
8 診察・診断、治療（4） 矯正歯科での対応	講義	歯科矯正		
■ 予習・復習へのアドバイス				
復習：課題レポートを出す。内容については、その都度、指示する。				
■ 教科書				
■ 参考書				
■ 成績の評価基準				
1 期末試験（100%） 2 全講義回数の2/3以上の出席でもって、評価する。				
■ 再試験の有無				
■ 研究活動との関連				
■ その他				
統合系科目Ⅰの単位数について（4単位） 顔学 ————— 0.5単位 地域・離島歯科医療学 — 0.5単位 齶蝕学 ————— 0.5単位 歯性感染症学 ————— 0.5単位 唾液腺の基礎と臨床 — 0.5単位 顎関節症の基礎と臨床 — 0.5単位 摂食・嚥下障害および高齢者歯科学 — 1単位				
■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー				

■ 科目名				
統合系科目Ⅰ(摂食・嚥下障害及び高齢者歯科医療学)				
■ 英語名				
Overview in Dentistry Ⅰ (Dysphagia and Gerodontology)				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
歯学総合系科目（統合系科目）	必修科目	講義・実習	4	4期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
西 恭宏、田松 裕一 他 単位認定教授：西村 正宏 他5分野の担当教員		口腔顎顔面補綴学，人体構造解剖学，口腔生理学，小児歯科学，顎顔面疾患制御学，歯科麻酔全身管理学，予防歯科学		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6222（西） 099-275-6112（田松）		shar@dent.kagoshima-u.ac.jp （口腔顎顔面補綴学，西 恭宏） tamatsu@dent.kagoshima-u.ac.jp （人体構造解剖学，田松 裕一）		
■ オフィスアワー				
各担当教員の研究室				
■ キーワード				
摂食・嚥下リハビリテーション，高齢者歯科，口腔機能管理，在宅医療，訪問歯科診療				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
G10： 摂食・嚥下機能のしくみ，摂食・嚥下障害の病態，検査方法，診断，リハビリテーションを習得する。高齢者を取りまく環境と全身ならびに口腔の特性を知り、高齢者身体的，精神のおよび心理的特徴，歯科治療時の留意点と口腔管理を理解する。				
SB0： 1)摂食・嚥下機能に関する神経・筋を説明できる。【C-2-3)-(5)，E-2-1)8】 2)摂食・嚥下機能とこれに関連する口腔機能を説明できる。【E-2-1)8，E-2-2)6】 3)摂食・嚥下機能の発達過程を説明できる。【C-2-4)1】 4)摂食・嚥下障害の病態と病状が説明できる。【E-2-4)-(10)2】 5)摂食嚥下障害の診察，検査，診断を説明できる。【E-4-3)10】 6)摂食・嚥下リハビリテーションとそのリスク管理を説明できる。【E-4-3)11】 7)高齢者のおかれた社会環境と現状を説明できる。【B-2-2)5，B-4-2)1,2】 8)老化の身体的，精神のおよび心理的特徴を説明できる。【E-4-3)1】 9)老化に伴う口腔諸組織の構造と機能の変化を説明できる。【E-4-3)2】 10)高齢者に多くみられる疾患を説明できる。【E-4-3)3】 11)高齢者の歯科治療時の全身管理を説明できる。【E-4-3)6】 12)高齢者に対して基本的な歯科治療の介助ができる。【E-4-3)7】 13)高齢者の栄養管理を説明できる。【E-1-6)-(2)1】 14)高齢者における口腔ケア処置について説明できる。【E-4-3)4】 15)高齢者に対する社会福祉制度と介護保険制度を説明できる。【B-2-2)3,4】 16)口腔機能向上による介護予防について説明できる。【E-4-3)5】 17)要介護高齢者の歯科治療時の注意点を説明できる。【E-4-3)8，E-1-3)8】 18)歯科訪問診療について説明できる。【E-4-3)9】 19)地域医療に求められる役割と機能および体制等、地域医療の在り方を概説できる。【B-2-2)8】 20)地域における高齢者の保健・医療・福祉・介護の分野間の連携および他職種間の連携の必要性について説明できる。【B-2-2)9】				
■ 授業概要				
摂食・嚥下機能を知り，その障害の病態，診断，リハビリテーションを歯科的見地から捉えていくことを学ぶ。また，高齢者をとりまく社会と環境を知り，高齢者医療において，歯科医療のあり方，治療方法を学び，歯科医療における介護を含めた社会的対応と他職種連携・地域包括ケアについて考える。				
■ 授業計画				

(回) (日時)		(講義室) (内容)		(担当者)	
1	10/ 8 (水) 2限	3講	摂食・嚥下機能の解剖学	講義	人体構造解剖学
2	10/15 (水) 2限	3講	正常な摂食・嚥下機能とその加齢変化	講義	口腔生理学
3	10/22 (水) 2限	3講	摂食・嚥下機能の発達とその障害	講義	小児歯科学
4	10/29 (水) 2限	3講	摂食・嚥下障害の病態と関連因子	講義	口腔顎顔面補綴学
5	11/ 5 (水) 2限	3講	摂食・嚥下障害の診察・検査・診断	講義	顎顔面疾患制御学
6	11/12 (水) 2限	3講	摂食・嚥下リハビリテーション	講義	口腔顎顔面補綴学
7	11/19 (水) 2限	3講	摂食・嚥下障害のリスク管理	講義	口腔顎顔面補綴学
8	11/26 (水) 2限	3講	高齢者の現状と特性	講義	口腔顎顔面補綴学
9	12/ 3 (水) 2限	3講	高齢者の口腔疾患と医療情報収集	講義	口腔顎顔面補綴学
10	12/10 (水) 2限	3講	高齢者の歯科治療時の全身管理	講義	歯科麻酔全身管理学
11	12/17 (水) 2限	3講	高齢者の口腔ケア	講義	予防歯科学
12	1/ 7 (水) 2限	3講	摂食・嚥下障害のスクリーニング検査・口腔ケア手技	実習	3分野合同 予防歯科学 口腔顎顔面補綴学 顎顔面疾患制御学
13	1/14 (水) 2限	3講	高齢者の栄養管理	講義	口腔顎顔面補綴学 栄養管理室
14	1/21 (水) 2限	3講	医療・福祉・介護制度と在宅歯科医療	講義	口腔顎顔面補綴学
15	1/28 (水) 2限	3講	多職種連携による口腔管理	講義	口腔顎顔面補綴学
16	2/ 4 (水) 2限	3講	試験		
■ 予習・復習へのアドバイス					
社会情勢からますます必要とされる科目であるため、参考書の購入を勧める。また、主な臨床系科目を履修する前の臨床系科目であるため、講義中にできるだけ理解ができるように努めること。さらに、配付された資料とノートによる復習を行うと良い。また、事前に資料が配付される講義もあるので、事前に目を通しておくことが望ましい。					
■ 教科書					
必要に応じて、担当教員から資料を配付する。					
■ 参考書					
1．歯学生のための摂食・嚥下リハビリテーション学，第1版，向井美恵 山田秋好編，医歯薬出版，2008，ISBN978-4-263-45622-4					
2．摂食・嚥下リハビリテーション，第2版，才藤栄一 向井美恵監修，医歯薬出版，2007，ISBN978-4-263-44247-0					
3．高齢者歯科ガイドブック 第1版，植松宏・渡邊誠・稲葉繁 編，医歯薬出版，2003，ISBN978-4-263-44142-8					
4．日本老年歯科医学会監修 高齢者歯科診療ガイドブック，下山和弘・櫻井 薫・深山治久・米山武義 編，財団法人 口腔保健協会，2010，ISBN978-4-89605-263-3					
■ 成績の評価基準					
試験により評価					
100点満点で60点以上を合格とする。					
■ 再試験の有無					
実施する					
■ 研究活動との関連					
担当各分野において、高齢者・発達障害者の摂食・嚥下機能，摂食・嚥下機能障害への対応，頭頸部腫瘍と摂食・嚥下機能回復，摂食・嚥下機能と口腔衛生管理の関係，高齢者の口腔衛生・口腔機能管理に関する研究が行われている。					
■ その他					
統合系科目Ⅰの単位数について（4単位）					
顔学		0.5単位	地域・離島歯科医療学		0.5単位
齶蝕学		0.5単位	歯性感染症学		0.5単位
唾液腺の基礎と臨床		0.5単位	顎関節症の基礎と臨床		0.5単位

■関連する学部・学科ディプロマポリシー

- 7．他の歯科医師やコ・デンタル・スタッフと連携してチーム医療を実践するためのコミュニケーション能力を身につけている。
- 8．口腔疾患の予防と健康増進に関する十分な知識を持ち、地域社会に密着した歯科医師および歯科医学教育者・研究者となりうる能力を持っている。
- 9．生涯にわたり自律的に学ぶ習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。

■ 科目名				
統合系科目II(口腔顔面発生異常学)				
■ 英語名				
Overview in Dentistry II (malformation and developmental abnormaly of oral and maxillofacial field)				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
歯学総合系科目（統合系科目）	必修科目	講義・演習	2	6期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
野添 悦郎, 中村 典史 他 単位認定教授：中村 典史		口腔顎顔面外科学 他		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6242		nozoe@dent.kagoshima-u.ac.jp nakamura@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
口腔顎顔面外科研究室にて随時対応する。必要に応じて講義担当教官に対応を依頼する。				
■ キーワード				
発生異常 口唇裂 口蓋裂 顎顔面発生 口腔顎顔面解剖 先天異常 不正咬合 顎変形症 口腔機能				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
顎顔面領域における発生・発育異常疾患の病態，治療を体系的に習得する。 1）口腔・頭蓋・顎顔面の発生を概説できる。 2）一次口蓋と二次口蓋の発生を説明できる。 3）口腔・顔面の筋肉の構成と機能を説明できる。 4）口腔機能（特に嚥下、哺乳、発声、構音）について説明できる。 5）口腔・頭蓋・顎顔面領域に症状をきたす主な先天異常を説明できる。 6）口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常（不正咬合）を説明できる。				
■ 授業概要				
顎顔面領域における発生・発育異常疾患の病態，治療を体系的に教授する。				
■ 授業計画				
1 総論 顎顔面領域に発生する発生・発育異常疾患について， 口唇口蓋裂患者の病態特徴 2 顎顔面の発生 3 口腔顎顔面領域の解剖 4 嚥下・哺乳・発声・構音について 5 口唇裂手術 口蓋裂手術 6 口蓋裂の言語治療 7 創傷治癒 8 口唇口蓋裂患者の口腔管理 9 咬合・顎顔面の発育 1 10 咬合・顎顔面の発育 2 11 歯槽骨と顎骨の修復 - 顎裂腸骨移植 12 口唇口蓋裂と顎変形症の矯正歯科治療 13 顎変形症の治療 - 顎矯正手術 1 14 顎変形症の治療 - 顎矯正手術 2 15 口腔顔面の異常を示す疾患 16 口唇口蓋裂の一貫治療				
	講義	口腔外科 2		
	講義	口腔解剖 1		
	講義	口腔解剖 2		
	講義	口腔生理		
	講義	口腔外科 2		
	講義	口腔外科 2		
	講義	口腔病理		
	講義	小児歯科・予防歯科		
	講義	歯科矯正		
	講義	歯科矯正		
	講義	口腔外科 2		
	講義	口腔外科 2		
	講義	口腔外科 2		
	講義	口腔外科学 2		
■ 予習・復習へのアドバイス				
各講義の予習をするとともに、授業後の復習を十分に行い、授業内容の理解に努めること。				
■ 教科書				
「ラングマン人体発生学 第8版」メディカル・サイエンス・インターナショナル 「日本人体解剖学上・下」南山堂 「基礎歯科生理学」医歯薬出版株式会社 「口腔外科学」第3版、医歯薬出版、東京、2010 「口唇裂・口蓋裂の基礎と臨床」日本歯科評論				

「第5版歯科矯正学」、相馬邦道ら編集、医歯薬出版

■ 参考書

■ 成績の評価基準

2/3以上講義に出席したものに對し、受験資格を与え、学習目標 1 ～ 6) に関して筆記試験を実施する (90点) 。また授業態度による評価を行い (10点満点) 、合計60点以上を合格とする。

■ 再試験の有無

■ 研究活動との関連

■ その他

統合系科目IIの単位数について (2 単位)

口腔顔面発生異常学 ——— 1単位

歯列咬合の發育 ————— 0.5単位

障害児 (者) 歯科学 ——— 0.5単位

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

■ 科目名				
統合系科目II(歯列咬合の発育)				
■ 英語名				
Overview in Dentistry II (Development of Dentition and Occlusion)				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
歯学総合系科目（統合系科目）	必修科目	講義	2	6期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
オーガナイザー：山崎要一，宮脇正一 単位認定教授：山崎要一		小児歯科学分野、歯科矯正学分野		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6262（山崎）、099-275-6252（宮脇）		小児歯科学分野 <shounisi@dent.kagoshima-u.ac.jp>		
■ オフィスアワー				
各授業の担当者に直接質問すること。				
■ キーワード				
歯と顎骨および顎顔面の発生発育、吸綴と咀嚼運動、無歯期から永久歯列完成期の発育と障害、理想咬合と個性正常咬合、顎顔面形態の成長予測、小児期顎口腔機能の検査と評価、発育期歯列咬合異常の心理的影響				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
GIO: 顎骨や歯の発生に始まり、乳歯の萌出、乳歯咬合の形成を経て、永久歯咬合が完成するまでの歯列咬合の形態的・機能的発育過程を総合的に理解する。[E-2-1),2),3),4),E-3-1),E-3-4),E-4-1),2),5)]				
SB0: 1 歯と顎骨の発生を説明できる。[E-2-3)-1,E-3-1)-1] 2 吸綴および咀嚼運動のボタン形成を説明できる。[E-2-1)-6,7,8,E-2-2)-6] 3 顎顔面の発育を説明できる。[E-2-3)-3] 4 無歯期から乳歯列期の発育と障害を説明できる。[E-2-3)-3,4,E-4-2)-1] 5 混合歯列期の発育と障害を説明できる。[E-2-3)-3,4,E-4-2)-1] 6 永久歯列完成期の発育と障害を説明できる。[E-2-3)-3,4,E-4-1)-2,3] 7 理想咬合と個性正常咬合を説明できる。[E-2-2)-3,E-3-4)-2-5] 8 顎顔面形態の成長予測を説明できる。[E-2-3)-3,E-4-1)-2] 9 小児期の顎口腔機能の検査と評価を説明できる。[E-2-4)-10-1,E-4-2)-1] 10 発育期における歯列咬合異常の心理的影響を説明出来る。[E-4-5)-7]				
■ 授業概要				
顎骨や歯の発生に始まり、乳歯の萌出、乳歯咬合の形成を経て、永久歯咬合が完成するまでの歯列咬合の形態的・機能的発育過程について、基礎系、臨床系の歯科学分野の知識を総合的に学習する。				
■ 授業計画				
1 歯と顎骨の発生	歯科機能形態学	山中淳之		
2 吸綴および咀嚼運動のボタン形成	口腔生理学	大木 誠		
3 顎顔面の発育	人体構造解剖学	峰 和治		
4 無歯期から乳歯列期の発育と障害	小児歯科学	武元嘉彦		
5 混合歯列期の発育と障害	小児歯科学	佐藤秀夫		
6 永久歯列完成期の発育と障害	歯科矯正学	八木孝和		
7 理想咬合と個性正常咬合	咬合機能補綴学	村口浩一		
8 顎顔面形態の成長予測	歯科矯正学	大牟禮治人		
9 小児期の顎口腔機能の検査と評価	小児歯科学	稲田絵美		
10 発育期における歯列咬合異常の心理的影響	心身歯科学	梶原和美		
■ 予習・復習へのアドバイス				
各授業担当者ごとに準備される資料等を活用する。				
■ 教科書				
小児歯科学 第4版（医歯薬出版，2011）				
■ 参考書				
小児歯科学 第3版（医歯薬出版，2007）				

第5版 歯科矯正学（医歯薬出版，2008）

高田の歯科矯正の学び方 - 歯科矯正のわかる理論・治す技術-（メデジットコーポレーション，2010）

■ 成績の評価基準

毎回の授業時の小テストまたはレポート等で個別評価する。

10回の個別評価を元に学習成果を総合評価する。

なお、3分の1以上の講義を無断欠席した者は、成績評価の対象外とする。

■ 再試験の有無

一度だけ実施する可能性がある。

■ 研究活動との関連

各分野における成長発育と咬合機能に関連する研究内容を必要に応じて組み込む。

■ その他

歯科学の各分野における知識を総合的に学習する授業です。到達目標に記した内容を理解するように、学習に努めて下さい。

統合系科目IIの単位数について（2単位）

口腔顔面発生異常学 —— 1単位

歯列咬合の発育 —— 0.5単位

障害児（者）歯科学 —— 0.5単位

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

- 1．歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。
- 2．人文社会科学の分野も含めた幅広い知識を有し、人間の行動について精神心理学的対応ができる。
- 9．生涯にわたり自律的に学ぶ習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。

■ 科目名				
統合系科目II(障害児(者)歯科学)				
■ 英語名				
Overview in Dentistry II (Dentistry for Persons with Disabilities)				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
歯学総合系科目(統合系科目)	必修科目	講義	2	6期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
オーガナイザー：山崎要一，梶山加綱 単位認定教授：山崎要一		小児歯科学分野、歯科麻酔全身管理学分野		
■ 連絡先 (TEL)		■ 連絡先 (MAIL)		
099-275-6262 (小児歯科学分野)		小児歯科学分野 <shounisi@dent.kagoshima-u.ac.jp>		
■ オフィスアワー				
各授業の担当者に直接質問すること。				
■ キーワード				
障害児(者)の歯科医療の特質と全身管理、障害児(者)歯科に特徴的な疾病と症候群、行動変容療法、笑気吸入鎮静法、静脈内鎮静法、全身麻酔下集中歯科治療				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
G10: 障害を持つ人達の歯科医療のあり方を総合的に理解する。【E-1-3),E-2-4),E-4-4),E-4-6)】				
SBO: 1 障害児(者)歯科医療の基本事項について説明できる。【E-4-4)-1,2】 2 障害の特徴と歯科医療の特質について説明できる。【E-4-4)-1,2】 3 障害児(者)歯科治療時の全身管理について説明できる。【E-1-3)-1,2,3,E-4-4)-2】 4 障害児(者)歯科に重要な疾病と症候群について説明できる。【E-2-4)-1-1,E-4-6)-1,E-4-4)-2】				
■ 授業概要				
障害を持つ人達の歯科医療のあり方について、臨床系分野の協力による診療システムの構築を通して総合的に学習する。				
■ 授業計画				
1 障害児(者)歯科学概論	小児歯科学			
2 障害の特徴と歯科医療の特質(1)	小児歯科学			
3 障害の特徴と歯科医療の特質(2)	小児歯科学			
4 障害児(者)歯科治療時の全身管理	歯科麻酔全身管理学			
5 障害児(者)歯科に重要な疾病と症候群	小児歯科学			
■ 予習・復習へのアドバイス				
各授業担当者ごとに準備される資料等を活用する。				
■ 教科書				
スペシャルニーズ デンティストリー 障害者歯科(日本障害者歯科学会 編, 医歯薬出版, 2009)				
■ 参考書				
障害者歯科ガイドブック(森崎市治郎・緒方克也・向井美恵 編, 医歯薬出版, 1999)				
■ 成績の評価基準				
毎回の授業時の小テストまたはレポート等で個別評価する。 5回の個別評価を元に学習成果を総合評価する。 なお、3分の1以上の講義を無断欠席した者は、成績評価の対象外とする。				
■ 再試験の有無				
一度だけ実施する可能性がある。				
■ 研究活動との関連				
各分野において障害児・者歯科医療に必要な成長・機能発達とその障害、行動管理に必要な静脈内鎮静や全身麻酔に関連する研究内容を必要に応じて組み込む。				
■ その他				
歯科学の各分野における知識を総合的に学習する授業です。到達目標に記した内容を理解するように、学習に努めて下さい。				

統合系科目IIの単位数について（2単位）

口腔顔面発生異常学 —— 1単位

歯列咬合の発育 —— 0.5単位

障害児（者）歯科学 —— 0.5単位

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

- 1．歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。
- 8．口腔疾患の予防と健康増進に関する十分な知識を持ち、地域社会に密着した歯科医師および歯科医学教育者・研究者となりうる能力を持っている。
- 9．生涯にわたり自律的に学ぶ習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。

■ 科目名				
統合系科目III(救急歯科医学)				
■ 英語名				
Overview in Dentistry III (Emergency Dentistry)				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
歯学総合系科目（統合系科目）	必修科目	講義・演習	8	7期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
梶山 加綱、真鍋庸三、各診療科講師 単位認定教授：梶山加綱		顎顔面機能再建学講座 歯科麻酔全身管理学分野 全身管理歯科治療部、他		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6288, 6561, 6280		sugi@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
特に時間は指定せず、3階歯科麻酔全身管理学分野研究室で随時対応する。				
■ キーワード				
歯科全身管理学、全身的偶発症、局所的偶発症、ヒヤリ・ハット、歯科医療事故、誤嚥誤飲事故				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
G10（一般目標）：				
歯科治療における全身管理、精神鎮静法、局所麻酔および全身麻酔の基本を理解する。			【E-1-3）】	
救急処置の基本を身につける。			【E-1-5）】	
SBO（個別目標）：				
1．バイタルサインを列挙し、説明できる。				【E-1-3）-(1)-1】
2．血圧を測定できる。				【E-1-3）-(1)-2】
3．脈拍の状態を把握できる。				【E-1-3）-(1)-3】
4．呼吸の状態を把握できる。				【E-1-3）-(1)-4】
5．局所麻酔薬の目的を説明できる。				【E-1-3）-(3)-1】
6．局所麻酔薬を分類し、その作用機序を説明できる。				【E-1-3）-(3)-2】
7．局所麻酔作用に影響を及ぼす因子を説明できる。				【E-1-3）-(3)-3】
8．血管収縮薬の種類と特徴を説明できる。				【E-1-3）-(3)-4】
9．局所麻酔法の種類と特徴を説明できる。				【E-1-3）-(3)-5】
10．局所麻酔時の合併症（偶発症）を説明できる。				【E-1-3）-(3)-6】
11．歯科治療時の全身合併症（偶発症）を説明できる。				【E-1-5）-1】
12．意識レベル、呼吸および脈拍の状態を把握できる。				【E-1-5）-2】
13．気道閉塞および気道確保法を説明できる。				【E-1-5）-3】
14．呼吸吹き込みによる人工呼吸を説明できる。				【E-1-5）-4】
15．胸骨圧迫と自動体外式除細動器（AED）の操作を実施できる。				【E-1-5）-5】
16．救急処置に用いられる薬物を列挙し、その作用機序を説明できる。				【E-1-5）-6】
17．高齢者の歯科治療時の全身管理を説明できる。				【E-4-3）-6】
18．患者の全身状態評価を説明できる。				【E-1-3）-(1)-9】
■ 授業概要				
歯科診療室内で起こり得る歯科医療事故に関する知識と技術を修得させるために、歯科治療時の局所的・全身的偶発症の原因、症状、救急処置、予防に関する講義および救命救急処置法に関する講義、演習、実習を行う。全国の大学に先駆けて、「救急歯科医学」という学問を体系づけるための新しい科目である。口腔外科、口腔顎顔面外科、小児歯科、歯科麻酔科、全身管理歯科治療部の講師が専門的な立場から基礎知識に基づく臨床的は講義を行うので、将来の歯科臨床に非常に有益である。				
■ 授業計画				
（回）	（日時）	（講義室）	（内容）	（担当者）
1	4 / 1 1（金）	1 講	口腔外科手術時の偶発症と予防	山下（口腔外科）
2	4 / 1 8（金）	1 講	局所麻酔と血管収縮薬	梶山（歯科麻酔科）
3	4 / 2 5（金）	1 講	浸潤麻酔法と伝達麻酔法	梶山（歯科麻酔科）
4	5 / 9（金）	1 講	局所麻酔時の局所的偶発症	梶山（歯科麻酔科）
5	5 / 1 6（金）	1 講	局所麻酔時の全身的偶発症	梶山（歯科麻酔科）

6	5 / 2 3	(金)	1 講	子どもの歯科治療時の緊急対応と重篤事故	山崎 (小児歯科)
7	5 / 3 0	(金)	1 講	歯科治療時の全身的偶発症	梶山 (歯科麻酔科)
8	6 / 6	(金)	1 講	異物誤嚥誤飲事故の救急処置	梶山 (歯科麻酔科)
9	6 / 1 3	(金)	1 講	障害者歯科治療時の全身管理	吉田 (非常勤講師)
10	6 / 2 0	(金)	1 講	循環器系疾患患者の全身管理	梶山 (歯科麻酔科)
11	6 / 2 7	(金)	1 講	循環器系疾患患者の全身管理	梶山 (歯科麻酔科)
12	7 / 4	(金)	1 講	呼吸器系疾患患者の全身管理	梶山 (歯科麻酔科)
13	7 / 1 1	(金)	1 講	内分泌系疾患患者の全身管理	梶山 (歯科麻酔科)
14	7 / 1 8	(金)	1 講	歯科診療室の一次救命処置	真鍋 (全身管理歯科)
15	7 / 2 5	(金)	1 講	歯科治療時の全身評価法	真鍋 (全身管理歯科)
■ 予習・復習へのアドバイス					
毎回の授業にあたっては、講義テーマに該当する内容を教科書にて予習しておくこと。授業では、原則として、その回の内容をまとめたプリントを配布するので、必要事項を適宜プリントに記入し、授業内容の理解に努めること。このプリントと教科書および参考書を活用して、よく復習すること。					
■ 教科書					
講義形式で行うが、講義毎に資料を配付する予定である。					
・ 丹羽 均ほか編、臨床歯科麻酔学、永末書店					
・ 嶋田昌彦ほか編、歯科麻酔実践ガイド、医歯薬出版					
■ 参考書					
・ 金子 譲ほか編、歯科麻酔学、医歯薬出版					
・ 梶山加綱著、新歯科全身管理学、日本歯科新聞社					
・ 梶山加綱ほか編、ヒヤリハット、こんなときどうする?、永末書店					
・ 梶山加綱著、有病高齢者歯科治療のガイドライン、クインテッセンス出版					
■ 成績の評価基準					
原則として、すべての講義に出席したものにのみ受験資格を与える。					
試験結果、授業への参加態度、問題解決に対する積極的態度などを加味して総合的に評価する。					
(試験成績：60点、授業への参加態度：20点、問題解決に対する積極的態度：20点)					
■ 再試験の有無					
原則として本試験不合格者に対して一回の再試験受験の機会を与える。					
■ 研究活動との関連					
最近の高齢社会を反映して高齢者の歯科患者が増加している。メタボリック症候群の増加に伴い基礎疾患を有する歯科患者が増加している。また歯科治療時には年間3～4名の死亡事故が報告されている。このような社会情勢の変化に対応するには歯科患者の全身管理と救急処置に関する知識と技術が必要である。当分野では歯科治療時の全身的偶発症や誤嚥誤飲事故に関する統計学的研究を行っており、研究成果を反映する講義を実施する予定である。					
■ その他					
積極的に講義に出席して、講義内容を理解することが重要である。不明な点があれば、講義を行った講師に質問する態度が必要である。なお、授業計画は講師の都合 (学会出張や会議など) により変更することがある。					
統合系科目IIIの単位数について (8 単位)					
救急歯科医学		1単位	全身疾患口腔徴候学		0.5単位
口腔外科手術学		1単位	口腔腫瘍学		0.5単位
口腔顎顔面疼痛学		1単位	口臭の診断・治療学		0.5単位
最新歯科生体材料・器械特論		1単位	感染制御学・疾患遺伝子学		0.5単位
歯科インプラント治療学		1単位			
臨床検査学		1単位			
■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー					
6 . 安全管理や危機管理能力を備え、医療事故の防止や適格な感染対策の知識を有している。					

■ 科目名				
統合系科目III(全身疾患口腔徴候学)				
■ 英語名				
Overview in Dentistry III (Oral manifestation in systemic disease)				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
歯学総合系科目（統合系科目）	必修科目	講義・演習	8	7期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
向井 洋、杉原 一正 他 単位認定教授：杉原 一正		顎顔面疾患制御学 他		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6232		mukai@denat.kagoshima-u.ac.jp sugihara@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
原則として授業日の17:00～18:00とするが、他の時間帯にも講義担当教員の研究室で随時対応する。				
■ キーワード				
口腔徴候、血液疾患、皮膚疾患、H I V感染症、睡眠時無呼吸症候群、抗凝固薬、ビスフォスフォネート製剤				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
全身疾患（血液疾患、皮膚科的疾患、H I V感染症など）の初発症状や部分症状として出現する種々の口腔病変と、これらの全身的疾患を有する患者の歯科治療時の注意点や抜歯後出血に対する処置法などについて説明できる。				
■ 授業概要				
内科的疾患（血液疾患）、皮膚科的疾患、H I V感染症と口腔徴候（口腔病変）について、実際の患者さんの病態スライドを中心に講義を行うとともに、抗凝固薬と抜歯後出血、ビスフォスフォネート製剤と抜歯後顎骨壊死、睡眠時無呼吸症候群と歯科の関わりなどについて講義を行う。				
■ 授業計画				
1 全身疾患口腔徴候学総論 （有病者の歯科治療時の注意点など）				
2 内科疾患と口腔病変	講義	口腔外科 1		
3 血液疾患と口腔出血	講義	口腔生化		
4 抗凝固薬と口腔出血	講義	口腔外科 1		
- ビスフォスフォネート製剤による顎骨壊死 -	講義	口腔外科 1		
5 皮膚科的疾患と口腔病変（扁平苔癬、天疱瘡など）	講義	口腔外科 1		
6 HIV感染症（ウイルス感染症）の口腔病変	講義	口腔外科 1		
7 睡眠時無呼吸症候群	講義	歯科矯正		
8 試験				
■ 予習・復習へのアドバイス				
口腔外科学Ⅰ、口腔外科学Ⅱ、口腔病理学の講義や実習で学んだ事項について、教科書やノートで復習しておくことが必須である。				
■ 教科書				
講義形式：スライドプロジェクターを用いた講義を中心に行う。教科書は特に指定せず、プリントを配布するとともに参考書等の紹介も授業中に行う。				
■ 参考書				
白川正順編集、有病者診療、医歯薬出版				
■ 成績の評価基準				
試験（80%）、その他（出席状況、レポートなど；20%）により評価する。				
■ 再試験の有無				
■ 研究活動との関連				
■ その他				
今後、医科的疾患を持った患者（有病者）の歯科治療の機会が増加することが予想され、全身疾患と口腔徴候の関係は益々重要となるので、しっかり学習してほしい。				

統合系科目IIIの単位数について（8単位）

救急歯科医学	1単位	全身疾患口腔徴候学	0.5単位
口腔外科手術学	1単位	口腔腫瘍学	0.5単位
口腔顎顔面疼痛学	1単位	口臭の診断・治療学	0.5単位
最新歯科生体材料・器械特論	1単位	感染制御学・疾患遺伝子学	0.5単位
歯科インプラント治療学	1単位		
臨床検査学	1単位		

■関連する学部・学科ディプロマポリシー

■ 科目名				
統合系科目III(口腔腫瘍学)				
■ 英語名				
Overview in Dentistry III (Oral oncology)				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
歯学総合系科目（統合系科目）	必修科目	講義	8	7期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
顎顔面疾患制御学：濱田倫史、松井竜太郎		口腔顎顔面歯科学 顎顔面疾患制御学分野		
顎顔面放射線学：佐藤強志、末永重明		口腔顎顔面歯科学 顎顔面放射線学分野		
口腔病理解析学：嶋香織、仙波伊知郎（単位認定教授）		歯科病態学 口腔病理解析学分野		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
顎顔面疾患制御学：099-275-6232		松井竜太郎：ryutaro@dent.kagoshima-u.ac.jp		
顎顔面放射線学：099-275-6272		佐藤 強志：sato@dent.kagoshima-u.ac.jp		
口腔病理解析学：099-275-6142		仙波伊知郎：semba@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
原則として授業日の17:00～18:00ですが、他の時間帯にも講義担当教員の研究室で随時対応します。電話やメール等で事前に予約を取って下さい。				
■ キーワード				
腫瘍の発生機序、転移、浸潤、良性腫瘍、悪性腫瘍、癌腫、肉腫、歯源性腫瘍、唾液腺腫瘍、画像診断、放射線治療、癌化学療法、緩和ケア、インフォームドコンセント				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
G10：顎顔面および口腔領域の腫瘍を発生機序から治療までを総合的に概説できる。				
SB0：		【関連するコアカリ】		
1. 腫瘍の発生について概説できる。		【C-4-5）-1】		
2. 腫瘍の浸潤と転移のメカニズムについて概説できる。		【C-4-5）-6】		
3. 良性腫瘍と悪性腫瘍の特徴を説明できる。		【C-4-5）-5】		
4. 歯源性腫瘍と非歯源性腫瘍の分類を説明できる。		【E-2-4）-(5), -(7)】		
5. 良性腫瘍と悪性腫瘍の画像診断について説明できる。		【E-2-4）-(5)-7】		
6. 癌化学療法と放射線療法について説明できる。		【E-2-4）-(5)-7】		
7. 緩和ケアとインフォームドコンセントを説明できる。		【A-4-1】		
■ 授業概要				
口腔には多様な腫瘍が発生すると共に、命に直結する癌（悪性腫瘍）に対しては、早期発見と診断のための基礎知識と治療法に関する基礎知識を得ることは非常に重要です。				
口腔顎顔面領域に発生する各種の腫瘍について、その発生、病理学的分類、臨床的、画像的、および病理学的特徴について理解し、また、特に悪性腫瘍の癌の浸潤と転移のメカニズムと治療法、および緩和ケアとインフォームドコンセントについて総合的に理解します。				
各科の講義により、より実践的な腫瘍の診断と治療の概要を学びます。				
終講試験として筆記試験を行い、また、適宜、レポートを課します。				
■ 授業計画				
月日	場所	回	内容	形態 担当
6/11（水）	第2講義室	1.	浸潤・転移のメカニズム	講義 顎顔面疾患制御学（濱田）
6/18（水）	同 上	2.	上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍	講義 口腔病理解析学（嶋）
6/25（水）	同 上	3.	歯源性腫瘍と唾液腺腫瘍	講義 口腔病理解析学（嶋）
7/02（水）	同 上	4.	良性腫瘍の画像診断	講義 顎顔面放射線学（佐藤）
7/09（水）	同 上	5.	悪性腫瘍の画像診断と放射線療法	講義 顎顔面放射線学（末永）
7/16（水）	同 上	6.	癌化学療法	講義 顎顔面疾患制御学（松井）
7/23（水）	同 上	7.	緩和ケアとインフォームドコンセント	講義 顎顔面疾患制御学（松井）
9/03（水）	同 上	8.	終講試験	筆記 口腔病理解析学（仙波）
■ 予習・復習へのアドバイス				
口腔外科学I、口腔外科学II、歯科放射線学、口腔病理学の講義や実習で学んだ事項について、教科書やノート				

で予習しておくことが必須です。また、講義時にはプリント等を配付し、さらに、桜ヶ丘医歯学教育センターのMoodleに教材資料等を提示しますので、復習に活用して下さい。

■ 教科書

教科書は特に指定しませんが、これまでに使っていた口腔外科学I、口腔外科学II、歯科放射線学、病理学、口腔病理学の各教科書が必須です。

■ 参考書

腫瘍の基礎的参考書としては、■ワインバーグ「がんの生物学（南江堂）があります。

■ 成績の評価基準

終講時の筆記試験(70%)、レポート(20%)、および授業への参加態度、質疑応答(10%)により評価します。

■ 再試験の有無

原則としてありません。

■ 研究活動との関連

■ その他

予習と復習のために桜ヶ丘医歯学教育センターのMoodleシステムに利用登録する事が必須です。

統合系科目IIIの単位数について(8単位)

救急歯科医学	1単位	全身疾患口腔徴候学	0.5単位
口腔外科手術学	1単位	口腔腫瘍学	0.5単位
口腔顎顔面疼痛学	1単位	口臭の診断・治療学	0.5単位
最新歯科生体材料・器械特論	1単位	感染制御学・疾患遺伝子学	0.5単位
歯科インプラント治療学	1単位		
臨床検査学	1単位		

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

1. 歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。
3. 口腔疾患を全身疾患の一つとしてとらえ、幅広い医学的知識に基づくプライマリ・ケアを実践するための基本的な臨床能力を身につけている。
5. 患者との対話を通して、インフォームド・コンセントを得ることができる。
9. 生涯にわたり自律的に学ぶ習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。

■ 科目名				
統合系科目III(口腔外科手術学)				
■ 英語名				
Overview in Dentistry III (Oral and Maxillofacial Surgery)				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
歯学総合系科目（統合系科目）	必修科目	講義・演習	8	8期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
野添 悦郎, 田松 裕一 他 単位認定教授：中村 典史		口腔顎顔面外科学, 人体構造解剖学 他		
■ 連絡先 (TEL)		■ 連絡先 (MAIL)		
099-275-6242 (野添、中村)		nozoe@dent.kagoshima-u.ac.jp		
099-275-6112 (田松)		nakamura@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
口腔顎顔面外科研究室にて随時対応する。必要に応じて講義担当教官に対応を依頼する。				
■ キーワード				
口腔外科手術 歯科麻酔 口腔顎顔面解剖				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
全身及び局所麻酔下に行う口腔外科手術を総合的に学習する。				
1) 頭頸部の基本的構造を説明できる。				
2) 口腔・顎顔面領域に生じる主な画像所見について説明できる。				
3) 口腔外科手術における全身管理、精神鎮静法、局所麻酔及び全身麻酔について説明できる。				
4) 口腔外科小手術を適切に実施するために必要な基本的内容を説明できる。				
5) 口腔・顎顔面領域に生じる主な腫瘍、外傷、顎変形症手術を説明できる。				
6) インフォームドコンセントの定義と重要性を説明できる。				
■ 授業概要				
全身及び局所麻酔下に行う口腔外科手術を総合的に理解できるよう基礎的・臨床的内容について教授する。				
■ 授業計画				
1 総論（口腔外科で行われる手術の概略と局所麻酔、全身麻酔下手術の流れ）	講義	口腔外科 2		
2 顎顔面領域の局所解	講義	口腔解剖 2		
3 口腔顎顔面領域の画像診断	講義	歯科放射線		
4 局所麻酔法と術前・術中・術後	講義	歯科麻酔		
5 全身疾患と歯科治療	講義	歯科麻酔		
6 口腔外科手術の実際1（概説，腫瘍）	講義	口腔外科 1		
7 口腔外科手術の実際2（顎顔面骨折，顎変形症）	講義	口腔外科 1		
8 口腔外科手術の実際3（抜歯術 1）	講義	口腔外科 2		
9 口腔外科手術の実際4（抜歯術 2）	講義	口腔外科 2		
10 口腔外科手術の実際5（抜歯術 3）	講義	口腔外科 2		
11 口腔外科手術の実際6（嚢胞その他）	講義	口腔外科 2		
12 口腔外科手術の実際7（歯槽堤手術）	講義	口腔外科 2		
13 病理組織診断（術中迅速診断など）	講義	口腔病理		
14 インフォームドコンセント - 患者との信頼関係を築くために -	講義	看護部		
15 予備				
■ 予習・復習へのアドバイス				
各講義の予習をするとともに、授業後の復習を十分に行い、授業内容の理解に努めること。				
■ 教科書				
「口腔外科学」第3版、医歯薬出版、「図説口腔外科手術学、上中下」医歯薬出版、「イラストでみる口腔外科手術」クインテッセンス出版				
「臨床歯科麻酔学」永末書店、「歯科麻酔実践ガイド」医歯薬出版				
「日本人体解剖学上・下」南山堂				
「標準歯科放射線学」医学書院、「口腔画像診断アトラス」医師薬出版				
「標準病理学」医学書院				
■ 参考書				

■ 成績の評価基準

2/3以上講義に出席したものに對し受験資格を与え、学習目標 1 ～ 6) に関して筆記試験を実施する (90 点) 。また授業態度による評価を行い (10 点満点) 、合計 60 点以上を合格とする。

■ 再試験の有無

■ 研究活動との関連

■ その他

統合系科目 III の単位数について (8 単位)

救急歯科医学	1 単位	全身疾患口腔徴候学	0.5 単位
口腔外科手術学	1 単位	口腔腫瘍学	0.5 単位
口腔顎顔面疼痛学	1 単位	口臭の診断・治療学	0.5 単位
最新歯科生体材料・器械特論	1 単位	感染制御学・疾患遺伝子学	0.5 単位
歯科インプラント治療学	1 単位		
臨床検査学	1 単位		

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

■ 科目名				
統合系科目III(口腔顎顔面疼痛学)				
■ 英語名				
Overview in Dentistry III (Oral and Maxillofacial Sciences for Pain)				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
歯学総合系科目（統合系科目）	必修科目	講義・演習	8	8期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
佐藤 友昭（単位認定責任者） 徳田 雅行（オーガナイザー）		歯科応用薬理学，歯科保存学		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
佐藤 099-275-6160 徳田 099-275-6192		佐藤：tomsato@dent.kagoshima-u.ac.jp 徳田：shozon01@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
佐藤：木曜日17:00～18:00（この他にも随時相談に応じます） 徳田：特に設定しない。研究棟6階の研究室で随時対応する。				
■ キーワード				
知覚、脳神経、三叉神経系 痛みの伝導路、疼痛、鎮痛薬、受容体、発痛物質、侵害刺激、AδおよびC線維、イオンチャンネル、痛覚反射、急性歯髄炎、急性根尖性歯髄炎、自発痛、温水痛、誘発痛、打診痛、帯状疱疹、癌性疼痛、舌痛症、三叉神経痛、炎症、認識と情動、機械刺激性異痛、順応				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
GI0: 1疼痛とその治療に関する基本的知識を習得する。C-1,2,4,5；E-2,3,4 2疼痛の病因、病態に関して既知な事を不明な事を説明できる。A-6-2）				
SB0s: 1）頭顔部の感覚神経の分布やその脳内神経回路を理解・説明できる。 2）疼痛に關与する脳神経（特に三叉神経）の走行，線維構築，支配領域を説明できる。 3）代表的な鎮痛や鎮静作用をもつ薬物を列挙し、その作用機序を簡単に説明できる。 4）痛覚の末梢受容機序、中枢における痛覚情報処理機構について説明できる。 5）一次・二次侵害受容ニューロンと末梢性感作・中枢性感作について説明できる。 6）下行性疼痛抑制系を含む疼痛抑制系について説明できる。 7）代表的な歯髄炎および根尖性歯周炎における痛みの性質とそのメカニズムが説明できる。 8）口腔外科疾患における代表的な痛みを伴う疾患を列挙し、その病態および治療法を簡単に説明できる。 9）歯周組織における急性および慢性疼痛について理解し、その治療法を説明できる。 10）歯の移動に伴う歯根膜神経の変化を簡単に説明できる。歯の移動と痛み、歯の移動に伴う歯根膜の痛みについて、その作用機序を簡単に説明できる。 11）侵害受容性疼痛、神経因性疼痛の違いについて説明できる。 12)顎顔面の慢性疼痛に対する星状神経節ブロック療法について説明できる。				
■ 授業概要				
疼痛に関する医療および疼痛管理を理解するためには、多くの学問分野を横断する知識を持たなければならない。なぜなら、疼痛は認識や生活の質などの主観的なことを扱う場合も多く、各疾患の症状はもちろんのこと、背景にある口腔顔面領域の解剖、生理機能、病態生理、薬物学的知識、更には、心理学的知識が疼痛医療に必要となるからである。それゆえ、本講義は、基礎と臨床的立場から疼痛についてオムニバス式で講義を行う。				
■ 授業計画				
日程	時限	内容	担当	
1	10/08	2	頭頸部顎顔面領域解剖（1）	講義 人体構造解剖学
2	10/15	2	頭頸部顎顔面領域解剖（2）	講義 人体構造解剖学
3	10/22	2	頭頸部顎顔面の神経分布と痛み（1）-末梢神経-	講義 歯科機能形態学
4	10/29	2	頭頸部顎顔面の神経分布と痛み（2）-中枢神経-	講義 歯科機能形態学
5	11/06	2	痛みとは何か，痛みの発生機序（1）	講義 口腔生理学
6	11/12	2	痛みとは何か，痛みの発生機序（2）	講義 口腔生理学

7	11/19	2	痛みと薬物	講義	歯科応用薬理学
8	11/26	2	痛みと薬物	講義	歯科応用薬理学
9	12/03	2	痛みと心理的背景	講義	心身歯科学
10	12/10	2	歯科治療と痛み 齲蝕，歯周領域， その他治療に伴う痛みなど概説	講義	歯科保存学， 歯周病学
11	12/17	2	矯正学的歯の移動に伴う痛み	講義	歯科矯正学
12	01/07	2	歯科領域の特殊な痛み 腫瘍，带状疱疹， 手足口病など	講義	顎顔面制御学
13	01/14	2	ペインクリニック（１）	講義	歯科麻酔学
14	01/21	2	ペインクリニック（２）	講義	歯科麻酔学
15	01/28	2	ペインクリニック（３）	講義	歯科麻酔学
■ 予習・復習へのアドバイス					
担当講座の講義や実習で学んだ事項について、教科書やノートで復習しておくこと。講義中の各担当教員のアドバイスに従うこと。					
■ 教科書					
（口解1）マーティン神経解剖学（ISBN978-4-89013-352-9）、および解剖学で使用した教科書 （口解2）金子丑之助：日本人体解剖学（上・下），南山堂（２年次に使用した教科書） （薬理）痛みの治療薬－その基礎から臨床まで－エルゼビアジャパン（ISBN4-86034-846-X） （生理）基礎歯科生理学-医歯薬出版 （保存1）歯学性のための歯内療法学、加藤 熙編、医歯薬出版 （口外1）口腔外科学 第3版 医歯薬出版 （歯周）ザ・ペリオドントロジー 編集/和泉雄一 沼部幸博 他 永末書店（ISBN978-4-8160-1208-2） （矯正）歯の移動の臨床バイオメカニクス－骨と歯根膜のダイナミズム－（ISBN4-263-44217-2） （麻酔）丹羽 均編．臨床歯科麻酔学第4版（永末書店）					
■ 参考書					
■ 成績の評価基準					
各講座が指示する方法（レポート、小テストのいずれか）で評価するので必ず講義に出席すること（欠席の場合、0点と評価される場合があります）。各講座によって評価された点数を担当時間割に換算し、合計点数（100点満点）で60点以上を単位修得として認める。配点は次の通りである。					
○口腔解剖1・・・・・・・・・・ 2/15 点 ○口腔解剖2・・・・・・・・・・ 2/15 点 ○口腔生理・・・・・・・・・・ 2/15 点 ○歯科薬理・・・・・・・・・・ 2/15 点 ○歯科基礎・・・・・・・・・・ 1/15 点 ○歯科矯正・・・・・・・・・・ 1/15 点 ○歯科保存1・・・・・・・・・・ 0.5/15 点 ○歯科保存2・・・・・・・・・・ 0.5/15 点 ○第1口外・・・・・・・・・・ 1/15 点 ○歯科麻酔・・・・・・・・・・ 3/15 点 計・・・・・・・・・・ 15/15 点（100点）					
■ 再試験の有無					
無					
■ 研究活動との関連					
■ その他					
各担当の指示に従い、提出物の作成は自力で行うこと。また、提出物の締め切りは必ず守って下さい。					
統合系科目IIIの単位数について（8単位）					
救急歯科医学		1単位	全身疾患口腔徴候学		0.5単位
口腔外科手術学		1単位	口腔腫瘍学		0.5単位
口腔顎顔面疼痛学		1単位	口臭の診断・治療学		0.5単位

最新歯科生体材料・器械特論 — 1単位 感染制御学・疾患遺伝子学 — 0.5単位

歯科インプラント治療学 — 1単位

臨床検査学 — 1単位

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

- 1．歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。
- 3．口腔疾患を全身疾患の一つとしてとらえ、幅広い医学的知識に基づくプライマリ・ケアを実践するための基本的な臨床能力を身につけている。
- 8．口腔疾患の予防と健康増進に関する十分な知識を持ち、地域社会に密着した歯科医師および歯科医学教育者・研究者となりうる能力を持っている。
- 9．生涯にわたり自律的に学ぶ習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。

■ 科目名				
統合系科目III(口臭の診断・治療学)				
■ 英語名				
Overview in Dentistry III (Diagnosis and treatment of halitosis)				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
歯学総合系科目（統合系科目）	必修科目	講義	8	8期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
野口 和行、於保 孝彦 他 単位認定教授：野口 和行		歯周病学、予防歯科学 他		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6202（野口） 099-275-6180（於保）		野口和行 kazuperi@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
午後4時以降に、講座研究室で随時対応する。				
■ キーワード				
口臭、口臭症、細菌、舌苔、歯科疾患、心理的アプローチ				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
GI0: 口臭の病因を理解し、その診断法および治療法を習得する。 SB0: 1) 口臭の分類を説明できる。 2) 口臭の原因を説明できる。 3) 口臭の検査法を説明できる。 4) 口臭の治療法を説明できる。				
■ 授業概要				
口臭は社会生活を営む上で支障をきたすことがあり、多くの人にとって関心度が高い問題である。この口臭の大部分の原因は口腔内疾患であり、“臭いの元”は口腔局所で産生されていることがわかっている。一方心因性に由来する場合もあり、心理的アプローチが必要なこともある。このようなことから、口臭の病因、口臭症の診断、治療法について講義する。				
■ 授業計画				
(回)	(日時)	(講義室)	(内容)	(担当者)
1	10/ 3 (金)	1 講	口臭概論 - 口臭の分類 -	武内 (歯周病学)
2	10/10 (金)	1 講	口臭の原因	於保 (予防歯科学)
3	10/17 (金)	1 講	口臭の診断 - 口臭検査法 -	武内 (歯周病学)
4	10/24 (金)	1 講	口臭の治療 (1) - 口腔からのアプローチ -	於保 (予防歯科学)
5	10/31 (金)	1 講	口臭の治療 (2) - 心理的アプローチ -	梶原 (基礎歯科)
■ 予習・復習へのアドバイス				
教科書・参考書にて予習し、授業ごとに配布される講義レジュメと資料を参考に復習する。				
■ 教科書				
口臭診療マニュアル、宮崎秀夫編、第一出版、2007				
■ 参考書				
■ 成績の評価基準				
各回の授業中に行われる小テストによって評価する（100％）				
■ 再試験の有無				
実施しない				
■ 研究活動との関連				
■ その他				
統合系科目IIIの単位数について（8単位）				
救急歯科医学 ————— 1単位 全身疾患口腔徴候学 ————— 0.5単位				
口腔外科手術学 ————— 1単位 口腔腫瘍学 ————— 0.5単位				

口腔顎顔面疼痛学	1単位	口臭の診断・治療学	0.5単位
最新歯科生体材料・器械特論	1単位	感染制御学・疾患遺伝子学	0.5単位
歯科インプラント治療学	1単位		
臨床検査学	1単位		

■関連する学部・学科ディプロマポリシー

- 1．歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。
- 4．医療の倫理と法の原則に則り、患者中心の歯科医療を実践できる。

■ 科目名				
統合系科目III(感染制御学・疾患遺伝子学)				
■ 英語名				
Overview in Dentistry III (Genetics of Diseases)				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
歯学総合系科目（統合系科目）	必修科目	講義・演習	8	8期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
小松澤 均、松尾 美樹 他 単位認定教授：小松澤 均		口腔微生物学 他		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6150		hkomatsu@dent.kagoshima-u.ac.jp（口腔細菌）： semba@dent.kagoshima-u.ac.jp（口腔病理）：		
■ オフィスアワー				
原則として授業日の17:00～18:00とするが、それ以外でも適宜対応する。				
■ キーワード				
院内感染、薬剤耐性菌、感染制御、遺伝子診断				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
G10: 感染制御および疾患の原因となる遺伝子について概説できる。 【A-5, C-3-1), C-4-2), C-4-4), C-4-5)】 SBO: 細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫の形態学的特徴と基本的性状ならびにヒトに対する感染機構とこれらの微生物がヒトに対して示す病原性を説明できる。 【C-3-1)-1,2】 清潔と不潔の区分および滅菌と消毒の意義、原理および代表的な方法を説明できる。 【C-3-1)-3】 化学療法の目的、原理、作用機序および薬剤耐性機序を説明できる。 【C-3-1)-4】 新興・再興感染症について説明できる。 【C-3-1)-5】 院内感染について、原因、予防法について説明できる。 【A-5-1, C-3-1)-6】 修復と再生の意義とこれらの形態的所見ならびに遺伝子との関連性を理解する。 【C-4-2)-1～4】 発症機序を含む炎症の定義、炎症に関与する細胞の種類と機能、滲出性炎や肉芽腫性炎の種類と病理組織学的な特徴および経時的变化と遺伝学的関連性を説明できる。 【C-4-4)-1～4】 腫瘍の定義、病因、異形成と組織学的分化度における遺伝子の役割を説明できる。 【C-4-5)-1～4】				
■ 授業概要				
感染制御学では実際に病院内で問題となる感染症についての知識・理解を深め、院内感染菌対策についての具体的な方策を学ぶ。特に歯科領域に関連した感染制御についてより詳細に理解を深める。 疾患遺伝子学では今日までに飛躍的に進歩した遺伝子技術を用いた治療・診断について理解する。特に歯科領域に関連した歯周病、口腔疾患、細菌感染症について遺伝子面からの知識・理解を深める。				
■ 授業計画				
1 感染制御学概論 : 口腔細菌 2 院内感染菌（薬剤耐性菌） : 口腔細菌 3 歯科病院での院内感染対策（総論）: 口腔細菌 4 一般歯科診療における院内感染対策: 予防歯科 5 口腔外科診療における院内感染対策: 口腔外科 1 6 疾患遺伝子学（概論・遺伝子治療）: 口腔細菌 7 疾患遺伝子学（遺伝子と歯周病） : 歯科保存 2 8 疾患遺伝子学（遺伝子と口腔癌） : 口腔外科 1 9 疾患遺伝子学（遺伝子病理） : 口腔病理 10 疾患遺伝子学（病原細菌検査法） : 口腔細菌				
授業はすべて講義、日時は後期 4限目、場所は第1講義室				
■ 予習・復習へのアドバイス				
毎回の授業にあたっては、講義テーマに該当する内容を参考書で予習すること。授業では、必要に応じてその回の内容についてのプリントを配るので、必要事項を適宜プリントに記入し授業の内容の理解に努めること。配布するプリントと参考書を活用して復習すること。				

■教科書

■参考書

口腔微生物学・免疫学（医歯薬出版社）、戸田新細菌学（南山堂）、解明病理学（医歯薬出版）、「臨床歯周病学 第2版」（医歯薬出版株式会社）

■成績の評価基準

感染制御学と疾患遺伝子学を含めた試験（70％）と授業への参加態度・レポート等（30％）により評価する。

■再試験の有無

有

■研究活動との関連

■その他

院内感染対策は臨床上重要なことであるので、十分な知識・理解が必要である。また、近年の遺伝子技術の目覚ましい進歩により医療の場においても遺伝子治療・診断は必要不可欠のものとなってきた。本講義を通して感染制御・疾患遺伝子学の概要をしっかりと学んでもらいたい。

統合系科目IIIの単位数について（8単位）

救急歯科医学	1単位	全身疾患口腔徴候学	0.5単位
口腔外科手術学	1単位	口腔腫瘍学	0.5単位
口腔顎顔面疼痛学	1単位	口臭の診断・治療学	0.5単位
最新歯科生体材料・器械特論	1単位	感染制御学・疾患遺伝子学	0.5単位
歯科インプラント治療学	1単位		
臨床検査学	1単位		

講義の進行状況により、授業計画の変更を行う場合がある。

■関連する学部・学科ディプロマポリシー

- 1．歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。
- 6．安全管理や危機管理能力を備え、医療事故の防止や適格な感染対策の知識を有している。
- 9．生涯にわたり自律的に学ぶ習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。

■ 科目名				
統合系科目III(最新歯科生体材料・機器特論)				
■ 英語名				
Overview in Dentistry III (Dental Biomaterials and Devices)				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
歯学総合系科目（統合系科目）	必修科目	講義・演習	8	8期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
菊地 聖史（単位認定教授）、有川 裕之（オーガナイザー）、嶺崎 良人（オーガナイザー）、鳥居 光男、白方 良典、西 恭宏、村口 浩一、村原 貞昭、柳田 廣明、塚田 岳司、坂元 亮一、村上 格、前田 綾、佐藤 秀夫、末永 重明		歯科生体材料学分野（菊地、有川）、咬合機能補綴学分野（嶺崎、村口、村原、柳田）、歯科保存学分野（鳥居、塚田）、歯周病学分野（白方）、口腔顎顔面補綴学分野（西、村上）、顎顔面疾患制御学分野（坂元）、歯科矯正学分野（前田）、小児歯科学分野（佐藤）、顎顔面放射線学分野（末永）		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6172（有川） 099-275-6212（嶺崎）		hiro@dent.kagoshima-u.ac.jp（有川） minesaki@dent.kagoshima-u.ac.jp（嶺崎）		
■ オフィスアワー				
特に指定しない。各担当教員の研究室で随時対応する。				
■ キーワード				
歯科材料、歯科生体材料、歯科器械、歯科医療機器、歯科理工学的性質				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
歯科生体材料と歯科材料・器械【D】、臨床歯学教育【E】				
G10:				
1. 歯科材料に使用される素材と器械・器具の特性と用途に応じた所要性質を理解する。【D-1】				
2. 成形を行って使用する歯科材料の種類と特性を理解し、これらの歯科材料の基本的成形方法を修得する。【D-2】				
3. 歯と歯周組織に生じる疾患の治療の進め方の基本を修得する。【E-3-3】				
4. 歯質欠損に対する歯冠修復と歯列の一部あるいは全部欠損に対する修復の臨床的意義と方法を理解する。【E-3-4】				
SB0:				
1. 高分子材料、セラミック材料、金属材料および複合材料の構造と物性を説明できる。【D-1-1】				
2. 生体材料の力学的、物理的、化学的および生物学的所要性質を説明できる。【D-1-2】				
3. 生体材料と歯科材料の安全性の評価を説明できる。【D-1-3】				
4. 歯科用器械・器具の用途と特徴について説明できる。【D-1-4】				
5. 修復材料と修復法の種類と特徴を説明できる。【D-2-1】				
6. 歯冠修復・義歯の製作に必要な材料の特性を説明できる。【D-2-2】				
7. レジンの重合、金属の鋳造・熱処理およびセラミックスの加工・焼成の特徴を使用機器と関連づけて説明できる。【D-2-6】				
8. 接着材と合着材の種類と成分および特性を説明できる。【D-2-7】				
9. 修復材料と修復法の適応を説明できる。【E-3-3】-(1)-7】				
10. クラウンブリッジの製作に必要な材料の基本的操作を説明できる。【E-3-4】-(1)-6】				
11. 可撤性義歯の製作に必要な材料の特性を説明でき、各基本的操作を適切に行うことができる。【E-3-4】-(2)-10】				
■ 授業概要				
本授業は、歯科生体材料学分野ならびに関連する臨床系分野が歯科生体材料と歯科機器に関する講義と演習を行うことにより歯科理工学と各臨床系科目の学習内容の結びつきを強め、理解を深めることを目的としている。歯科生体材料学分野は、基礎系分野の立場から、材料の理工学的特性や機器の原理と構造などについて講義を行う。また、各臨床系分野は、実際に臨床で使用される材料や機器の臨床的特徴や操作方法などについて、臨床例を示しながら講義を行う。なお、「接着」、「審美材料」、「金属アレルギー」については、重点項目として別個に取り上げる。				
■ 授業計画				
（回）	（日時）	（講義室）	（内容）	（担当教員）

1	12/ 2 (火) 3限	1講	口腔組織と歯科生体材料の理工学的特性	有川
2	12/ 2 (火) 4限	1講	臨床で使用される材料と機器(1) (保存修復・歯内療法)	鳥居
3	12/ 9 (火) 3限	1講	臨床で使用される材料と機器(2) (歯周治療)	白方
4	12/ 9 (火) 4限	1講	臨床で使用される材料と機器(3) (冠橋義歯)	嶺崎
5	12/16 (火) 3限	1講	臨床で使用される材料と機器(4) (有床義歯)	西
6	12/16 (火) 4限	1講	接着の基礎と臨床(1) (歯質)	村口
7	1/ 6 (火) 3限	1講	接着の基礎と臨床(2) (金属・レジン・セラミックス)	村原
8	1/ 6 (火) 4限	1講	最新の審美補綴材料	柳田
9	1/13 (火) 3限	1講	最新の審美修復材料	塚田
10	1/13 (火) 4限	1講	金属アレルギーの基礎と臨床(1)	坂元
11	1/20 (火) 3限	1講	金属アレルギーの基礎と臨床(2)	村上
12	1/20 (火) 4限	1講	臨床で使用される材料と機器(5) (歯科矯正)	前田
13	1/27 (火) 3限	1講	臨床で使用される材料と機器(6) (小児歯科)	佐藤
14	1/27 (火) 4限	1講	臨床で使用される材料と機器(7) (放射線)	末永
15	2/ 3 (火) 3限	1講	最新の歯科機器・総括	菊地
■ 予習・復習へのアドバイス				
歯科理工学や担当分野の授業で用いた教科書やプリントの関連箇所を読むなどして予習することが望ましい。				
■ 教科書				
特に指定しない。				
■ 参考書				
・ 歯科理工学教育用語集第2版、医歯薬出版、2011年発行 (ISBN978-4-263-45647-7)				
その他は適宜紹介する。				
■ 成績の評価基準				
各回の講義担当者が指示する方法 (レポート、授業中の小テスト) の合計点数 (100点満点) で評価し、60点以上を単位修得として認める。				
■ 再試験の有無				
実施しない。				
■ 研究活動との関連				
「歯科理工学」や「歯科保存学」、「歯周病学」、「冠橋補綴学」、「有床補綴学」など、関連科目の当該欄を参照のこと。				
■ その他				
統合系科目IIIの単位数について (8単位)				
救急歯科医学	—————	1単位	全身疾患口腔徴候学	————— 0.5単位
口腔外科手術学	—————	1単位	口腔腫瘍学	————— 0.5単位
口腔顎顔面疼痛学	—————	1単位	口臭の診断・治療学	————— 0.5単位
最新歯科生体材料・器械特論	—	1単位	感染制御学・疾患遺伝子学	—— 0.5単位
歯科インプラント治療学	———	1単位		
臨床検査学	—————	1単位		
■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー				
1. 歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。				
8. 口腔疾患の予防と健康増進に関する十分な知識を持ち、地域社会に密着した歯科医師および歯科医学教育者・研究者となりうる能力を持っている。				
9. 生涯にわたり自律的に学習習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。				

■ 科目名				
統合系科目III(歯科インプラント治療学)				
■ 英語名				
Overview in Dentistry III (Oral implantology)				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
歯学総合系科目（統合系科目）	必修科目	講義・演習・実習	8	8期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
西 恭宏、松山 孝司 他 単位認定教授：西村 正宏 他9分野の担当教員		口腔顎顔面補綴学，人体構造解剖学，口腔病理解析学，顎顔面放射線学，歯周病学，歯科生体材料科学，歯科麻酔全身管理学，顎顔面疾患制御学，口腔顎顔面外科，咬合機能補綴学，予防歯科学		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6222（西） 099-275-6202（松山）		shar@dent.kagoshima-u.ac.jp （口腔顎顔面補綴学，西 恭宏） takashi@dent.kagoshima-u.ac.jp （歯周病学，松山 孝司）		
■ オフィスアワ -				
各担当教員の研究室				
■ キーワード				
口腔インプラント，インプラント体，上部構造，アバットメント，口腔インプラント治療				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
G10： 口腔の欠損の補綴治療として確立したインプラント治療を行う上で，必要な知識を修得することを目的とする。				
SB0：				
1) 口腔インプラントの種類と特徴を説明できる。【E-2-4)-(3)1】				
2) インプラントの材料と他の修復方法との違い，インプラント治療の適応を説明できる。【E-2-4)-(3)2】				
3) インプラント治療に必要な診察と検査を説明できる。【E-2-4)-(3)3】				
4) インプラント治療のリスクファクター，禁忌症について説明できる。【E-2-4)-(3)4】				
5) インプラント治療に必要な上顎骨，下顎骨の構造について説明できる。				
6) インプラント治療に必要なエックス線診断について説明できる。【E-2-4)-(3)3】				
7) インプラント外科手術について説明できる。				
8) インプラント補綴の種類について説明できる。【E-2-4)-(3)1】				
9) インプラント支台の単独，ブリッジ，オーバーデンチャーの修復法について説明できる。【E-2-4)-(3)1】				
10) インプラント治療の術中・術後管理について説明できる。				
11) 局所継発症の予防と対策について説明できる。【E-2-4)-(3)4】				
12) インプラント治療の偶発症と合併症について説明できる。【E-2-4)-(3)4】				
13) インプラント治療のメンテナンスについて説明できる。				
■ 授業概要				
口腔インプラント治療における診察，検査，診断，治療，メンテナンスについて講義により理解する。 また，演習として1症例の治療計画の立案，実習としてフィクスチャーの埋入と上部構造の印象採得をシミュレーションにて行い，治療計画や外科手術，補綴術式に関して理解を深める。				
■ 授業計画				
(回) (日時)		(講義室)	(内容)	(担当者)
1	12/ 9 (火) 1限	1講	口腔インプラント治療の概論，歴史と変遷	講義 口腔顎顔面補綴学
2	12/ 9 (火) 2限	1講	口腔インプラントのための臨床解剖学	講義 人体構造解剖学
3	12/16 (火) 1限	1講	口腔インプラントのための病理学	講義 口腔病理解析学
4	12/16 (火) 2限	1講	口腔インプラントのための画像診断の目的と意義(骨梁，骨質の評価)	講義 顎顔面放射線学
5	1/ 6 (火) 1限	1講	口腔インプラントのための材料学	講義 歯科生体材料科学

(2 分野合同)		口腔インプラントのための全身管理学	講義	歯科麻酔全身管理学
6	1/ 6 (火) 2限 1講	口腔インプラントのための診察と検査	講義	顎顔面疾患制御学
7	1/13 (火) 1限 1講	口腔インプラントのための歯周病学的プランニング	講義	歯周病学
8	1/13 (火) 2限 1講	口腔インプラントのための補綴学的プランニング	講義	口腔顎顔面補綴学
9	1/20 (火) 1限 1講	口腔インプラントのための外科学的プランニング	講義	口腔顎顔面外科学
10	1/20 (火) 2限 1講	口腔インプラント治療の合併症とその対策	講義	顎顔面疾患制御学
11	1/27 (火) 1限 1講	口腔インプラントのための上部構造物・補綴術式	講義	咬合機能補綴学
12	1/27 (火) 2限 1示	三次元画像診断とシミュレーション	演習	顎顔面放射線学
(2 分野合同)			演習	咬合機能補綴学
13	2/ 3 (火) 1限 3実	口腔インプラントの基本的な埋入手技と印象採得	実習	歯周病学
(5 分野合同)			実習	咬合機能補綴学
14	2/ 3 (火) 2限 3実		実習	口腔顎顔面補綴学
			実習	口腔顎顔面外科学
			実習	顎顔面疾患制御学
15	2/10 (火) 1限 1講	口腔インプラントの術後管理とメンテナンス	講義	予防歯科学
(2 分野合同)			講義	歯周病学
16	2/10 (火) 2限 1講	試験		

■ 予習・復習へのアドバイス

専門用語が多いため、理解には、参考書による予習が望ましい。また、できるだけ講義中の理解に努めること。
演習と実習前には、それまでの講義内容を良く復習しておくこと。

■ 教科書

担当教員から、必要に応じ資料を配付する。

■ 参考書

1．エッセンシャル 口腔インプラント学 第1版，編著 古谷野 潔，松浦 正朗，医歯薬出版，2009，ISBN978-4-263-44298-2
2．よくわかる口腔インプラント学 第2版，赤川安正・松浦正朗・矢谷博文・渡邊文彦 編，医歯薬出版，2011，ISBN978-4-263-45640-8

■ 成績の評価基準

試験により評価
100点満点で60点以上を合格とする。

■ 再試験の有無

実施する

■ 研究活動との関連

歯科インプラントは適応例に適切に施術すれば満足度の高い治療である一方で，最近では治療に伴う危険性を不安視する声もある。
本学では治療成績を向上させるため基礎から臨床まで分野を問わず様々な研究が行われている。
偶発症予防のために詳細な血管・神経の走行を調べる解剖学的な研究や骨を増成したり再生したりする研究などはその一例である。

■ その他

統合系科目IIIの単位数について (8 単位)

救急歯科医学	1単位	全身疾患口腔徴候学	0.5単位
口腔外科手術学	1単位	口腔腫瘍学	0.5単位
口腔顎顔面疼痛学	1単位	口臭の診断・治療学	0.5単位
最新歯科生体材料・器械特論	1単位	感染制御学・疾患遺伝子学	0.5単位
歯科インプラント治療学	1単位		
臨床検査学	1単位		

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

4．医療の倫理と法の原則に則り、患者中心の歯科医療を実践できる。
6．安全管理や危機管理能力を備え、医療事故の防止や適切な感染対策の知識を有している。
9．生涯にわたり自律的に学ぶ習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。

■ 科目名				
統合系科目III(臨床検査学)				
■ 英語名				
Overview in Dentistry III (Laboratory Medicine)				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
歯学総合系科目（統合系科目）	必修科目	講義・演習	8	8期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
松山 孝司 他，単位認定教授：杉原 一正		歯周病学 他		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6202（松山）		takashi@dent.kagoshima-u.ac.jp		
099-275-6232（杉原）		sugihara@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
特に時間は設定せず、講義担当教員の研究室で随時対応する。				
■ キーワード				
臨床検査学、血管代謝と病態、歯科臨床検査学、輸血学、保存治療時の検査、歯周治療時の検査、補綴治療時の検査、小児歯科治療時の検査、矯正歯科治療時の検査、予防歯科治療時の検査、歯科放射線科における検査、唇顎口蓋裂治療時の検査、歯科麻酔時の検査、口腔外科治療時の検査				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
医科における各種臨床検査について説明できるとともに、歯科特有の臨床検査法、すなわち、歯科口腔外科的疾患の的確な診断と治療のための臨床検査法について説明できる。また、歯科放射線科での検査法、輸血法、唇顎口蓋裂患者や口腔腫瘍患者のための臨床検査法についても説明できる。				
■ 授業概要				
医科における臨床検査学について4回講義を実施した後に、歯科臨床各科、すなわち歯科保存科（充填、歯内療法）、歯周科、補綴科（冠橋補綴、有床義歯）、発達系歯科（予防歯科、小児歯科、矯正歯科）、歯科放射線科、歯科麻酔科、口腔外科における臨床検査法について概説講義を行う。				
■ 授業計画				
1 医科検査学概論	講義	血管代謝		
2 血管代謝と病態（1）	講義	血管代謝		
3 血管代謝と病態（2）	講義	血管代謝		
4 血管代謝と病態（3）	講義	血管代謝		
5 歯科検査学概論	講義	口腔外科 1		
6 保存系（齲蝕、エンド）における検査法	講義	歯科保存 1		
7 歯周病における検査法	講義	歯科保存 2		
8 補綴系（クラウン・ブリッジ）における検査法	講義	歯科補綴 1		
9 床義歯補綴診療における診査・診断	講義	歯科補綴 2		
10 輸血学	講義	口腔外科 2		
11 口腔外科領域における特殊検査法	講義	口腔外科 2		
12 放射線画像を用いた検査法	講義	歯科放射線		
13 発達系（予防、小児、矯正）における検査法	講義	予防歯科・小児歯科・歯科矯正		
14 麻酔歯科における検査法	講義	歯科麻酔		
15 口腔外科領域（腫瘍）における臨床検査について	講義	口腔外科 1		
■ 予習・復習へのアドバイス				
臨床系各授業科目の講義や実習で学んだ事項について、教科書やノートで復習しておくことが必須である。				
■ 教科書				
講義形式：スライドプロジェクターを用いた講義を中心に行う。教科書は特に指定せず、講義中にプリントを配布するとともに参考書等の紹介も授業中に行う。				
■ 参考書				
参考書としては、「赤松英一編：口腔診断学（学建書院）」がある。				
■ 成績の評価基準				
試験(80%)、その他（出席状況、レポートなど；20%）により評価する。				
■ 再試験の有無				

■ 研究活動との関連

■ その他

歯科口腔外科的疾患の的確な診断と治療を行うためには、その根拠となる臨床検査が非常に重要であるので、歯科における臨床検査の意義と特徴についてしっかりと学習してほしい。

統合系科目IIIの単位数について（8単位）

救急歯科医学	1単位	全身疾患口腔徴候学	0.5単位
口腔外科手術学	1単位	口腔腫瘍学	0.5単位
口腔顎顔面疼痛学	1単位	口臭の診断・治療学	0.5単位
最新歯科生体材料・器械特論	1単位	感染制御学・疾患遺伝子学	0.5単位
歯科インプラント治療学	1単位		
臨床検査学	1単位		

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

■ 科目名				
統合系科目Ⅳ(医療関係法規)				
■ 英語名				
Overview in Dentistry Ⅳ (Legal Medicine)				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
歯学総合系科目（統合系科目）	必修科目	講義・演習	6.5	12期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
於保 孝彦、西山 毅 単位認定教授：於保 孝彦		予防歯科学		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6182		oho@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
特に時間は指定せず、6F講座研究室で随時対応する。				
■ キーワード				
歯科医療制度、保健・医療・福祉・介護関連法規				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
歯科医師法および関連法規の基本的な考え方を理解する。【B-2-1】				
■ 授業概要				
歯科医療制度および保健・医療・福祉・介護関連法規について解説するとともに医事紛争例を紹介する。				
■ 授業計画				
回	日 時	講義室	内 容	担当
1	10/7（火）2限	1説	医療制度	西山
2	10/14（火）2限	1説	基本法・医療施設に関する法	西山
3	10/21（火）2限	1説	医療関係者に関する法	西山
4	11/4（火）2限	1説	薬事・予防衛生・保健衛生・環境に関する法	西山
5	11/11（火）2限	1説	社会保障に関する法	西山
6	11/18（火）2限	1説	医事紛争	西山
■ 予習・復習へのアドバイス				
毎回の授業にあたってはプリントを配付するので、必要事項を適宜記入し、授業内容の理解に努めること。このプリントを利用してよく復習すること。				
■ 教科書				
指定しない。				
■ 参考書				
事例別医事法 Q & A		高田 利廣 著	日本医事新報社	
医事法セミナー（新版）		前田 和彦 著	医療科学社	
■ 成績の評価基準				
各回に小テストを行い、出席・態度を加味して総合的に判定する。				
■ 再試験の有無				
実施する。				
■ 研究活動との関連				
■ その他				
統合系科目Ⅳの単位数について（6.5単位）				
医療関係法規		—— 0.5単位	歯科再生医療学	—— 0.5単位
歯科東洋医学		—— 0.5単位	総合歯科学	—— 5単位
■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー				
1. 歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。				
4. 医療の倫理と法の原則に則り、患者中心の歯科医療を実践できる。				
6. 安全管理や危機管理能力を備え、医療事故の防止や適格な感染対策の知識を有している。				

■ 科目名				
統合系科目Ⅳ(歯科再生医療学)				
■ 英語名				
Overview in Dentistry Ⅳ (Dental regenerative medicine)				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
歯学総合系科目（統合系科目）	必修科目	講義・演習	6.5	12期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
野口 和行 他 単位認定教授：野口 和行		歯周病学 他		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6202		野口 和行 kazuperi@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
午後４時以降に、講座研究室で随時対応する。				
■ キーワード				
再生医療、細胞、成長因子、足場、歯髄、歯周組織、骨、軟組織				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
<一般目標：GIO> 最新の歯科再生医療についての知識を修得する。				
<個別行動目標：SBOs> １．歯と歯周組織の発生について説明できる。 ２．歯科再生医療学における生物学の役割を説明できる。 ３．再生と遺伝子について説明できる。 ４．再生病理について説明できる。 ５．歯科再生医療学における材料学の役割について説明できる。 ６．歯髄の再生医療について説明できる。 ７．歯周組織の再生医療について説明できる。 ８．骨の再生医療について説明できる。				
■ 授業概要				
再生医療は病気や外傷によって喪失した組織・臓器を再生せることを目的としている。歯科領域においても、喪失した歯、歯髄、歯周組織、骨等を再生させる試みがなされている。臨床的に既に再生医療として応用されているものもあれば、研究段階のものも数多くあり、今後の発展が期待されている領域である。歯科再生医療を理解するには、解剖学、生化学、材料学、分子生物学などのに関する基礎分野の知識、さらに様々な臨床分野での適応症、方法等に関する知識が必要であり、これらの点について講義する。				
■ 授業計画				
（回）	（日時）	（講義室）	（内容）	（担当者）
1	10/10（木）2限	4講	歯と歯周組織の発生	歯科機能形態学 山中 淳之
2	10/11（金）2限	4講	歯科再生医療学における生物学の役割	口腔生化学 坂東 健二郎
3	10/17（木）2限	4講	再生と遺伝子	口腔微生物学 松尾 美樹
4	10/18（金）2限	4講	再生病理	口腔病理解析学 仙波 伊知郎
5	10/24（木）2限	4講	歯科再生医療学における材料学の役割	歯科生体材料科学 蟹江 隆人
6	10/25（金）2限	4講	歯髄の再生医療	歯科保存学 徳田 雅行
7	11/01（金）2限	4講	歯周組織の再生医療	歯周病学 迫田 賢二
8	11/07（木）2限	4講	骨の再生医療 1	顎顔面疾患制御学 松井 竜太郎
9	11/08（金）2限	4講	骨の再生医療 2	口腔顎顔面外科学 松永 和秀
■ 予習・復習へのアドバイス				
これまでに学んだ基礎および臨床分野における知識を整理し、講義ごとに配布される講義レジュメと資料を中心に復習する。				
■ 教科書				
講義形式で行うが、講義ごとに講義レジュメと資料を配布するとともに、参考となる文献を紹介する。				
■ 参考書				

■ 成績の評価基準

各回の授業中にて行われる小テストによって評価する（100％）。

■ 再試験の有無

■ 研究活動との関連

■ その他

統合系科目Ⅳの単位数について（6.5単位）

医療関係法規 —— 0.5単位 歯科再生医療学 —— 0.5単位

歯科東洋医学 —— 0.5単位 総合歯科学 —— 5単位

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

1. 歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。
8. 口腔疾患の予防と健康増進に関する十分な知識を持ち、地域社会に密着した歯科医師および歯科医学教育者・研究者となりうる能力を持っている。
9. 生涯にわたり自律的に学ぶ習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。
10. 歯科医学研究者として世界をリードし、国際社会において幅広く活動する素養を身につけている。

■ 科目名				
統合系科目Ⅳ(歯科東洋医学)				
■ 英語名				
Overview in Dentistry Ⅳ				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
歯学総合系科目（統合系科目）	必修科目	講義	6.5	12期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
山口 孝二郎、佐藤 友昭、島田 和幸（非常勤） 他 単位認定教授：佐藤 友昭		顎顔面疾患制御学、歯科応用薬理学、		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6232（山口） 099-275-6162（佐藤）		chisato@dent.kagoshima-u.ac.jp（山口孝二郎） tomsato@dent.kagoshima-u.ac.jp（佐藤 友昭）		
■ オフィスアワ -				
毎週木曜日PM5:00～6:00（これ以外の時間でも可能な限り対応する）歯科応用薬理学（佐藤） 毎週月・木曜日PM5:00～6:00（これ以外の時間でも可能な限り対応する）顎顔面疾患制御学（山口）				
■ キーワード				
漢方、東洋医学、和漢薬、診断、治療、歯科口腔領域、統合医療				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
GI0: 1 東洋医学(漢方医学)の思想体系を概説できる。 2 歯科口腔領域疾患の東洋医学的診断、治療についての知識を習得する。 3 歯科口腔領域での治療の際に用いられる和漢薬について認識できる。 4 和漢薬に関して基礎的知識を習得する。				
SBOs: 1 東洋医学史について概説できる。 2 傷寒論、黄帝内経の概要を説明できる。 3 東洋医学と西洋医学の違いを説明できる。 4 和漢薬とは何かと説明できる。 5 主な生薬を列挙できる。 6 口腔領域で使用する漢方薬を列挙できる。 7 証決定に関する基本的考え方を説明できる。 8 漢方治療の実際症例の内容を認識し、概説できる。				
■ 授業概要				
東洋医学の歴史、思想、診断治療体系を学び、西洋医学との違いについて理解する。 また、現在求められている統合医療の基礎的概念を習得し、漢方治療に対する理解を深めると共に歯科口腔領域における代表的漢方薬の使用法と効果、副作用に関する知識とその薬に関するEvidence Basic Medicine(EBM)についても学習する。 そのために、1) 東洋医学概論、2) 和漢薬の薬理学 3) 診断と治療の実際についての3つの概要に分類し、それぞれ各講師によって計8コマでの授業を行う。				
■ 授業計画				
日程	時限	内容	担当	
1	10/08 2	歯科東洋医学概論 医史学、古典（傷寒論、黄帝内経など）	講義	島田（非）
2	10/15 2	歯科東洋医学概論 （西洋医学と東洋医学の相違、陰陽五行論）	講義	島田（非）
3	10/20 2	和漢薬の薬理学（漢方薬物学）	講義	佐藤
4	10/22 2	和漢薬の薬理学（漢方処方学）	講義	佐藤
5	11/05 2	東洋医学の「証」と診断法 （五臓論、八綱、気血水の概念、異常と四診）	講義	山口

6	11/10	2	漢方治療の実際 (気血水の異常、口内炎、舌痛症など)	講義	山口
7	11/12	2	漢方治療の実際 非定型顎顔面痛、味覚異常、口腔乾燥症、口腔癌など	講義	山口
8	11/17		特別講義	講義	土橋(非)
■ 予習・復習へのアドバイス					
下記の教科書を指定し、教科書に沿って授業を行うので、必ず予習、復習しておくこと。 疑問点があれば必ずその場でも質問すること。					
■ 教科書					
『学生のための漢方医学テキスト』(南江堂)日本東洋医学会学術教育委員会編 (ISBN-10: 452425031X, ISBN-13: 978-4524250318)					
■ 参考書					
1) 日本歯科評論別冊2010 『歯科医師・歯科衛生士ができる舌診のすすめ!』(ヒョーロン)(雑誌コード06934 - 5)					
2) 『専門医のための漢方医学テキスト』(南江堂)(ISBN: 9784524247998) 日本東洋医学会編 の149頁～152頁(口腔内違和感)の項					
3) 歯科漢方ハンドブック(KISOサイエンス) 柿木保明 著 (ISBN4-903016-005 C3047)					
■ 成績の評価基準					
各担当教員より出題されるレポートの合計点数により評価され、60点以上を合格とする。各科の配点は以下のものとする。全担当者の課題レポートを提出することが評価の条件となる。					
島田・・・・・・・・・・25点					
佐藤・・・・・・・・・・25点					
山口・・・・・・・・・・40点					
特別講義担当・・・・10点					
計・100点					
■ 再試験の有無					
無					
■ 研究活動との関連					
■ その他					
毎回出席を確認し全講義を原則出席とする。また、遅刻、早退は原則認めない(欠席、遅刻、早退の場合、別途各講義担当者による筆記試験を課す)。レポートは提出期限を必ず守り、自力で作成しなければならない(左記の条件を満たさない場合は評価を0点とすることがある)。					
統合系科目Ⅳの単位数について(6.5単位)					
医療関係法規 ――― 0.5単位 歯科再生医療学 ――― 0.5単位					
歯科東洋医学 ――― 0.5単位 総合歯科学 ――― 5単位					
■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー					
1. 歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。					
3. 口腔疾患を全身疾患の一つとしてとらえ、幅広い医学的知識に基づくプライマリ・ケアを実践するための基本的な臨床能力を身につけている。					
9. 生涯にわたり自律的に学ぶ習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。					
10. 歯科医学研究者として世界をリードし、国際社会において幅広く活動する素養を身につけている。					

■ 科目名				
統合系科目Ⅳ(総合歯科学)				
■ 英語名				
Overview in Dentistry Ⅳ				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
歯学総合系科目（統合系科目）	必修科目	講義	6.5	12期
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
田口 則宏 他 単位認定教授：田口 則宏		歯科医学教育実践学 他		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6587				
■ オフィスアワ -				
単位認定教授への問い合わせは随時受け付けます。歯科総合診療部外来受付まで申し出てください。				
■ キーワード				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
これまで習得してきた歯科基礎系及び臨床系科目について、重要事項を再度確認し、歯科医師としての知識の統合を確たるものとし、且つ、実践の場での活用能力を向上させるための講義および演習を行います。				
■ 授業概要				
■ 授業計画				
学生に対して、事前に講義内容に関するアンケートを実施し、その結果をふまえた講義を行う予定です。				
【基礎系講義】				
回	講義日時	担当分野名		
1～ 2	9/16（火） 1～2限	歯科機能形態学	（口腔解剖学 1）	
3～ 4	9/17（水） 1～2限	人体構造解剖学	（口腔解剖学 2）	
5～ 6	9/18（木） 1～2限	口腔生理学		
7～ 8	9/19（金） 1～2限	口腔生化学		
9～10	9/23（火） 1～2限	口腔病理解析学	（口腔病理学）	
11～12	9/24（水） 1～2限	口腔微生物学	（口腔細菌学）	
13～14	9/25（木） 1～2限	歯科応用薬理学	（歯科薬理学）	
15～16	9/26（金） 1～2限	歯科生体材料学	（歯科理工学）	
17～18	9/29（月） 1～2限	心身歯科学	（歯科基礎科学）	
【基礎系試験】				
19～22	10/ 1（水） 1～4限	第 1 回試験		
23～24	10/ 2（木） 1～2限	試験問題解説講義	（解剖 1・解剖 2・生理）	
25～26	10/ 3（金） 1～2限	試験問題解説講義	（生化・病理・細菌）	
27～28	10/ 6（月） 1～2限	試験問題解説講義	（薬理・理工・歯科基礎）	
【臨床系講義（ 1 ）】				
29	10/ 7（火） 1限	歯科保存学	（歯科保存学 1）	
30	10/ 8（水） 1限	歯周病学	（歯科保存学 2）	
31	10/ 9（木） 1限	咬合機能補綴学	（歯科補綴学 1）	
32	10/10（金） 1限	口腔顎顔面補綴学	（歯科補綴学 2）	
33	10/14（火） 1限	予防歯科学		
34	10/15（水） 1限	歯科医療教育実践学	（歯科総合診療部）	
35	10/16（木） 1限	歯科保存学	（歯科保存学 1）	
36	10/17（金） 1限	歯周病学	（歯科保存学 2）	
37	10/20（月） 1限	咬合機能補綴学	（歯科補綴学 1）	
38	10/21（火） 1限	口腔顎顔面補綴学	（歯科補綴学 2）	
39	10/22（水） 1限	予防歯科		
40	10/23（木） 1限	歯科医療教育実践学	（歯科総合診療部）	
【臨床系試験（ 1 ）】				

41～44	10/27（月）	1～4限	第2回試験	
45～46	10/28（火）	1～2限	試験問題解説講義	（保存1・保存2）
47～48	10/29（水）	1～2限	試験問題解説講義	（補綴1・補綴2）
49	10/30（木）	1限	試験問題解説講義	（予防歯科）
【臨床系講義（2）】				
50	10/31（金）	1限	顎顔面疾患制御学	（口腔外科学1）
51	11/ 4（火）	1限	口腔顎顔面外科学	（口腔外科学2）
52	11/ 5（水）	1限	歯科矯正学	
53	11/ 6（木）	1限	小児歯科学	
54	11/ 7（金）	1限	顎顔面放射線学	（歯科放射線学）
55	11/10（月）	1限	歯科麻酔全身管理学	
56	11/11（火）	1限	顎顔面疾患制御学	（口腔外科学1）
57	11/12（水）	1限	口腔顎顔面外科学	（口腔外科学2）
58	11/13（木）	1限	歯科矯正学	
59	11/14（金）	1限	小児歯科学	
60	11/17（月）	1限	顎顔面放射線学	（歯科放射線学）
61	11/28（火）	1限	歯科麻酔全身管理学	
【臨床系試験（2）】				
62～65	11/20（木）	1～4限	第3回試験	
66～67	11/21（金）	1～2限	試験問題解説講義	（口外1・口外2）
68～69	11/24（月）	1～2限	試験問題解説講義	（矯正・小児）
70～71	11/25（火）	1～2限	試験問題解説講義	（放射線・麻酔）
■ 予習・復習へのアドバイス				
過去に各授業科目で学んだ内容について、事前に復習を行っておいてください。				
■ 教科書				
過去に各授業科目で使用した教科書をもとに講義が行われます。				
■ 参考書				
過去に各授業科目で使用した参考書を参照してください。				
■ 成績の評価基準				
第1回（基礎）、第2回（臨床）、第3回（臨床）の試験（多肢選択式）によって、総合的に成績評価を行います。				
■ 再試験の有無				
実施する				
■ 研究活動との関連				
■ その他				
授業計画は講師の都合により変更することがあります。				
統合系科目Ⅳの単位数について（6.5単位）				
医療関係法規 —— 0.5単位 歯科再生医療学 —— 0.5単位				
歯科東洋医学 —— 0.5単位 総合歯科学 —— 5単位				
■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー				
1. 歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。				
2. 人文社会科学的分野も含めた幅広い知識を有し、人間の行動について精神心理学的対応ができる。				
6. 安全管理や危機管理能力を備え、医療事故の防止や適格な感染対策の知識を有している。				
9. 生涯にわたり自律的に学ぶ習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。				

18. 歯学部選択科目シラバス

■ 科目名				
選択科目(口腔組織学・神経解剖学セミナー)				
■ 英語名				
Seminar on Oral Histology and Neuroanatomy				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
選択科目	選択科目	セミナー		不定
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
後藤哲哉、山中淳之、岩井治樹		歯科機能形態学分野 (旧 口腔解剖学 1 講座)		
■ 連絡先 (TEL)		■ 連絡先 (MAIL)		
099-275-6102		歯学部HPより当研究室を参照		
■ オフィスアワ -				
歯学部研究棟 7 F 研究室で随時相談に応じる。				
■ キーワード				
組織切片作製、H-E染色、免疫染色、in situ hybridization、論文抄読、科学英語				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
1. 形態学とは何かを、細胞生物学、発生生物学、神経解剖学の実験手法を通して理解する。				
2. 細胞生物学、発生生物学、神経解剖学の最新の英語教科書、英語論文を読み理解する。				
■ 授業概要				
学生にとって教室で学ぶ解剖学や組織学の講義・実習だけが形態学そのものだと誤解しがちなので、形態学研究の歴史的背景、研究の最新知見、当研究室における実際の研究に触れることにより、真の形態学を理解することを目的とする。				
■ 授業計画				
1. 組織切片の作製、染色の方法など組織学の基本手技の習得。				
2. 細胞生物学、発生生物学、神経解剖学の英語教科書や最新の英語論文の抄読。				
3. さらに深く形態学を学びたい学生には、本研究室の研究テーマにそった実験に参加してもらう。				
■ 予習・復習へのアドバイス				
セミナー参加者に適宜アドバイスする。				
■ 教科書				
セミナー参加者に適宜紹介する。				
■ 参考書				
セミナー参加者に適宜紹介する。				
■ 成績の評価基準				
組織学の基本手技の習得度、論文抄読の発表、研究への参加状態などで総合的に判定する。				
■ 再試験の有無				
実施しない				
■ 研究活動との関連				
当分野では、口腔・顎顔面領域における歯や骨の細胞生物学研究、発生生物学研究、および味覚系神経回路に関する神経解剖学研究を行っている。				
■ その他				
対象学年：2～6年				
■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー				
1. 歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。				
8. 口腔疾患の予防と健康増進に関する十分な知識を持ち、地域社会に密着した歯科医師および歯科医学教育者・研究者となりうる能力を持っている。				
9. 生涯にわたり自律的に学ぶ習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。				
10. 歯科医学研究者として世界をリードし、国際社会において幅広く活動する素養を身につけている。				

■ 科目名				
選択科目(肉眼解剖セミナー)				
■ 英語名				
Morphological science of human being				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
選択科目	選択科目	セミナー		不定
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
田松裕一，峰 和治，下高原理恵		人体構造解剖学分野 (旧 口腔解剖学 2 講座)		
■ 連絡先 (TEL)		■ 連絡先 (MAIL)		
099-275-6112		tamatsu@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
特に時間は指定せず，7 階の研究室で随時対応する。				
■ キーワード				
人体の構造，肉眼解剖学，形態学，口腔，歯				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
医療に携わる者にとって人体の構造を熟知することが重要なことは言うまでもない。基本的な検査・診断に不可欠であるのは当然として，全身管理や外科処置を伴う治療全般において，解剖学の知識が現場での判断に直結することは少なくない。時として，その判断が患者さんの命を左右することもある。既に臨床系科目を学んでいる高学年の学生にはこの意味が良く分かるであろう。2 年生が解剖学実習を行っている期間には，毎年多くの先輩が自主的に実習室を訪れ，後輩を指導しながら改めて人体の構造を勉強している。 当分野は全身の系統解剖学の教育を担当している。また，研究面では臨床解剖学的な視点から頭頸部・顔面だけでなく運動器系，循環器系，生殖器系を対象とした調査を実施し，他大学の医学部や理工学部，美術学部とも共同研究を進めている。 肉眼解剖セミナーではそのような研究の一端に触れるとともに，学生自身が興味のある部位をじっくりと剖出・観察する機会を提供している。将来に備えて頭頸部を徹底的に理解するのもよし，卒業後はおそらく経験できないであろう胸腹部の内部構造を観察するのもよし，あるいは少しマニアックに四肢の関節を調べるのもよい。ヒトのからだの中ほど身近で遠い存在はない。改めて人体を直に見て，触れることによって，2 年次に時間に追われながら半ば義務感で行った解剖とは全く異なる世界を経験してもらいたい。				
■ 授業概要				
医療行為を行うにあたっては，歯科・医科を問わず，人体諸器官に関する詳細な形態学的知識が必要不可欠である。しかし，歯学部のカリキュラムはどうしても口腔領域の取扱いにしばられがちなものとなっている。本セミナーでは，あまり講義では触れることのない器官をも対象に含め，実物の観察や標本作製，論文抄読などを行う。こうした作業を通じて，それらの形態がもつ機能的および発生学的な意義について理解が深まり，将来の臨床の現場に応用されることを期待する。				
■ 授業計画				
・実際の解剖見学，標本の作製，論文の抄読。 ・各自が興味をもっているテーマに関する研究。 ・当分野が行っている研究への参加。 ○場所は，主として7 階の第4 研究室。指導や対応は，教員全員で行う。				
■ 予習・復習へのアドバイス				
特になし				
■ 教科書				
必要に応じて配布する				
■ 参考書				
必要に応じて配布する				
■ 成績の評価基準				
セミナーへの参加，実験の進行等から総合的に評価する。				

■ 再試験の有無

行わない。

■ 研究活動との関連

これまでに当分野の選択科目に参加した学生の多くは、自らが興味をもった人体の構造に関するテーマを、教員と一緒に検討して決めている。人体だけでなく各種動物から得られる所見を統合し、人体の形成過程を追究する作業は、当分野の研究テーマの一つでもある。

■ その他

対象学年：2～6年。

人体や歯の構造に興味のある学生は勿論、授業中に生じたちょっとした疑問でもいいので、気軽に研究室を訪ねて構わない。門戸は常に開かれている。

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

- 1．歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。
- 4．医療の倫理と法の原則に則り、患者中心の歯科医療を実践できる。
- 9．生涯にわたり自律的に学ぶ習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。

■ 科目名				
選択科目(口腔生理学の基礎)				
■ 英語名				
Basic Oral Physiology				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
選択科目	選択科目	セミナー		不定
■ 担当教員			■ 担当教員所属	
原田秀逸、三浦裕仁、中山 歩、大木 誠			生体機能制御学講座口腔生理学分野 (旧口腔生理学講座)	
■ 連絡先 (TEL)			■ 連絡先 (MAIL)	
099-275-6122			kouseiri@dent.kagoshima-u.ac.jp	
■ オフィスアワ -				
特に設けない。				
■ キーワード				
味覚、発育、老化、摂食、組織学、分子生物学、神経生理学、行動生理学				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
生理学に関する基礎知識を学び、実際の研究に接することによって、生理学的実験方法を学ぶ。				
■ 授業概要				
生理学に興味のある学生に対して、より高度の内容の生理学および口腔生理学を学べる場を提供する。関係分野の最新の研究紹介、論文講読を行う。希望者には、当講座で行っている研究の手伝い、さらに可能ならば実際の研究に参加して貰う。当教室では、1) 哺乳類の味覚情報の処理機構、2) 成長と老化に伴う味覚感受性の変化の機構、3) 哺乳類味覚受容体の形態および分布、4) 痛覚、温度感覚の機能に関する研究、を組織学、神経生理学、行動学、および分子生物学的方法により行っている。				
■ 授業計画				
1) 当教室で進めている研究に関連する最近の話題について、セミナー形式による勉強会を実施する。 2) 担当教員の指導のもとに、生理学実験手技の基本を学ぶ。 3) 希望する学生に対しては、当教室で進めている研究テーマに沿って、実際の研究指導を行う。研究テーマの進行状況によっては、学会発表、論文投稿などの機会を与える。				
■ 予習・復習へのアドバイス				
必要に応じて適宜アドバイスする。				
■ 教科書				
セミナー参加者に適宜紹介する。				
■ 参考書				
セミナー参加者に適宜紹介する。				
■ 成績の評価基準				
セミナーへの参加、実験の進行等から総合的に評価する。				
■ 再試験の有無				
■ 研究活動との関連				
■ その他				
対象学年：1～6年				
■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー				

■ 科目名				
選択科目(生化学ゼミナール)				
■ 英語名				
Biochemistry Seminar				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
選択科目	選択科目	セミナー		不定
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
松口徹也		口腔生化学講座		
■ 連絡先 (TEL)		■ 連絡先 (MAIL)		
099-275-6131		tmatsugu@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
適宜対応する。事前に電話やメールでアポを取ることを推奨。				
■ キーワード				
遺伝子工学、細胞生物学、再生医療、免疫学、骨代謝、細胞内シグナル伝達、医学英語、実用英語、TOEIC				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
遺伝子・細胞工学の発展は、ヒトゲノム解明、クローン生物の誕生、遺伝子治療、再生医学などさまざまなテクノロジー革命を社会にもたらした。今後、どの方面のライフサイエンス研究を志すものにとっても、遺伝子・細胞工学の基礎的知識および技法の習得は、欠くべからざるものといっていよい。また、国際学会への参加、原著論文の執筆、海外の研究者との情報交換など、英語によるコミュニケーション能力はライフサイエンス研究にとって必要なものであるが、日本人がやや苦手とする部分でもある。 本選択科目では、参加学生が遺伝子工学、細胞生物学の最新の知識を、抄読会、実験実習を通して習得できることを目標とする。また、最新の医学・生物学知識を得るために必要となる医学英語の習得と実用英語コミュニケーション力の育成を図る。				
■ 授業概要				
1) 遺伝子工学、細胞生物学、免疫学に関する基礎知識を学ぶ場を与え、教育指導を行う。 2) 最新の生化学テキストの原語による抄読会を通して、医学英語の読解能力と英語コミュニケーション技能の向上を図る。 3) (オプション) 研究の実践を通して、遺伝子・細胞工学の基本的実験手技を身につける。				
■ 授業計画				
1) 参加学生には学習場所を与え、抄読会、実験見学などによって最新の遺伝子・細胞工学知識に接する機会を与える。 2) 希望する学生に対しては、本講座内に個人用実験スペースを用意したうえで研究テーマを与え、実際の研究指導を行う。また、研究テーマの進行状況によっては、積極的に、学会発表、論文投稿などの機会を与える。 3) 毎週水曜日午後1時より最新の生化学テキスト (Molecular Biology of the Cell, 5th Edition)の英語による抄読会を実施している (約60分間)。 4) 参加学生には実用英語コミュニケーション能力の向上を指導し、TOEIC受験の経済的援助等を行う。				
■ 予習・復習へのアドバイス				
特になし。				
■ 教科書				
Molecular Biology of THE CELL 5th edition (Garland Science)				
■ 参考書				
■ 成績の評価基準				
選択科目への出席時間、参加態度などにより評価する。				
■ 再試験の有無				
■ 研究活動との関連				
■ その他				
少しでも興味のある学生さんは気軽にご相談ください。見学もいつでも歓迎しています。				
対象学年：1～6年				
■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー				

■ 科目名				
選択科目(病理学セミナー)				
■ 英語名				
Pathology seminar				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
選択科目	選択科目	セミナー		不定
■ 担当教員			■ 担当教員所属	
仙波伊知郎、嶋香織、親里義貴			歯科病態学 口腔病理解析学分野（旧口腔病理学講座）	
■ 連絡先（TEL）			■ 連絡先（MAIL）	
口腔病理解析学分野：099-275-6142			仙波伊知郎：semba@dent.kagoshima-u.ac.jp	
■ オフィスアワ -				
水曜日午後17:00～18:00				
■ キーワード				
病理学、症例検討、実験病理学				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
1. 病理学（総論・各論）に関する基本的な知識と病理診断との関連性について理解する。				
2. 実験病理学に必要な基本の手技を習得する。				
3. 英文論文の読み方について、グループ作業を通じて習得する。				
【C-4-1 ～ C-4-5】				
■ 授業概要				
● 人体病理学や実験病理学において、授業では触れていない最新の研究文献の紹介、抄読会、発がん実験等を通して、病理学の重要性を理解することを目的としています。				
● 病理学研究室で行われている日常的な病理組織診断業務の実際、症例検討、分子生物学的な実験手技、動物実験の基本的な手技、英文論文の読み方、インターネットを通じた情報の手集方法、プレゼンテーションの仕方、グループ作業、など多岐に亘る様々な活動の一端に触れ、基礎歯科学、臨床歯科学の基本を涵養することが出来ます。				
■ 授業計画				
● 授業は随時出来る限り身近な病理学的テーマを選び、最新の知見を講義あるいは文献の抄読等によって学びます。さらに希望者には臨床病理カンファレンス(CPC)の内容も紹介し、発がん実験、学会発表や論文作成に参加することで、研究に直接触れることができるようにします。				
● 基本的に水曜日の午後に行いますが、各自のスケジュールに合わせ、また、指導教員との協議により時間外にも行います。				
● 学習成果は発表会で発表します。				
■ 予習・復習へのアドバイス				
参考書、参考文献などを事前に読み、質問を考えておくことが肝要です。				
■ 教科書				
■ 参考書				
■ The Biology of Cancer (Garland Science)				
■ Robbins Basic Pathology (Saunders)				
■ 成績の評価基準				
参加態度：50点、発表内容：50点				
■ 再試験の有無				
■ 研究活動との関連				
■ その他				
対象学年：1～6年				

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

- 1 . 歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。
- 3 . 口腔疾患を全身疾患の一つとしてとらえ、幅広い医学的知識に基づくプライマリ・ケアを実践するための基本的な臨床能力を身につけている。
- 9 . 生涯にわたり自律的に学ぶ習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。
- 10 . 歯科医学研究者として世界をリードし、国際社会において幅広く活動する素養を身につけている。

■ 科目名				
選択科目(口腔内細菌の分子生物学)				
■ 英語名				
Molecular Biology of oral bacteria				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
選択科目	選択科目	セミナー		不定
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
小松澤均、松尾美樹、大貝悠一		口腔微生物学分野(旧 口腔細菌学)		
■ 連絡先(TEL)		■ 連絡先(MAIL)		
099-275-6150		hkomatsu@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
特に時間は設けないが、随時対応する。				
■ キーワード				
細菌学、免疫学、感染				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
口腔内細菌の病原性因子、感染症発症機構について分子レベルでの理解をする。				
■ 授業概要				
1. う蝕・歯周病原菌に関する内容 口腔内には数百種もの微生物が存在しているが、これらの微生物の中で特にう蝕、歯周病に関与する細菌はごく少数である。そこで、う蝕あるいは歯周病原菌がどのようにして感染症を起こすかについて、これらの菌が有する病原性因子について中心に分子レベルからの感染症発症の機序について理解する。				
2. 院内感染菌に関する内容 黄色ブドウ球菌、特にメチシリン耐性菌(MRSA)は院内感染菌として日々臨床の場で問題となっている。この菌は主にヒトの鼻腔や口腔に常在していることから、医科のみならず歯科領域でも十分な理解が必要である。そこで、黄色ブドウ球菌の病原性発現機構や薬剤耐性機構について分子レベルでの理解をする。				
■ 授業計画				
1) 最新の知見についての講義あるいは文献抄読を行う。				
2) 希望者には興味ある課題について実験を行い、分子生物学実験法について修得する。				
■ 予習・復習へのアドバイス				
関連する事項については参考書を読むこと。また、教員から適宜アドバイスも行う。				
■ 教科書				
特に設けない。				
■ 参考書				
口腔微生物学・免疫学(医歯薬出版社)、戸田新細菌学(南山堂)、シンプル微生物学(南江堂)、標準免疫学(南江堂)				
■ 成績の評価基準				
授業態度、論文抄読などについて総合的に評価する。				
■ 再試験の有無				
■ 研究活動との関連				
■ その他				
学年対象：2～6年				
■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー				
1. 歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。				
9. 生涯にわたり自律的に学ぶ習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。				
10. 歯科医学研究者として世界をリードし、国際社会において幅広く活動する素養を身につけている。				

■ 科目名				
選択科目(薬理学セミナー)				
■ 英語名				
Seminar on Pharmacology				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
選択科目	選択科目	セミナー		不定
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
佐藤友昭、増原正明、塚原飛央（ティーチングアシスタント）		歯科病態学 歯科応用薬理学分野 （旧 歯科薬理学講座）		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
099-275-6162		tomsato@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
毎週木曜日午後5:00～6:00（この他にも随時相談に応じます）				
■ キーワード				
薬物 臨床応用 実験 医学 薬害問題				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
1）薬物受容体と情報伝達系を理解する。				
2）薬物の主作用、副作用ならびに薬物の相互作用について理解する。				
3）薬理学的な研究手法を学習する。				
4）薬物の臨床応用について理解する。				
5）薬害について理解する。				
■ 授業概要				
授業ではカバーしにくい少し高度な研究内容の講義、薬物の実際の使用例、臨床への応用、薬害問題の事情について文献紹介、抄読会、実験、意見交換を通して、基礎歯科医学ならびに臨床歯科医学における薬理学・歯科薬理学の重要性を把握、認識してもらうことを目的としている。				
実験は、希望者に対してのみ行う。実験内容や実施日等を相談の上、実験の立案、方法の選択、さらに、実験遂行中のデータの解釈等を、受講者との議論を通して、教授してゆく。受講者の実験進行具合により、学会発表を行って頂くことも、視野に入れている。				
■ 授業計画				
1）抄読会を中心に、情報伝達系、薬理作用、副作用、相互作用の概略を説明する。				
2）研究室で行っている研究で、学生にも可能な部分の実験を教授する。				
■ 予習・復習へのアドバイス				
薬物に興味をもつ、医学・歯学に興味をもつことを主眼としているが、一方では、勉強、学問に対する面白さを伝えることも視野に入れているので、教員がどのような考えで、このような説明、結論を喋っているのかを考える癖をつけること。				
■ 教科書				
セミナー時に紹介します。主には、当日のセミナー担当者が文献資料を紹介し、それが当日の教科書の役割を果たします。前もって、渡すことも可能ですので、必要があれば教員に相談すること。				
■ 参考書				
セミナー時に紹介します。				
■ 成績の評価基準				
授業への参加態度：70点、発表（議論点）：20点、技術点(文献検索等)：10点				
■ 再試験の有無				
■ 研究活動との関連				
■ その他				
セミナーの日程は各自、相談に来て下さい。				
対象学年：1～6年				
■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー				
1．歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。				
2．人文社会科学的分野も含めた幅広い知識を有し、人間の行動について精神心理学的対応ができる。				

- 9．生涯にわたり自律的に学ぶ習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。
- 10．歯科医学研究者として世界をリードし、国際社会において幅広く活動する素養を身につけている。

■ 科目名				
選択科目(歯科理工学セミナー)				
■ 英語名				
Seminar on Dental Materials and Devices				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
選択科目	選択科目	セミナー		不定
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
菊地 聖史、蟹江 隆人、有川 裕之		歯科病態学 歯科生体材料学分野 (旧 歯科理工学講座)		
■ 連絡先 (TEL)		■ 連絡先 (MAIL)		
099-275-6172		sikariko@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワ -				
特に指定しない。歯科生体材料学分野研究室 (5F) で随時対応する。				
■ キーワード				
歯科材料、歯科生体材料、歯科器械、歯科医療機器、歯科理工学的性質				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
歯科生体材料と歯科材料・器械【D】				
GIO:				
1. 歯科理工学に関する知識と理解を深める。【D-1】、【D-2】				
2. 研究に不可欠な基本的知識と技能を身につける。				
3. 研究の体験を通してリサーチマインドを育む。				
SBO:				
1. 最新の歯科材料や歯科生体材料、歯科機器の例を挙げ、その概要を説明できる。				
2. 最新の歯科理工学研究の例を挙げ、その概要を説明できる。				
3. 基礎研究の基本的な流れが説明できる。				
4. データベースを利用した文献検索ができる。				
5. 歯科理工学に関する文献 (和文、英文) の要旨が作成できる。				
6. 実験結果を図表で表すことができる。				
7. 基本的な統計処理ができる。				
■ 授業概要				
本セミナーは、歯科で用いられている様々な材料や機器に興味のある学生を対象とし、「歯科理工学」の講義・実習の範囲を超える、より高度な内容の学習の場を提供するものである。具体的には、関連文献の抄読を行うことで歯科理工学に関する知識と理解を深めるほか、興味のあるテーマ (当分野で行っている研究内容もしくは新規) について研究を体験し、基礎研究の基本的な流れと研究に不可欠な基本的知識や技能を学ぶ。得られた成果によっては、分野外の研究発表会 (例えば、スチューデントクリニシャンリサーチプログラム (SCRIP) など) での発表も目指す。				
■ 授業計画				
時間: 水曜日 3 限・4 限 (他の時間については相談のこと)				
場所: 医歯学総合研究科棟 1 (歯学系) 5 階 歯科生体材料学分野研究室				
担当教員は受講生の人数やテーマに応じて決定する。				
大まかな計画は次のとおりである。なお、詳細については別途指示する。				
1. 文献抄読によって最新の知識を得るとともに議論によって理解を深める。				
2. 興味のあるテーマについて文献を収集し、要旨を作成する。				
3. 必要に応じて予備実験を行ったのち、研究目的の決定と研究計画の立案を行う。				
4. 実験、結果の整理と分析、考察を行い、報告書または論文としてまとめる。				
5. 分野内外の発表会で成果を発表する。				
■ 予習・復習へのアドバイス				
・ 実験ノートの書き方、グラフや表の作成の仕方、統計処理、報告書や論文の書き方などに関する参考書を読む しておくことを勧める。				
・ データベースを利用した文献検索の方法をあらかじめ調べておく (例えば、本学附属図書館の「まなぶ たSearch」や「ブックマCatalog」、「Web of Science」、「医中誌WEB」など)。				
■ 教科書				

適宜紹介する。
■ 参考書
・ 理系なら知っておきたいラボノートの書き方 改訂版、羊土社、2011年発行（ISBN 978-4-7581-2028-9） ・ 歯科理工学教育用語集 第2版、医歯薬出版、2011年発行（ISBN978-4-263-45647-7） その他は適宜紹介する。
■ 成績の評価基準
セミナーへの参加態度、文献抄読や研究の進捗状況などから総合的に判定する。
■ 再試験の有無
実施しない。
■ 研究活動との関連
現代の歯科医療は、歯科材料や歯科機器なしには成り立たない。当分野では、歯科用の新しい材料や機器に関する研究と開発を通じて歯科医療への貢献を目指している。主な研究内容は、CAD/CAMシステム、CAD/CAM用歯科材料、義歯床用高分子材料、セメント、口腔内組織と歯科材料の粘弾性的性質、修復用材料の光学的性質、歯科材料の評価である。
■ その他
・ 対象学年：原則として3～5年 ・ 本セミナーに関する相談や見学を歓迎いたします。
■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー
1．歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。 8．口腔疾患の予防と健康増進に関する十分な知識を持ち、地域社会に密着した歯科医師および歯科医学教育者 ・ 研究者となりうる能力を持っている。 9．生涯にわたり自律的に学ぶ習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。

■ 科目名				
選択科目(歯科医療心理学入門)				
■ 英語名				
Introduction to Psychology of dental patient care				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
選択科目	選択科目	セミナー		不定
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
梶原和美		歯科病態学 心身歯科学分野 (旧 歯科基礎科学講座)		
■ 連絡先 (TEL)		■ 連絡先 (MAIL)		
099-275-6294				
■ オフィスアワ -				
随時研究室で対応する。できる限り事前にメールで連絡してください。				
■ キーワード				
臨床心理学，発達臨床心理学				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
心理学の方法論の特質を学び，その臨床的適用法を考案する。				
■ 授業概要				
私達は自分の心のある程度まで把握し，ある程度までコントロールし，また他者の心もある程度まで推測できる。その意味では誰もが「心理学者」である。にもかかわらず，「心理学を学べば患者さんの心をもっと性格に把握できるに違いない」と考える人は多い。心理学を学ぶことによって何がわかり，何が依然としてわからないままなのだろうか？本セミナーでは歯科医療現場で必要とされる心理学的素養とは何かについて概説した後，優れた事例研究の購読・討論を通して，他者の心に関わる態度とはいかなるものかについて認識してもらう。				
■ 授業計画				
文献紹介，輪読と討論を中心にする。参加者には各自が興味あるテーマを積極的に提示してもらいたい。				
■ 予習・復習へのアドバイス				
■ 教科書				
特に指定しない。				
■ 参考書				
特に指定しない。				
■ 成績の評価基準				
授業への参加態度：70点，レポート：30点				
■ 再試験の有無				
■ 研究活動との関連				
■ その他				
対象学年：2～6年				
■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー				

■ 科目名				
選択科目(予防歯科セミナー)				
■ 英語名				
Seminar on Preventive Dentistry				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
選択科目	選択科目	セミナー		不定
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
於保孝彦、長田恵美		発達育成歯科学 予防歯科学分野		
■ 連絡先 (TEL)		■ 連絡先 (MAIL)		
099-275-6180		oho@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
特に時間は指定せず、6F講座研究室で随時対応する。				
■ キーワード				
病因、予防、口腔衛生管理				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
口腔疾患の病因と予防法を理解する。【B-3-1),2)】				
■ 授業概要				
セミナーでは、口腔疾患の予防について英文教科書の輪読を行う。臨床家向きに非常に良く書かれたTextbookであり、予防の理論と実践法を学ぶことができる。				
また、一方でブラッシングやフッ化物の応用だけでなく病因論に基づいた予防法の開発が必要であるため、希望者には当講座の研究の補助を行い、実際の学術研究に接することもできる。				
■ 授業計画				
英文Textbookの輪読を行いながら、解説を加える。				
実験希望者には、テーマに沿った計画立案、実験手技、結果の解釈などを教える。				
■ 予習・復習へのアドバイス				
毎回のセミナーにあたっては、そのテーマに該当する内容を教科書にて予習しておくこと。				
セミナーでは、適宜必要事項を記入し、内容の理解に努めること。				
■ 教科書				
Primary Preventive Dentistry, Harris NO & Garcia-Godoy F 著, Prentice Hall, 2004				
■ 参考書				
特になし。				
■ 成績の評価基準				
授業への参加態度：100点				
■ 再試験の有無				
実施しない。				
■ 研究活動との関連				
■ その他				
セミナーの実施日：月曜日 18:00～19:00				
場所：予防歯科1研（6階）				
対象学年：1～6年				
■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー				
1．歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。				
3．口腔疾患を全身疾患の一つとしてとらえ、幅広い医学的知識に基づくプライマリ・ケアを実践するための基本的な臨床能力を身につけている。				
8．口腔疾患の予防と健康増進に関する十分な知識を持ち、地域社会に密着した歯科医師および歯科医学教育者・研究者となりうる能力を持っている。				

■ 科目名				
選択科目(保存修復学および歯内療法学の基礎と臨床)				
■ 英語名				
Art and science of restorative dentistry and endodontology				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
選択科目	選択科目	講義・実習		不定
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
鳥居光男、川上克子		発達育成歯科学 歯科保存学分野 (旧 歯科保存学Ⅰ講座)		
■ 連絡先 (TEL)		■ 連絡先 (MAIL)		
099-275-6192				
■ オフィスアワー				
特に定めていない。研究棟 6 階の研究室で随時対応する。				
■ キーワード				
歯の硬組織疾患、歯髄疾患、根尖性歯周組織疾患、保存修復、歯髄処置、根管治療				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
Cariologyの観点から保存修復学と歯内療法学の知識を再整理したうえで、模型上で各手技を実践することができる。				
■ 授業概要				
講義、基礎実習で学んだ内容の復習および、より難易度の高い症例について、セミナーと模型実習をおこなう。シミュレーターを使用し、より臨床に近い実習を行う。				
■ 授業計画				
セミナーおよび、シミュレーターを用いた模型実習				
■ 予習・復習へのアドバイス				
実習帳をあらかじめ復習しておくこと				
■ 教科書				
・保存修復クリニカルガイド、千田 彰ほか編、医歯薬出版 ・基礎実習で用いた実習帳				
■ 参考書				
■ 成績の評価基準				
セミナーへの参加態度：5 0 %、実習結果（作品提出）：5 0 %で評価する。				
■ 再試験の有無				
■ 研究活動との関連				
■ その他				
対象学年：4 ～ 6 年				
■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー				

■ 科目名				
選択科目(最新歯周病学)				
■ 英語名				
Modern Periodontology				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
選択科目	選択科目	セミナー		不定
■ 担当教員			■ 担当教員所属	
野口和行、松山孝司、町頭三保、白方良典、中村利明、長谷川 梢、迫田賢二、武内博信、〇瀬名浩太郎			発達育成歯科学 歯周病学分野 (旧 歯科保存学2講座)	
■ 連絡先 (TEL)			■ 連絡先 (MAIL)	
099-275-6202			senaperi@dent.kagoshima-u.ac.jp	
■ オフィスアワ -				
17時以降、6F講座研究室で随時対応する。				
■ キーワード				
歯周病、病因、診断、歯周治療、再生療法				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
< 一般目標 : G10 > 最新の歯周治療の臨床と研究に関する知識を修得し、また興味あるテーマについて探究する力を養う。				
< 個別行動目標 : SB0s > 1. 最新の歯周治療を説明できる。 2. 歯周病に関わる研究を理解できる。 3. 科学論文を抄読する。 4. 各種セミナーで討議できる。 5. 自ら課題を見つけ解決に向けて探究できる。				
■ 授業概要				
近年の精力的な研究から歯周病の発症と進行に関するメカニズムが次第に明らかにされている。歯周治療面においても歯周組織再生を目指した様々な治療法が考案されている。本科目は、日々進歩する歯周病学の最新の臨床と研究に接し、自分の興味ある分野の理解を深める。				
■ 授業計画				
文献の輪読や抄読会を適宜行い、最新の情報や研究動向についてセミナーにて討議する。また歯周病の研究、外来における臨床見学・補助を行う。更に、ブタ顎を用いた歯周外科実習にて歯周外科の基本的な手技を実践する。				
■ 予習・復習へのアドバイス				
配布される文献あるいは資料等を用いて、予習・復習する。				
■ 教科書				
特になし。随時文献あるいは資料を配布する。				
■ 参考書				
特になし。随時文献あるいは資料を配布する。				
■ 成績の評価基準				
授業への参加態度：20点、レポート：50点、発表会：30				
■ 再試験の有無				
■ 研究活動との関連				
■ その他				
対象学年：5、6年				
■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー				
1. 歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。 9. 生涯にわたり自律的に学ぶ習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。 10. 歯科医学研究者として世界をリードし、国際社会において幅広く活動する素養を身につけている。				

■ 科目名				
選択科目(接着ブリッジができる臨床医になろう(ミニマルインターベンションの実践を目指して))				
■ 英語名				
Let's become a clinician who can practice adhesion bridges. (Aim at minimal interventional practice)				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
選択科目	選択科目	講義・演習・実習		不定
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
村原貞昭，村口浩一，柳田廣明，嶺崎良人，南 弘之		口腔学顔面歯科学 咬合機能補綴学分野 (旧 歯科補綴学1講座)		
■ 連絡先 (TEL)		■ 連絡先 (MAIL)		
099-275-6212				
■ オフィスアワ -				
平日午前8時30分より午後6時				
■ キーワード				
接着性補綴治療、接着ブリッジ、ミニマル・インターベンション				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
一般目標				
接着ブリッジに使用される素材と器械・器具の特性と用途に応じた所要性質を理解する。【D-1】				
接着ブリッジに使用する歯科材料の種類と特性を理解し、これらの基本的成形方法を修得する。【D-2】				
接着ブリッジによる補綴歯科治療についての知識、技能および態度を修得する。【E-3-4)-(1)】				
到達目標				
・ 接着ブリッジに使用される金属材料および接着材の構造と物性を説明できる。 ・ 接着ブリッジに使用される生体材料の力学的、物理的、化学的および生物学的所要性質を説明できる。 ・ 接着ブリッジに使用される生体材料と歯科材料の安全性の評価を説明できる。 ・ 接着ブリッジに使用される歯科用器械・器具の用途と特徴について説明できる。 ・ 形成部位に応じて適切な支台歯形成用のバーの選択ができる。 ・ 適切なハンドピース操作ができる。 ・ 接着ブリッジの適切な支台歯形成ができる。 ・ 歯髄保護に配慮できる。 ・ 印象採得を適切に行うことができる。 ・ 印象材の種類と特性を説明できる。 ・ 接着ブリッジの製作に必要な材料の特性を説明できる。 ・ 歯科用石膏の種類と特性を説明できる。 ・ ワックスの種類と特性を説明できる。 ・ 金属の鋳造・熱処理の特徴を使用機器と関連づけて説明できる。 ・ 接着ブリッジの技工操作を理解し説明できる。 ・ 接着材と合着材の種類と成分および特性を説明できる。 ・ 完成した接着ブリッジの試適・調整・装着が適切にできる。				
■ 授業概要				
接着性歯科材料の発達によって、従来の歯質を多く削って詰める・被せる治療から、必要最小限な切削で済み、麻酔の必要もない治療（ミニマル・インターベンション）が可能となりました。接着ブリッジは歯質の切削を最小限に抑え、患者にとって極めて負担が少なく、術者の立場からも、支台歯形成、印象採得、暫間修復物にいたるまで、従来法のブリッジと比較して格段に手間が少ない治療法で、近年保険治療にも導入されました。しかしながら、その理論と実践について学ぶ機会は少なく、一般臨床では十分に普及しているとは言い難い状況です。本セミナーでは講義と実習によって、接着ブリッジができる歯科医師の養成を目指します。				
■ 授業計画				
接着理論とともに、実践に即した実習でテクニックを習得します。接着理論に関しては1，2回での短期集中講義を行います。実習では、ヒト抜去歯による植立模型を作製し、マネキンに装着して実際の臨床をシミュレーションしながら、支台歯形成・印象採得を行います。さらに実際に臨床で使用される金銀パラジウム合金を使用して、接着ブリッジの作製（技工）を行います。完成した接着ブリッジは実際の臨床と同じ手順で接着性レジンセメントを使用して植立模型に接着します。				

【授業予定】

第1回目：講義 ～接着ブリッジの理論と臨床～

第2回目：実習1（ヒト抜去歯牙による植立模型の作製）

第3回目：実習2（支台歯形成・印象採得・石膏注入）

第4回目：実習3（作業模型作製・リテーナ部ワックスアップ）

第5回目：実習4（ポンティック部ワックスアップ・連結）

第6回目：実習5（埋没・鋳造・粗研磨）

第7回目：実習6（ポンティック前装・仕上げ研磨）

第8回目：実習7（植立模型への接着）

第9回目以降：補綴学分野で興味のあること、やってみたいことなど受講生の希望を訊いて内容を決めます。（過去の例：抜去歯植立模型による接着ブリッジ以外の支台歯形成実習、フェイスボウ・チェックバイトを採得し半調節性咬合器の使用法を習得する実習）

■ 予習・復習へのアドバイス

予習は特に必要としませんが、講義・実習後の復習については各自ノートを作るなど習得した知識が失われないよう工夫して下さい。

■ 教科書

購入は必須ではありません。必要に応じて下記参考書をご覧ください。

■ 参考書

新素材による接着ブリッジの臨床 -テクニックのすべてと保険適用への効果的対応- , 田中卓男・田上直美・永野清司・松村英雄 著, ヒョーロン・パブリッシャーズ

■ 成績の評価基準

参加態度：60点、実習点：20点、理解度20点

■ 再試験の有無**■ 研究活動との関連****■ その他**

対象学年：4～6年

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

■ 科目名				
選択科目(多数歯欠損の補綴)				
■ 英語名				
Prosthesis for multiple missing teeth				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
選択科目	選択科目	セミナー		不定
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
西村正宏, 末廣史雄, ○石井正和, 橋口 千琴, 藤島 慶, 下田平直大		顎顔面機能再建学講座 口腔顎顔面補綴学分野 附属病院 成人系歯科センター 義歯補綴科 (旧 歯科補綴学2講座)		
■ 連絡先 (TEL)		■ 連絡先 (MAIL)		
099-275-6222		mnishi@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
月曜日もしくは金曜日の17時～18時 希望があれば, 授業時間外にも研究のために実験室を使うことを許可する.				
■ キーワード				
補綴, インプラント, 骨再生, 再生医療, 顎堤増生				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
GI0: 高度萎縮顎堤を増生するための生物学的アプローチを理解し, 実践する。				
SB0:				
1) 修復と再生について説明できる			【C-4-2)-1】	
2) 創傷治癒に関与する細胞とその過程を説明できる			【C-4-2)-3】	
3) 高分子材料、セラミック材料、金属材料および複合材料の構造と物性を説明できる			【D-1-1】	
4) 生体材料の力学的、物理的、化学的および生物学的の所要性質を説明できる			【D-1-2】	
5) 生体材料と歯科材料の安全性の評価を説明できる			【D-1-3】	
6) 歯周疾患の症状を説明できる			【E-3-3)-(3)-1】	
7) 歯の欠損に伴う障害の種類と病態を説明できる			【E-3-4)-(2)-1】	
8) デンタルインプラントの種類、特徴、目的および意義を説明できる			【E-3-4)-(3)-1】	
9) デンタルインプラントの基本構造を説明できる			【E-3-4)-(3)-1】	
10) デンタルインプラントに必要な診察と検査を説明できる			【E-3-4)-(3)-1】	
11) デンタルインプラントの適応症と合併症を説明できる			【E-3-4)-(3)-4】	
以下はコアカリキュラムには無い発展的内容				
12) ラット骨髄から間葉系幹細胞が培養できる				
13) 間葉系幹細胞の骨・軟骨・脂肪分化誘導培養ができる。				
14) 医学中央雑誌, Pubmedから必要な情報を入手できる				
■ 授業概要				
高度吸収顎堤の増生を目指す再生医療研究を, 実際に実験を行う教官と一緒に実施し, 情報収集方法についても学ぶ。アウトプットとして, 欠損補綴方法の一つである口腔インプラントの治療計画方法についても学び, 臨床との関連を学ぶ。				
1. 基本的な組織培養方法を学ぶ				
2. 生体材料と幹細胞の相互作用について学ぶ				
3. インプラントの種類やインプラント補綴の診断方法を理解する				
4. 顎堤が不足することの問題点を理解する。				
5. 顎骨再生のための要件について理解する。				
6. 再生医療を取り巻く国策, 倫理問題について理解する				
7. 成果のプレゼンテーション方法, 論文執筆方法について理解し, 実践する				
■ 授業計画				
開講日: ゼミへの登録後から夏期、冬期、春期休みを除く1年間				
曜日, 時限: 基本的には毎週水曜日の3, 4時限 (顎骨の再生医療に向けた実験手技を把握するために, 水曜日以外にも適宜研究室を開放する)				

講義室等名：医歯学総合研究棟（歯科）5 F の口腔顎顔面補綴学分野第4，5研究室

担当者：

総論説明：西村正宏

実験の実技指導：末廣史雄，○石井正和（主担当者），橋口 千琴，藤島 慶，下田平直大

授業内容：

最先端の研究情報を適切に入手するために，導入として国内の医学中央雑誌の検索方法を学び，続いてPubmedから必要な情報を入手し，英文誌を読めるように指導する。

最先端の骨再生医療研究を推進するために，最初は教官とともに実験を行うが，習得状況に応じ，学生にもテーマを与え，成果によっては学会発表や論文投稿の機会を与える。

■ 予習・復習へのアドバイス

関連する論文や図書を用いて予習・復習すること。疑問点は積極的に質問して解決し，理解を深めること。

■ 教科書

特に指定しない。

■ 参考書

特に指定しない。

■ 成績の評価基準

実習への参加態度50点、

成果発表50点

■ 再試験の有無

無し

■ 研究活動との関連

多数歯欠損症例に対して，これまでは樹脂や金属等の材料でこれを補綴してきた。しかし超高齢社会では，顎堤の高度萎縮を伴う患者が多く，義歯の安定のためにも，インプラント埋入の前処置としても顎堤を生物学的に増生することが望まれている。そのためには多くの分野をつなげるためのトランスレーショナルリサーチが必要であるため，再生医療にも目を向けた次世代の歯科医師研究者を目指すような指導も行う。

■ その他

対象学年：2,3,4,5,6年

■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー

- 1．歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。
- 8．口腔疾患の予防と健康増進に関する十分な知識を持ち、地域社会に密着した歯科医師および歯科医学教育者・研究者となりうる能力を持っている。
- 9．生涯にわたり自律的に学ぶ習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。
- 10．歯科医学研究者として世界をリードし、国際社会において幅広く活動する素養を身につけている。

■ 科目名				
選択科目(口腔外科基礎演習と症例ゼミナール)				
■ 英語名				
Basic practice in oral surgery and Seminar (Case presentation and discussion)				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
選択科目	選択科目	セミナー		不定
■ 担当教員			■ 担当教員所属	
杉原一正、向井 洋、川島清美、山口孝二郎、今村晴幸、松井竜太郎、上川善昭、宮原麻由美、新田哲也、坂元亮一、浜田倫史			口腔顎顔面歯科学 顎顔面疾患制御分野 (旧：口腔外科学Ⅰ講座)	
■ 連絡先 (TEL)			■ 連絡先 (MAIL)	
099-275-6232			tnitta@dent.kagoshima-u.ac.jp	
■ オフィスアワー				
特に時間は指定せず、演習担当教員の研究室で随時対応する。				
■ キーワード				
口腔外科、症例検討、手術術式				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
１．口腔顎顔面領域各種疾患の診察、検査、治療および予防を行うために必要な基本的な知識、技能および態度を身につける。				
２．手術を適切に実施するために必要な基本的知識と技術を身につける。				
３．口腔顎顔面領域の疾患の特徴と病因および診断・治療の基本的概念を理解する。				
■ 授業概要				
口腔外科学の授業内容をさらに補足し、追加しながら口腔外科学の最新のトピックスについて、スライドや液晶プロジェクターを用いて講義と演習を行うとともに手術症例についての診断、臨床検査、臨床所見、手術術式についてゼミナール方式でカルテ、画像資料、病理組織標本などを用いて演習（症例検討）を行う。				
■ 授業計画				
毎年、年間の演習内容スケジュールを作成し、それに沿って各教員が分担してスライド、液晶プロジェクター、OHP、ビデオ、臨床資料などを用いてゼミナール方式で講義と演習を行う。希望があれば、教員や大学院生と一緒に臨床的研究を行い、桜ヶ丘祭や学会等で発表する機会を与える。				
■ 予習・復習へのアドバイス				
口腔外科学Ⅰ講義内容について復習して出席することが望ましい。				
■ 教科書				
標準口腔外科学、高橋庄二郎他編集、医学書院				
■ 参考書				
■ 成績の評価基準				
可否の評価は行わない。				
■ 再試験の有無				
■ 研究活動との関連				
■ その他				
対象学年：２～６年				
■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー				

■ 科目名				
選択科目(口腔外科の世界を体験しよう)				
■ 英語名				
Experience of Oral and Maxillofacial Surgery World				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
選択科目	選択科目	セミナー		不定
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
中村典史, 野添悦郎, 比地岡浩志, 松永和秀, 大河内孝子, 石畑清秀, 石田喬之, 下松孝太		口腔顎顔面外科学分野 (旧 口腔外科学2講座)		
■ 連絡先 (TEL)		■ 連絡先 (MAIL)		
099-275-6242		nakamura@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
毎週水曜日17:00以降, 口腔顎顔面外科学教室第1研究室にて行う。				
■ キーワード				
口腔外科, 外科小手術, インプラント				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
1. 顎顔面口腔領域の疾患に対して、自分で考えて診断・治療方針を決定する能力を開発する。				
2. 口腔外科手術の基本的知識と技能を習得する。				
■ 授業概要				
・ 顎顔面口腔領域の疾患に対するup dateな情報を紹介して、科学性・論理性を踏まえた診断・治療方針を決定するための基礎的な知識、技能を習得させる。				
・ 口腔外科処置の実際の見学と基本的技能に関する演習より、安全かつ確実な口腔外科処置を実施する基本的な考え方を学ばせる。				
・ 疾患別専門グループにわかれ、各疾患に関する研究・実験を通し、それぞれの疾患の専門的知識ならびに研究の進め方の基礎を学ばせる。				
■ 授業計画				
・ 口腔外科外来にて簡単な抜歯などの基本的手術の実践と介助を行い、基本的口腔外科手術の知識と技術を習得する。				
・ ビデオを用いて、外来で頻繁に行われる小手術(歯根端切除術、粘液嚢法摘出術, インプラント, など)の術式や手技の勘所の解説、講義を行う				
・ 口腔外科主要疾患の興味あるテーマについて教官とともに最新の情報を収集し、文献の紹介や関連する実験を行いながら得られた情報の交換を行う。				
・ ゼミの最終回には研究発表会を行い、優秀なものに対して表彰を行う。				
■ 予習・復習へのアドバイス				
ゼミ教育内容の年間計画書をみながら, 次回行われるテーマについて予習しておくこと。				
■ 教科書				
口腔外科学、第3版、医歯薬出版、東京、2010				
一からわかる口腔外科疾患の診断と治療、医歯薬出版、東京、2006、他				
■ 参考書				
■ 成績の評価基準				
出席ならびに臨床実習の態度を評価する(60点)。				
ゼミ最終回に行う研究課題の発表内容を評価する(40点)。				
■ 再試験の有無				
■ 研究活動との関連				
■ その他				
ゼミ生と教員との交流を深める, 野外活動(登山, キャンプ)なども実習時間外で企画される。				
対象学年: 1 ~ 6年				
■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー				

■ 科目名				
選択科目(歯科矯正入門)				
■ 英語名				
An introduction to orthodontics				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
選択科目	選択科目	セミナー		不定
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
宮脇 正一、八木 孝和		歯科矯正学分野 (旧：顎顔面育成学分野)		
■ 連絡先 (TEL)		■ 連絡先 (MAIL)		
099-275-6252		tyagi@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワ -				
随時				
■ キーワード				
歯科矯正学、顎口腔機能				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
1. 矯正治療における基礎的知識と技術を修得する。				
2. 矯正臨床等で必要な検査、分析、診断を体験する。				
3. 各種矯正装置を製作し、使用方法や調整方法を修得する。				
4. 歯科矯正学分野で行っている研究を体験する。				
■ 授業概要				
臨床分野				
・ 矯正装置製作とその調整および症例分析等を行う実践的トレーニング				
研究分野				
・ 顎口腔機能検査・形態検査・睡眠検査等への体験参加				
■ 授業計画				
1. 印象採得・バンド試適等の相互実習を行い、製作した作業模型から各種装置を製作する。				
2. 実際の患者の検査・診断の見学および補助を行うとともに、自ら被験者として検査を体験する。				
3. 歯科矯正学に関する研究に参加する。				
■ 予習・復習へのアドバイス				
下記の教科書・参考書を読んで理解しておくこと。				
■ 教科書				
相馬邦道ら編集：第5版歯科矯正学、医歯薬出版、東京、2008				
全国歯科技工士教育協議会 編集：新歯科技工士教本 矯正歯科技工学、医歯薬出版、東京、2007				
高田健治 編著：Elements of Orthodontics 高田の歯科矯正の学び方 メデジットコーポレーション、大阪、2010				
■ 参考書				
山本照子 宮脇正一 翻訳：実践インプラント固定による矯正歯科治療、砂書房、東京、2006				
Proffit W.R.：新版プロフィットの現代歯科矯正学、高田健治訳、クインテッセンス、東京、2004				
■ 成績の評価基準				
実習内容（態度・技能）：80％程度				
教授面談：20％程度				
■ 再試験の有無				
実施する				
■ 研究活動との関連				
昨年制定された歯科口腔保健法に記載されているように、超高齢・少子化社会の到来に伴い、口腔の健康と全身の健康との関わりを解明する学際的な研究が急務となっている。そこで、当分野では、このような社会の要請に応えるために、これまで行ってきたブラキシズムと胃食道逆流との関連性の研究をさらに発展させた「口腔と上部消化器との関連性を解明する研究」を柱として、下記のような臨床研究と基礎研究を行っている。また、現在、歯科矯正臨床で最も注目されており、かつ私共がこれまで先進的に行ってきた「インプラント矯正に関する研究」をもう一つの柱として、矯正臨床に関する研究も行っている。				
■ その他				
募集人数：若干名（希望者が多い場合、上級生を優先します）				

対象学年：2～6年

■関連する学部・学科ディプロマポリシー

- 1．歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。
- 4．医療の倫理と法の原則に則り、患者中心の歯科医療を実践できる。
- 7．他の歯科医師やコ・デンタル・スタッフと連携してチーム医療を実践するためのコミュニケーション能力を身につけている。

■ 科目名				
選択科目(小児歯科臨床の体験型セミナー)				
■ 英語名				
Practical Seminar of Pediatric Dentistry				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
選択科目	選択科目	セミナー		不定
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
佐藤秀夫, 岩崎智恵, 深水 篤, 稲田絵美, 武元嘉彦, 窪田直子, 橋口真紀子, 菅 北斗, 山崎要一		鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 小児歯科学分野 鹿児島大学病院発達系歯科センター 小児歯科		
■ 連絡先 (TEL)		■ 連絡先 (MAIL)		
099-275-6262		hideo-sato@ms.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワー				
9 時 ~ 17 時 30 分 診療時間中は応対できないこともあります。				
■ キーワード				
小児歯科臨床体験, 小児歯科学研究体験, 自己探求型ゼミ, 外来見学, 専門開業医見学				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
学習目標: 小児歯科について学ぶ				
1) 小児歯科臨床の意義および役割を体験的に学習し、理解する。【F-10-1】 2) 障害者歯科の意義および役割を体験的に学習し、理解する。【F-2-1】 3) 小児歯科と社会との関わりを体験的に学習し、理解する。 4) 小児歯科専門医の社会における役割を学習し、理解する。				
■ 授業概要				
小児歯科の臨床では、う蝕の治療や予防にとどまらず、授乳期や離乳期、幼児期における吸綴や咀嚼の発達に関する問題、乳歯列期や混合歯列期における口腔習癖や歯列咬合異常、あるいは障害児の口腔健康管理などの多岐にわたって日常的に小児の口腔健康にかかわっている。また、外来診療以外にも、社会歯科学的な役割を小児歯科が担っている。 本科目では、実際の小児歯科臨床に接することで、講義や教科書では学べない小児歯科の意義や役割を知り、口腔成育の重要性について学ぶ。				
■ 授業計画				
小児の口腔成育に関する書籍と文献、および実際の症例の資料を中心としたセミナー形式の講義を行う。また、担当教員が小児歯科外来および関連施設を案内し、実際の小児歯科臨床を見学する。さらに、最新の小児歯科臨床研究に関する研究体験を行う。				
講義内容				
1) 小児歯科ゼミガイダンス 2) 外来見学 3) ラバーダム体験実習 4) 歯牙模型を用いた、乳歯歯冠修復体験 5) 印象採得相互実習ならびに模型作成 6) 笑気吸入鎮静法体験実習 7) 小児歯科治療計画体験 8) 小児歯科最新研究紹介 9) 小児歯科専門開業医見学 10) 臨床セミナー				
講義日: 毎週水曜日午後 3・4 限目 講義室: 小児歯科外来, 小児歯科第一研究室 担当者: 佐藤秀夫				
■ 予習・復習へのアドバイス				
小児歯科医が口腔成育に果たすべき役割とは何かを選択科目を通じて体験して頂きたい。				

■教科書

小児歯科学 第4版, 医歯薬出版, 東京, (総ページ数: 426頁)。

■参考書

1) 世代をつなぐ小児歯科 - 最新情報と子どもへの取り組み 45 (編集 五十嵐清治, 吉田昊哲, クインテッセンス出版, 東京, (総ページ数: 192頁)。

2) よくわかる顎口腔機能 咀嚼・嚥下・発音を診査・診断する (編集 日本顎口腔機能学会), 医歯薬出版, 東京, pp.241-243, 2005.

■成績の評価基準

授業への参加態度70点、レポート20点、発表10点

■再試験の有無

無

■研究活動との関連

小児歯科学分野の研究内容を適時紹介する。

■その他

対象学年: 1 ~ 6 年

■関連する学部・学科ディプロマポリシー

2. 人文社会科学的分野も含めた幅広い知識を有し、人間の行動について精神心理学的対応ができる。

3. 口腔疾患を全身疾患の一つとしてとらえ、幅広い医学的知識に基づくプライマリ・ケアを実践するための基本的な臨床能力を身につけている。

4. 医療の倫理と法の原則に則り、患者中心の歯科医療を実践できる。

7. 他の歯科医師やコ・デンタル・スタッフと連携してチーム医療を実践するためのコミュニケーション能力を身につけている。

8. 口腔疾患の予防と健康増進に関する十分な知識を持ち、地域社会に密着した歯科医師および歯科医学教育者・研究者となりうる能力を持っている。

9. 生涯にわたり自律的に学習習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。

■ 科目名				
選択科目(放射線診断学・ミトコンドリア学)				
■ 英語名				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
選択科目	選択科目	セミナー		不定
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
馬嶋 秀行、佐藤 強志、末永 重明、犬童 寛子、河野一典、川畑 義裕、富田 和男		顎顔面放射線学分野（旧：歯科放射線学講座）		
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）		
馬嶋秀行（099-275-6270） 佐藤強志（099-275-6271）		各、教員		
■ オフィスアワー				
とくに時間は指定しない。随時対応する。				
■ キーワード				
ミトコンドリア、画像診断				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
1）放射線診断学：診断に必要なX線解剖を理解し、画像の異常所見の読影、診断が行える（[F-1-2]）。				
2）ミトコンドリア学：ミトコンドリアに関する分子生物学的な知識・技術を習得し、研究活動へ参加できる。				
■ 授業概要				
1）放射線診断学は病変を形態的に診断するのみならず、病態を質的に把握することが重要である。講義ではCTやMRIの表示システムを使用したVirtual endoscopy法を用いて、病変形態を3次元的に捉える。またPETやFunctional MRIなどによる機能的画像評価を実施して、病態の質的診断法を講義する。				
2）ミトコンドリア学では放射線・酸化ストレスとミトコンドリアをテーマに、酸化ストレスによる活性酸素種や遺伝子の発現などについて分子生物学的な側面から講義する。				
■ 授業計画				
1）放射線診断学では臨床症例画像の読影の進め方と画像診断の考え方を講義し、解説、討論、演習を行う。				
2）ミトコンドリア学では受講者の希望に応じ、教官の指導下、積極的に研究活動へ参加させる。				
■ 予習・復習へのアドバイス				
参考書等による予習、復習を行ない知識を深める。				
■ 教科書				
？ 新ミトコンドリア学（共立出版、2001）。口腔画像臨床診断学（アークメディア出版、2010）				
■ 参考書				
？ 清水正嗣監修、口腔画像臨床診断学、アークメディア、東京、2010				
？ 日本歯科放射線学会編集、口腔画像診断アトラス、医師薬出版、東京、2013				
？ GOAZ, P. W. & WHITE, S. C., ORAL RADIOLOGY, Mosby, St. Louis, 1994				
■ 成績の評価基準				
放射線診断学とミトコンドリア学について、テーマを設定して討論を行い、理解度を評価する。また、テーマについてのレポートを課し、三段階（A、B、C）評価する。				
■ 再試験の有無				
■ 研究活動との関連				
■ その他				
対象学年：5～6年（4年次以下は要相談）				
■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー				
1．歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。				
2．人文社会科学的分野も含めた幅広い知識を有し、人間の行動について精神心理学的対応ができる。				
8．口腔疾患の予防と健康増進に関する十分な知識を持ち、地域社会に密着した歯科医師および歯科医学教育者・研究者となりうる能力を持っている。				

- 9．生涯にわたり自律的に学ぶ習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。
- 10．歯科医学研究者として世界をリードし、国際社会において幅広く活動する素養を身につけている。

■ 科目名				
選択科目(歯科全身管理学入門)				
■ 英語名				
Introduction of Systemic Management for Dentistry				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
選択科目	選択科目	セミナー		不定
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
梶山加綱, 梶谷 淳, 真鍋庸三, 大内謙太郎, 大野 幸, 遠矢明菜		口腔顎顔面歯科学 歯科麻酔全身管理学分野 全身管理歯科治療部		
■ 連絡先 (TEL)		■ 連絡先 (MAIL)		
099-275-6280, 6561, 6560		sugi@dent.kagoshima-u.ac.jp		
■ オフィスアワ -				
特に時間は指定せず、3 階歯科麻酔全身管理学分野研究室で随時対応する。				
■ キーワード				
全身管理 歯科治療 救急処置				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
1. 歯科治療中に発生する全身的偶発症を理解する。 2. その際に実施する対処方法や救急処置と、使用する薬品について理解する。 3. 医科的基礎疾患を有する患者の歯科治療時の全身管理について理解する。 4. 全身管理時のバイタルサインの見方とモニタリングを理解する。				
■ 授業概要				
GIO: 歯科治療時に必要な全身管理の知識と技術を修得するために、次の項目に関してセミナー及び実習を行う。				
SB0: 1. 内科的基礎疾患を有する歯科患者の全身状態の評価法及び管理方法の実際 (循環器系疾患、呼吸器系疾患、内分泌疾患、肝疾患、腎疾患、出血傾向)【E-1-3)-(1)-6,7,8,9,E-4-6)】 2. 歯科治療時における全身的偶発症の救急処置と予防法(神経性ショック、過換気症候群、局所麻酔偶発症) 【E-1-5)-(1)】 3. 歯科診療室に常備すべき救急薬品と投与方法(静脈路確保の相互実習)【E-1-5)-6】 4. 精神鎮静法と笑気吸入鎮静法の相互実習【E-1-3)-(2)】 5. 臨床心電図の読み方とよくわかる不整脈診断法【C-2-3)-(3)】 6. バイタルサインのみかたとモニター機器の使用法(血圧計、パルスオキシメーター、心電図など) 【E-1-3)-(1)、F-2-1)】 7. 心肺蘇生法と救命救急処置法実習(AEDの使用、マスク換気、挿管)【E-1-5)-3,4,5】 8. 歯科的誤嚥誤飲事故発生時の救急処置【E-1-5)】 9. ペインクリニックの実際【C-4-6)】 10. 鍼治療と合谷曲池(ごうこくきょくち)の実習【C-2-3)-(4),C-4-6)】 11. 局所麻酔法の相互実習【E-1-3)-(3)】 12. 自立神経機能の測定【A-6-2)】				
■ 授業計画				
救急蘇生用人形、AED、挿管練習用人形、自動血圧計、心電計、パルスオキシメータなどのモニター機器やパソコン、スライド、各種視聴覚装置、実習機材を用い、担当教員と学生が双方向のコミュニケーションを保ちながら、学生参加型の実習や演習(症例検討)を含んだセミナーを行う。 希望者には、講座で実施している研究活動への参加や外来見学、手術室見学を認めることもある。				
■ 予習・復習へのアドバイス				
教科書の該当項目について事前学習することで、より理解を深めることができる。				
■ 教科書				
・丹羽 均ほか編、臨床歯科麻酔学、永末書店 ・嶋田昌彦ほか編、歯科麻酔実践ガイド、医歯薬出版				
■ 参考書				
・梶山加綱ほか編、ヒヤリハット、こんなときどうする、永末書店 ・梶山加綱著、新歯科全身管理学、日本歯科新聞社				

・金子 譲ほか編、歯科麻酔学、医歯薬出版
■成績の評価基準
セミナーへの参加態度：15点、症例検討での積極性：5点
■再試験の有無
無
■研究活動との関連
本選択科目の主な目的は、歯科麻酔全身管理学に関する臨床的な手技の体験であり、直接的に研究とは関係していないが、希望があれば研究活動の体験も可能である。
■その他
対象学年：すべての学年
■関連する学部・学科ディプロマポリシー
3．口腔疾患を全身疾患の一つとしてとらえ、幅広い医学的知識に基づくプライマリ・ケアを実践するための基本的な臨床能力を身につけている。

■ 科目名				
選択科目(歯科医学教育実践学)				
■ 英語名				
General Dentistry				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
選択科目	選択科目	セミナー		不定
■ 担当教員		■ 担当教員所属		
田口則宏、吉田礼子、松本祐子、志野久美子、河野博史、岩下洋一郎		歯科総合診療部 歯科医学教育実践学		
■ 連絡先 (TEL)		■ 連絡先 (MAIL)		
099-275-6049				
■ オフィスアワー				
随時対応する。				
■ キーワード				
総合歯科診療、医療コミュニケーション				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
総合歯科診療を体験的に学習し、理解する。 【A-7-1)2)3)】 【E-1-1)】 【F-1】 【F-2-1)3)】 【F-4】 【F-7-1)2)3)】 【F-8-1)2)】				
■ 授業概要				
歯科総合診療部外来での見学・介助を通して実際の診療現場を体験し、臨床実習への心構えを涵養する。 疾病モデル模型を用いて、診断から治療計画立案・修復処置・補綴物作製・装着までの一連の一口腔単位の総合診療を技工も含め実習する。また、医学教育および行動科学研究の基礎を体験する。				
■ 授業計画				
・ 歯科総合外来にて診療の見学・介助を行う。 ・ 年間を通じて貸与された疾病モデル模型の診療シミュレーション実習を行う。 ・ 医学教育および行動科学研究の基礎を体験する。 ・ 希望に応じて医療面接や医療コミュニケーションのセミナーを行う。				
■ 予習・復習へのアドバイス				
下級生は臨床実習の早期体験の場として活用してください。 また、医学教育および行動科学研究の基礎を体験できます。				
■ 教科書				
特に指定しない。				
■ 参考書				
『医学教育の理論と実践』、鈴木康之監訳、篠原出版新社 『ヘルスコミュニケーション』、ピーター・G・ノートハウス、ローレル・L・ノートハウス、九州大学出版会 『患者ニーズにマッチした歯科医療面接の実践』、伊藤孝訓、寺内敏夫、クインテッセンス出版				
■ 成績の評価基準				
参加態度：60点　実習：40点				
■ 再試験の有無				
■ 研究活動との関連				
■ その他				
■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー				
1．歯科医学の基盤となる自然科学的知識に裏打ちされた論理的思考により、総合的判断ができる。				

- 3．口腔疾患を全身疾患の一つとしてとらえ、幅広い医学的知識に基づくプライマリ・ケアを実践するための基本的な臨床能力を身につけている。
- 9．生涯にわたり自律的に学ぶ習慣を身につけ、科学的根拠に立脚した歯科医療が実践できる。
- 10．歯科医学研究者として世界をリードし、国際社会において幅広く活動する素養を身につけている。

■ 科目名				
選択科目(歯科医療情報を目的としたホームページの作成)				
■ 英語名				
■ 授業科目区分	■ 選択・必修	■ 授業形態	■ 単位数	■ 開講期
選択科目	選択科目	セミナー		不定
■ 担当教員			■ 担当教員所属	
竹原重信(医療情報部)			医学部歯学部附属病院医療情報部	
■ 連絡先(TEL)			■ 連絡先(MAIL)	
099-275-6070				
■ オフィスアワ -				
■ キーワード				
■ 学習目標【関連するコアカリキュラム番号】				
歯科医療情報の収集方法と、パソコンの操作を習得し情報公開の仕組みを学ぶ。				
■ 授業概要				
近年の情報通信網の整備に伴い、鹿児島大学歯学部も広域ネットワークに接続され、インターネットによる情報発信が可能となっている。そこで、歯学医療情報をテーマとしたホームページを作成、開設することにより、高度情報化社会における歯科医療情報の情報収集、公開の方法を理解する。				
■ 授業計画				
1. 公開したいテーマを決める。				
2. テーマに従って情報(文献、画像等)を収集する。				
3. パソコンを操作しながら、ホームページを作成していく。				
4. インターネット上に情報を公開する。				
■ 予習・復習へのアドバイス				
■ 教科書				
■ 参考書				
■ 成績の評価基準				
■ 再試験の有無				
■ 研究活動との関連				
■ その他				
対象学年：2～5年				
■ 関連する学部・学科ディプロマポリシー				

